医系診療案内

受診案内（診療日、診療時間など）
24時間対応

TEL. **03-5803-4131**

セカンドオピニオン外来受付
受付時間　9:00～16:00
（土日祝日、年末年始12／29～1／3は除く）

TEL. **03-5803-4568**

初診事前予約（紹介状をお持ちの方のみの対応です）
医療機関からの受付時間　8:30～16:00
患者さんからの受付時間　12:00～16:00
（土日祝日、年末年始12／29～1／3は除く）

TEL. **03-5803-4655**
FAX. **03-5803-0285**
（FAX受信は24時間可能）

なお、時間外、休日等のFAX受信分は
翌診療日の対応となります。

歯系診療案内

総合案内（診療日、診療時間など）
受付時間　8:30～17:00
（土日祝日、年末年始12／29～1／3は除く）

TEL. **03-5803-5427**

セカンドオピニオン外来受付
受付時間　10:00～12:00、13:00～15:00
（土日祝日、年末年始12／29～1／3は除く）

TEL. **03-5803-4920**

初診事前予約
（歯科総合診療科、むし歯科、歯周病科、義歯科、口腔外科、先端歯科診療センターの予約専用番号です。それ以外の診療科をご希望の方はHPをご参照ください。）
患者さんからの受付時間　12:00～16:00
（土日祝日、年末年始12／29～1／3は除く）

TEL. **03-5803-4300**

東京医科歯科大学病院
TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY HOSPITAL

東京医科歯科大学病院

〒113-8519　東京都文京区湯島1-5-45
総務課／ TEL 03-5803-5097　FAX 03-5803-0110

Tokyo Medical and Dental University Hospital
1-5-45 Yushima, Bunkyo-ku, Tokyo 113-8519, Japan
TEL:+81-3-5803-5097 FAX:+81-3-5803-0110
https://www.tmd.ac.jp/medhospital/

2023年5月発行

東京医科歯科大学病院　2022－2023

東京医科歯科大学病院
TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY HOSPITAL

医学部附属病院と歯学部附属病院が一体化して
東京医科歯科大学病院になりました

病院案内　2022－2023

世界最高水準のトータル・ヘルスケアを提供し人々の幸福に貢献します

理念　世界最高水準のトータル・ヘルスケアを提供し、人々の幸福に貢献する

基本方針
1. 患者中心の良質な全人的医療の提供
2. 人間性豊かな医療人の育成
3. 高度先進医療の開発と実践
4. 人々の信頼に応える社会に開かれた病院

医学と歯学のそして近未来は工学との融合、相乗効果でより高いレベルの医療を提供します

東京医科歯科大学病院　病院長
藤井 靖久（ふじい・やすひさ）

2023年4月より、東京医科歯科大学病院・病院長を拝命いたしました。皆様、よろしくお願い申し上げます。

2021年10月1日に東京医科歯科大学医学部附属病院と歯学部附属病院が一体化し「東京医科歯科大学病院」として新展開を進めています。このパンフレットは、医系と歯系の特色ある診療科・部・センターなど、患者さんの健康を支える病院組織についてご紹介しております。

上に示しました、当院の理念と、4つの基本方針は、医学部および歯学部附属病院という2つの病院の一体化によって医学と歯学の融合が進み相乗効果を発揮して、「頭から足先まで」トータルに全身を診ることで、今まで以上に患者さんの健康に貢献できる医療を提供することを掲げたものです。

当院は2020年から新型コロナウイルス感染症に積極的に対応し、困難な局面に対しても「力を合わせて患者さんと仲間たちをコロナから守る」というキャッチフレーズの下で、職員全員が一致団結し、大きな力を発揮することができました。2023年度には「機能強化棟(C棟)」が完成予定で、新時代の救急医療と高度先進医療を提供する新たな拠点となります。

東京医科歯科大学と東京工業大学は2024年度中を目途として統合し「東京科学大学（仮称）」という一つの大学に生まれ変わる予定です。新大学は「イノベーション（技術革新）を生み出す多様性、包摂性、公平性を持つ文化」の実現を目指しますが、医学と歯学のみならず工学と融合することで当院はより高いレベルの医療を提供できると期待しています。

私の専門は泌尿器科で、ロボット支援手術を数多く施行している外科です。一方、内科的、画像診断科的側面もあり、今まで東京工業大学の先生方と泌尿器科疾患の人工知能による画像診断の研究を進めてきました。今後、大学統合で医工連携が進み、さらなる研究成果を発信することに大きな期待を抱いております。

新米の病院長ですので、これから学ぶべきことが多々あります。皆様のご指導やご協力をいただけますよう、心よりお願い申し上げます。

～24時間365日社会に開かれた病院であるために～

緊急プライオリティーコール

当院では、救命救急センター医師を窓口とする「救急プライオリティーコール」を開設し、医療機関において緊急性に関して迷う患者さんがいた場合のご相談を受け付けています。24時間365日、救急専門医・専従医が対応し、適切な診療科での専門診療を行います。
緊急手術等が必要な患者さんについても遠慮なくご相談ください。

【緊急プライオリティーコール】
03-5803-4900（シキューオーエン）（至急応援）

Index

ごあいさつ　東京医科歯科大学病院・病院長　藤井 靖久　2

Index 3
病院機構図 4
医系診療部門初診の方の事前予約・当院への転院依頼について 6
歯系診療部門初診の患者さんへ 7

難病診療部のご紹介
難病診療部のご紹介 8
膠原病・リウマチ先端医療センター 9
潰瘍性大腸炎・クローン病先端医療センター 10
神経難病先端医療センター 11
稀少疾患先端医療センター 12

がん先端治療部のご紹介
がん先端治療部のご紹介 13
ユニット・センター 3部門 14
ブレストセンター 15
腎・膀胱・前立腺がんセンター 16
みみ・はな・くち・のどがんセンター 17

各種センターのご紹介
長寿・健康人生推進センター 19
救命救急センター 20
周産期母子医療センター 21
MEセンター 22
不整脈センター 23
快眠センター 24
スポーツ医学診療センター 25
低侵襲医療センター 26
輸血・細胞治療センター 27
メンタルヘルス・リエゾンセンター 28
先端歯科診療センター 29
オーラルヘルスセンター 30
医療連携支援センター 31
総合教育研修センター 32
臨床試験管理センター 33
クオリティ・マネジメント・センター 34
ベッドコントロールセンター 35
脳卒中センター 36
てんかんセンター 37
アレルギー疾患先端治療センター 38
先端近視センター 39

医系診療科のご紹介
血液内科 41
膠原病・リウマチ内科 42
糖尿病・内分泌・代謝内科 43
腎臓内科 44
総合診療科 45
消化器内科 46
循環器内科 47
呼吸器内科 48
臨床腫瘍科 49
緩和ケア科 50
緩和ケア病棟 51
がんゲノム診療科 52
遺伝子診療科 53
感染症内科 54
食道外科 55
胃外科 56
大腸・肛門外科 57
乳腺外科 58
小児外科 59
末梢血管外科 60
肝胆膵外科 61
心臓血管外科 62
呼吸器外科 63
泌尿器科 64
頭頸部外科 65
救急科 66
病理診断科(病理部) 67
眼科 68
耳鼻咽喉科 69
皮膚科 70
形成・美容外科 71
整形外科 72
小児科 73
新生児集中治療室(NICU:Neonatal ICU) 74
周産・女性診療科 75
脳神経外科 76
脳神経内科 77
血管内治療科 78
精神科 79
心身医療科 80
麻酔・蘇生・ペインクリニック科 81
放射線治療科 82
放射線診断科 83
光学医療診療部 84
高気圧治療部 85

歯系診療科のご紹介
矯正歯科 87
小児歯科 88
障害者歯科外来 89
むし歯科 90
歯周病科 91
義歯科 92
スポーツ歯科外来 93
快眠歯科(いびき・無呼吸)外来 94
顎顔面補綴外来 95
言語治療外来 96
高齢者歯科外来 97
歯科アレルギー外来 98
顎関節症外来 99
口腔インプラント科 100
摂食嚥下リハビリテーション科 101
口腔外科 102
顎口腔変形疾患外来 103
歯科麻酔科 104
歯科ペインクリニック 105
歯科心身医療科 106
歯科放射線科 107
歯科総合診療科 108
息さわやか外来 109
クリーンルーム歯科外来 110
第1総合診療室／第2総合診療室 111
口腔健康管理科 112

基盤診療部門等のご紹介
看護部 114
薬剤部 115
検査部 116
手術部 117
放射線部 118
リハビリテーション部 119
集中治療部 120
材料部 121
血液浄化療法部 122
臨床栄養部 123
歯科技工部 124
歯科衛生保健部 125
緩和ケアチーム／栄養サポートチーム(NST) 126
医療情報部 127
国際医療部 128
災害テロ対策室 129
保険医療管理部 130
医療安全管理部 131
感染制御部 132
臨床研究監視室 133

事務部 134

新設部門のご紹介
再建形成外科 136
リプロダクションセンター 137

病院データベース
診療科別患者数 138
患者数の推移 139
救急患者数 140
地域別患者数 140
臨床検査件数 141
臨床検査件数の推移(外来) 141
病理検査件数 142
病理検査件数の推移(病理部) 142
手術部実施手術件数 143
手術件数の推移 144
放射線検査治療件数 145
分娩件数の推移 146
処方枚数・件数・注射処方枚数 146
医療機関の指定状況等数 147
建物配置図 148
所在地略図 150

Organization Chart 病院組織図

- 病院長
  - 首席副病院長・副病院長
    - 医系診療部門
      - 内科系診療領域
        - 血液内科
        - 膠原病・リウマチ内科
        - 糖尿病・内分泌・代謝内科
        - 腎臓内科
        - 総合診療科
        - 消化器内科
        - 循環器内科
        - 呼吸器内科
        - 臨床腫瘍科
        - 緩和ケア科
        - がんゲノム診療科
        - 遺伝子診療科
        - 長寿・健康人生推進科
        - 感染症内科
      - 外科系診療領域
        - 食道外科
        - 胃外科
        - 大腸・肛門外科
        - 小児外科
        - 乳腺外科
        - 肝胆膵外科
        - 末梢血管外科
        - 呼吸器外科
        - 心臓血管外科
        - 頭頸部外科
        - 泌尿器科
        - 病理診断科
        - 救急科
      - 感覚・皮膚・運動機能診療領域
        - 眼科
        - 耳鼻咽喉科
        - 皮膚科
        - 形成・美容外科
        - 再建形成外科
        - 整形外科
        - リハビリテーション科
      - 小児・周産・女性診療領域
        - 小児科
        - 周産・女性診療科
      - 脳・神経・精神診療領域
        - 脳神経外科
        - 脳神経内科
        - 血管内治療科
        - 精神科
        - 心身医療科
        - 麻酔・蘇生・ペインクリニック科
      - 放射線診療領域
        - 放射線治療科
        - 放射線診断科
      - 特殊診療領域
        - 光学医療診療部
        - 周産期母子医療センター
        - 高気圧治療部
    - 歯系診療部門
      - 口腔育成系診療領域
        - 矯正歯科
        - 小児歯科
        - （専）障害者歯科外来
      - 口腔維持系診療領域
        - むし歯科
        - 歯周病科
      - 口腔機能系診療領域
        - 義歯科
          - （専）スポーツ歯科外来
          - （専）快眠歯科（いびき・無呼吸）外来
          - （専）顎顔面補綴外来
          - （専）言語治療外来　（専）高齢者歯科外来
          - （専）歯科アレルギー外来
          - （専）顎関節症外来
        - 口腔インプラント科
        - 摂食嚥下リハビリテーション科
      - 口腔外科系診療領域
        - 口腔外科
        - （専）顎口腔変形疾患外来
      - 歯科麻酔・歯科心身診療領域
        - 歯科麻酔科
        - （専）歯科ペインクリニック
        - 歯科心身医療科
      - 口腔放射線診療領域
        - 歯科放射線科
      - 歯科総合診療領域
        - 歯科総合診療科
          - （専）息さわやか外来
          - （専）クリーンルーム歯科外来
          - 第１総合診療室、第２総合診療室
        - 口腔健康管理科
  - 病院長補佐
    - 基盤診療部門
      - 薬剤部
      - 検査部
      - 手術部
      - 放射線部
      - リハビリテーション部
      - 集中治療部
      - 材料部
      - 病理部
      - 救命救急センター
      - 血液浄化療法部
      - MEセンター
      - 不整脈センター
      - 快眠センター
      - スポーツ医学診療センター
      - 難病診療部
      - がん先端治療部
      - 臨床栄養部
      - 長寿・健康人生推進センター
      - 低侵襲医療センター
      - 輸血・細胞治療センター
      - メンタルヘルス・リエゾンセンター
      - リプロダクションセンター
      - 歯科技工部
      - 歯科衛生保健部
      - 先端歯科診療センター
      - オーラルヘルスセンター
      - 緩和ケアチーム
      - 栄養サポートチーム
      - 認知症ケアチーム
    - 診療管理部門
      - 医療情報部
      - 医療連携支援センター
      - 総合教育研修センター
      - 臨床試験管理センター
      - クオリティ・マネジメント・センター
      - 国際医療部
      - 災害テロ対策室
      - ベッドコントロールセンター
    - 看護部
    - 事務部
      - 保険医療管理部
      - 医療安全管理部
      - 感染制御部
      - 臨床研究監視室

医系診療部門
初診の患者さんの事前予約･当院への転院依頼

※歯系診療部門の初診事前予約はP.7をご覧ください。

医療機関の方へ

■ 医療機関からの初診予約

東京医科歯科大学病院では、患者さんの診療までの待ち時間短縮を図るため、電話・FAXでの予約を行っています。

※受診当日の予約は受付けておりません。翌日分の予約受付は14：00までとなります。
当日至急受診が必要な場合はプライオリティーコール(03-5803-4900)をご利用ください。

初診予約TEL:03-5803-4655

初診予約FAX:03-5803-0285

受付時間：平日8：30～16：00(FAX受信は24時間可能)

■ ご入院中の患者さんからの転院依頼

医療機関ご担当者様より、下記の番号にお電話ください。

※患者さんご本人及びご家族からの直接のお問い合わせは承っておりません。

転院依頼TEL:03-5803-4506

受付時間：平日8：30～17：00

※申込書・診療情報提供書のフォーマットのダウンロード、予約や転院に関する詳細につきましては、医療連携支援センターのホームページをご覧ください。

https://www.tmd.ac.jp/renkei/

一般・個人の方へ

■ 患者さんからの初診予約

紹介状(診療情報提供書)をお手元にご用意いただき、下記の番号にお電話ください。

初診事前予約専用TEL :03-5803-4655

受付時間　12：00～16：00(土日祝日、年末年始12／29～1／3は除く)

精神科・心身医療科の予約について

直接精神科にお問い合わせください。

精神科電話番号:03-5803-5673　受付時間　14:00～17:00(土日祝日、年末年始12／29～1／3は除く)

歯科系診療部門
初診の患者さんへ

■ 初診予約デスクでの予約

初診予約デスクでの予約が必要です。右記電話番号でご予約の上、ご来院ください。

(ご注意)やむをえず予約を取り消す場合は、必ず初診予約デスクまでご連絡をお願いいたします。

TEL
下記の番号にお電話ください。
03-5803-4300
受付時間　12：00～16：00
(土日祝日、年末年始12／29～1／3は除く)

■ 初診の流れについて

❶歯科診療申込書に必要事項を記入し、保険証、紹介状(お持ちの方のみ)とともに初診受付(⑩⑪番)窓口に提出してください。

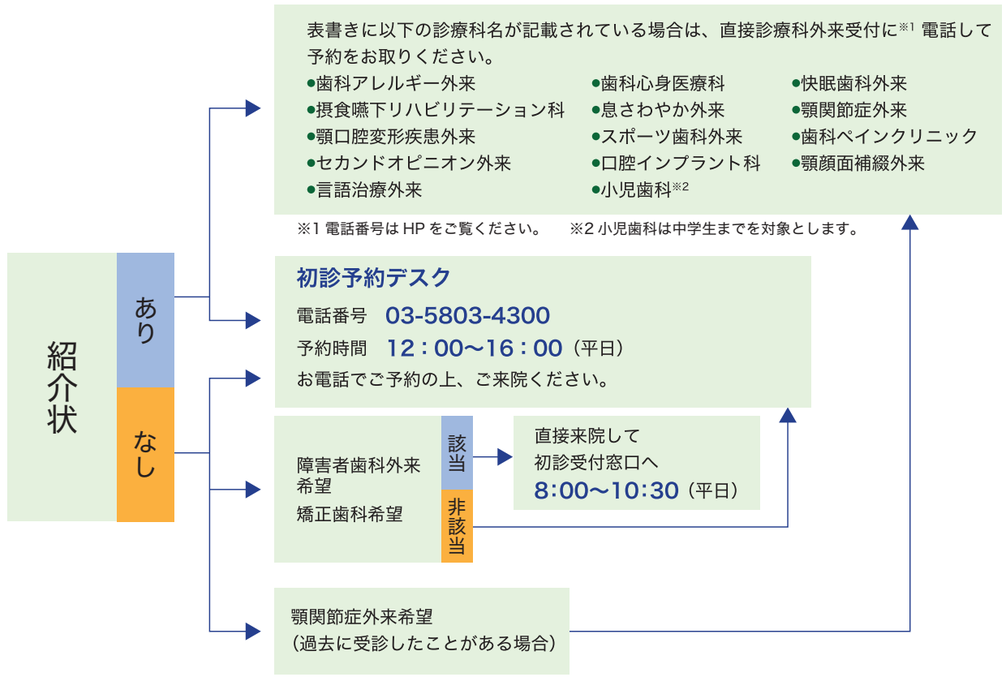
❷原則として初めて来院される患者さんについては､｢歯科総合診療科(1階)｣において、来院理由に基づき、口の中の状態を診察し、各専門外来に紹介いたします。

※紹介状をお持ちの方および｢歯科｣･｢小児歯科｣の治療の場合を除く。

❸専門外来では、専門の歯科医師という立場から、再度、患者さんの来院理由、口の中の状態を確認し、必要な検査･治療を行います。

❹各専門外来には、各分野の専門的な治療を希望される患者さんが全国から多数来院されます。そのため、初診で来院された場合は、担当医が決まり、治療が開始されるまで一定期間お待ちいただく場合があります。(詳細は各外来に直接お問い合わせください。応急処置を希望する方はあらかじめお申し出ください。)

❺初診当日、専門外来で治療開始とならない場合でも、歯科総合診療科で診察を行った時点で初診料が発生し、お支払いいただいております。



難病診療部
のご紹介

難病診療部のご紹介	8
膠原病・リウマチ先端医療センター	9
潰瘍性大腸炎・クローン病先端医療センター	10
神経難病先端医療センター	11
稀少疾患先端医療センター	12

難病診療部のご紹介

難病のトータルケアを行う難病診療部をご利用ください

東京医科歯科大学病院では、従来から「難病」の治療に積極的に取り組み、多数のエキスパートが診療にあたっています。
難病診療部では、そのノウハウを生かし、難病を持つ患者さん一人一人の心に寄り添い、
苦しみや不安を少しでも和らげるように、複数のエキスパートがチームとなって診療をトータルに進めて行きます。

難病診療部の特徴

- 世界的に見ても高度な知識と技術を持った医師が難病診療を担当します。
- 「難病」に関わる全ての診療科の経験豊富な医師が集まり、患者さんの症状に合わせてきめ細かい診療を行います。
- 稀少難病の患者さんを含めて、それぞれの難病を専門とする「センター」を受診することで、正確な診断から始まる最善の診療を受けることができます。

膠原病・リウマチ先端医療センター | 潰瘍性大腸炎・クローン病先端医療センター | 神経難病先端医療センター | 稀少疾患先端医療センター

医療機関からの難病診療部の初診事前予約方法（電話またはFAXにてスムーズに受診予約できます。）

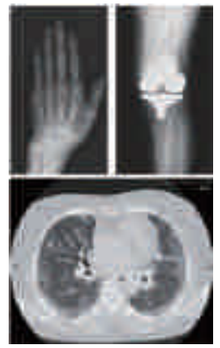
❶ 電話・FAX	難病診療部の受診方法	次の番号に電話または申込書のFAXをお願いします。 （申込書はホームページからダウンロードできます。） 受付時間 8：30～16：00（土日祝日、年末年始 12／29～1／3は除く） TEL：03-5803-4655（地域連携室 初診予約担当） FAX：03-5803-0285（FAX受信は24時間可能） ※時間外、休日等のFAX受信分は翌診療日にご連絡させていただきます。
❷ 予約日の決定	「外来診療予約票」を原則20分以内にFAXにて返送いたします。	
❸ 紹介状（診療情報提供書）	予約日の前診療日正午までに紹介状をFAXにてご送信ください。	
❹ 予約日に受診	当日の持ち物	●紹介状（原本） ●保険証 ●外来診療予約票
	予約時間の45分前までにご来院ください。	

※申込書・診療情報提供書のフォーマットはホームページアドレスよりダウンロードできます。なお、診療情報提供書は各医療機関の使用している書式でも結構です。

膠原病・リウマチ先端医療センター
Advanced Clinical Center for Rheumatic Diseases

予約に関して● 03-5803-4655（地域連携室 初診予約担当）
診療・治療に関して● 03-5803-4587（膠原病・リウマチ内科）

小児科が加わり、小児から大人まで膠原病やリウマチの患者さんに先端的な治療、個々のニーズに合った治療をご提供できる体制となりました。



●**センターの概要**
当センターは、膠原病・リウマチ内科、小児科、整形外科、リハビリテーション部が一体となって、小児から大人まで膠原病や関節リウマチの患者さんに各科の専門医が先端的な治療、個々の患者さんのニーズに合った治療を提供することを目的としています。特に、生物学的製剤などを含む最先端の薬物治療や、効果の高い関節機能再建術に力を注いでいます。

●**おもな診断・治療法**
小児も含めた膠原病・リウマチ性疾患の患者さんの診療は、熟練したリウマチ専門医が担当し、問診・診察・血液検査・関節エコーを含む画像検査を組み合わせて行います。整形外科では、関節鏡による滑膜診断や、人工関節による機能再建を積極的に行っています。

●**高度な先進医療**
関節リウマチに対する生物学的製剤の使用実績は全国トップレベルです。
関節リウマチ、多発性筋炎／皮膚筋炎、全身性エリテマトーデス、抗リン脂質抗体症候群、血管炎症候群、強直性脊椎炎などを対象とする新薬の治験や、難治性の小児膠原病・リウマチ性疾患を対象とした新薬の治験も積極的に行っています。
人工股関節・膝関節置換術や手・足の関節手術および術後リハビリテーションも数多く安全に実施しています。
人工股関節・膝関節置換術の実施数は全国的にも有数で、特に両側同時手術は全国で1位、2位を争う実績を誇ります。

●**その他**
～センター連携病院・クリニックの募集～
当センターは、関連病院も含め広い地域の病院、クリニックと連携し、診療ネットワークを構築することにより、地域全体での難病診療のレベルアップを目指しています。このため、当センターとの連携にご興味がある先生は（tmdu.rheu@tmd.ac.jp）までぜひご連絡ください。
具体的には、センター連携病院・クリニックからのご紹介の方は、病状の落ち着いた状態になった後は先生方に定期的に診察していただき、当センターでは1年に1回、経過を確認し、治療方針についてご相談させていただきます。
また、センター連携病院・クリニックの先生方をはじめ多職種の医療従事者の皆様と定期的に勉強会の機会を設け、紹介いただいた患者さんや最新の膠原病・リウマチ診療について情報共有をいたします。

古賀 英之
KOGA Hideyuki
整形外科

酒井 朋子
SAKAI Tomoko
リハビリテーション部

森 雅亮
MORI Masaaki
小児科

センター長
保田 晋助 *YASUDA Shinsuke*

専 門 医●日本内科学会認定　総合内科専門医
日本リウマチ学会認定
リウマチ専門医・指導医
専門分野●膠原病内科学
研究領域●膠原病・リウマチの病態解明と新たな治療開発に向けた取り組み

Message

膠原病や関節リウマチは、早期診断と早期治療によって健康な方に近い生活を送ることも可能になります。そのためには、正確な診断と的確な治療方針、経過中に出現するさまざまな合併症に対する対処が必要です。当センターではこのようなニーズにお応えするため、小児科を含めた3つの診療科と1つの中央診療部門が強い連携のもと、患者さんの診療を担当しております。

潰瘍性大腸炎・クローン病先端医療センター

Advanced Clinical Center for Inflammatory Bowel Diseases

予約に関して● 03–5803–4655（地域連携室 初診予約担当）

診療・治療に関して● 03–5803–5670（内科外来）

「患者さんの腸の状態を適切に判断し治療を行うこと」をモットーに多職種が参加する総合的・包括的なチーム診療・ケアを提供しています。

● センターの概要

約5000人以上の炎症性腸疾患の患者さんのケアを担当する国内最大のIBDセンターの一つである当センターでは、「患者さんの腸の状態を適切に判断し治療を行うこと」をモットーに、以下の4つの特長をもつ専門診療を更に充実させていきます。

1．高度な専門医療を実践しています！
2．患者さんに負担の少ない検査や治療を心がけ、独自に開発も進めています！
3．難治の患者さんを積極的に受け入れています！
4．高い目標を目指し、患者さんと一緒に治療ゴールを決めていきます！

● おもな診断・治療法

（1）診断法：消化管内視鏡検査（上部消化管内視鏡検査／大腸内視鏡検査／小腸バルーン内視鏡検査（360件／年）／CT／MRI（MRエンテロコロノグラフィ：MREC（400件／年））／腸管エコー／消化管造影検査

（2）治療法：5アミノサリチル酸／副腎皮質ステロイド／免疫調節薬／α4インテグリン阻害薬／カルシニューリン阻害薬／JAK阻害薬／生物学的製剤（抗TNFα抗体、抗IL12/23抗体、抗IL23抗体、抗α4β7インテグリン抗体）／血球成分除去療法／内視鏡的狭窄拡張術（110件／年）／外科手術（潰瘍性大腸炎90 件、クローン病60件、クローン病肛門手術50件／それぞれ5年間）

● 高度な先進医療

診断：検査を苦痛なく受けられる工夫をし、新しい検査法としてMRIを利用した小腸・大腸検査（MREC）を独自に開発しました。

治療：国内で行われる炎症性腸疾患のほぼ全ての治験を担当し、開発段階から保険承認後までシームレスに治療に関する最新の情報が集積され、最先端の治療法及び薬剤の選択が可能です。多数の新薬が開発される中、患者さんの病態、社会的背景など、それぞれの特徴によって最適な薬剤を選択します。

科長

岡本 隆一 *OKAMOTO Ryuichi*

専 門 医●日本内科学会認定　総合内科専門医
日本消化器病学会認定
消化器病専門医
日本消化器内視鏡学会認定
消化器内視鏡専門医

専門分野●炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）
特殊内視鏡（小腸バルーン内視鏡、カプセル内視鏡）

研究領域●炎症性腸疾患の病態と粘膜免疫
腸管の再生医療

Message

炎症性腸疾患の患者さんは、内服治療のみで寛解となり、通常の人と同じような生活が可能な方がいる一方で、あらゆる内科治療にも関わらず、腸の炎症が改善せずに、下痢や腹痛などの症状の続く方がいます。適切な治療の前提として、MRIや内視鏡などの最新の技術を最大限に活用した適切な診断を行い、一人一人の主治医の知識や技術だけでなく、内科、外科、放射線科、病理部、臨床栄養部などの院内の様々な診療科、診療部門からなる、多彩な医療職による総合的、包括的なチーム医療・ケアを行っています。

神経難病先端医療センター

Advanced Clinical Center for Rare Neurological Diseases

予約に関して● 03–5803–4655（地域連携室 初診予約担当）

診療・治療に関して● 03–5803–5670（内科外来）

神経難病に対して複数の診療科が連携し、最先端の治療、リハビリテーション、社会福祉までトータルなケアをします。

● センターの概要

1．これまでの専門施設とは違います！
完全予約制で、一人一人の患者さんにきめ細かな診療を行っています。

2．治りにくい患者さんを診ています！
神経難病は根本的治療法がないのが現実ですが、新しい治療を工夫する臨床試験や機能向上を重視した安全・安心な手術により、日常生活動作や生活の質が変わります。

3．治療のゴールが違います！
単に診療ガイドラインに従った標準的治療には留まらず、常に一歩先を行くベストの治療を試みています。

● おもな診断・治療法

多発性硬化症、視神経脊髄炎、重症筋無力症、慢性炎症性脱髄性神経根症、多巣性運動ニューロパチーといった神経免疫疾患に対する分子標的治療、脊髄性筋萎縮症、トランスサイレチンアミロイドーシス、筋ジストロフィーへの核酸治療や、新薬の治験、脊髄性筋萎縮症の核酸医薬による分子標的治療や多系統萎縮症の治験や表層シデローシスの手術および鉄キレート剤内服療法、クロウ・フカセ症候群（POEMS症候群）に対する自己末梢血幹細胞移植治療、もやもや病患者さんの遺伝子検索と治療、間脳下垂体腫瘍に対する内視鏡手術、迷走神経刺激を含めた難治性てんかんの外科手術、頚椎後縦靭帯骨化症に対する前方骨化浮上術、頚椎症性脊髄症・平山病（頚椎症性筋萎縮症）や成人脊柱変形、腰部脊柱管狭窄症や脊髄腫瘍に対する先進的な電気生理学的診断と手術技術を有しています。

● 高度な先進医療

脳神経内科、脳神経外科、整形外科と連携のうえ、丁寧な診察、PET/SPECTや3T-MRIなどの画像診断、電気生理学的検査や術中脊髄機能モニタリング、病理診断により的確な診断を行います。上述の対象疾患に可能な分子標的治療、自己末梢血幹細胞移植治療、臨床試験（筋萎縮性側索硬化症）、世界最高レベルの脳脊髄外科手術など、最先端の治療を行っています。また、神経難病では内科的治療、手術のみならず放射線治療などとの併用が必要になることは珍しくありません。小児科や他の内科、血管内治療科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、放射線診断科、放射線治療科などとの連携の中で、チームで総合的に治療することで、最先端の治療レベルを維持しています。

センター長

横田 隆徳 *YOKOTA Takanori*

専 門 医●日本内科学会　認定内科医
日本神経学会認定　神経内科専門医
日本臨床神経生理学会専門医
（脳派分野、筋電図分野）

専門分野●神経内科学
神経生理学的検査学
遺伝子治療学

研究領域●神経内科学（特に筋萎縮性側索硬化症、アルツハイマー病などの神経変性疾患と多発性硬化症や自己免疫性ニューロパチーなどの神経免疫疾患）
核酸医薬創薬

Message

神経難病は病気の原因がまだ十分にはわかっておらず、根本的な治療ができないことも多いのですが、最近の研究の進歩により、疾患によっては、かなり有効な治療法も出てきています。当院では、神経難病の中でもアプローチの可能な疾患の患者さんを対象に、複数の診療科が連携し、最先端の治療からリハビリテーション、社会福祉まで専門性の高いトータルなケアを目指しています。

稀少疾患先端医療センター
Advanced Clinical Center for Rare Diseases

予約に関して● 03-5803-4655

東京都難病連携拠点病院、IRUD 拠点病院として広く稀少難病疾患患者さんを診療し、先端的な診断と治療を提供します。

● **センターの概要**

1. 稀少疾患の診断拠点です

未診断稀少疾患イニシアチブ（IRUD）拠点病院（http://www.tmd.ac.jp/medhospital/ ）として、また東京都難病連携拠点病院として、遺伝子診療科と連携しながら、稀少疾患の遺伝子診断にあたっています。

2. 幅広い専門領域をカバーしています

小児科、腎臓内科、呼吸器内科、神経内科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、循環器内科、心臓血管外科、矯正歯科、口腔外科など、様々な領域の診療科から成り立っており、指定難病や小児慢性特定疾患をはじめとする、いわゆる稀少疾患に幅広く対応しています。

3. 先端的治療を展開しています

標準的な治療にとどまらず、大学における未来医療開発コンソーシアムとも連動しながら、常に先端的治療への展開を試みています。

● **おもな診断・治療法**

遺伝子診療科と連携して、またIRUD 拠点病院として既知遺伝子解析に加えて、体系的あるいは網羅的な遺伝子解析を行っています。

● **取り扱うおもな疾患**

・小児稀少（遺伝）疾患：原発性免疫不全症候群、肺動脈性肺高血圧症、性分化疾患など
・腎臓難病：多発性嚢胞腎、遺伝性尿細管機能異常症、遺伝性腎炎、IgA 腎症など
・間質性肺炎：特発性間質性肺炎、慢性過敏性肺炎、肺胞蛋白症、リンパ脈管筋腫症など
・感覚器異常：
　難聴　メニエール病、遅発性内リンパ水腫、若年発症型両側性感音難聴など
　無汗症　特発性後天性全身性無汗症、先天性無痛無汗症、多系統萎縮症など
　眼疾患　家族性変性近視など
・頭蓋顎顔面先天性疾患：クルーゾン症候群、アペール症候群、歌舞伎症候群など
・血管稀少疾患：バージャー病、慢性血栓塞栓性肺高血圧症など
・その他：結節性硬化症など多臓器にまたがる稀少疾患

上記以外にも様々な稀少疾患に対応しています。具体的な疾患はホームページにて公開していく予定です。

● **高度な先進医療**

臨床研究としてパネル候補遺伝子解析（複数以上の疾患候補遺伝子を一度に解析する方法）、網羅的遺伝子解析などを行っています。また疾患に応じて造血細胞移植を実施したり、臨床試験や医師主導治験などで新しい治療について研究を行ったりしています。

センター長
森尾 友宏 *MORIO Tomohiro*

専 門 医●日本小児科学会認定　小児科専門医
　　日本血液学会認定　血液専門医
専門分野●小児感染症
　　血液・免疫疾患
　　再生医療・細胞治療
研究領域●小児難病（特に原発性免疫不全症などの稀少難病）の遺伝的背景と病態解明
　　小児難病に対する先端的治療法の開発
専門外来●アレルギー外来
　　育児支援外来（すくすく外来）
　　血液外来
　　CSS長期フォローアップ外来
　　腫瘍外来
　　循環器外来
　　小児遺伝外来
　　小児リウマチ先進治療外来
　　神経外来
　　新生児フォローアップ外来
　　腎臓外来
　　造血細胞移植外来
　　内分泌外来
　　乳児健診外来
　　免疫外来
　　予防接種外来

Message

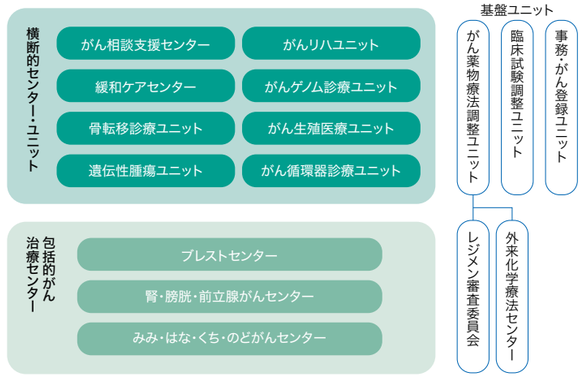
稀少疾患は、患者数が1万人に5人未満の疾患、と定義されています。しかし、その種類は最低6,000～7,000以上と数が多く、欧州では全人口の12人に1人が稀少疾患に罹患しているとされています。稀な疾患で、多彩な症状を呈することも多く、診断が遅れたり、診断が難しかったりすることもあります。適切な治療の選択にも高度な知識が必要です。当病院では、稀少疾患の先端医療にあたる専門医師により、領域を超えた連携診療を行っております。

がん先端治療部
のご紹介

がん先端治療部のご紹介	13
ユニット・センター　3部門	14
ブレストセンター	15
腎・膀胱・前立腺がんセンター	16
みみ・はな・くち・のどがんセンター	17

がん先端治療部のご紹介

がん先端治療部は、腫瘍センターを改組して2019年8月から運用を開始しました。これまでの業務を拡大して、がん診療について横断的に関わる横断的センター・ユニット、臓器別に多診療科が関わる包括的がん治療センター、がん薬物療法やがん登録のマネジメントを行う基盤ユニットの3 つの部署にまとめました。診療科の枠を超えて横断的、包括的にがん診療を円滑に行う体制を整えて、患者さんやご家族のニーズに的確にお応えし、最善のがん医療を病院が一丸となって提供できるように心がけてまいります。また3センターを新設し、複数診療科による包括的ながん治療を行います。



医療機関からの**がん先端治療部（ブレストセンター、腎・膀胱・前立腺がんセンター、みみ・はな・くち・のどがんセンター）**の初診事前予約方法（電話またはFAXにてスムーズに受診予約できます。）

❶ 電話・FAX	がん先端治療部の受診方法	次の番号に電話または申込書のFAXをお願いします。 （申込書はホームページからダウンロードできます。） 受付時間 8：30～16：00（土日祝日、年末年始12／29～1／3は除く） TEL：03-5803-4655（地域連携室 初診予約担当） FAX：03-5803-0285（FAX受信は24時間可能） ※時間外、休日等のFAX受信分は翌診療日にご連絡させていただきます。
❷ 予約日の決定		「外来診療予約票」を原則20分以内にFAXにて返送いたします。
❸ 紹介状（診療情報提供書）		予約日の前診療日正午までに紹介状をFAXにてご送信ください。
❹ 予約日に受診	当日の持ち物	●紹介状（原本）　●保険証　●外来診療予約票
		予約時間の30分前までにご来院ください。

※申込書・診療情報提供書のフォーマットはホームページアドレスよりダウンロードできます。なお、診療情報提供書は各医療機関の使用している書式でも結構です。

ユニット・センター　3部門

がん治療を「オール医科歯科」で取り組み
早期治療から緩和ケアまで最善のがん医療を提供します。

横断的センター・ユニット

- **がん相談支援センター**
  がんとうまく付き合いながら心身ともに落ち着いた生活を送ることができるよう、診断早期から、がん全般に関するさまざまな心配や困りごとに対して、情報提供を通してともに考え支援します。
- **緩和ケアセンター**
  15床の緩和ケア病棟、緩和ケアチーム、緩和ケア外来の運用や緩和ケア研修会・勉強会、地域との双方向性の関係構築などを集約しています。
- **骨転移診療ユニット**
  骨転移を早期に発見し、早期から治療介入を開始するシステムを確立し、外来および骨転移キャンサーボードを開催し、診断や治療が難しい骨転移症例について多職種で検討しています。
- **遺伝性腫瘍ユニット**
  臨床遺伝専門医および認定遺伝カウンセラーを中心としたスタッフ（遺伝看護師、助産師など含む）が遺伝情報の提供と支援を行っています。遺伝子検査の実施や結果説明なども行っています。
- **がんリハユニット**
  がんのリハビリテーションは、がんと診断された時から体力維持回復、障害の予防や緩和、または能力の維持改善のために必要で、がん治療を長く無理なく継続していくためにも重要なものです。
- **がんゲノム診療ユニット**
  がんが進行したり、標準的な治療がなくなりそうながん患者さんのゲノム変異を調べ、治療薬の候補を探します。最先端の研究を含めた、最善の治療を患者さんにお届けしたいと考えています。
- **がん生殖診療ユニット**
  妊孕性温存に関する正しい情報をがん患者さんに提供して妊孕性温存治療への意思決定を支援し、「患者さんが将来お子さんを持つこと」をサポートします。
- **がん循環器診療ユニット**
  がん患者さんの高齢化、サバイバーの増加によって、心疾患の合併や薬物療法の進歩による心血管障害などについて、「がん循環器外来」で対応しています。

包括的がん治療センター

- **ブレストセンター**
  「ブレストセンター」は乳腺外科、形成外科、放射線診断科、放射線治療科、病理部と連携し、最善かつ最新の「乳がん」治療を提供します。
- **腎・膀胱・前立腺がんセンター**
  腎・膀胱・前立腺がんセンターは、社会の高齢化で急速に増加する泌尿器科悪性腫瘍（がん）を対象とし、泌尿器科がん臨床で世界トップレベルの医療を提供できる診療体制をとっています。
- **みみ・はな・くち・のどがんセンター**
  頭頸部外科をメインとして耳鼻咽喉科、形成外科、脳神経外科、食道外科、呼吸器外科、放射線科、腫瘍内科、緩和ケア科など多科にわたるチーム医療を実践しています。

基盤ユニット

- **がん薬物療法調整ユニット**
  当院におけるがん薬物療法が安全かつ効率的に実施できるように、医師および看護師、薬剤師、臨床栄養士が協力してより良い医療を提供できる環境を整えることを目指しています。
- **臨床試験調整ユニット**
  新しい医薬品や医療機器の実用化に必須のプロセスである治験や臨床試験が安全に行われるとともに、質の高いデータを取得し管理することを支援しています。
- **事務・がん登録ユニット**
  院内がん登録、全国がん登録、がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療拠点の運営、管理についての業務を一元化して行っています。

責任者
森 毅彦 *MORI Takehiko*

専門分野●造血器腫瘍
　　がん薬物療法
研究領域●血液内科学
　　造血幹細胞移植

Message

がん先端治療部では、横断的センター・ユニットとして、がん相談支援センター、緩和ケアセンターに加えて、がんゲノム診療などの臓器横断的な診療ユニットを統合し、基盤ユニットとともに包括的がん診療体制を構築しています。
包括的がん治療センターでは診療科横断的ながん診療を提供しています。

ブレストセンター
Breast Care Center

当院の乳癌治療のエキスパートが集結し、
一人一人の患者さんに最適な医療を提供します。

- **センターの概要**
  女性が罹患する癌の第１位は乳癌であり、未だ罹患者は増加傾向にあります。本センターはこれまで以上に乳癌治療の効率化を図るために設立されました。現在の乳癌治療は、乳腺外科のみで対応するケースは早期乳癌の一部に限られ、大半は複数の診療科による集学的治療により成り立っています。本センターは、乳腺外科、形成外科、放射線診断科、放射線治療科、病理部、乳がん看護認定看護師で構成され、周産・女性診療科、遺伝子診療科、がんゲノム診療科、腫瘍センターとの連携も強化しました。
- **取り扱うおもな疾患**
  ・原発性乳癌、葉状腫瘍、線維腺腫、その他乳腺腫瘍
  ・再発乳癌
- **おもな診断・治療法**
  診断：乳腺腫瘍に対して、乳房トモシンセシス、超音波検査、造影MRIを行います。病理診断が必要な場合は針生検を行います。また上記画像検査で生検部位の決定が困難な場合は、ステレオガイド下マンモトーム、MRIガイド下針生検を行い、確実な診断を得ることが可能です。
  治療：手術は乳房部分切除、乳房全切除、皮膚温存乳房全切除などの乳癌の切除手術、および乳房再建を行います。乳房再建は20年以上の経験があります。他院で乳癌手術を受けられた方々の乳房再建も多く手掛けてきました。センチネルリンパ節生検は80%以上の症例に施行しています。さらに放射線治療、化学療法（抗がん剤治療）、内分泌治療を組み合わせ、個々に最適な治療を提供します。乳癌治療のエキスパートが集結するブレストセンターカンファレンスを行い、全症例の治療方針の検討を行っています。また、乳癌治療で懸念される妊孕性の温存（周産・女性診療科）、遺伝性乳癌に対するカウンセリング（遺伝子診療科）や予防的切除にも取り組んでいます。再発乳癌に対する治療はもちろんのこと、心身の不安や生活面へのサポート体制も充実させました。
- **高度な先進的医療**
  深下腹壁動脈穿通枝皮弁を用いた乳房再建やMRIガイド下針生検など、大学病院のブレストセンターならではの医療を提供します。また治療後に出産された方も多数おられます。

センター長
森 弘樹 *MORI Hiroki*

専 門 医●日本形成外科学会認定
　　形成外科専門医
専門分野●乳房再建（穿通枝皮弁、インプラント、
　　脂肪移植）

Message

乳癌治療は複数診療科が関わる「集学的治療」の最たる分野です。これまで以上に乳癌診療における院内の診療科連携を充実させたブレストセンターを開設しました。安全で、質の高い、確実な乳癌治療を提供することを使命とし、患者さんとご家族をサポートいたします。

腎・膀胱・前立腺がんセンター
Advanced Clinical Center for Urologic Cancers

Dial-in
予約に関して● 03-5803-4655（地域連携室 初診予約担当）
診療・治療に関して● 03-5803-5680（泌尿器科）

泌尿器科の3大がんに関連する各領域が力を結集し、一人一人の患者さんに最適な先端医療を行います。

● **センターの概要**
本センターは、泌尿器科（腎泌尿器外科学）、放射線診断科、放射線治療科、病理部で構成されており、前立腺がん、膀胱がん、腎臓がんに焦点を合わせて、最先端の診断、低侵襲治療、機能温存治療（臓器温存治療）を行っています。個々の患者さんに合わせて、最良の医療を提供するために、共同で治療にあたるエキスパートチームです。

● **高度な先進的医療**
前立腺がん、腎臓がん、膀胱がんの3大がんに対して、世界の標準的低侵襲手術である、ロボット支援手術（ダビンチ手術）を施行するとともに、3Dヘッドマウントディスプレイを用いた先端型ミニマム創内視鏡下手術を開発、実践しています。腎臓がんに腎機能を最大に保つ無阻血腎部分切除、浸潤性膀胱がんに膀胱温存療法（化学放射線療法＋膀胱部分切除）、前立腺がんに全機能温存前立腺部分小線源治療など、オリジナルの先進的治療を行い、あらゆるニーズに応える医療を提供します。

● **取り扱うおもな疾患**
前立腺がん、腎臓がん、膀胱がん、腎盂・尿管がん

● **研究テーマ**
ダビンチ手術、先端型ミニマム創内視鏡下手術の改良と発展／浸潤性膀胱がんの膀胱温存療法／前立腺がんの前立腺部分治療法の開発／腎臓がん治療における至適腎機能温存療法の開発／泌尿器がんバイオマーカーの探索／全身MRIなど先端的画像診断の応用／人工知能を用いた泌尿器科画像診断の開発

● **その他**
泌尿器がん低侵襲手術において、世界の標準的手術であるロボット支援手術（ダビンチ手術）と国産技術を用いたオリジナルの先端型ミニマム創内視鏡下手術を改良、実践し、両者の長所を生かした医療を提供します。3大泌尿器がんの臓器温存療法の開発にも注力しています。3大泌尿器がんに対し、最小の傷、最小の痛み、短期入院を満たす低侵襲手術、最大限の腎機能、膀胱機能、前立腺機能（性機能含む）あるいは臓器を保つ治療法の開発を進めています。

センター長
藤井 靖久 *FUJII Yasuhisa*

専 門 医●日本泌尿器科学会認定　泌尿器科専門医
専門分野●泌尿器科学
研究領域●腎腫瘍の鑑別診断モデルの開発
腎がん手術後の腎機能変化および高血圧発症メカニズム
筋層非浸潤性膀胱がんの再発・進展予測モデルの開発
筋層浸潤性膀胱がんの膀胱温存療法の開発
合併症の少ない前立腺がん手術の開発
専門外来●泌尿器がん臓器温存外来
コンチネンスケア外来（尿路ストーマ）

Message

前立腺がん、膀胱がん、腎臓がんは、日本で増加を続けている「がん」ですが、社会の超高齢化に伴い、今後より一層の増加が予想されています。腎・膀胱・前立腺がんセンターは、この3大泌尿器がんに関連する領域がユニットを組んで、各領域の力を結集し、一人一人の患者さんに最適な先端医療を行うことを目的としています。

ハイブリッドテクニックを用いた先端型ミニマム創内視鏡下膀胱部分切除

みみ・はな・くち・のどがんセンター
Advanced Clinical Center for Head and Neck Cancer

みみ・はな・くち・のどにがんができた患者さんに、高い根治性と高い生活の質を目指した、最適の医療を提供します。

● **センターの概要**
当センターは非常に豊富な治療経験を有しています。また、合併症を起こさない医療を心がけているため、日本一入院期間が短く早期退院ができるセンターです。そのため日本全国、また海外からも患者さんが受診されています。
1. みみ・はな・くち・のどにできた全てのがんを診療します。
2. 他院で手術が困難と言われた患者さんにも手術を行っています。
3. 頭蓋底と呼ばれる脳に近い部位のがんの手術経験が豊富です。
4. 非常に稀な外耳道がんの手術経験が豊富です。
5. のどの早期がんに対して内視鏡手術を行っています。

● **取り扱う主な疾患**
口腔がん（舌がん、口腔底がん、歯肉がんなど）、のどのがん（上咽頭がん、中咽頭がん、下咽頭がん）、喉頭がん、鼻腔がん、上顎がん、外耳道がん、甲状腺がん、耳下腺がん、顎下腺がん、横紋筋肉種、副咽頭間隙腫がん、頸動脈小体腫瘍など

● **高度な先進医療**
当センターは頭頸部外科、耳鼻咽喉科、放射線治療科、形成外科、脳外科、食道外科、呼吸器外科などの臨床経験豊富な専門医が協力して、一人一人の患者さんに最適な医療を提供しています。頭蓋底手術、外耳道がん手術など他の施設ではできない手術の経験も多数あります。なんでも相談してください。

センター長
朝蔭 孝宏 *ASAKAGE Takahiro*

専 門 医●日本耳鼻咽喉科学会認定
耳鼻咽喉科指導医・専門医
日本頭頸部外科学会認定
頭頸部がん指導医・専門医
日本癌治療学会認定　癌治療認定医
日本気管食道学会認定
気管食道科専門医
専門分野●頭頸部外科
研究領域●低侵襲治療
機能温存治療
舌がん
頭蓋底悪性腫瘍

Message

みみ・はな・くち・のどにできた全てのがんを、各領域の専門医が力を合わせて診療します。安心してお任せください。

各種センター
のご紹介

長寿･健康人生推進センター	19
救命救急センター	20
周産期母子医療センター	21
MEセンター	22
不整脈センター	23
快眠センター	24
スポーツ医学診療センター	25
低侵襲医療センター	26
輸血･細胞治療センター	27
メンタルヘルス･リエゾンセンター	28
先端歯科診療センター	29
オーラルヘルスセンター	30
医療連携支援センター	31
総合教育研修センター	32
臨床試験管理センター	33
クオリティ･マネジメント･センター	34
ベッドコントロールセンター	35
脳卒中センター	36
てんかんセンター	37
アレルギー疾患先端治療センター	38
先端近視センター	39

長寿･健康人生推進センター
Center for Personalized Medicine for Healthy Aging

Dial-in
● 03–5803–4194

検診を通した予防医療、疾患の早期発見・早期治療で
長寿と健康維持に貢献します。

● **センターの概要**

当センターは、ご入会いただいた方に東京医科歯科大学が一丸となって診療を提供させていただくシステムです。

1. 医科だけでなく歯科においても高度・先端医療を担う東京医科歯科大学病院がベースとなって、病気の予防と健康維持をトータルにサポートするために設置された施設です。会員には健康上のご相談にも応じます。
2. 大学病院ならではの豊富な先端的健診メニューを組み合わせて、個人ごとに最適な検診プログラムを提供します。
3. 健康管理ゲノム情報や検診結果に基づき、医師と専門スタッフが重大疾患のリスク予測から生活習慣指導までを徹底サポートします。
4. もし検査結果に異常が見つかれば、院内の専門診療科をご紹介し、さらに詳しい検査や疾患の治療を提供します。
5. 企業等と連携して社員の健康維持をサポートする法人会員制と、一般個人会員制をご用意し、様々な健康相談に応じます。
6. 法人会員の方には、海外赴任前後の健康チェック、ご家族の健康診断などにも応じます。

医・歯・ゲノム情報などを総合し、最先端の検診により、疾患の予防から、病気の治療、再発予防までトータルにケアを致します。

● **おもな検診・診療**

- ■**がんスクリーニング**：PET-CT検査、腫瘍マーカー、腹部エコー、腹部・骨盤部MRI
- ■**肺がん検診**：胸部CT、腫瘍マーカー、喀痰検査、肺気量分画測定
- ■**心臓ドック**：心電図、心エコー、負荷心電図、ホルター心電図
- ■**脳ドック**：頭部MRI/脳血管MRA、神経診察、メモリー試験、頸動脈エコー、脳血流シンチ検査、アミロイドPET
- ■**食道・胃がん検診**：上部消化管内視鏡、ピロリ菌検査
- ■**大腸がん検診**：大腸内視鏡、便潜血
- ■**乳がん検診**：乳腺エコー、マンモグラフィー
- ■**婦人科がん検診**：経膣エコー、腹部・骨盤部MRI、子宮頸部細胞診、子宮内膜細胞診、HPV-DNA検査
- ■**泌尿器がん検診**：腹部・骨盤部MRI、腹部エコー、腫瘍マーカー
- ■**睡眠検診**：簡易型終夜睡眠ポリグラフィー
- ■**視聴覚検診**：視力、眼底カメラ、OCT、眼圧、標準純音聴力検査、咽喉頭ファイバー
- ■**運動器検診**：頚椎MRI、腰椎MRI、骨塩定量
- ■**歯科ドック**：パノラマX線撮影、口腔内診査、歯周組織検査
- ■**オーラルフレイル検診**：口腔乾燥度、咬合力検査、舌口唇運動機能検査、嚥下スクリーニング検査
- ■**歯石・歯垢除去**：歯石・歯垢除去

上記の検査を組み合わせたコースメニュー

- ■**フルプログラム**：3日間　全身の詳しい検査をお受けになりたい方向け
- ■**エッセンシャルプログラム**：1日　主要な検査をお受けになりたい方向け

● **高度な医療**

[健康管理ゲノム情報の提供プログラム]

東京医科歯科大学疾患バイオリソースセンターと当センターが開発したシステムにより解析し、健康管理に役立つゲノム情報も提供致します。生活習慣病などの遺伝的リスクを解析し、病気の予防を目指す、本学独特のプログラムです。

[疾患バイオリソースセンター]

疾患バイオリソースセンターは、血液、組織、各種データを分析して、病気の原因解明や診断法・治療法の開発、予防医学研究などを行っています。

センター長
石川 欽也 *ISHIKAWA Kinya*

専 門 医●日本神経学会認定　神経内科専門医
日本内科学会認定　総合内科専門医
日本人類遺伝学会認定　臨床遺伝専門医
日本認知症学会認定　認知症専門医
日本脳卒中学会認定　脳卒中専門医
専門分野●内科学
神経内科学
人類遺伝学
研究領域●遺伝情報に基づいた個別化先制医療

Message

当センターの目的は、個人が持つ病気になる要因を遺伝子解析などで予測して、可能な限り回避するという「予防医療」と、早期に疾患を発見して治療するという「早期発見・早期治療」を実現し、皆様の長寿と健康維持に貢献することです。

トイレつき個室をご利用いただいての内視鏡検査、プライベートな歯科診療、そして医学部と歯学部の総力を結集した、診療を提供致します。

救命救急センター
Trauma and Acute Critical Care Center

Dial-in
● 03–5803–5102

都内屈指の受け入れ体制を目指し全学をあげた取り組みにより、厚生労働省が毎年実施している救命救急センターの充実段階評価において、2009年から常に高評価をいただいております。

● **センターの概要**
24時間365日、高度な医療設備とスタッフを備えて救急医療を提供します。救命救急センターは、生命に危険がある重症な患者さんを救命するために受け入れを行う「国から指定された施設」であり、初期治療から入院後の集中治療にかけてまで、全力を尽くして治療にあたっています。最新の治療設備や救命救急専用病床、ドクターカー、ヘリポート等を最大限に活用して、各科と連携しながら専門スタッフが最善の救急医療を提供します。行政からのニーズに応えて多数の重症COVID-19患者さんの受け入れ・治療を行っております。

● **取り扱う主な疾患**
あらゆる急性期疾患：感染症、外傷、急性腹症、中毒、脳卒中、急性冠症候群など。院内急変にも対応しています。

● **高度な先進医療**
1. 重症多発外傷に対する迅速な緊急止血手術や、外傷や内因性を問わず全身状態が不良な患者さんに対するダメージコントロール戦略、急性循環/呼吸不全などに対するECMO治療などの高度な救命救急医療を提供します。
2. 専門診療科との連携強化により、急性期脳梗塞に対する血栓回収療法、急性心筋梗塞に対するPCI、大動脈疾患に対する緊急手術、減圧症に対する高気圧酸素治療など迅速に適切な医療を提供します。
3. 心肺停止症例に対するE-CPR、およびCOVID-19やその他の原因による重症呼吸不全に対するECMO治療も積極的に行っております。
4. 救急認定看護師、臨床工学技士、救急認定診療放射線技師、救急認定薬剤師、救急救命士、リハビリスタッフ、栄養士などの多職種がチームとして診療に参加し、患者さんが安心して検査や治療を受けられる環境作りを行って参ります。
5. 局地および広域災害時にはDisaster Medical Assistance Teamを速やかに派遣できる態勢を整備しています。

センター長
森下 幸治 *MORISHITA Koji*

専 門 医●日本救急医学会認定　救急科専門医
日本外科学会認定　外科専門医
日本集中治療学会　認定集中治療専門医
日本外傷学会　外傷専門医
専門分野●救急医学
災害医学
外傷外科学
集中治療医学
研究領域●重症胸腹部外傷、多発外傷、集中治療に関する臨床研究
災害医療に関する疫学研究

Message

東京医科歯科大学医学部附属病院救命救急センターは2007年4月、都内23施設目の救命救急センターとして開設されました。都内屈指の受け入れ体制を目指し全学をあげた取り組みにより、2009年から救命救急センター全国第1位の評価を6年間いただいています。24時間365日、優秀なスタッフが安定した医療を提供しています。

救急専門医・専従医が
24時間365日電話対応します

当院では、多様化する緊急度の高い疾患に対して、高い技術とチーム医療の円滑な提供を目指し、近隣地域の医療機関の皆様とより密接な連携を構築するために、救命救急センター医師を窓口とする「救急プライオリティーコール」を開設いたしました。緊急性に関して迷う患者さんがいらっしゃいましたら、お気軽にご相談ください。
なお、来院後の状況によっては他の医療機関にご紹介する場合がございます。また、病院機能の特性上、2週間を目途に転院あるいは退院となります。あらかじめご了承いただきますようお願い申し上げます。

【緊急プライオリティーコール】
医療機関からの専用の番号です
03–5803–4900（シキューオーエン）（至急応援）
救急専門医・専従医が
24時間365日電話対応します

周産期母子医療センター
Perinatal Medicine Center

Dial-in
● 03–5803–5684（周産・女性診療科外来）
● 03–5803–5674（小児科外来）

新しい生命を安心・安全に育み、ハイレベルな周産期医療を実践しています。

● **センターの概要**
産科病床20床、個室分娩室2、分娩室1、陣痛室2、NICU 6床、GCU 6床

● **取り扱うおもな疾患**
出生前診断、正常妊娠・分娩、ハイリスク妊娠・分娩、胎児異常、早産児分娩、病的新生児、早産児（在胎27週以上、推定体重800g以上）

● **おもな診断・治療法**
総合病院である特色を生かして、関連各科との協力の上、様々な基礎疾患や合併症を有する女性の妊娠分娩管理を行っています。特に高安病、もやもや病、精神疾患、血液疾患、免疫疾患、膠原病、炎症性腸疾患などを合併した妊婦の管理経験が豊富です。
NICUでは24時間体制で早産児や合併症のある新生児の診断、治療を行っています。小児科内各分野専門医師、および関連他科の医師と連携して、人工呼吸管理、一酸化窒素吸入療法、低酸素療法、交換輸血、低酸素性虚血性脳症に対する低体温療法、腹膜透析などの高度医療を専門的アプローチにより行います。また小児外科、小児心臓血管外科と連携し、新生児期に外科治療が必要なお子さんを積極的に受け入れる体制を整えています。

●**その他**
2022年より妊娠を希望するすべての方を対象にした専門外来である「プレコンケア（PCC）外来」を新しくオープンしました。妊娠に関する高度な情報提供を希望される方はもちろん、持病をお持ちの方や高年妊娠、難治性不妊症まで幅広く相談に対応しています。
産後は小児科外来に育児支援外来（すくすく外来）を設置しており、専任看護師が育児に関して必要な情報を提供したり、赤ちゃんの発達を促すような関わり方をお伝えすることにより、ご家族がお子さまと一緒に新しい生活 を歩み始めるサポートをしています。
出生前から産科、助産師、小児科、小児外科、麻酔科、精神科、遺伝診療科、医療福祉センターと毎週合同カンファレンスを行い、基礎疾患を有するハイリスクの妊婦を産前から出産を経て育児に至るまで支障をきたさないように連携して取り組んでいます。

センター長
森尾 友宏 *MORIO Tomohiro*

専 門 医●日本小児科学会認定　小児科専門医
日本血液学会認定　血液専門医
専門分野●小児感染症
血液・免疫疾患
再生医療・細胞治療
研究領域●小児難病（特に原発性免疫不全症などの稀少難病）の遺伝的背景と病態解明
小児難病に対する先端的治療法の開発

Message

平成27年4月に当施設が東京都地域周産期母子医療センターに承認されたため、分娩部から周産期母子医療センターと改称しました。正常妊娠・分娩はもとより合併症妊娠や異常分娩、早産児分娩や、早産児・病的新生児に対して、より質の高い管理・治療を実現します。分娩数は年間400～500件で、周産期医療スタッフの医療レベルは高く、LDRやNICUなども充実しております。産科（周産期）医、新生児専門の小児科医、助産師や新生児専門の看護師、臨床心理士、臨床遺伝専門医などがチームを組み、手術部・麻酔科の協力で、ハイレベルな周産期医療を実践します。

MEセンター
Medical Engineering Center

Dial-in
● 03–5803–5659

ME 機器の操作及び技術提供に貢献します。

● **センターの概要**
現在、ME センターには臨床工学技士 40 名が協力し業務を行っております。おもな業務は、血液浄化療法部・手術部・高気圧治療部・集中治療部・血管撮影室・ME 機器管理部の８部門があります。また、定期的に院内勉強会を開催し、ME 機器の操作指導や技術提供に貢献しています。

● **おもな診断・治療法**

血液浄化療法部
・透析療法
・アフェレシス療法

手術部
・人工心肺業務
・手術室における ME 機器の管理・点検
・神経機能モニタリング
・da Vinci 関連業務

高気圧治療部
・スポーツ障害
・減圧症

集中治療部
・補助循環 (PCPS,ECMO,IMPELLA,IABP,VAD)
・急性血液浄化
・人工呼吸管理

血管撮影室
・心臓カテーテル検査
・アブレーション
・ペースメーカ植込み
・血管内治療
・リード抜去

ME 機器管理部
・院内の ME 機器の管理・点検
・院内使用中の人工呼吸器管理

光学診療部
・ME 機器管理

歯学部
・ME 機器管理

● **高度な先進技術**
・遠心型血液成分分離装置を用いたアフェレシス療法
・IMPELLA を用いた補助循環療法
・植込み型補助人工心臓の管理

センター長
倉島 直樹 *KURASHIMA Naoki*

資　　格●臨床工学技士
認定資格●体外循環技術認定士
　　人工心臓管理技術認定士
専門分野●臨床工学
研究領域●人工心肺
　　ECMO
　　血液浄化
　　抗凝固療法

Message

現在の医療は高度な医療技術の進歩により目覚ましい進化を遂げています。しかし、医療技術が進歩しているだけでは、安全で高度な診断や治療を提供することはできません。それらを提供するために、診断や治療に使用されている機器の管理や点検はとても重要です。医療工学の知識を持っている臨床工学技士は、安全な医療を提供するチーム医療の一員として必要不可欠です。当センターでは技師長を筆頭に、ME 機器の保守管理における装置の安全性の確立やチーム医療の一員としての治療を行っております。

不整脈センター
Heart Rhythm Center

Dial-in
● 03–5803–5231

不整脈の患者さん一人一人に対して治療効果が高く、安全で最新の不整脈診療を親身になって実施します。

● **センターの概要**
本センターは、不整脈で苦しむ方のなかで薬が効かない、効果が不十分、生命の危機がある場合に、<カテーテル治療>やく植込み型デバイス治療>などの治療をより専門的、より効率的に行うためのものです。そのために、附属病院の循環器内科を中心に、小児科、心臓血管外科の３つの診療科の不整脈診療の専門家がセンターのスタッフとして協力して診療にあたります。

● **おもな診断・治療法**

<カテーテル焼灼術>
脈が異常に速くなる頻脈に対して、心臓の特定の部分にカテーテルを介して熱を加えることにより頻脈を根治する治療法です。
当センターでは、放射線被ばくを減少させるための特殊なシステムを用いることにより、より低侵襲なカテーテル焼灼術を施行することも可能です。
また、国内最先端の治療機器や治療方法による治療も可能です。

<植込み型デバイス治療>
脈が異常に遅くなった場合には、心臓を電気刺激して脈拍を正常化するペースメーカーを皮膚の下に植込みます。この他に２種類の植込み型デバイスがあり、それぞれ突然死（＝心室細動が原因）、心不全の治療に威力を発揮します。

● **高度な先進技術**
常勤する不整脈専門医により、脈が速くなる頻脈性不整脈に対しては薬物治療や、カテーテル焼灼術、植込み型除細動器を用いて全ての状況に対応できます。難治性の不整脈に対する心外膜アプローチを用いたカテーテル焼灼術、レーザーシステムによる感染したデバイスの除去などの先進技術も駆使しています。また臨床遺伝専門医と協同して先天性 QT 延長症候群など遺伝性不整脈疾患患者さんの診断・診療が可能です。

● **取り扱うおもな疾患**
カテーテル焼灼術の適応となるのは心房細動、上室性頻拍、WPW 症候群、心房粗動、心室頻拍（心室期外収縮を含む）などです。
植込み型除細動器は突然死を来す種々の原因から発生する心室細動、ブルガダ症候群、QT 延長症候群などが対象です。
左室駆出率の低下・非同期のある心不全に対しては両心室ペーシング治療が適応になります。
心原性失神が疑われる場合には植え込み型ループレコーダーなどで精査します。

● **センターにおける研究テーマ**
心房性・心室性不整脈に対する新しいアブレーション治療方法の開発、新規導入されたカテーテル焼灼術機器の臨床への導入、カテーテル焼灼術の大規模なリアルワールドデータの収集と分析、画像診断を生かした不整脈治療、安全かつ効果的なデバイス治療、心房細動の早期発見などに積極的に取り組んでいます。

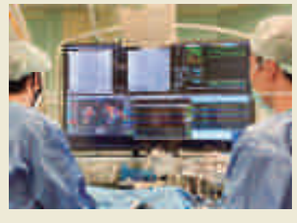
● **その他**
薬物治療から侵襲的な治療まで患者さんに合った最適な治療を提供します。カテーテル焼灼術は、国内の最先端の治療を行うことが可能です。またデバイス治療やリード抜去術も積極的に行っています。

センター長
宮﨑 晋介 *MIYAZAKI Shinsuke*

専 門 医●日本内科学会認定 認定内科医
　　日本循環器学会認定 循環器専門医
　　日本不整脈心電学会認定 不整脈専門医
　　日本内科学会認定　認定内科専門医
専門分野●不整脈
　　循環器一般
研究領域●不整脈病態生理解明とそれに基づく治療戦略、侵襲的不整脈治療の研究

Message

本センターは専門医師が高度先進技術を駆使することによって不整脈を治癒させて、不整脈による症状の緩和、生命予後の改善、心不全の改善、生活の質の改善をもたらすことを目的として平成 23 年に新設されました。スタッフ一同、不整脈の患者さん一人一人に対して治療効果が高く、安全で、最新の不整脈診療を親身になって実施する所存です。



快眠センター
Clinical Center for Pleasant Sleep

Dial-in
● 03–5803–4587（3階内科外来）

睡眠障害について呼吸器内科医、精神科医、耳鼻科医、歯科医による総合的な医療が可能です。

● **センターの概要**
医歯学連携のもとに運営される当センターでは、おもに睡眠時無呼吸症候群（SAS：Sleep Apnea Syndrome）や不眠症などの睡眠障害の診断を行うとともに、CPAP（持続陽圧呼吸療法）等による睡眠時無呼吸症候群の治療、精神科医による不眠症、睡眠障害の治療を行っております。また軽症～中等症の睡眠時無呼吸症候群でマウスピース療法が適応となる患者さんには、快眠歯科外来で専門歯科医による治療が提供されます。

● **おもな診断・治療法**
【診断】
・睡眠時無呼吸症候群（SAS）：
睡眠中の無呼吸（10秒以上呼吸が止まる）が1時間に5回以上、1晩に30回以上あることで診断されます。無呼吸の存在は、自宅にて自身で装着し、睡眠中の呼吸や血中の酸素の状態を検査できる簡易型SASモニターや、1泊の入院で睡眠中の呼吸運動のみでなく脳波を用いて眠りの深さや質を含めて判定することで、より精密に睡眠時無呼吸を判定できる終夜睡眠ポリグラフィー（PSG）により診断されます。

【おもな治療法】
・CPAP（持続陽圧呼吸療法）：
自宅に専用の機器を設置し、主に鼻に着用したマスクを通して適切な圧力で空気を押し込むことにより、睡眠中に緩んだ喉の筋肉によって喉が塞がれてしまうのを防ぎ、呼吸をサポートします。CPAPを行うと日中の眠気の消失と同時に心疾患の予防や死亡率を減らすことができます。保険診療の適応であり自己負担は3割負担の方で月に約4,500円です。
・マウスピース療法：
いびき症や軽症のSASの方に有効です。スリープスプリントと呼ばれるマウスピースを睡眠中に歯に装着し、下あごを前方に数ミリ突き出して噛み合わすようにすることで治療します（下あごを上あごより前に固定することで気道の面積を広げます）。

● **高度な先進技術**
東京医科歯科大学は医学部と歯学部からなる全国でも特徴的な医療系大学です。私たち快眠センターは医科と歯科のスタッフが密に連携して、きめ細かい診断と治療を可能にしています。

センター長
宮﨑 泰成 *MIYAZAKI Yasunari*

専 門 医●日本呼吸器学会認定　呼吸器専門医
専門分野●呼吸器内科
研究領域●睡眠呼吸障害
　　呼吸器疾患全般
専門外来●不眠外来
　　睡眠時無呼吸外来

Message

近年、24時間社会となり社会構造が変化するにつれて睡眠障害は大きな社会問題となっています。睡眠障害の中でも睡眠時無呼吸症候群は成人の2～4％を占める疾病で、日中の激しい眠気のため、社会生活に大きな影響を及ぼす一方、無呼吸とそれに伴う低酸素血症は本人の健康や生命に大きな脅威を与え、さらに社会資源の損失となります。睡眠は「心と身体が出会う領域」であり循環器疾患や内分泌疾患など内科的疾患だけでなく、うつ病などの心身・精神疾患との関係も明らかになっています。
当センターでは、呼吸器内科医、精神科医、耳鼻科医および歯科医による総合的な医療が可能となっています。さらに私たちは、循環器内科や糖尿病・内分泌・代謝内科などの内科と協力して集学的な治療体制を確立するとともに有効な治療法の開発を目指しています。

スポーツ医学診療センター
Sports Medicine Clinical Center

Dial-in
● 03–5803–4601

スポーツに関わる外傷・障害・疾病について、本学の特徴的・先進的分野を活用して診断・治療する部門です。

● **センターの概要**
当センターには、3つの特徴があります。
①アスレティックリハビリテーション部門
早期の高いレベルへの競技復帰を目的としたリハビリテーションでスポーツ選手の種目やレベル、目標とする競技会に合わせたテーラーメード復帰プログラムを提供します。
②全身的なアプローチ「チームTMDUによるトータルケア」
全身にわたるスポーツ関連の外傷・障害・疾患の治療と予防を、各診療科のエキスパートとの連携にて行います。
③本学に特徴的な部門や治療を積極的に活用
スポーツによる急性外傷（靭帯損傷、捻挫、肉離れ、骨折、打撲、脳震盪など）、スポーツによる運動器慢性障害（ジャンパー膝、アキレス腱付着部炎、足底腱膜炎、シンスプリント、疲労骨折、野球肩、テニス肘、腰痛症など）、スポーツ関連内科的疾患の診断・治療を行います。

● **おもな診断・治療法**
アスレティックリハビリテーション部門、高気圧酸素治療分野、スポーツ治療に実績のある整形外科、脳振盪を積極的に取り組む脳神経外科、スポーツ歯科など、本学に特徴的な部門・診療科との連携にて、先進的な診断と治療を提供します。

● **高度な先進医療**
・高気圧酸素治療（16名同時可能な日本最大級装置）にて治療
・アスリートの整形外科手術（特に膝靭帯・半月板）に対するオーダーメードのリハビリテーションの提供
・スポーツ歯科は、外傷予防のマウスピース、フェイスガードを迅速・テーラーメードで作成

● **その他**
・予約制ですので、事前のお問い合わせをお願い致します。
・紹介状がある場合は、ご持参ください。

センター長
柳下 和慶 *YAGISHITA Kazuyoshi*

専 門 医●日本整形外科学会認定
　　整形外科専門医
専門分野●スポーツ医学
　　高気圧酸素
研究領域●スポーツ外傷に対する高気圧酸素治療
専門外来●シンスプリント外来

Message

スポーツ医学診療センターは、スポーツ選手の靭帯損傷、肉離れ、捻挫等の「ケガ」や、いわゆる使いすぎのオーバーユースによる腱付着部炎等の運動障害、スポーツに関連する内科的疾患・病気など、スポーツに関わる外傷・障害・疾病を、本学の特徴的・先進的分野を活用して診断・治療する部門です。「より早く、より高い」スポーツ競技復帰を目指し、「チームTMDUによるトータルケア」にて総合的な診療を行います。

低侵襲医療センター
Center for Minimally Invasive Surgery

Dial-in
● 03–5803–4191

患者さんに安全・安心な低侵襲手術を提供するための トレーニングや革新的な技術開発・研究を推進します。

● **センターの概要**

当センターは、現在の医療において重要な位置を占める低侵襲医療について、
1）革新的な低侵襲手術の開発や研究をする。
2）低侵襲手術教育として、患者さんに安全・安心な低侵襲手術を提供するために院内での腹腔鏡手術、ロボット手術のトレーニングや講習会を行う。
などを目標に設立されたセンターです。診療科横断的な研究や教育を行えるよう、内視鏡下手術を行っている食道外科、胃外科、大腸・肛門外科、肝胆膵外科、小児外科、泌尿器科、周産・女性診療科、心臓血管外科、呼吸器外科などと協力しながら活動しております。

● **おもな活動内容**

低侵襲手術

［内視鏡下手術］
当院では、消化器疾患、泌尿器科疾患、婦人科疾患、呼吸器疾患などの多くの疾患に対して内視鏡下手術を行っております。腫瘍に対する手術だけでなく、炎症性腸疾患に対しても腹腔鏡下による低侵襲手術を行える体制を整えております。
［ロボット支援下手術］
最新の手術支援ロボット、da Vinci Surgical System Xを2017年に導入しました。さらに2020年にはda Vinci Surgical System Xを導入して、ロボット手術を積極的に行っております。次世代の内視鏡下手術であるロボット支援下手術を開始しております。現在、泌尿器科、大腸肛門外科、胃外科、食道外科、肝胆膵外科、呼吸器外科、周産・女性診療科の７診療科において、ロボット支援下手術を保険診療で行っております。また今後、心臓血管外科などでロボット支援下手術を開始して行く予定となっております。

教育・技術認定制度

［講習会の開催］
内視鏡下手術、ロボット支援下手術の知識・技術向上のために、院内外の医師やその他多職種の医療従事者を対象に講習会などを定期的に開催しております。
［院内技術認定制度］
当院では、内視鏡下手術の安全性を確保するために、国立大学病院では唯一の院内技術認定医制度を導入しております。内視鏡手術施行医は院内技術認定を取得する必要があり、内視鏡手術施行医を対象とした、講習会や実技試験を当センターで行っております。また、ロボット支援下手術においても院内技術認定制度を導入し、若手の医師であっても安全にロボット支援下手術を行えるような体制を整えています。

技術開発

［産学連携・医工連携］
他大学や企業と協力し、新しい技術の研究・開発に取り組んでおります。

センター長
絹笠 祐介 *KINUGASA Yusuke*

専 門 医●日本外科学会認定　外科専門医・指導医
日本消化器外科学会認定
消化器外科専門医・指導医
日本大腸肛門病学会認定
大腸肛門病専門医・指導医
日本内視鏡外科学会認定
技術認定医
日本がん治療認定医機構認定
がん治療認定医
日本ロボット外科学会認定
Robo-Doc Pilot 国際A級
専門分野●大腸がんの手術治療
大腸がんに対する腹腔鏡手術
直腸がんに対するロボット手術
再発がんや骨盤腫瘍に対する手術治療
研究領域●大腸がんの診断と治療／直腸がんの機能温存手術／再発大腸がんに対する集学的治療戦略／大腸がんの個別化治療、予後予測因子／大腸がんに対する低侵襲手術、ロボット手術
専門外来●ストーマ外来

Message

当センターは、2010年に前身となる低侵襲医学研究センターが開設され、2017年に新しく低侵襲医療センターとして生まれ変わりました。最新の低侵襲治療を、患者さんにとって安全かつ安心に提供できるよう、内視鏡手術を行う各科が協力して診療を行ってまいります。

輸血・細胞治療センター
Center for Transfusion Medicine and Cell Therapy

Dial-in
● 03–5803–5646

安全性を重視した輸血療法を実施するとともに、 画期的な細胞治療を実践し、 患者さんの期待に応える先進的な医療を提供します。

● **センターの概要**

当センターは、機能不全になった組織、臓器を補助・再生させる医療である＜輸血＞＜細胞治療＞＜再生医療＞を提供することを目的としています。特に、世界最高水準の再生医療・細胞治療の実用化をめざして設置された細胞培養加工施設には、日本再生医療学会認定医、上級臨床培養士、臨床培養士が所属し、治験や臨床研究用細胞の加工を実施するとともに、学内外の有益な再生医療技術の実用化を支援していきます。

● **おもな診断・治療法**

＜輸血＞
（おもな検査）血液型検査、不規則抗体検査、交差適合試験、HLA検査
（おもな治療法）同種血輸血、自己血輸血、自己生体組織接着剤作成術

＜再生医療・細胞治療＞
- 造血幹細胞移植（骨髄、末梢血、臍帯血）
- CAR-T療法（キムリア）
- 重症心不全に対するハートシート治療
- 自家滑膜幹細胞の半月板損傷を対象とする治験（整形外科）
- 自家腸上皮幹細胞による炎症性腸疾患の粘膜再生治療（消化器内科）
- 日和見感染症に対する多ウイルス特異的Ｔ細胞治療（小児科など）
- PRP膝関節注射（整形外科）
- PRP股関節注射（整形外科）
- 筋・腱・靱帯損傷・障害部へのPRP注射（整形外科）
- 自家滑膜幹細胞注射による変形性膝関節症治療（整形外科）

● **高度な先進医療**

半月板再生医療、腸管再生医療、多ウイルス特異的Ｔ細胞治療は、日本医療研究開発機構（AMED）の支援事業に採択され、現在、治験・臨床研究を進めています。治験・臨床研究の適応は各診療科までご相談ください。

● **センターにおける研究テーマ**

- 新規再生医療・細胞治療の開発を目的としたトランスレーショナルリサーチ
- 再生医療用細胞加工物・血液由来原料の製造および品質評価技術の実用化
- 安全で適正な輸血の実施と輸血事故防止対策
- 造血幹細胞移植を中心とした細胞治療の基礎研究と臨床応用

● **その他**

当センターの細胞培養加工施設（再生医療等安全確保法の下で届出：施設番号FC3150001）は、５つの細胞調製室（無菌培養室）で同時に６列の培養が可能です。臨床研究や再生医療等製品を使った治療をこれから開始したいと考える研究者をサポートします。

センター長
関矢 一郎 *SEKIYA Ichiro*

専 門 医●日本整形外科学会認定　整形外科専門医
日本再生医療学会再生医療認定医
専門分野●再生医療
膝関節外科
研究領域●軟骨・半月板の再生医療
間葉系幹細胞の増殖・軟骨分化
人工膝関節置換術

Message

輸血は広義の再生医療において、もっとも長い歴史を持った医療技術です。当センターでは安全な輸血に必要な検査・技術を提供するとともに、救命救急センターの緊急性の高い輸血や、NICUなど特殊性の高い輸血にも対応しています。そして、今もっとも注目されている狭義の再生医療としては、様々な診療科・研究室で開発された先端医療技術を実用化するために、清浄度の確保された施設で、再生医療・細胞治療用の細胞を調製しています。＜輸血＞＜細胞治療＞＜再生医療＞のすべてにおいて、患者さんの期待に応え、安全で質の高い先進的な医療を提供できるようセンターが一つになって努力を続けてまいります。

メンタルヘルス・リエゾンセンター
Mental Health Liaison Center

メンタルケアに関わる複数の医療チームが円滑に活動できるようマネージし、患者さんに適切な医療が提供できるよう支援しています。

● **センター概要**

メンタルヘルス・リエゾンセンターは、精神科リエゾンチーム、認知症ケアチーム、歯科連携チーム、周産期メンタルケアチーム、移植患者メンタルケアチーム、患者相談チームの６つの医療チームから構成されています。各チームが円滑に活動できるようマネージし、患者さんに適切な医療が提供できるよう支援を行っています。

● **おもな活動内容**

身体疾患を有した患者さんが、専門的なメンタルケアを必要とする場合に、それぞれの専門を持つ担当チームが支援を行っています。

● **取り扱うおもな疾患**

主に、せん妄の予防と治療、認知症患者さんの対応、妊産婦や骨髄移植患者さんの支援などを行っています。

● **取り組み**

上記に提示した内容に限らず、さまざまなメンタルヘルスの支援も行っております。

センター長

竹内 崇 *TAKEUCHI Takashi*

専 門 医●日本精神神経学会認定
精神科専門医・指導医
一般病院連携精神医学専門医
臨床精神神経薬理学専門医
日本サイコオンコロジー学会認定登録
精神腫瘍医

専門分野・研究領域●
コンサルテーション・リエゾン精神医学
サイコオンコロジー

専門外来●精神腫瘍外来

Message

いまメンタルヘルスの問題は注目されています。早期の対策が重要ですので、お気軽にお声掛けください。

先端歯科診療センター
Center for Advanced Interdisciplinary Dentistry

Dial-in
予約に関して● 03-5803-4193

複数の診療科のハイレベルな専門医が合議の上、患者さんのご要望に合わせて、世界最高水準の歯科医療を提供します。

● **センターの概要**

1. 高度で専門的な歯科治療を効率的に提供します。
2. 各専門診療科で行っている治療を、複数外来の歯科医師がチームで包括的に行います。
3. 専門医が集結し、特殊な場合を除きセンター内で診療が完結するようにいたします。
4. 「保険診療の枠組みにとらわれない」最高の診療を行いますので、診療全般を自由診療にて行います。

● **おもな診断・治療法**

・各専門分野の担当医がリアルタイムで合議の上、診断と治療計画の提案をするカウンセリング
・むし歯や歯周病とともに唾液・舌・粘膜・口臭・咬み合わせの状態を包括的に精査・診断し、早期診断・早期治療および予防の機会をとらえる歯科ドック検診
・口腔内スキャナ、ミリングマシンや3Dプリンタなどの歯科用デジタル機器を一同に集めたReal Mode Studio（併設）を活用した、最先端のデジタル機器による歯科診療
・生活の質を向上させる、入れ歯とインプラントを組み合わせたインプラント義歯治療
・小照射野コーンビームCT（歯科用CT）による高精度な診断のもと、歯科用実体顕微鏡下で最新の機器・材料を用いて行う精密な根管治療
・歯周病で失われた骨等の歯周組織の再生を促す歯周組織再生療法
・最新の技術と材料を用いた天然歯に近い審美歯冠修復、コンポジットレジンでの低侵襲の審美修復

● **高度な先進技術**

最先端の機器、材料および複数外来の高質な専門技術を集約させ、効率的に包括的な歯科治療を行うセンターです。患者さんのお口全体のバランスを考慮した治療計画のもと、患者さんのご要望に合わせて世界最高水準の歯科医療を提供します。

● **その他**

先進的な診療機器を配置することはもちろん、個室感あふれる診療ブース、診療ユニットの周りの余裕あるスペース、広い廊下、セキュリティに配慮した患者さんの誘導、アメニティなどの面でも患者の皆さまの高い満足度を追及しています。さらに、器材の運用などの目に見えないところでも、安全安心を確実なものとするシステムが導入されています。

センター長

水口 俊介 *MINAKUCHI Shunsuke*

専 門 医●日本補綴歯科学会　専門医・指導医
日本老年歯科医学会　専門医・指導医
日本義歯ケア学会　義歯ケアマイスター
日本咀嚼学会　健康咀嚼指導士

専門分野●補綴歯科学
老年歯科医学

研究領域●全部床義歯へのデジタル技術の応用
補綴歯科用材料の開発
高齢者の歯科治療に関する研究
口腔機能・栄養と全身の健康の関連

Message

先端歯科診療センターは、それぞれの得意分野を持つ専門医集団が一人一人の患者さんに対して包括的にアプローチし、それぞれの分野でのハイレベルな歯科治療を集約して提供することを目指して設立されました。2015年10月の開設以来、幸い多くの患者さんから高い評価を頂きながら運用してまいりました。４年足らずの期間を経て、2019年７月より歯科南棟（現在のＤ棟）３Ｆに移転し、新たな発展を遂げることとなりました。

オーラルヘルスセンター

Oral Health Center

Dial-in

● 03–5803–5593

入院中に発生する口の問題に対応し
口由来の合併症を予防することで早期退院につなげます。

● **センターの概要**

世界最高水準のトータルヘルスケアをコンセプトにした大学病院において、入院患者さんの口の健康を支えるオーラルヘルスセンターです。口は、栄養の入口であり、ともすると感染の入口にもなり得ます。入院中は、全身疾患や入院生活の影響で口の機能や衛生環境が悪化しやすくなります。その状態を放置すると、食事摂取が進まなくなり、栄養状態の悪化や口由来の感染症を来すことがあります。当センターでは、医系と歯系を有する本大学病院の様々な診療科と連携しながら入院中の口の健康維持改善をサポートしていきます。

● **おもな活動内容**

全身麻酔手術後の合併症予防のために、術前から口の衛生環境の維持改善に務め、術後も口腔内にトラブルが起こっていないか確認します。また、全身の内科的な治療によって口の中に出現する合併症を予防するために、治療前・治療早期から口腔問題の早期発見・早期介入に務めます。もし、入院中に口腔内にトラブルが発生したり、食べる機能が低下した場合には必要に応じて迅速に対応いたします。東京医科歯科大学病院の特性を活かし、病院横断的に多くの診療科や看護部などと連携して口腔ケアの推進に取り組んでいきます。

● **センターの特徴**

病院基盤部門に位置し、口腔外科、歯周病、老年歯科、歯科麻酔、障害者歯科などの専門医と専従の歯科衛生士により構成された部門です。様々な診療科に入院された患者さんの口腔内の問題に迅速に対応できるようスタッフ一同尽力いたします。

センター長

松尾 浩一郎 *MATSUO Koichiro*

専 門 医●日本老年歯科医学会　専門医
摂食機能療法専門歯科医師
日本障害者歯科学会専門医

専門分野●高齢者歯科
障害者歯科

研究領域●1. 地域在住高齢者へのオーラルフレイル予防プログラムの開発
2. 要介護高齢者の食事モニタリングシステムの開発
3. 自立高齢者を増やすための革新的食品提供システムの開発
4. 急性期から回復期における口腔機能管理システムの構築
5. 多職種連携オーラルマネジメントシステムの開発

Message

口は栄養の入口であり、ともすると感染の入口にもなり得ます。いつまでもおいしく食事を食べられる口の健康を維持することが体の健康の源となります。東京医科歯科大学病院では、全身の健康回復・健康増進だけでなく、入院中の口の健康増進も支援していきます。当センターでは、歯科各領域のエキスパートと専従の歯科衛生士が一丸なって、入院中の口の健康増進をサポートしていきます。

医療連携支援センター

Medical Welfare and Liaison Services Center

Dial-in

● 地域連携室 03–5803–4655

医療福祉支援室：
03-3813-6111（代表）からおかけ下さい。
入院支援室：
03-3813-6111（代表）からおかけ下さい。
患者相談室：
03-3813-6111（代表）からおかけ下さい。

地域医療の連携強化と、患者さんが安心して
療養できるためのサポートを行っております。

● **センターの概要**

●地域連携室

地域連携室では、ご紹介いただいた初診患者さんの事前予約、紹介状の返書管理、患者さんの逆紹介などの連携業務を通して地域医療機関との病診・病病連携を積極的に推進するとともに、安心してご紹介いただける環境の構築に取り組んでおります。

●入院支援室

入院支援室では、入院前オリエンテーションを通じて患者さんが安全かつ安心して入院治療を受けられること・退院後の療養生活を見据えた支援が早期に提供できることを目指しています。入院後もスムーズに元の生活に移行できるよう、院内外の多職種と連携し、在宅療養支援や転院調整を行っております。各病棟に配置されたクラークが、医師・看護師など多職種・他部署と連携し、入院から退院まで円滑な事務手続きをサポートしています。

●医療福祉支援室

医療福祉支援室では、当院に入院あるいは通院されている患者さんやそのご家族が、適切でより良い療養と社会生活を送れるように社会福祉の立場から、経済的・社会的・心理的問題の解決に向けて共に考え、支援しております。

●患者相談室

患者相談室では、当院に入院あるいは通院されている患者さんやそのご家族から寄せられる様々なご相談や、ご意見・ご要望などをお受けし、専任の相談員（看護師・事務員・警察OB）が医療者側と患者さん等との対話推進のための支援を行っております。
病院のサービス向上と安全良質な医療の提携のため、関連部署と連携し協力して取り組んでおります。

センター長

田村 郁 *TAMURA Kaoru*

専 門 医●日本脳神経外科学会認定
脳神経外科専門医・指導医
日本脳卒中学会認定
脳卒中専門医・指導医
日本がん治療認定医機構認定
がん治療認定医
日本神経内視鏡学会認定
神経内視鏡技術認定医

専門分野●脳神経外科学
脳腫瘍の外科治療・集学的治療

研究領域●脳腫瘍の病態解明
新規治療法開発

Message

当センターは、2016年から「地域連携室」、「入院支援室」、「医療福祉支援室」の３部署で構成されておりましたが、2022年４月から「患者相談室」が加わり４つの部署での運営となりました。
通院から入退院に至るまでをシームレスに支援し、患者、家族、地域の医療従事者の方々が安心できるような運営を心がけております。

総合教育研修センター
Professional Development Center

Dial-in
- 03–5803–4581（医科教育研修部門）
- 03–5803–5414（歯科教育研修部門）
- 03–5803–5399（特定行為実践教育部門）
- 03–5803–4349（歯科衛生士総合研修部門）

全国でも人気の高い臨床研修教育で、安全高度な医療と先端的研究を担う医療人を育成します。

センターの概要

総合教育研修センターは医科教育研修部門と歯科教育研修部門、特定行為実践教育部門、歯科衛生士総合研修部門を擁する大学病院の教育研修部門です。
当院の医師臨床研修プログラム、歯科医師臨床研修プログラムの企画運営や、研修医・研修歯科医の募集及び採用に関することなどを取り扱うほか、臨床教育に関して学外の病院との渉外や病院における卒前教育の調整、支援に関しても取り組んでいます。
また特定行為実践教育部門では、看護師の特定行為研修のプログラム運営、歯科衛生士部門では歯科衛生士の生涯教育プログラム運営を担当しています。
この他、病院職員研修の企画立案運営も行っており、病院における臨床教育の実施を推し進めています。

取り組み

医師・歯科医師臨床研修ともに当院の臨床研修プログラムは全国でも高い人気を得ています。医科では幅広い経験を積むことができる様、研修期間の半分を当院で、もう半分を他院（関連病院）で行う「たすきがけ方式」で、歯科ではそれぞれ特色の異なる3つのプログラムの運営をしており、日々のプログラムの見直しや待遇の改善等を通して研修医・研修歯科医の満足度は高いものとなっています。
新しい特定行為研修や歯科衛生士総合研修も、大学内外に門戸を開き、本学の質の高い指導体制で、特定行為研修者の育成および歯科衛生士の生涯教育に貢献しています。

センター長
岡田 英理子 *OKADA Eriko*

専 門 医●日本内科学会認定　総合内科専門医
日本消化器病学会認定
消化器病専門医
日本消化器内視鏡学会認定
消化器内視鏡専門医
日本医学教育学会認定
医学教育専門家
専門分野●医学教育
消化器内科
研究領域●臨床医学教育

Message

総合教育研修センターでは研修医を対象とした勉強会「イブニングセミナー」を定期開催しています。
セミナーでは最新のトピックや臨床の基本となる講義など様々な内容を取り扱っています。
毎年歯科との合同セミナーも行って参りましたが、病院一体化を契機として更に活発なコラボレーションを行っていくことを予定しています。

総合教育研修センター
QRコード

臨床試験管理センター
Clinical Research Center

Dial-in
- 03–5803–4575

治験や臨床試験を通じて医学の進歩に貢献すべく、国際的にも情報収集や発信を行っています。

センターの概要

当院で実施される治験、臨床研究の管理、調整、実施支援を行うセンターで、国立大学病院として国民の期待に応える役割を果たすべく、患者さんの診療サポート、情報発信など新たな治療法の開発の一翼を担っております。歯系の教員の先生方も加わり、病院一体化に伴い増加する専門性の高い歯系の臨床研究も支援しています。

おもな活動内容

治験支援
当院では多数の治験を受け入れており、2021年度は治験158件（2021年度新規44件）、470症例の治験を受託し、実施支援を行いました。医師主導治験も積極的に実施しており、2021年度は医師主導治験を18件（2021年度新規5件）実施し、そのうち当院が計画している医師主導治験は5件となります。当院の特徴として、稀少難病や免疫チェックポイント阻害薬などの抗がん剤の治験の他に、コロナウイルス感染症の治療薬の治験なども積極的に受託しています。現在、臨床研究コーディネーター（CRC）としては、院内の看護部・薬剤部、検査部から配属されている16名と、外部の支援機関（SMO）数名が在籍しており、特に資金的には厳しく、内容的にはより複雑な医師主導治験についても、積極的に支援しています。また、院内各部署からCRCが配属されていることにより、各部署との連携がスムーズに行われています。CRCは、治験に関する様々な調整や、治験にご参加いただいた患者さんへの診療サポートなど、計画から始まり、円滑な治験実施のために、充分な支援を行っています。

臨床研究支援
2018年4月に、当院の「臨床研究審査委員会」は臨床研究法で規定される認定臨床研究審査委員会として、厚生労働省より認定を受けました。現在、多施設臨床研究の中央一括IRB化や、他の施設で実施する臨床研究に関しても、積極的に審査受託を行い、臨床研究を発展させることに努めています。さらに、医療イノベーション推進センターとも協力し、より質の高い臨床研究を実施するために、研究計画立案の初期の段階からの相談・支援を行っています。生物統計学・データサイエンス部では、学内臨床研究の活性化に向けた基盤構築を推進すると共に、研究デザイン立案、サンプルサイズ設計、データ解析業務、論文執筆・査読対応等のコンサルテーションを実施しております。また、質の高い臨床研究支援をめざし、逸脱報告書に関する実践報告をCRCがまとめて発表するなど、関連学会にも積極的に参加し、研鑽に励んでいます。

学外ネットワーク
関東甲信越の9国立大学病院と、大学病院臨床試験アライアンスを組織し、協調して臨床試験の実施、審査、情報の収集・発信、人材育成を行い、治験・臨床研究の活性化に努めています。また全国の国立大学病院とも臨床研究推進会議を組織して、その幹事校を務めています。2019年からは、小児治験ネットワークに加盟し、小児や稀少疾患の開発環境の向上に協力しています。さらに近隣の医療機関や連携医療機関との間で「TMDU臨床研究ネットワーク」を構築し、臨床研究に関する情報共有や支援活動も行っています。

治験促進
幅広い方々に治験や臨床研究、及び当センターを知っていただくため、様々な活動を行っております。そのひとつとして、当センターのFacebookを開設し、治験の促進やセンターの取り組みなどの情報を随時発信しています。

センター長
小池 竜司 *KOIKE Ryuji*

専 門 医●日本内科学会認定
総合内科専門医
日本リウマチ学会認定
リウマチ専門医
日本感染症学会認定
感染症専門医
専門分野●内科学
膠原病内科学
感染症学
臨床薬理学
研究領域●リウマチ性疾患や感染症の診断と治療
レギュラトリーサイエンス

Message

医学の進歩のためには臨床研究が必須であり、中でも治験は薬や医療器具の実用化に直結する最も重要な臨床研究です。治験という言葉は昔と比べれば普及しましたが、その具体的な内容や日本の現状についてはまだまだ理解されていません。私たちは治験や臨床試験を通じて医学の進歩に貢献すべく、様々な活動を行っています。「治験」「臨床研究」という言葉に興味をお持ちになったら、どうぞ遠慮なくお声をかけて下さい。

クオリティ・マネジメント・センター
Quality Management Center

Dial-in
● 03–5803–4191

診療と経営の質の確保のために
診療関連情報を一元的に収集・分析・評価しています。

● **センターの概要**
院内の診療関連情報を集約し、医療の質保証と病院マネジメント改革のためのエビデンスの提供を目指しています。院内各部門からの情報を収集、分析して、臨床指標などを用いた評価を行い、各診療科、医療安全、感染制御部門などと連携して、PDCA（計画（Plan）、実行（Do）、評価（Check）、改善（Act））による医療の質の継続的な改善を実施していきます。

● **取り組み**
クオリティ・マネジメント・センター（QMC）では、院内の課題を可視化・分析して改善活動に繋げてその効果を継続的に評価する活動をi-Kashika活動として実施しております。当センターでは、医師、歯科医師、看護師が臨床に則した分析を行うことで、実臨床の行動変容につながる分析を目指しています。2020年10月の医学部附属病院と歯学部附属病院の統合を機に、歯科もi-Kashika活動を開始し、歯科診療並びに、医科歯科の連携の可視化も開始しました。
また、本学は2019年4月より国立大学附属病院医療安全管理協議会の会長校に就任し医療安全指標プロジェクトに取り組んでいます。本プロジェクトは国立大学病院共通の医療安全指標を開発し、各大学で指標結果を用いた改善活動を実践することで国立大学全体の医療の質と安全の向上を目指すものです。QMCはこれらの活動を支援しています。

センター長
伏見 清秀 *FUSHIMI Kiyohide*

専 門 医●日本内科学会認定　総合内科専門医
専門分野●医療政策学
　　医療管理学
　　医療情報学
研究領域●本邦の医療提供体制に即した診断群分類の開発
　　医療機関の機能分化と分担連携のあり方について
　　医療の標準化と医療情報共有のための情報技術について

Message

医療の質の確保と病院組織マネジメントは表裏一体です。自分たちが提供している医療の質を自ら評価するとともに、それを継続的に向上させていこうとする組織文化の醸成が大切と考えられています。私たちは、ビッグデータともいわれる医療電子データの分析を充実させながら、当院を受診される患者さんに、よりよい医療を確実に提供できる病院の発展に貢献したいと考えています。

ベッドコントロールセンター
Bed Management Center

病床の有効活用を介して、
より多くの患者さんに当院での医療を提供できるように
サポートを行っております。

● **センターの概要**
入退院・病棟間移動に関する情報を集約し、患者さんとご家族の希望に沿いながら、安心・安全に療養できる環境の調整を行います。当院の誇る高度かつ先進的な医療を、より多くの患者さんに提供できるように病床の管理を行います。

● **おもな診断・治療法**
近年、コロナ診療と通常診療の両立が求められるようになり、当院は二つの異なる社会的使命に対応していく必要があります。その使命にこたえていくために入院病床という医療資源を最大限有効活用し対応することが求められます。ベッドコントロールセンターは病床の有効活用という観点から病床使用状況の見える化と、データに基づいた各病棟の業務量の見える化に取り組み、患者さんの状態に適した病床の選択とともに、病棟間の業務量に偏りのない病床管理を目指しています。データの見える化と解析を進めながら、関連部署と協働し入院から退院までをコントロールすることで、現場で働く医療者が患者さんのケアに集中し、質の高い医療の提供ができるよう支援できる部署へと発展していきたいと考えています。

センター長
若林 健二 *WAKABAYASHI Kenji*

専 門 医●日本小児科学会認定　小児科専門医
　　日本集中治療医学会認定
　　集中治療専門医
専門分野●集中治療医学
研究領域●急性呼吸不全
　　体外循環
　　肝不全
　　病院管理におけるAI活用

Message

当センターは予定入院患者さんの病床確保と転入・転出時の病棟間の調整を、各病棟や診療科と連携して行う部署として2020年7月に設置されました。病床の有効活用を行うことでより多くの患者さんに満足した形で当院での医療を提供できるようにお手伝いさせていただきます。7名のセンター員で協力して尽力し、皆様のお役に立てるように頑張ってまいります。

脳卒中センター
Stroke Center

当センターでは発症数時間以内の急性期脳卒中およびこれを疑う救急搬送患者さんを24時間体制で受け入れています。また専門治療を目的とした医療機関からの転院搬送も積極的に受け入れています。急性期脳卒中が疑われる場合は、当院救命救急センター（03-5803-5102）へお問い合わせの上、救急車で搬送して下さい。

Dial-in
● 03–5803–5102

フットワークとチームワークの良さと最高の医療手段を駆使して最良の転帰を目指します。

センターの概要

1. 当脳卒中センターは救急科、脳神経内科、脳神経外科、血管内治療科で構成されています。これらの専門医が合同治療チームを形成し、一つのチームとなって治療にあたります。
2. 個々の患者さんの病状に応じ、有効かつ侵襲の少ない方法で高度な急性期治療を行います。
3. 内科治療、開頭手術、血管内手術、内視鏡手術など、各科のエキスパートがそれぞれの豊富な経験と高度な技術を集約して治療を行います。
4. 手術部、麻酔科、放射線科、リハビリテーション部、医療連携支援センターなどの関連部門と緊密に連携し、急性期から回復期まで、滞ることなく脳卒中の専門治療を行います。
5. 当院の専門医数

救急専門医	13名
神経内科専門医	32名
脳神経外科専門医	17名（指導医 7名）
脳神経血管内治療専門医	4名（指導医 2名）
脳卒中専門医	17名

6. 当院は東京都脳卒中急性期医療機関、一次脳卒中センターコア施設に認定されています。

センターの特徴

・24時間365日、急性期脳卒中患者さんの救急搬送を受け入れ、高度な専門性をもつスタッフが治療にあたります。
・常時MRI、CT、超音波、脳血管撮影等の緊急画像診断が可能です。
・常時急性期脳梗塞に対する血栓溶解療法及び血管内治療（脳血管血栓回収術）が可能です。
・出血性脳卒中（くも膜下出血、脳出血）に対して、全身麻酔による手術治療が可能です。
・高い診断能力をもつ脳神経内科医が病状を解析し、再発予防に向けて最良の治療プロトコールを作成します。
・本センターが備える高度かつ多岐にわたる治療法から、患者さんの病状に合った最善の治療を提供します。
・急性期の治療のみならず、早期の専門的リハビリテーションが可能で、高いレベルの機能予後を目指します。

おもな診断機器・治療法

・MRI（3テスラ3台、1.5テスラ1台）
・マルチスライスCT（ERセンター 1台、放射線部3台、手術室1台）
・血管撮影装置（4台：バイプレーン3台、IVR CT 1台）
・超音波診断装置
・血管内超音波診断装置

高度な先進医療

・血栓溶解療法（t-PA）
・開頭手術（クリッピング術、EC-ICバイパス術、ハイフローバイパス術、頚動脈内膜剥離術）
・血管内手術（コイル塞栓術、フローダイバーター留置術、脳血栓回収術、頚動脈ステント留置術、頭蓋内脳血管形成術）
・神経内視鏡手術（脳内・脳室内血腫除去術、第三脳室底開窓術）

Message

脳卒中は我が国の三大疾病の一つであり、死亡原因の第4位で、患者数は悪性新生物、心疾患より多くなっています。また介護度の高い重度障害患者の半数が脳卒中であり、寝たきりや認知症の原因として最も多く、社会復帰を阻害する主要な原因疾患です。ひとたび罹患すると患者さんのみならず、介護者である家族の人生にも大きな影響を与えるので、社会的影響の大きな疾患といえます。
脳卒中は、発症後の一刻も早い適切な治療が症状の回復の程度を決定付けます。近年、脳卒中の急性期に対する治療は、内科的な血栓溶解療法や、カテーテルによる再開通療法、内視鏡的脳内血腫除去術など、急激に進歩しています。さらに、脳卒中は再発が多い疾患ですが、その予防にも内科的、外科的に多くの専門医療が有効です。これらの脳卒中の先端治療は、高度な専門性に加え複数の診療科によるチーム医療が達成されることによって、高い治療効果が得られます。当センターは、救急科、脳神経内科、脳神経外科、血管内治療科の診療科から構成され、それぞれの診療科の密接な協力体制が確立しており、全ての急性期脳卒中の患者さんに迅速かつ高度な治療を提供して後遺症を最小限に留め、その後の再発をできる限り予防する先端医療を実践していきます。

てんかんセンター
Epilepsy Center

当センターでは、てんかん治療に難渋しているかかりつけ医の先生からのご紹介やてんかん外科治療についてのご相談、救急の現場からのフォローアップなどに対応し、総合的なてんかん診療を行います。下記までお気軽にお問い合わせください。

予約に関して● 03–5803–4655（地域連携室 初診予約担当）
診療・治療に関して● 03–5803–5676（脳神経外科外来）

乳幼児から高齢者まで、急性期、難治性などてんかん治療の経験豊富な医療スタッフが対応します。

センターの特徴

東京医科歯科大学病院てんかんセンターは通常のてんかん診療に加え、ビデオ脳波モニタリングや大学病院の特徴を生かした高精度MRIやPET・SPECT等の検査、低侵襲な定位的頭蓋内脳波（Stereoelectroencephalography: SEEG）の実施、外科治療など包括的治療が可能な3次てんかん診療施設として活動しています。
脳神経内科、精神科、脳神経外科、小児科という慢性期てんかんを扱う診療科に加え、救命救急センター、ICUという急性期救急治療を行う診療科も参加しています。
てんかん診療に必要な脳波検査には検査部の医師および検査技師が携っています。地域の1次施設、2次施設との連携は医療連携支援センター、薬剤部の支援下に行っています。加えてんかん患者さんの内科系、外科系の諸問題に対処できるという大学病院としての特色を生かしたてんかんセンターの運営が可能になっています。

おもな検査設備

▪長時間ビデオ脳波モニタリング
▪3T MRI
▪FDG-PET
▪IMZ-SPECT、脳血流SPECT

おもな診療科

脳神経内科	横田 隆徳
精神科	高橋 英彦
小児科	森尾 友宏
集中治療部（ICU）	若林 健二
検査部	東田 修二
脳神経外科	前原 健寿

前原 健寿
MAEHARA Taketoshi
脳神経外科 科長

高橋 英彦
TAKAHASHI Hidehiko
精神科 科長

横田 隆徳
YOKOTA Takanori
脳神経内科 科長

森尾 友宏
MORIO Tomohiro
小児科 科長

東田 修二
TOHDA Shuji
検査部 部長

若林 健二
WAKABAYASHI Kenji
集中治療部（ICU）部長

Message

てんかんは全人口の1%が罹患する普遍的な疾患で、日本では約100万人の患者さんが存在すると推定されています。しかもそのうちの30万人は、抗てんかん薬に抵抗性の難治のてんかんに苦しんでいます。我が国のてんかん医療は、これまで精神科、脳神経内科、脳神経外科、小児科など数多くの診療科により担われてきた経緯があり、その結果、多くの地域で、どの診療機関がてんかんの専門的な診療をしているのか、患者さんばかりでなく医療機関においても把握されていない状況が生まれています。さらに患者さんは、てんかんに付随する精神症状、抗てんかん薬の副作用、小児から成人へのcarry-over、仕事、運転といった社会状況などさまざまな問題を抱えています。東京医科歯科大学てんかんセンターは、てんかんに関連した諸科が協力し包括的なてんかん診療を行うと同時に、最先端の医療を患者さんに提供することを目指しています。

アレルギー疾患先端治療センター

Dial-in
- 03–5803–5679（皮膚科外来）
- 03–5803–4655（初診事前予約担当）

専門性の高いトータル・アレルギーケアを提供します。

センター長
宮﨑 泰成 *MIYAZAKI Yasunari*

専 門 医●日本内科学会認定　総合内科専門医
日本呼吸器学会認定　呼吸器指導医
日本アレルギー学会認定
アレルギー指導医
日本呼吸器内視鏡学会　気管支鏡指導医
日本結核病学会　結核・抗酸菌症認定医
専門分野●間質性肺炎
過敏性肺炎
研究領域●肺線維化の病態解明
専門外来●禁煙外来

● センターの概要

アレルギー疾患は呼吸器・鼻・眼・皮膚・消化器など全身に症状が出る疾患です。当センターでは、内科・小児科・皮膚科・耳鼻咽喉科のアレルギー専門医が横断的に密接に協力して総合的にアレルギー疾患を治療してまいります。それにより、全身のアレルギー疾患を同時に根本から治療することが可能です。

● おもな検査

アレルギー疾患は原因アレルゲンを同定して除くことにより根治することが可能な疾患があります。
当センターでは、皮膚科にて【パッチテスト】【プリックテスト】【DLST】【好塩基球活性化試験】【誘発試験】などで、原因であるアレルゲンを明らかにし、アレルゲン除去療法・免疫療法をすることができます。呼吸器内科では過敏性肺炎の原因であるアレルゲン検索も積極的に行っています。

● 高度な先進医療

【生物学的製剤療法】【免疫療法（アレルゲン舌下投与療法）】【遺伝子療法】【レーザー療法】などを行っています。

● 取り扱うおもな疾患

皮膚科：アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、薬物アレルギー、金属アレルギー、食物アレルギーなどのアレルギー疾患
耳鼻咽喉科：治療抵抗性の鼻アレルギー疾患（花粉症、アレルギー性鼻炎、好酸球性副鼻腔炎など）
呼吸器内科：喘息、過敏性肺炎
小児科：小児のアレルギー疾患（気管支喘息、食物アレルギーなど）
原因であるアレルゲンを明らかにし、アレルゲン除去療法・免疫療法をすることができます。
なお、シックハウス症候群や化学物質過敏症の検査は当院では実施しておりません。

● おもな診療科

皮膚科（火曜日）：沖山奈緒子（日本アレルギー学会指導医）、岩本雄太郎（木曜日）、金澤あずさ
耳鼻咽喉科（月曜日）：鈴木康弘（日本アレルギー学会専門医）
呼吸器内科（火・木曜日）：玉岡明洋（日本アレルギー学会専門医）、大谷義夫（日本アレルギー学会指導医）、小松崎恵子
小児科（木曜日）：大柴晃洋（日本アレルギー学会専門医）

Message

東京医科歯科大学では皮膚科診療ブースを用いた「アレルギー疾患最先端治療センター外来」を2017年10月に皮膚科、呼吸器内科、耳鼻咽喉科、小児科のアレルギー専門医が協力して総合的にアレルギー疾患の患者さんを診療することができるように立ち上げました。さらに、2019年4月より東京都のアレルギー疾患医療拠点病院の一つに選定されました。
この外来はアレルギー疾患の各科横断的な総合的治療による医療サービスを患者さんに提供できるだけでなく生物学的製剤・レーザー療法、免疫療法、抗原除去療法、核酸医薬療法などの新規治療法の開発と提供、総合アレルギー科専門医の育成、患者さんへのアレルギー関係の情報提供を目的としています。

先端近視センター
Advanced Clinical Center for Myopia

Dial-in
予約に関して● 03–5803–4655（地域連携室 初診予約担当）
診療・治療に関して● 03–5803–5681（眼科外来）

小児の近視進行抑制から中高年の合併症による失明予防まで、
近視のありとあらゆる側面を経験豊富な専門家が
トータルマネージメントを行う世界最大のセンターです。

センター長
大野 京子 *OHNO-MATSUI Kyoko*

専 門 医●日本眼科学会認定　眼科専門医
専門分野●近視
強度近視
眼底疾患
研究領域●近視の病態解明
実験近視
眼循環
専門外来●強度近視外来
近視治療外来

● センターの概要

先端近視センターは、①小児期の近視の発症と進行に対する治療を主に行う近視進行抑制部門と、②既に近視が強度に至った患者さんの、強度近視に伴う眼合併症を治療する病的近視診療部門、③患者さんのQuality of Visionを最大限に向上するための、屈折矯正部門からなります。

● おもな診断・治療法

1. 近視進行抑制部門（責任者：五十嵐多恵）

近視治療外来では、国際的に有効性が認められている小児の近視進行抑制治療（低濃度アトロピン、オルソケラトロジー、多焦点コンタクトレンズなど）の中で、個々の患者さんにとって最適と考えられる治療法を判断しご提案させて頂きます。またこれらの治療が日本でも認可承認されるための取り組みだけでなく、レッドライト治療法などの最先端の治療の提供に向けても、積極的に取り組んでいます。 この他、近視進行度数予測表を用いた治療効果のモニタリングや、クラウクリップと呼ばれる小型のデバイスによる環境管理も行っております。

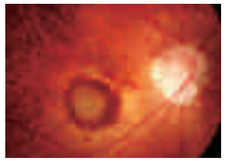
2. 病的近視診療部門（責任者：大野京子）

1974年に設立された半世紀近い歴史をもつ強度近視専門外来であり、登録患者数は国内外から約6000名に達し、世界最大規模の専門外来として知られております。病的近視に伴う眼底合併症（近視性脈絡膜新生血管、近視性網脈絡膜萎縮、網膜剥離・分離等々）を、最先端画像診断機器を用いて早期発見し、常に先駆的な治療を行っております。

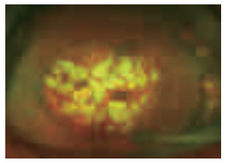
3. 屈折矯正部門（責任者：高橋知成）

強度近視眼の白内障手術は、正視眼や軽度の屈折異常眼と比較すると難易度は高い一方で、屈折矯正としてのメリットが大きい特徴があります。
屈折矯正外来では、患者さんのQuality of Visionの向上に貢献できるよう、多焦点眼内レンズを用いた白内障手術を行っております。また強度近視患者さんが、裸眼で生活したいというニーズがある場合、ICL手術も行っております。個々の患者さんの生活スタイル、趣味、職業、近視に伴う眼合併症の有無や危険性などを考慮し、適切な治療方針をお示しできるよう、専門的かつ丁寧な診療を心がけております。

病的近視に伴う様々な眼合併症の例



A) 近視性脈絡膜新生血管



B) 近視性網脈絡膜萎縮

C) 病的近視に伴う網膜剥離と分離

Message

近年、近視が世界的に急増しており、2050年には世界人口の半数の約50億人が近視になり、世界人口の約1割に相当する9億人が強度の近視に至ると試算されています。多くの疫学研究の結果、強度の近視は失明の主要な原因であるとともに、近視はたとえ軽度でも、緑内障などの発症リスクを加速度的に上昇させることが判明しました。生涯に渡り良好な視機能を維持するためには、近視を発症させない、進行させない取り組みが非常に重要となっています。先端近視センターでは豊富な経験と知識に基づき、お子様から中高年以降まで近視をトータルにマネジメントいたします。

医系診療科
のご紹介

血液内科	41	泌尿器科	64
膠原病・リウマチ内科	42	頭頸部外科	65
糖尿病・内分泌・代謝内科	43	救急科	66
腎臓内科	44	病理診断科(病理部)	67
総合診療科	45	眼科	68
消化器内科	46	耳鼻咽喉科	69
循環器内科	47	皮膚科	70
呼吸器内科	48	形成・美容外科	71
臨床腫瘍科	49	整形外科	72
緩和ケア科	50	小児科	73
緩和ケア病棟	51	新生児集中治療室(NICU:Neonatal ICU)	74
がんゲノム診療科	52	周産・女性診療科	75
遺伝子診療科	53	脳神経外科	76
感染症内科	54	脳神経内科	77
食道外科	55	血管内治療科	78
胃外科	56	精神科	79
大腸・肛門外科	57	心身医療科	80
乳腺外科	58	麻酔・蘇生・ペインクリニック科	81
小児外科	59	放射線治療科	82
末梢血管外科	60	放射線診断科	83
肝胆膵外科	61	光学医療診療部	84
心臓血管外科	62	高気圧治療部	85
呼吸器外科	63		

血液内科
Hematology

Dial-in
● 03-5803-5670

患者さんと十分なコミュニケーションを取りながら、
適切な診断に基づく最適な治療を最適なタイミングで
提供しております。

● **診療科の概要**
当科では白血病などの造血器腫瘍、再生不良性貧血などの造血不全症、特発性血小板減少性紫斑病や凝固異常症といったあらゆる血液疾患の診療にあたっております。多くの血液内科専門医が所属しており、質の高い診療を行っています。造血幹細胞移植・CAR-T療法などの細胞療法の認定施設でもあり、必要な患者さんに最適なタイミングで実施しております。

● **取り扱う主な疾患**
・造血器腫瘍(急性および慢性白血病、悪性リンパ腫、骨髄増殖性腫瘍、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群など)
・貧血あるいは造血不全症(再生不良性貧血、溶血性貧血、発作性夜間血色素尿症など)
・免疫性血小板減少症(特発性血小板減少性紫斑病)
・先天性および後天性凝固異常症

● **主な診断・治療法**
診断のための血液検査による血液細胞の数や形態異常の評価、骨髄検査やリンパ節生検による病理学的検査、染色体検査、遺伝子検査、PET-CTなどの画像検査。治療法は抗がん剤、分子標的療法、造血幹細胞移植・CAR-T療法、免疫抑制療法、生物学的製剤など。

● **診療科における研究テーマ**
難治性の血液疾患に対する新たな治療法開発のための基礎研究・臨床研究を行っています。
1) 白血病における化学療法薬および分子標の薬への耐性獲得機構の解明と新たな治療法の開発
2) リンパ系腫瘍の遺伝子異常・免疫応答調節に基づく新たな治療法の開発
3) 造血器腫瘍に対する新たなCAR-T療法の開発
4) 血液疾患治療中に合併する感染症の早期診断法の開発

● **高度な先進医療**
血液腫瘍に対するCAR-T療法、造血幹細胞移植後の網羅的ウイルス検出による早期診断および治療法の検討など。

科長
森 毅彦 *MORI Takehiko*

専門医●日本内科学会認定　総合内科専門医
日本血液学会認定　血液専門医・指導医
日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医・指導医
日本感染症学会認定
感染症専門医・指導医
専門分野●血液内科学
研究領域●血液疾患の病態解明・新規治療法の開発、合併症軽減の試み

Message

当科では、
1) 安全で質の高い医療の提供
2) 高度先進医療の開発
3) 優秀な医師の養成
という3つの目標の達成に向けて、スタッフ一同、一致協力して活動しています。特に、一人でも多くの患者さんが、治癒して日常生活に戻れるよう、安全で質の高い医療を提供することを心掛けて診療にあたっています。

膠原病・リウマチ内科
Rheumatology

Dial-in
● 03–5803–4587

関節リウマチをはじめ膠原病の早期診断や難治症例の治療に取り組んでいます。

● **診療科の概要**
当科には多数の膠原病内科医、リウマチ専門医が在籍しています。東京近隣だけでなく、地方からも診断や治療が難しい患者さんの紹介を受け、診療にあたっています。また、膠原病・リウマチ先端治療センターを有しており、他科との綿密な協力体制によるトータルケアに取り組んでいます。

● **取り扱うおもな疾患**
関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、抗リン脂質抗体症候群、多発性筋炎・皮膚筋炎、血管炎症候群、強皮症、混合性結合組織病、シェーグレン症候群、成人発症スティル病、自己炎症性疾患、原発性免疫不全症に続発する自己免疫疾患など。

● **おもな診断・治療法**
関節リウマチの早期診断とメトトレキサート・生物学的製剤・JAK 阻害薬などを用いた早期治療。
全身性エリテマトーデスの早期診断と免疫抑制薬・生物学的製剤による治療。
多発性筋炎 / 皮膚筋炎・全身性強皮症・血管炎症候群 などその他の膠原病に対する総合的治療。
抗リン脂質抗体症候群・他の膠原病合併妊娠患者さん・妊娠希望患者さんの治療、自己炎症性疾患の診断・解析と治療。

● **高度な先進医療**
難治性全身性エリテマトーデス・関節リウマチに対するリツキシマブを用いた治療。難治性高安動脈炎・多発性筋炎 / 皮膚筋炎に対する生物学的製剤による治療。治療抵抗性の筋炎、血管炎、強皮症に対するミコフェノール酸モフェチルによる治療。治療抵抗性の強皮症に対するトシリズマブによる治療。コンコトームを用いた低侵襲筋生検による炎症性筋疾患の診断。

● **診療科における研究テーマ**
1) 関節リウマチにおける滑膜線維芽細胞を標的とした新規治療法の探索
2) 多発性筋炎 / 皮膚筋炎の病態解明と新規治療法の開発
3) 全身性エリテマトーデス・抗リン脂質抗体症候群の病態解明
4) 原発性免疫不全患者さんにおける自己免疫現象の病態解明

● **取り組み**
私たちは、種々の膠原病・リウマチ性疾患を多数診察している経験を活かし、厚生労働省自己免疫疾患研究班で全身性エリテマトーデス、多発性筋炎・皮膚筋炎、混合性結合組織病などの診療ガイドライン策定も行っています。
また、全国に先駆け、小児膠原病チームと連携し、小児期発症の膠原病・リウマチ性疾患、自己炎症性疾患などの免疫難病成人患者さんの移行期診療にも注力しています。そして、小児からの移行期ガイドラインの策定にも参加しています。
当科での診断、治療で病気が落ち着いた患者さんについては、当科と連携を組んでいる地域の病院、クリニックにご紹介し、ずっと病気と共に暮らしていかなくてはならない患者さんの受診負担の軽減を図っています。

科長
保田 晋助 *YASUDA Shinsuke*

専 門 医●日本内科学会認定　総合内科専門医
日本リウマチ学会認定
リウマチ専門医・指導医
専門分野●膠原病内科学
研究領域●膠原病・リウマチの病態解明と新たな治療開発に向けた取り組み

Message

私たちは、関節リウマチをはじめ、膠原病やそれに類する病気の方の診療を行っています。リウマチも膠原病も今の医学では完治させることはできず、働き盛りの若い世代や小児に発症することも多く、そのために長い間、病気と付き合っていかなくてはなりません。私たちは、そのような患者さんが普通の人と変わらない生活ができることを目指して、適切な治療と的確なアドバイスを心がけています。病気をよくするには、発症して早いうちにしっかりとした治療を受けることが大切です。早期に診断して、確実な治療を行い、できるだけ早く寛解という病気が落ち着いた状態にし、また治療合併症を最小限に抑えることを目指しています。

糖尿病・内分泌・代謝内科
Diabetes, Endocrinology and Metabolism

Dial-in
● 03–5803–5216

「全身を診る」という医療の原点を心掛け患者さんの身近に寄り添う優しい全人的医療を提供します。

● **診療科の概要**
糖尿病や脂質異常症などの代謝性疾患、肥満症、難治性高血圧、ホルモン異常により多彩な症状を呈する視床下部・下垂体疾患、副腎疾患、膵・消化管ホルモン産生腫瘍などの難治性内分泌疾患を対象として、最新知識に基づいた論理的な診断と病態生理および生活環境を踏まえた全人的治療を実践しています。

● **取り扱うおもな疾患**
糖尿病（1型、2型、二次性）、高血圧（本態性、二次性）、肥満症、視床下部・下垂体疾患、副腎疾患、甲状腺疾患、カルシウム代謝異常、膵ホルモン産生腫瘍、性腺機能異常

● **おもな診断・治療法**
合併症に対する集約的対応、薬物・インスリン療法、持続血糖測定（CGM）システム、持続皮下インスリン注入療法（CSII）などによる個別の病態に応じた糖尿病治療。各種内分泌検査および画像診断による内分泌疾患の正確な診断と治療など。

● **高度な先進医療**
当科と泌尿器科、放射線診断科、放射線治療科、病理部が連携して副腎腫瘍治療ユニットを形成しています。泌尿器科にて開発された先進医療「ミニマム創内視鏡下手術」に基づき、当科では副腎腫瘍の術前診断・術後フォローを担当しています。

● **診療科における研究テーマ**
「臓器連関」「褐色脂肪組織」「慢性炎症」「エピゲノム」をキーワードとした糖尿病などの代謝性疾患の成因の解明と新しい診断法・治療法の開発を目指した基礎・臨床研究。ホルモン産生腫瘍を中心とする内分泌疾患の新しい検査法・診断法の開発を目指した分子医学的研究など。

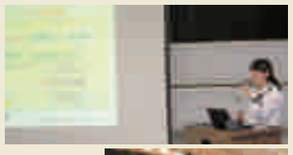
● **その他**
糖尿病診療においては、臨床栄養部、看護部、薬剤部、眼科、腎臓内科、歯周病学分野などと連携して糖尿病教室を行うなど、チーム医療による全人的な治療に取り組んでいます。また、診断・治療に難渋する糖尿病や内分泌疾患、二次性高血圧など疑い例も含めて気軽にご紹介下さい。

科長
山田 哲也 *YAMADA Tetsuya*

専 門 医●日本内科学会認定　総合内科専門医
日本糖尿病学会認定　糖尿病専門医
専門分野●糖尿病
肥満症
内分泌・代謝疾患
高血圧症
研究領域●糖尿病などの代謝性疾患と内分泌疾患の病態解明と新しい治療戦略の開発

Message

当科では糖尿病や脂質異常症などのメタボリックシンドロームや視床下部・下垂体疾患、副腎疾患などの特有の臨床症状を呈する内分泌疾患の診療を担当しており、高い専門性に立脚した先進的な医療を展開しています。「全身を診る」という医療の原点を常に心掛けて患者さんの身近に寄り添う優しい全人的医療を提供するとともに、地域の診療所や関連病院の先生方との医療連携を大切にして、地域医療の向上に貢献したいと考えています。



腎臓内科
Nephrology

Dial-in
● 03–5803–5670 （内科外来） ● 03–5803–5214 （教室）

実績と伝統を兼ね備えた腎疾患診療を行います。

● **診療科の概要**
蛋白尿・血尿から末期腎不全に至るまでの腎臓病全般の診断・治療を行っております。患者さんとコミュニケーションを充分にとり、一人一人の患者さんにとって最も適した治療を行っていくことを目指しております。

● **取り扱うおもな疾患**
蛋白尿・血尿、ネフローゼ症候群をはじめとする糸球体腎炎や間質性腎炎、水・電解質代謝異常、急性腎障害（急性腎不全）、慢性腎臓病（慢性腎不全）、本態性高血圧・二次性高血圧、糖尿病性腎症、自己免疫性疾患による腎障害、多発性嚢胞腎などの遺伝性腎疾患、そして血液透析や腹膜透析の様々な合併症についても加療を行っております。

● **おもな診断・治療法**
エコー下腎生検による診断、腎炎や自己免疫性腎疾患に対するステロイドや免疫抑制薬を用いた的確な治療、急性腎障害や慢性腎臓病に対する治療（慢性腎臓病に対する教育プログラムで腎臓病進展遅延の効果もあげております）、そして急性血液浄化療法を含む血液浄化療法の導入・管理も行っております。また透析管理に必要な内シャント造設術・シャントPTA・腹膜透析カテーテル留置術についても腎臓内科で施行しております。

● **高度な先進医療**
分子生物学的手法を用いた遺伝性腎疾患の遺伝子解析を行っており、全国からの遺伝子解析の依頼を受け付け、発症メカニズムの解明や治療法の開発を目指しております。また、急性腎障害や多臓器不全などに対する様々な血液浄化療法（持続的血液透析濾過（CHDF）、血漿交換、LDL吸着、白血球吸着療法など）も行っております。

● **診療科における研究テーマ**
研究の大きなテーマは、“体液恒常性維持や慢性腎臓病に関わる腎臓の機能を明らかにし、新しい病態生理の発見と治療戦略の構築を目指す”ことにあります。また、多発性嚢胞腎などの遺伝性腎疾患の遺伝学的解析から、新規の診断法と治療法の発見を目指します。

● **その他**
腎疾患は全身疾患の合併症として出現することも多く、数多くの診療科がある大学病院ならではの特性を活かし、全人的な医療を行っております。また腎臓内科専門医・透析専門医が毎日外来を担当しておりますので、腎疾患についてお気軽にご相談ください。

科長
内田 信一 *UCHIDA Shinichi*

専 門 医●日本内科学会認定　総合内科専門医
日本腎臓学会認定　腎臓専門医
日本透析医学会認定　透析専門医
専門分野●腎臓内科
透析医療
水電解質疾患
研究領域●慢性腎臓病
水電解質代謝
遺伝性腎疾患
専門外来●透析合併症外来

Message

腎臓内科は「信頼される医療」と「優秀な医師の養成」を目標として診療・教育・研究の活動を行っております。腎臓病治療には長年の実績があり、多くの腎臓専門医を育成してきています。多くの医療機関とも緊密な連携を維持し、共同して医療の質の向上に努めています。また最新の技術を駆使して遺伝性腎疾患の遺伝子解析を行い、国内外から解析の依頼を受け付けています。遺伝子異常から発病に至るメカニズムを調べ、その成果を基に革新的治療法の開発も目指しています。現在、社会の高齢化と生活習慣の変化により慢性腎臓病の患者数が著増し、腎臓専門医への期待は高まるばかりです。スタッフ一同、患者さん、そして医療関係者から信頼される医療を目指して日々研鑽に努め、診療に当たっています。

総合診療科
Department of General Medicine

Dial-in
● 03–5803–5670 （内科外来） ● 03–5803–5229 （教室）

年齢、性別、疾患にかかわらず様々な身体や心の問題に対して、患者さんとその家族中心の医療を提供します。
臓器別診療科、多職種、地域医療との連携を重視しています。

● **診療科の概要**
2018年度より開始された日本専門医機構が認定する「新専門医制度」において、「総合診療専門医」が新設されました。診療はもちろんの事、医学生や初期・後期先生方の教育や研究の場ともなります。患者さんのみならず、家族や地域も考慮し、日本の医療に必要な理想的医療体系を模索しています。

● **取り扱うおもな疾患**
・未診断や診断困難で精査希望の症例（軽症例やスクリーニング検査のみ施行された症例でも構いません）
・検査値異常や二次検診での追加精査希望の症例、画像検査なども含めた包括的な検査が必要な症例
・内科的複数の疾患があり、どこに紹介すべきか迷う症例
・発熱やその他の症状、各種検査値異常など、入院での精査をご希望の症例（軽微なものでも構いません）
・内科系Common diseaseでの入院・転院加療をご希望の症例

● **おもな診断・治療**
診断に必要となる一般的な診断・検査を行います。より高度な検査が必要な場合は適切な専門診療科との連携で実施します。治療に関しては外来・入院にて内科急性期疾患、多疾患併存症例、感染症疾患や外科系専門科との連携による周術期管理なども行います。

● **診療科における研究テーマ**
1. 臨床的動脈硬化
2. 高齢者診療
3. 訪問診療や遠隔診療
4. 医学教育
5. 超音波を用いた多職種シミュレーション教育

● **その他**
毎月1回、総合診療の勉強会（総合診療セミナー in 御茶ノ水）を開催いたしております。医師・歯科医師・看護師や薬剤師等多職種の医療従事者のみなさま、学生も対象にしています。お気軽にご参加ください。詳細は当科ホームページをご参照ください。
https://www.tmd.ac.jp/grad/fmed/

科長
橋本 正良 *HASHIMOTO Masayoshi*

専 門 医●日本内科学会　総合内科専門医・指導医
日本老年医学会認定　老年科専門医・指導医・代議員
日本プライマリケア連合学会　指導医
日本病院総合診療医学会　認定医
日本医学教育学会　認定医学教育専門家
日本医師会　認定産業医
ECFMG certificate
Fellow of the American Academy of Family Physicians
関連領域●総合診療医学・医学教育学

Message

「全身的・総合的な視点」と「多職種との連携」を通して皆様の医療を実施しています。大学病院内の専門医ネットワーク、学外の病院・診療所・在宅医療等との地域のネットワークを十分に活用した、患者さん中心の医療を実践してゆきます。また、今後の高齢化社会及び新型コロナウイルス後の社会に対応した、新たな総合診療のモデルを実践し発信してゆきます。

消化器内科
Gastroenterology and Hepatology

Dial-in
● 03–5803–5670

炎症性腸疾患、ウィルス性肝炎・肝がん、小腸内視鏡では日本でも有数の技術力を誇ります。

● **診療科の概要**
専門性を必要とする高度先端医療を診療の場で実践するために、疾患別に責任者を置き、診療の先進性を高めるとともに、専門外来（「潰瘍性大腸炎・クローン病」、「肝炎（B 型肝炎、C 型肝炎、非アルコール性脂肪肝炎）・肝がん」、「内視鏡治療」、「小腸疾患」）を開設しております。患者さん一人一人に時間をかけて丁寧に診察し、患者さんのご希望を叶える最善の治療法を高度先端医療を含めて提供しております。

● **取り扱うおもな疾患**
- 炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）
- 肝炎（B 型肝炎、C 型肝炎、非アルコール性脂肪肝炎）・肝がん
- 早期胃がん・早期大腸がん
- 小腸疾患（小腸バルーン内視鏡、カプセル内視鏡）

上記についてはそれぞれの専門外来にて、その分野に精通する経験ある医師が、患者さんに十分な説明を心掛け、患者さんのご希望を叶える最善の治療法の提供を心がけております。

● **おもな診断・治療法**

診断
内視鏡・画像診断を駆使した炎症性腸疾患診断
小腸内視鏡・MR enterocolonography(MREC)を用いたクローン病診断
小腸バルーン内視鏡・カプセル内視鏡による小腸疾患診断
造影エコー・MRI を用いた肝がん診断

治療
生物製剤など最新の治療薬を用いた炎症性腸疾患治療
小腸バルーン内視鏡によるクローン病小腸狭窄拡張術
総合画像支援による肝がんラジオ波焼灼療法
内視鏡的粘膜下層はく離術による早期胃がん・大腸がん治療

● **高度な先進医療**
炎症性腸疾患、肝炎・肝がんの診療では国内有数の技術と経験を有します。「潰瘍性大腸炎・クローン病先端医療センター」には最先端の知識と技術・経験を有するエキスパートを配置し、各科と連携して診療に当たっています。また「肝炎・肝がん撲滅外来」では肝臓専門医が各科と連携した最適の治療を提供しています。

● **診療科における研究テーマ**
消化管及び肝臓、膵臓、胆道などさまざまな消化器関連臓器を対象とした研究を行っています。当科疾患のうち、特に免疫・炎症 / 再生医療 / がんの領域を対象とした病態解明研究を重点的に行っているほか、内視鏡画像診断に関する AI 技術や炎症性腸疾患 / 肝炎・肝がんを対象とした臨床研究や治験も幅広く実施しています。

科長
岡本 隆一 *OKAMOTO Ryuichi*

専 門 医●日本内科学会認定　総合内科専門医
日本消化器病学会認定
消化器病専門医
日本消化器内視鏡学会認定
消化器内視鏡専門医
専門分野●炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）
肝炎（B 型肝炎、C 型肝炎、非アルコール性脂肪肝炎）
肝がん
特殊内視鏡（小腸バルーン内視鏡、カプセル内視鏡）
研究領域●炎症性腸疾患の病態と粘膜免疫
腸管の再生医療
ウィルス性肝炎・肝繊維化・肝がん
専門外来●潰瘍性大腸炎・クローン病先端医療センター
肝炎・肝がん撲滅外来
胃・大腸内視鏡治療外来
小腸外来

Message

2001 年に東京医科歯科大学に初めての消化器内科ができて 21 年目を迎えました。この間、炎症性腸疾患、肝炎・肝がんでは国内有数の症例経験を有し、常に最先端の治療を提供できる体制を作って参りました。また内視鏡診断・治療に於いても最新の技術を用いて消化管や胆膵疾患等に対応できる体制を整えております。

循環器内科
Cardiovascular Medicine

Dial-in 緊急症例に対しては循環器内科の救急当番が 24 時間体制で対応します。
平日●内科外来 03–5803–5670 ●地域連携室 03–5803–4655
夜間休日●病院代表 03–3813–6111 から救急外来へお問い合わせ下さい。

不整脈・虚血性心疾患治療を中心に、大動脈炎や心筋症などの難病についても専門のチームを設け、「患者さんに満足いただける」診療を心がけています。

● **診療科の概要**
不整脈診療については世界をリードする成果を上げており、虚血性心疾患、大動脈炎、心筋症に対しても専門のチームで診療に当たっています。

● **取り扱うおもな疾患**
不整脈（頻脈性不整脈、徐脈性不整脈）、虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）、心不全、後天性心臓弁膜症、心筋症（心サルコイドーシスなどの二次性心筋症を含む）、高安動脈炎、先天性心疾患、肺高血圧症、高血圧症・血圧調節異常（神経調節性失神）、腫瘍関連循環器疾患（抗がん剤関連心筋症、腫瘍関連血栓症など）など。

● **おもな診断・治療法**
経皮的冠動脈インターベンション、アブレーション（高周波・クライオ・レーザー）、ペースメーカー、植込み型除細動器、両心室ペーシング、皮下植込み型除細動器、左心耳閉鎖デバイス、デバイス抜去、植込み型ループレコーダー、心筋生検

● **高度な先進医療**
難治性不整脈に対するカテーテルアブレーション、感染ペースメーカー抜去、経皮的左心耳閉鎖術、冠動脈複雑病変に対するカテーテル治療、エキシマレーザー冠動脈形成術、補助循環用ポンプカテーテル、高安動脈炎や難治性心筋症に対する診断・治療、心臓移植を必要とする重症心不全に対する補助人工心臓治療、心臓移植適応検討。

● **診療科における研究テーマ**
【不整脈】不整脈の遺伝的・後天的要因による病態解明、不整脈における心臓と全身のコミュニケーションの解明、AI と生体モニタリングによる不整脈検出、心房細動の発症予測と早期検出によるプレシジョン・メディシン
【虚血性心疾患】カテーテル治療の長期成績に関する多施設共同研究、冠動脈内画像の臨床応用、エキシマレーザー血管形成術の臨床応用
【心血管難病】高安動脈炎や心筋症（心サルコイドーシスや心アミロイドーシスなど）の病態解明および治療法開発をめざした研究、心不全の分子病態・機序の解明

● **その他**
当院は東京都内だけでなく関東、国内各地より症例をご紹介いただいています。不整脈、虚血性心疾患、心不全、血管炎それぞれに最先端治療を行うよう研鑽しています。軽症例から救命センターに搬送されるような三次救急症例まで、心臓血管外科、救命救急センターと連携し、多くの症例に対応しています。また関東一円に教育関連病院が整備されており、地域の一線の医療機関への紹介もしています。心臓病のことでお困りのことがありましたら、お気軽にご相談ください。

科長
笹野 哲郎 *SASANO Tetsuo*

専 門 医●日本内科学会認定　総合内科専門医
日本循環器学会認定　循環器専門医
専門分野●不整脈
循環器一般
研究領域●不整脈の遺伝的・後天的発症メカニズムの解明
心疾患の遺伝子治療
リモートと AI を生かした生体モニタリング
専門外来●がん循環器外来
心房細動外来

Message

高齢化社会に伴い、心臓病に罹患する人はますます増加しています。心血管疾患は発症してからの治療も重要ですが、生活習慣の改善による再発予防や、発症リスク評価に応じた予防的治療も重要です。患者さん一人一人の状態を正確に評価した上で最適な診療を行う、プレシジョン・メディシンを推進していきます。

呼吸器内科
Pulmonary Medicine

Dial-in
● 03–5803–4587

患者さんに寄り添いながら、呼吸器疾患の先進医療の提供に努めています。

科長
宮﨑 泰成 *MIYAZAKI Yasunari*

専 門 医●日本内科学会認定　総合内科専門医
日本呼吸器学会認定　呼吸器指導医
日本アレルギー学会認定
アレルギー指導医
日本呼吸器内視鏡学会　気管支鏡指導医
日本結核病学会　結核・抗酸菌症認定医
専門分野●間質性肺炎
過敏性肺炎
研究領域●肺線維化の病態解明
専門外来●禁煙外来

● 診療科の概要
当科では、間質性肺炎、肺がん、喘息などの呼吸器疾患を主に診療しています。患者さんの悩みや苦しみを共有しながら最善の医療を提供することが我々の使命と考え、呼吸器疾患全般にわたり最先端の治療を行っています。また、快眠センター、アレルギー疾患先端治療センターを併設し睡眠時無呼吸症候群や難治性喘息の治療も行っています。

● おもな診断・治療法
間質性肺炎では、当科は全国でもトップレベルの診療実績があり、専門的な検査、治療を行っています。特に間質性肺炎の中でも生活環境中の抗原に対するアレルギーが原因で起きる過敏性肺炎（かびんせいはいえん）は、他の間質性肺炎と極めて区別が難しい病気ですが、当科では患者さんの生活環境について詳しく情報収集し評価しています。過敏性肺炎の原因となる抗原は、家のカビや羽毛ふとん、ダウンジャケットなど羽毛製品、加湿器などが代表的で、治療はアレルギーの原因を見つけて除去することが最も効果的です。

● 高度な先進技術
慢性の経過で起きる過敏性肺炎は、症状や検査所見が特発性間質性肺炎（とくはつせいかんしつせいはいえん：間質性肺炎の中で原因不明のもの）に類似しており、正確な区別が困難とされています。当科では、診断のため抗原回避試験、気管支鏡検査、原因抗原に対するアレルギーを調べる免疫学的検査、吸入誘発試験、肺生検などを積極的に行い、これらの情報を元に放射線科・病理科のエキスパートによる合議診断により精度の高い診断・治療を心がけています。

● 取り扱うおもな疾患
間質性肺炎、肺がん、気管支喘息、COPD、呼吸器感染症、サルコイドーシス、睡眠時無呼吸症候群等の呼吸器疾患全般の診療を行っています。特に過敏性肺炎を含め間質性肺炎についての診療経験が豊富です。また、アレルギーセンターでは難治性喘息の患者さんに生物学的製剤による治療を行っております。

● 診療科における研究テーマ
間質性肺炎に関する研究が中心となっています。間質性肺炎における肺の線維化の病態解明、過敏性肺炎の病態解析や診断法開発などを研究テーマとしています。細胞培養系や動物モデルを用いた間質性肺炎や喘息、COPDの病態解明なども行っています。

● 取り組み
間質性肺炎は進行性の疾患で根本的な治療法はみつかっていませんが、過敏性肺炎の場合は原因を除去すれば病気の進行が抑えられる期待があります。当科では間質性肺炎の患者さんの生活環境について情報収集し、過敏性肺炎の可能性についてきめ細かく評価しています。

● その他
当科の研究室では、過敏性肺炎の診断に有用な抗原回避試験や抗原吸入誘発試験が可能であり、これまで全国からご紹介いただいた患者さんの診断に貢献してきました。関東を中心に関連病院が24施設あり連携して診療を行っています。多くの呼吸器内科医が在籍しており、患者さんに寄り添った丁寧な診療をこころがけています。

Message

呼吸器内科は間質性肺炎、アレルギー疾患（過敏性肺炎・気管支喘息）、感染症（肺炎）、悪性腫瘍（肺癌）、慢性閉塞性肺疾患などの多彩な疾患を担当しますが、いずれの疾患についても医学の進歩に対応した先進的医療を実現すべく努力しております。呼吸器疾患のことでお悩みの方は当科を受診してください。

臨床腫瘍科
Clinical Oncology

Dial-in
予約に関して● 03–5803–4655

がん診療における確かな情報を提供し、エビデンスに基づく最新の治療を実践します。

科長
末永 光邦 *SUENAGA Mitsukuni*

専 門 医●日本臨床腫瘍学会
がん薬物療法専門医・指導医
日本がん治療認定医機構
がん治療認定医
日本外科学会認定登録医
日本消化器外科学会認定登録医
日本消化器外科学会
消化器がん外科治療認定医
専門分野●消化器がん（主に大腸がん、胃がん）に対する薬物療法、集学的治療
チーム医療
研究領域●消化器がん薬物療法の新規治療
消化器がん薬物療法の有効性と副作用に関する予測因子
がんサバイバーにおける倦怠感に対する運動の有用性

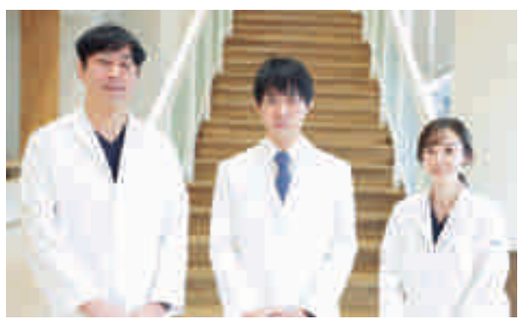
● 診療科の概要
臨床腫瘍科は４大がん治療のうち、薬物療法（化学療法）と免疫療法（免疫チェックポイント阻害剤）を担当します。がんの診断の時期、進行病期（ステージ）、進行状態などは患者さんごとに異なるため、外科手術や放射線治療の適応があれば、これらを組み合わせた集学的治療を提案するのも当科の役割です。そのため、患者さんごとに他科と連携して最適な治療方針を提供しています。薬物療法に関しては日本臨床腫瘍学会のがん薬物療法専門医（腫瘍内科医）を中心に治療方針決定から臨床実地まで行い、専門性の高い医療を提供しています。臨床腫瘍科はがんゲノム診療科と緩和ケア科と連携しています。がんの標準療法が効かなくなった場合でも患者さんの状態が安定していれば、がんゲノム診療科で遺伝子パネル検査を行い、新薬・治験などの治療選択肢がないか模索する体制が整っています。一方、がんに伴う症状の緩和については緩和ケア科と医療連携支援センターのサポートのもと患者さん・ご家族のQOLを高められるように心がけています。

● 取り扱うおもな疾患
大腸がん（ 結腸がん、直腸がん、肛門管がん）
胃がん
頭頸部がん（口腔がん、唾液腺がん）
胆道・膵臓がん
希少がん（原発不明がん、軟部肉腫など）

● おもな診断・治療法
・大腸がんの術後補助化学療法
・進行・再発大腸がんに対する全身化学療法
・局所進行直腸がんに対する術前の集学的治療（化学放射線療法、化学放射線療法と全身化学療法を組み合わせるTotal Neoadjuvant Therapy (TNT)）
・切除可能な転移性大腸がんに対する集学的治療（術前化学療法、術後補助化学療法）
・切除困難な進行・再発大腸がんに対する全身化学療法とconversion surgery（外科切除）
・肛門扁平上皮がんに対する化学放射線療法
・進行・再発胃がんに対する全身化学療法
・頭頸部がんに対する免疫チェックポイント阻害剤、分子標的治療、集学的治療
・胆膵がんに対する全身化学療法
・希少がんに対するがん遺伝子パネル検査、全身化学療法（がんゲノム診療科との連携）

● 高度な先進技術
全国規模の各種臨床試験・治験に参加しています。詳しくは当科HPをご参照ください。

● 取り組み
患者さん一人一人のニーズに応えられるように当科は他診療科と密接に連携を行い、また医師、看護師、薬剤師がチームとなって治療を続けていくためのサポートをします。また、がん患者さんに対する運動の影響をテーマにがん患者さんが自覚する倦怠感の改善に運動がどの程度貢献するのかについて、リハビリテーション科と協力して研究を行っており、治療中・治療後のがん患者さんの運動レベルや生活の質QOLが改善することを目指しています。



● その他
専門性の高い診療の提供と教育・人材育成に重点をおいています。

Message

臨床腫瘍科は2022年４月に新設の新しい診療科です。がん薬物療法の豊富な専門知識と経験を持ち合わせた腫瘍内科医が中心となって診療を行います。
当科の特徴的な研究、診療としては、
1. 基礎研究と実臨床：診療はガイドラインに基づいて行われますが、患者さんごとに最適な治療法を選択することも重要です。当科には海外でがんの遺伝子について専門に研究した薬物療法専門医が複数おり、論文も多数発表しています。基礎研究と実臨床は常に相互に高めあうという認識を持っております。
2. 外科との緊密な関係：消化管外科と定期的に合同カンファレンスを行っております。薬剤の選択だけではなく、外科治療を含めた最適治療について常に議論しています。
3. 当院の頭頸部外科、口腔外科は頭頸部がんに対する国内トップレベルの医療を提供しています。当科はこの２診療科と連携し、最新の薬物療法、免疫療法、放射線療法を行います。

緩和ケア科
Palliative Care

Dial-in
● 03–5803–4886

がん患者さんや非がん疾患の患者さんの全人的な苦痛（身体的・精神的・心理社会的苦痛）に向き合います。

● **診療科の概要**
緩和ケア病棟、緩和ケアチーム、緩和ケア外来それぞれの部門で包括的な診療体制を構築しています。緩和ケア病棟は2017年4月にB棟15階に開設され、現時点では院内で診断・治療を受けた患者さんを対象として診療しています。病棟や外来では他の診療科・部門と連携して診療を行っています。

● **おもな診断・治療法**
診療科の特徴として、他の診療科・部門との併診で診療を行っています。診断・治療については特別な手技や医療機器はありませんが、コミュニケーションを重視し、患者さん・ご家族も医療チームの一員と考えて診察を行っています。

● **高度な先進技術**
一般的な意味での高度な先進技術はありませんが、専門的な緩和ケアを包括的視点から提供しています。また、当科では心理学的、倫理学的な立場に立脚した医療者・患者関係の構築を目指しています。

● **取り扱うおもな疾患**
緩和ケアチーム、緩和ケア外来では、様々な段階（抗がん治療中～治療終了後）の悪性疾患の患者さんをおもな対象としています。このほかにも、難治性疼痛を有する非がん疾患の患者さんや、心理社会的サポートを必要とする患者さんへの対応も行っています。患者さんのニーズと病態に応じた対応を心がけています。
緩和ケア病棟では、悪性腫瘍の患者さんがおもな対象となります。詳細は当院緩和ケア病棟のホームページをご参照ください。

● **診療科における研究テーマ**
がんと診断された時からの緩和ケアに関するロジックモデルの開発とそれに基づき望まれる行政政策の提言策定に関する研究、緩和医療・専門キャリア支援に関する研究、遺族による緩和ケアの質に関する全国研究、東アジア圏域の緩和ケア病棟における医療とケアの質の評価など。

● **取り組み**
基本的には他の診療科・部門との連携を重視し、患者さん・ご家族の負担にならないように併診しています。また、必要に応じて緩和ケアに関わる認定 / 専門看護師と医師が同時に対応しています。

科長
佐藤 信吾 *SATO Shingo*

専門分野●緩和医療、骨転移・骨軟部腫瘍
研究領域●緩和医療学、臨床腫瘍学・分子腫瘍学、骨転移・骨軟部腫瘍、骨代謝

Message

緩和ケア＝終末期医療というイメージを持たれている患者さんがまだまだ多いと思います。実際には医療者でもそのようなイメージを持っている人が多いのが現実です。私たちは、治療中のがん患者さんや非がん疾患の患者さんの身体的・精神的苦痛にも向き合っています。また、私たちが緩和するのは痛みだけではありません。患者さんが抱える様々な身体症状・精神症状に対する適切なアセスメントを実施し、症状を最大限緩和できる治療介入を目指しています。

緩和ケア病棟
Palliative Care Unit

Dial-in
● 03–5803–4122

がん患者さんが直面している心身の苦痛に対して治療やケアを提供し、自分らしい時間が過ごせるように、患者さん、ご家族を支えていきます。

● **病院の概要**
2017年4月に、B棟15階に15床の個室からなる緩和ケア病棟を開設しました。全国の82大学病院のうち、本院は7番目、国立大学では東北大学、島根大学に次いで3番目、東京都の13大学では初の開設になります。
緩和ケア病棟は、治癒が見込めないがん患者さんが直面する心身の苦痛（痛み、息苦しさ、食欲低下、吐き気、眠れない、体のだるさ、不安、悲しみなど）に対して治療やケアを行う専門の病棟です。自分らしい時間を過ごせるようチームで治療・ケアを提供しています。
緩和ケア病棟では、がんそのものに対する治療である手術、抗がん剤治療、ホルモン治療などは行いません。医師、看護師、臨床心理士、理学療法士、作業療法士、薬剤師など様々な職種が協力して患者さん、ご家族を支えていきます。

● **病棟の特徴**
緩和ケア病棟は、がん患者さんに対する症状緩和とケアが中心の病棟です。緩和ケア病棟のイメージとして看取りの病棟という印象を持たれる方も多いかと思いますが、最近では専門的な症状緩和の後に退院し、在宅療養と組み合わせて運用することも増えています。
ご自身のペースで過ごしていただけるよう、全室個室で落ち着ける環境となっております。

● **診療体制について**
緩和ケア病棟では、緩和ケア科医師、病棟看護師、臨床心理士、薬剤師をはじめ、他診療科の医師（各がん診療科、放射線治療科、麻酔・蘇生・ペインクリニック科、心身医療科、リハビリテーション部）、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、歯科医師、歯科衛生士、ソーシャルワーカーなどと協働し、入院中の患者さん、ご家族のケアを行っています。
診療は、これまで主治医として診療してきたがん診療科と緩和ケア科とのダブル担当医制で運用しています。院内の多職種のメンバーを含めて診療科・部門横断的な医療・ケアを提供できる病棟を目指しています。

● **対象となる患者さん**
当院の緩和ケア病棟に入院していただける患者さんは現在、以下の通りです。
・がんに罹患されており、患者さん・ご家族が緩和ケア病棟について理解し、入院を希望され、病気に伴う心身の苦痛のために自宅療養が困難となっている方
・医師により入院が必要と判断されている方
・当院に外来通院あるいは入院しており、緩和ケア病棟入棟の登録が済んでいる方
・入院後、症状緩和を行い安定している場合は、退院または転院を検討することに同意されている方
・上記について、ご本人・ご家族ともご理解・ご了解されている方

※緩和ケア病棟の面会については、制限はありつつも可としています。
東京都や社会の状況に応じて、面会制限は適宜変更しており、詳細は患者さん・ご家族に直接お話させていただいています。

責任者
佐藤 信吾 *SATO Shingo*

専門分野●緩和医療、骨転移・骨軟部腫瘍
研究領域●緩和医療学、臨床腫瘍学・分子腫瘍学、骨転移・骨軟部腫瘍、骨代謝

Message

当院は2017年4月に緩和ケア病棟を開設しました。がん診療病院がひしめく都心部における大学病院の緩和ケア病棟という特殊性に鑑み、今までの緩和ケア病棟のイメージにとらわれず、東京医科歯科大学病院全体のがん診療の一翼を担うべく、各診療科・部門との連携を大切にした緩和医療・緩和ケアを提供したいと思います。

がんゲノム診療科

Precision Cancer Medicine

Dial-in

● 03–5803–5670 (4階合同内科外来 平日9~17時)

標準的な治療方法で進行し、治療方法が限られてきたがん患者さんの遺伝子変異を調べ、よりよい治療の提案を目指しています。

● **診療科の概要**

がんは、人の設計図と言われている様々な遺伝子の変異が原因となっています。がんゲノム診療科では、主に他の診療科や医療機関からの紹介を受け、がん患者さんの遺伝子変異を調べ、それに基づいた治療法を提案する「がんゲノム医療」を行っています。

● **おもな診断・治療法**

がん遺伝子パネル検査を行い、がんの原因となっている遺伝子を調べます。

検査には、手術や生検検査などの際に採取されたがん組織を使用する方法と、採血による血液を使用する方法があります。これらの検査は、2019年から保険診療でできるようになってきました。(治療の状況や体調によっては、検査ができない場合もあります)

遺伝子変異に基づいた治療薬がみつかった場合には、参加可能な臨床試験なども含め患者さんに投薬する手段を探します。

● **取り扱うおもな疾患**

臓器に関わらず、標準的な治療方法がない、または標準治療がなくなりそうな固形がんの患者さんが対象です。

● **診療科における研究テーマ**

がん遺伝子パネル検査の臨床的有用性、がん遺伝子パネル検査同士の比較、遺伝子変異毎の治療薬の効果、治験情報の効率よい検索方法の確立、新規薬剤の開発、医療従事者向け教育など研究や教育にも力を入れています。

● **取り組み**

他の診療科や医療機関との連携を重視し、患者さんに新しい治療法を提案できることを目指して診療を行っています。

科長

池田 貞勝 *IKEDA Sadakatsu*

専 門 医●アメリカ一般内科専門医
アメリカ腫瘍内科専門医
アメリカ血液内科専門医
専門分野●腫瘍内科
がんゲノム医療
研究領域●プレシジョンメディシン

Message

がんゲノム診療科では、がんに対する標準治療が効かなくなったり、効かなくなりそうな患者さんの遺伝子を調べ、遺伝子の変化に基づいた治療を行う「がんゲノム医療」を提供しています。

この領域の進歩は日進月歩で、私たちも先端的な診断方法や治療方法の研究に積極的に携わっています。スタッフ一同協力して、患者さんに適した治療をお届けしたいと考えています。

遺伝子診療科

Medical Genetics

Dial-in

● 03–5803–5670 (4階合同内科外来 平日9~17時)

遺伝子に関する疾患についてのご相談に専門スタッフが対応します。

● **診療科の概要**

遺伝についての疑問や不安におこたえしています。

臨床遺伝専門医および認定遺伝カウンセラーを中心としたスタッフが遺伝カウンセリングを通して、遺伝子検査の結果開示や遺伝に関する情報提供と支援を行っています。

※なお、親子鑑定は実施しておりません。

● **取り扱うおもな疾患**

下記に記載するような遺伝性疾患・染色体異常

● **おもな診断・治療法**

現在、当科で実施している遺伝子検査や主な対象疾患は以下です。

- 出生前診断 (NIPT、クアトロ検査、羊水検査)【産科と共同】
- 遺伝性腫瘍
  - ・家族性乳癌卵巣癌 (Hereditary Breast and Ovarian Cancer,HBOC)
  - ・多発性内分泌腫瘍症1型 (MEN1)、2型 (MEN2)

  ※HBOC、Lynch 症候群、家族性腺腫性ポリポーシスを含む多遺伝子パネル検査も実施しています。
- 遺伝性不整脈 (先天性QT延長症候群、Brugada症候群等)、心筋症【循環器内科と共同】
- 家族性高コレステロール血症
- 遺伝性結合組織疾患 (マルファン症候群・エーラス・ダンロス症候群)、家族性大動脈瘤
- 遺伝性難聴【耳鼻咽喉科と共同】

● **高度な先進医療**

さまざまな遺伝性疾患・染色体異常などの発症前診断や出生前診断に際し、単なる遺伝情報の提供にとどまらず、検査のメリット・デメリットや心理的負担、家族や社会生活への影響など丁寧にご説明し、患者さんの意思決定のお手伝いをしています。

● **診療科における研究テーマ**

1. 遺伝性乳がんに関連する教育プログラムの開発
2. 動脈硬化症・生活習慣病の遺伝的素因についての基礎・臨床研究
3. 不整脈疾患に対するゲノムワイド関連研究

● **その他**

遺伝性疾患は身体の様々な臓器に症状が生じることがあります。このような病態に対応するために、院内の関連診療科と連携・情報共有しながら、包括的な診療を行っています。

科長

吉田 雅幸 *YOSHIDA Masayuki*

専 門 医●日本人類遺伝学会認定　臨床遺伝専門医
日本循環器学会認定　循環器専門医
日本老年医学会認定　老年病専門医
日本内科学会認定　総合内科専門医
専門分野●循環器学
遺伝学
老年病学
研究領域●分子遺伝学・血管生物医学
専門外来●遺伝カウンセリング外来

Message

近年、遺伝学の進歩によって、多くの病気の原因遺伝子が発見されています。その結果、生後まもなく発症する先天性の遺伝性疾患から、成人になって問題となる生活習慣病に至るまで多くの病気に遺伝子の関与があることが分かってきました。特に、親から子に遺伝する疾患 (遺伝病) では、検査を受けた方の遺伝情報から、将来的に病気になる可能性がわかる、もしくは同じ遺伝子配列を家族も共有しうることから家族のこともわかるといった将来の予測につながる場合があります。遺伝性疾患や先天異常などに関連した患者さんのさまざまなニーズにこたえるため、遺伝子診療科では臨床遺伝専門医や認定遺伝カウンセラーを中心としたスタッフが患者さんのご相談におこたえしています。

感染症内科
Infectious Diseases

Dial-in
- 03–5803–5677（外来）
- 03–5803–4655（地域連携室）

院内外の連携を活かし、感染症を防ぐこと、起きた感染症を早くみつけて上手に治すことに力を注いでいます。

診療科の概要

感染症内科は2021年10月に設置されました。各科からの連絡に対応し、さまざまな感染症の診断と治療を行っています。発熱など感染症が疑われる症状の原因となっている微生物を突き止め、その微生物や患者さんの状態に合わせて最適な治療法を選択します。各科の担当医や検査部など関連する部署、紹介元医療機関との連携を重視し、丁寧に方針を検討しています。また、感染制御部とともに抗菌薬の適正使用を推進しています。

高度な先進技術

検査部や学内の関連分野と密接に連携し、感染症の原因となっている起炎微生物を正確かつ迅速に同定して最適な治療につなげています。

取り扱うおもな疾患

感染症全般（肺炎、尿路感染症、血流感染症、手術部位感染症など）

取り組み

国内外で大きな問題となっている薬剤耐性（AMR）対策や病院内で発生する感染症に関して、疫学研究を中心に取り組んでいます。東京都と連携し、新型コロナウイルス感染症の発生した医療機関や施設の支援を行っています。

その他

感染症はそのものによる症状や苦痛が生じるだけでなく、以前から治療していた疾患の治療計画や手術後の経過に影響を及ぼすことがあります。感染症の適切な診断と治療はもちろん、感染症の予防にも尽力し、病院全体の治療成績向上に貢献したいと考えています。

科長
具 芳明 *GU Yoshiaki*

専 門 医●日本内科学会認定　総合内科専門医
日本感染症学会認定　感染症専門医
ICD制度協議会認定　インフェクションコントロールドクター
専門分野●臨床感染症
感染制御学
研究領域●臨床感染症
抗菌薬適正使用
感染症疫学

Message

感染症内科は新しい診療科です。徐々に体制を整え、提供可能な医療内容を充実させていく予定です。よろしくお願いいたします。

食道外科
Esophageal Surgery

Dial-in
- 03–5803–5254

食道癌に対する診療、進行度診断からあらゆる治療を当科で一貫して行っています。

診療科の概要

食道外科は、食道の病気の全ての診断と治療を行う部門です。内視鏡診断、内視鏡治療、手術、化学療法や化学放射線療法を全て当科で一貫して行っています。また内科、放射線診断科、放射線治療科などと連携することでハイレベルな集学的治療を実現しています。頭頸部外科や口腔外科などと協力し、咽喉頭・口腔領域癌の早期診断・治療にも積極的に取り組んでいます。

取り扱うおもな疾患

頸部食道癌、胸部食道癌、食道胃接合部癌，食道良性腫瘍、早期の咽喉頭・口腔内癌、逆流性食道炎（食道裂孔ヘルニア）、食道アカラシアなど。

おもな診断・治療法

画像強調内視鏡（FICE、BLI、NBI）・拡大内視鏡、頸部食道切除術（喉頭機能温存）、ロボット支援下食道切除術、胸腔鏡下食道切除術、縦隔鏡下食道切除術、腹腔鏡下胃食道逆流防止手術、腹腔鏡下アカラシア修復術、内視鏡治療（EMR、ESD、APC）、薬物療法など。

高度な先進医療

食道癌の内視鏡的切除術（EMR、ESD）や胸腔鏡下切除術をそれぞれ 1980 年代、1990 年代に開始した経験を活かし、最近では咽喉頭・口腔領域癌の早期診断や積極的な喉頭温存治療やロボット支援下手術、縦隔鏡手術などの低侵襲治療を行っています。術後の早期経口摂取再開に取り組んでいます。また高度進行癌に対して積極的な集学的治療を行っています。

診療科における研究テーマ

食道癌の新低侵襲治療法（内視鏡的、胸腔鏡的・腹腔鏡的、ロボット支援下、縦隔鏡下、喉頭機能温存手術）、診断・治療関連機器の開発、経鼻内視鏡を用いた早期の食道癌、咽喉頭・口腔内癌の診断法開発、癌領域発生（fieldcancerization）の分子生物学的解明と診断マーカー分子、治療標的分子、QOLを重視した食道癌周術期管理法の開発研究、高度進行食道癌に対する手術を中心とした積極的集学的治療法の開発研究など。

その他

食道癌に対する最善の治療法は、同じ病気・進行度でも一人ひとり、個々で異なります。ステージ（病期・進行度）を診断したうえで年齢、既往歴、併存疾患、生活環境など、患者さんそれぞれの背景を充分に考慮することを前提に、根治切除可能と判断した場合は手術治療を行いますが、希望に応じて化学放射線療法を行う事もあります。また、進行度に応じた集学的治療（手術、放射線療法、薬物療法、内視鏡治療を組み合わせること）を積極的に行っています。外科的な治療のみならず内科的な治療も一貫して当科が担っています。

科長
春木 茂男 *HARUKI Shigeo*

専 門 医●日本外科学会　外科専門医・指導医
日本消化器外科学会
消化器外科専門医・指導医
日本食道学会
食道科認定医・食道外科専門医・評議員
日本内視鏡外科学会　技術認定医（食道）
日本消化器内視鏡学会
消化器内視鏡専門医
日本癌治療認定医機構　癌治療認定医
専門分野●食道癌の外科治療・集学的治療
研究領域●食道癌に対する集学的治療
食道外科専門医育成・教育

Message

食道疾患の診療には高度の専門性とチームワークが求められます。特に食道癌に対しては、高度で精密な診断技術とともに、内視鏡治療、外科手術、放射線治療、薬物療法など、様々な治療法の中から、それぞれの患者さんにとって最適のものを選択し、あるいは組み合わせ、確実に遂行することが重要で、当科はその全てに豊富な経験を有しています。低侵襲治療とされるロボット手術を含めた胸腔鏡・腹腔鏡手術を基本としながら、心臓血管外科、呼吸器外科、形成外科などの診療科に協力いただきながら、一般病院やがん専門病院では扱うことが困難な食道癌に対する診療科横断的な食道癌外科治療を確立します。また、喉頭機能温存と癌の根治性を両立させた頸部食道癌手術や、胃管再建が困難な患者さんに対する空腸または回結腸再建術を積極的に行います。

胃外科
Gastric Surgery

Dial-in
● 03–5803–5254
http://www.tmd.ac.jp/srg1/gs/index.html

病気の進行度に合わせて、常にベストな治療を行います。

科長
徳永 正則 *TOKUNAGA Masanori*

専 門 医●日本外科学会認定
外科専門医・指導医
日本消化器外科学会認定
消化器外科専門医・指導医・評議員
日本内視鏡外科学会
技術認定医・評議員
日本癌治療認定医機構　癌治療認定医
胃癌学会　代議員
専門分野●食道癌、胃癌の外科治療
低侵襲手術（腹腔鏡手術、ロボット手術）
研究領域●進行胃癌に対する周術期化学療法の治療開発
上部消化器癌に対するロボット手術の有用性に関する研究

● 診療科の概要
胃外科は、胃の病気全てと、胃切除後の胆石症や鼠径ヘルニアなど、一般外科疾患の診断と治療を行う診療科です。特に胃癌の腹腔鏡下手術は、日本有数の経験を有しています。

● 取り扱うおもな疾患
胃癌、胃GISTに対する外科治療

● おもな診断・治療法
胃癌に対する胃切除術（開腹、腹腔鏡下、ロボット支援下）、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）、化学療法（抗がん剤治療）。胃GISTに対する手術（LECS（腹腔鏡・内視鏡合同手術）含む）、化学療法（抗がん剤治療）。

● 高度な医療
低侵襲手術（腹腔鏡、およびロボット）を積極的に行っております。ロボット手術を積極的に行なっており、最新のda Vinci Xiシステムを用いたロボット手術を保険診療としてうけることができます。腹腔鏡手術と比較した場合の患者負担額も概ね同等です。また、進行胃癌に対する手術や、胃全摘術、噴門側胃切除術など、難易度の高い手術に対しても、積極的に低侵襲手術を行っています。

● 診療科における研究テーマ
胃癌の新低侵襲治療法（内視鏡的、腹腔鏡的）、胃癌における標準治療の開発、胃癌手術における解剖学の研究、関連機器の開発、胃癌の予後因子や化学療法の標的因子の分子生物学的な同定

● その他
当科はJCOG（日本臨床試験研究グループ）試験を始め、多くの臨床試験に参加、主導しております。臨床試験に参加していただくことで、保険適応外である先進医療を受けていただくことも可能です。また、当科は複数の診療科、多職種と積極的に連携を図っており、様々な併存症を伴う患者さんにも対応可能です。

Message

低侵襲手術から拡大手術、集学的治療まで、病気の進行度に合わせて、常に患者さんにとってベストな治療を行うことを目標としております。手術適応とはならない早期胃癌や切除不能胃癌、併存疾患のある患者さんに対しても、他科と連携を取り最良の治療を提供いたします。胃癌に対するロボット手術は2018年4月に保険収載されました。当院では最新のda Vinci Xiシステムを導入しており、ロボット手術を保険診療としてうけることができます。

大腸・肛門外科
Colorectal Surgery

Dial-in
● 03–5803–5254

大腸がんに対するロボット手術をはじめ、最先端で優れた成績の大腸がん治療を実践しています。

科長
絹笠 祐介 *KINUGASA Yusuke*

専 門 医●日本外科学会認定　外科専門医・指導医
日本消化器外科学会認定
消化器外科専門医・指導医
日本大腸肛門病学会認定
大腸肛門病専門医・指導医
日本内視鏡外科学会認定
技術認定医
日本がん治療認定医機構認定
がん治療認定医
日本ロボット外科学会認定
Robo-Doc Pilot 国際A級
専門分野●大腸がんの手術治療
大腸がんに対する腹腔鏡手術
直腸がんに対するロボット手術
再発がんや骨盤腫瘍に対する手術治療
研究領域●大腸がんの診断と治療／直腸がんの機能温存手術／再発大腸がんに対する集学的治療戦略／大腸がんの個別化治療、予後予測因子／大腸がんに対する低侵襲手術、ロボット手術
専門外来●創傷・ストーマ外来

●診療科の概要
大腸がんを中心に、大腸ポリープや炎症性腸疾患、痔核・痔ろうなどの大腸・肛門疾患の外科治療を行っています。また、痛みが軽く、回復の早い低侵襲手術を積極的に行い、大腸がんに対するロボット手術を国内最多の実績を持つ指導医を中心に行っています（2018年4月からはロボット支援下直腸手術が、2022年4月からは、結腸がんに対するロボット手術が保険収載され、当科では健康保険でロボット手術を行っています）。進行した大腸がんに対しても、臨床腫瘍科と協力して、専門のスタッフががんの進行度やそれぞれの患者さんの病状に応じて、手術、化学療法（抗がん剤治療）、放射線治療を組み合わせた先進的な治療を行っています。

●取り扱うおもな疾患
- 大腸がん（結腸がん、直腸がん）
- 大腸ポリープ
- 再発大腸がん、大腸がんの肝転移、肺転移（手術、抗がん剤治療）
- 炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）
- 家族性大腸腺腫症
- 肛門疾患（痔核、痔ろうなど）

●おもな診断・治療法
診断法：大腸内視鏡検査、注腸造影検査、CTコロノグラフィー、CT、MRI、PET検査など

治療法：開腹手術、腹腔鏡手術、内視鏡治療、直腸がんに対する自律神経温存リンパ節郭清手術、大腸がんに対するロボット手術、再発大腸がんに対する手術（直腸がん局所再発の手術、大腸がん肝転移の切除手術など）、化学療法（抗がん剤治療）など

●高度な先進医療
- 大腸がんに対するロボット手術
  2019年1月より日本で先陣を切って結腸がんに対するロボット手術を開始し、良好な成績を収めています。（2022年4月からは保険適応）
  大腸がんに対する究極の肛門温存手術（括約筋間直腸切除術 ISR）。
  直腸がんに対する自律神経を温存した側方郭清手術。
- 大腸がんに対するリンパ節郭清を伴う腹腔鏡手術。精緻な手術手技を可能とする大腸がんに対する3D立体腹腔鏡下手術。
- 化学療法（抗がん剤治療）を先行してから手術を行う集学的治療戦略：手術後の再発を抑制したり（Neoadjuvant 療法）、手術ができない大腸がんを化学療法にて手術ができるようにする（Conversion 療法）治療。
- 再発直腸がんに対する重粒子線治療（QST病院（旧放射線医学総合研究所病院）と連携）。
- 大腸がん局所再発に対する他臓器合併切除を伴う拡大手術。

●診療科における研究テーマ
- 低侵襲手術（ロボット手術や腹腔鏡手術など）や機能温存手術（肛門温存手術や自律神経温存手術など）による、がんの根治性と機能温存、術後QOLの両立。
- 化学療法（抗がん剤）と手術の組み合わせによる切除率や根治性の向上。
- Evidence based medicine と、臨床試験の基盤構築や実施・運営。
- がんの遺伝子検査による抗がん剤感受性の予測、治療の個別化（オーダーメイド治療）。

●その他
当科では、大腸がん治療に関する多くの全国規模の臨床試験を主導し、また、参加しています。臨床試験は新しい治療法や標準治療法を安全かつ確実に行う方法を開発する研究です。患者さんにご同意いただければ積極的に臨床試験への参加をお勧めしております。日本の大腸がん治療を世界に発信する講演を海外より招聘され多数行い、根治性の高いリンパ節郭清手技を、海外でのデモンストレーション手術などを通じて指導しています。

Message

当科では、大腸がんに対して、積極的に低侵襲手術（腹腔鏡手術やロボット手術）を取り入れており、一方で、切除困難な進行がんや再発がんに対しての拡大手術も積極的に行っています。直腸がんにおいては、高いレベルで肛門温存手術や機能温存手術を行い、高い評価を受けています。また、直腸がんに対するロボット手術を施行し、その治療成績は国内外から高い評価をいただいており、全国の病院に対して指導を行っています。
進行した大腸がんに対しても、臨床腫瘍科と協力して、専門スタッフがそれぞれの患者さんに応じて、手術、化学療法（抗がん剤治療）、放射線治療を組み合わせて、治療効果が高く、また、負担が少ない最適な治療法を選んで行っています。
大腸がんと診断されても、安心して当科を受診してください。

乳腺外科
Breast Surgery

Dial-in
● 03–5803–5675

精度の高い診断と
最新の乳癌治療を提供しています。

● **診療科の概要**
早期乳癌の場合は、乳房温存療法、センチネルリンパ節生検、腋窩リンパ節郭清の省略などquality of lifeを重視した治療を積極的に行っています。さらに大きさや場所などから乳房温存が難しいという場合も、形成外科と連携し、乳癌手術と再建を同時に実施する同時再建に早くから積極的に取り組み、高い実績を上げてきています。

● **取り扱うおもな疾患**
乳癌、再発乳癌、線維腺腫、葉状腫瘍など

● **おもな診断・治療法**
診断法：マンモグラフィ、乳腺超音波検査、乳房MRI、PET-CT、ステレオガイド下マンモトーム生検、針生検、穿刺吸引細胞診
治療法：乳房温存術、乳房切除術、同時乳房再建術（形成外科と連携）、センチネルリンパ節生検、腋窩リンパ節郭清術、化学療法、内分泌療法、放射線療法など

● **高度な先進医療**
整容性を重視した乳癌手術（乳房温存手術、乳房同時再建など）

● **診療科における研究テーマ**
1. 乳癌における低侵襲治療
2. 腋窩リンパ節郭清にともなう上肢浮腫の発生機序
3. 乳癌の癌化のメカニズム解明のため、癌化・進展・転移に関連した遺伝子の検出
4. 転移早期発見のため、癌の微小転移の検出を行い、より効果的な治療を行うことを目指した遺伝子診断法の確立
5. 癌進展関連の遺伝子群を包括的に制御できるmicroRNAの同定

● **その他**
当院は日本乳癌学会認定施設です。

科長
小田 剛史 *ODA Goshi*

専 門 医●日本乳癌学会認定　乳腺専門医
日本外科学会認定　外科専門医
専門分野●乳癌治療
研究領域●乳癌治療
乳癌増殖因子
抑制因子

Message

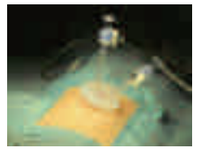
乳癌は外科手術だけで治す時代ではなくなりました。大学病院ならではの、集学的治療を率いることが乳腺外科の使命と考えております。放射線診断科、治療科、形成外科、病理だけでなく、緩和医療、遺伝相談、妊孕性など関連診療科と密に連携し、患者さんとご家族のサポートをしていきます。

小児外科
Pediatric Surgery

Dial-in
● 03–5803–5674

新生児・小児の外科疾患に対し、
患児それぞれに最適で安全な手術治療を行います。

● **診療科の概要**
小児外科が関わる病気は、生まれたばかりの新生児における先天性疾患、急性虫垂炎などの急性疾患、または習慣性便秘などの内科的疾患まで多岐にわたります。同じ病名がついてもお子さんやご家族の視点に立って最適な治療を選択しつつ、専門医として責任を持って、手術をはじめとした治療を行います。手術の際には整容性に十分配慮し、腹腔鏡手術をはじめ低侵襲治療を心がけています。小児での手術数が多い鼠径ヘルニアや停留精巣、臍ヘルニア（でべそ）は日帰り手術を行っています。小児科・新生児科と、外来のブース・入院の病棟を共にし、綿密でスムーズな連携を持ちながら包括的な治療を行います。



経臍的腹腔鏡下虫垂切除術

● **取り扱うおもな疾患**
鼠径ヘルニア（脱腸、陰嚢水腫）、停留精巣（移動性精巣）、臍ヘルニア（でべそ）、便秘、乳児痔瘻（肛門周囲膿瘍）、包茎、副耳、皮下腫瘤、急性虫垂炎、メッケル憩室、尿膜管遺残症、耳前瘻孔、卵巣嚢腫、リンパ管腫、胃食道逆流症、胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症、特発性血小板減少症（脾摘目的）、消化管の先天異常（奇形）、小児悪性固形腫瘍（肝芽腫、神経芽腫、腎芽腫など）、先天性食道閉鎖症、鎖肛などの新生児疾患全般

経臍的腹腔鏡下虫垂切除術
1か月後の創部

● **おもな診断・治療法**
診断法：超音波検査、上部消化管・注腸造影検査、上部・下部消化管内視鏡検査、24時間pHモニター、CT、MRI
治療法：（外科的疾患）経臍的腹腔鏡下手術から従来の開腹手術まで、各々の疾患や患児に応じて適切な手術方法を選択します。どの手術法においても創を臍や皮膚の皺（しわ）の中に隠すなど整容性に充分配慮した治療を行います。
（内科的疾患）慢性便秘などの内科的消化管疾患においては、漢方を併用した最適な治療を行います。

血管透過装置を使用しての末梢型中心静脈カテーテル留置

● **高度な先進医療**
一見するとどこに創があるかわからない経臍的腹腔鏡下手術などの単孔式腹腔鏡下手術にも積極的に取り組んでいます。
また、血液疾患などの患児に対しては、一人一人の患児に適切なカテーテルを選択し、超音波やレントゲン機器を併用した安全な血管アクセス（中心静脈アプローチ）を行っています。

近赤外光を使用した血管透過装置による上肢の血管走行の解析

● **診療科における研究テーマ**
小児固形がんの新規治療法の開発、VR(virtual reality)などの最新テクノロジーを利用したより安全な低侵襲手術法の開発、血管走行の解析による安全な血管アクセスの確立

● **その他**
小児科・新生児科と綿密でスムーズな連携を持ちつつ、外来や病棟では小学館のご厚意で装飾されたポケモンたちに囲まれながら明るい雰囲気の中で診療を行っています。
麻酔科、集中治療部にも小児を専門とするスタッフがおり、当院全体で包括的で良質な医療を提供いたします。小児科以外の診療科からの中心静脈カテーテル挿入も請け負っています。

科長
岡本 健太郎 *OKAMOTO Kentaro*

専 門 医●日本小児外科学会認定　小児外科専門医
日本外科学会認定　外科専門医
日本小児血液・がん学会
小児がん認定外科医
日本周産期・新生児医学会　認定外科医
専門分野●テクノロジーと医療の連携
低侵襲手術
小児先天異常
研究領域●医工連携、安全な新規低侵襲手術の開発
上肢の血管走行の解析

Message

当院で『小児外科』が再開してから5年以上経過し、小児外科学会の認定施設である教育関連施設にもなりました。先天性食道閉鎖症、鎖肛などの新生児手術から、日帰りでの腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術まで、幅広い疾患に対応し安定した手術成績を残しております。
「子供は大人のミニチュア」ではありません。サイズが小さいだけでなく、小児特有の特徴があります。手術が必要な患児に対しては、体の創が心の傷にならないように整容性にも充分に配慮した手術を心がけ、小児外科の専門医が責任を持って治療を行います。また、手術を行わずとも治療が可能な疾患に対しては、漢方治療を含めた内科的治療も行います。小児科をはじめとした関連診療科とも連携しながら、それぞれの患児やご家族に適した最善な治療を行っていきます。
当院の主たる関連病院である土浦協同病院をはじめ、東京都立小児総合医療センター等の関東圏内の複数の小児病院との連携を持って、より良質な医療を展開しております。
また、「こども医療」を一緒に盛り上げていく小児外科志望の若い力をお待ちしております。

末梢血管外科
Peripheral Vascular Surgery

● 03–5803–5675

様々な血管の病気に関して
安全で低侵襲の治療法を工夫し患者さんと一緒に進みます。

●診療科の概要

動脈硬化症が原因となる足の病気、下肢血行障害が増加しています。腹部や四肢の動脈瘤・下肢静脈瘤は、超音波・CTなどで的確に診断できます。そして、いろいろな血行再建術を通じて人生がよみがえります。歩けるようになると、いろいろなことが再びできるようになります。安全でより侵襲の少ない治療法を工夫しながら、患者さんと一緒に進みます。

●取り扱うおもな疾患

胸部・腹部大動脈瘤、頸動脈病変、動脈閉塞症、下肢静脈瘤、内シャント不全、内シャント造設術

●おもな診断・治療法

バスキュラーラボを1995年より開設しており、脳と心臓以外のすべての動脈、静脈に対する検査ができます。特に動脈硬化の診断は、痛みを伴わない検査法だけで可能です。2～3種類の無侵襲検査を受けていただくことで、現在の状態を正確に評価でき、さらに今後の治療について検討することが可能です。

大動脈瘤は、マルチスライスCTで正確な形状を評価することができ、ステントグラフトの適応を的確に判断するとともに、より適切な種類のステントグラフトを選択した上で血管内治療に繋げています。

●高度な先進医療

胸部・腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術、下肢閉塞性動脈硬化症に対する血管内治療（バルーン拡張術やステント留置術）を積極的に取り入れ、「からだへの負担が少なく優しい治療」を心がけています。当院は、潰瘍や壊疽のある重症虚血肢に対して集学的な治療を施行できる数少ない病院のひとつです。当科では、下肢の血行再建術として、難易度の高い足首付近へのバイパス術を数多く手がけるとともに、血管内治療でも良好な成績を達成しております。他科との連携により、高気圧酸素治療、LDL アフェレーシス、遊離筋皮弁移植術、皮膚移植術、マゴット治療など、救肢のために必要な治療を網羅しており、他の施設で大切断と言われた方でも救肢できうる環境を整備しています。

科長

工藤 敏文 *KUDO Toshifumi*

専 門 医●3学会構成心臓血管外科専門医認定機構認定
心臓血管外科専門医・修練指導者
日本外科学会認定　外科専門医・指導医
日本脈管学会認定　脈管専門医
日本血管外科学会認定　血管内治療医
胸部大動脈ステントグラフト実施医
腹部大動脈ステントグラフト指導医
下肢静脈瘤血管内焼灼術指導医

専門分野●血管外科
血管内治療

研究領域●大動脈瘤および閉塞性動脈硬化症に対する血管内治療・低侵襲治療、重症虚血肢に対する新規検査法と治療法の確立

専門外来●下肢静脈瘤外来
シャント外来

Message

「人は血管とともに老いる」と言われています。最近、心筋梗塞、脳梗塞だけでなく、足の動脈硬化が極めて危険であることがわかってきました。足の動脈硬化は血管年齢でわかりますので、65歳を過ぎたら血管年齢を調べましょう。喫煙、糖尿病があったら、50歳でも血管年齢測定をお勧めします。大動脈瘤は死に至る沈黙の病気であり、CTなどで偶然に発見される病気です。血縁に大動脈瘤のある方、高血圧で喫煙歴の長い方は、50歳を過ぎたら一度はCTか超音波で腹部大動脈の太さを測定しましょう。血管の病気を治せば、人生がよみがえります。

肝胆膵外科
Hepatobiliary and Pancreatic Surgery

Dial-in
● 03–5803–5675

肝がん、膵がん、胆道がんや胆石症に対して、
手術を中心に総合的な治療を行います。

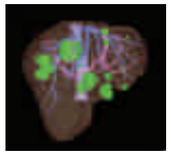
● 診療科の概要

肝胆膵外科は肝臓、胆嚢、胆管、膵臓の悪性腫瘍（がん）、炎症性疾患などに関して手術、薬物療法を含めた総合的治療を行う診療科です。高度機能を持った大学病院として切除困難な進行がん治療に積極的に取り組む一方で、傷の小さな腹腔鏡手術も積極的に導入し、患者さんに優しい手術を目指しています。

ロボット支援下膵切除

● 取り扱うおもな疾患

肝腫瘍（肝細胞がん、肝内胆管がん、転移性肝がん等）、膵充実性腫瘍（膵がん、膵神経内分泌腫瘍等）、膵嚢胞性腫瘍（膵管内乳頭状粘液性腫瘍（IPMN）等）、胆道がん（胆管がん、胆嚢がん）、胆嚢ポリープ、胆石症、先天性胆道拡張症、急性・慢性膵炎、特発性血小板減少症（脾摘目的）、脾腫、肝硬変・肝不全等。



高度進行肝がんに対する術前シミュレーション

● おもな診断・治療法

超音波検査、CT、MRI、胆膵内視鏡検査、PET-CT等の検査を行います。消化器内科・放射線・病理診断科と密接に協力しており、定期的な合同カンファレンスを通じて、一人一人の患者さんに最も適した治療方針や手術術式を検討しています。

● 高度な先進医療

安全で精度の高い肝切除を行うために、CT画像を元に術前に手術の3Dシミュレーションを行っています。化学療法や血管内治療も含めた集学的治療を行うことで進行がんの治療成績向上を目指しております。また、低侵襲手術に関して国内でもいち早く腹腔鏡下肝切除を導入し、腹腔鏡下膵切除や単孔式腹腔鏡下手術（胆嚢摘出術や肝切除）にも積極的に取り組んでおります。またロボット支援下の膵体尾部切除／膵頭十二指腸切除も開始し、より安全で確実な治療を提供できるように診療科一丸となって取り組んでいます。

● 専門外来

稀少がんであり進行度や治療法が多岐にわたって専門的な対応が必要とされる神経内分泌腫瘍の治療に積極的に取り組んでおります。2011年に神経内分泌腫瘍外来を開設し、累積で500名を超える患者さんが全国より受診されています。2022年より膵がん外来を立ち上げ、「膵がん治療Speed Up Project」として当科を初診されてからなるべく早いスケジュールで検査診断を行い、最速で治療を開始できるように様々な診療科との連携を高めています。

● 取り組み

高度進行肝胆膵悪性腫瘍に対する手術を中心とした集学的治療
膵神経内分泌腫瘍専門外来、膵がん外来
腹腔鏡下肝 / 膵切除、ロボット支援下肝 / 膵切除、単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術等

● その他

当科は年間約250例の手術を行っており、2019年は肝切除術74例（腹腔鏡下45例）、膵切除術86例（腹腔鏡下35例）と、国内有数の症例数を誇ります。肝胆膵領域の腫瘍は診断も手術も難易度が高いですが、根治性と安全性を確保した治療を日々追求しております。化学治療、放射線治療等を組み合わせた集学的治療を充実させるため、関連各科と密に連携した診療を行っております。

● 診療科における研究テーマ

肝胆膵がん、神経内分泌腫瘍の病態の解明と新たな診断法、治療法の開発
低侵襲外科治療の発展
臨床試験（局所進行切除不能膵がんに対する術前化学放射線療法）

科長

田邉 稔 *TANABE Minoru*

専 門 医●日本外科学会認定　外科専門医・指導医
日本消化器外科学会認定
消化器外科専門医・指導医　評議員
日本がん治療認定医機構
がん治療認定医
日本肝胆膵外科学会高度技能指導医
理事　評議員
日本内視鏡外科学会　理事
Certificate of da Vinci console surgeon
ロボット支援下膵切除プロクター
ロボット支援下肝切除暫定プロクター

専門分野●肝胆膵外科
移植外科
低侵襲手術

研究領域●肝胆膵悪性腫瘍
臓器移植
低侵襲外科治療

専門外来●神経内分泌腫瘍外来、膵がん外来

Message

手術手技や医療技術は日々進歩しており、私たちは大学病院の特長を活かして先進的な治療を提供いたします。そのためにスタッフ一同、日々研鑽をつみかさねております。また一方で、「病気」をみて「患者さん」が置き去りにされることの無いよう、患者さんに優しい温かみのある医療を心がけております。

心臓血管外科
Cardiovascular Surgery

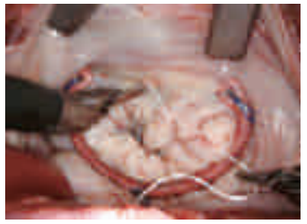
Dial-in
●外来 03–5803–5677
●夜間・休日緊急連絡先 03–5803–2231(内線61228)

新たな体制で低侵襲手術から高難度手術まで質の高い専門医療を提供します。

● **診療科の概要**

低侵襲手術（MICS手術）やオフポンプ冠動脈バイパス手術など、“体にやさしい手術“を目指しています。私が受けたい手術、私の家族に受けさせたい手術をモットーに、最先端の知識と技術を集結させて患者さんに提供しています。弁膜症に対しては自分の弁を温存する形成術をMICSで行うことを基本としており、特に僧帽弁形成術では1000例以上の経験に基づき長持ちする形成術を心がけています。心房細動に対してもMICSでメイズ手術や左心耳閉鎖術も行っています。一般的に大手術となる大動脈解離手術でも救命することと術後のQOL回復を目指してハイブリッド手術を取り入れています。東京医科歯科大学の特徴でもある重症心不全に対しては、補助人工心臓治療（LVAD）や再生医療を行い患者さんのQOLを取り戻します。

心臓手術の様子


ロボットで見た僧帽弁

● **取り扱うおもな疾患**

狭心症・心筋梗塞、あらゆる弁膜症、大動脈解離、大動脈瘤（胸部・腹部とも）、心筋疾患（重症心不全）、不整脈、先天性心疾患（小児期から成人まで）

● **おもな診断・治療法**

MICS手術、弁形成術、弁置換術、オフポンプ冠動脈バイパス手術、大動脈人工血管置換術、ステントグラフト、ハイブリッド手術、LVAD、再生医療、先天性心疾患手術、成人先天性心疾患手術

● **高度な先進医療**

LVAD、再生医療、MICS手術、ロボット手術（2023年10月開始予定）

● **診療科における研究テーマ**

・ロボット心臓手術の発展、次世代ロボットの開発
・新たな人工心臓の開発
・心臓手術に用いる新たな生体材料の開発
・僧帽弁形成術の新術式の開発

科長
藤田 知之 *FUJITA Tomoyuki*

専 門 医●心臓血管外科専門医修練指導者
植込型補助人工心臓実施医
専門分野●冠動脈バイパス術
胸部大動脈手術
補助人工心臓手術
弁膜症手術

Message

当科では、“長期遠隔予後の優れたQuality of lifeの高い手術”とは何かにこだわり、精度の高い最新の心臓大血管手術を、より安全かつ低侵襲に行っております。一般の病院では治療が困難な複合疾患を合併した重症例こそ、大学病院が担うべき外科医療と考え、重症・緊急にかかわらず、随時手術を受け入れております。妥協なき手術と、他科とのチーム医療による徹底した周術期管理により、総合力として最高水準の外科医療を提供します。

呼吸器外科
Thoracic Surgery

Dial-in
● 03–5803–5677

肺癌を中心とする胸部悪性腫瘍の治療において、質の高い専門医療を多くの患者さんに提供します。

● **診療科の概要**

呼吸器外科は呼吸器系臓器すなわち肺・縦隔・胸壁・横隔膜の外科治療・外科的診断を取り扱う専門診療科です。早期肺癌や気胸など良性疾患に対して胸腔鏡下の低侵襲手術を行い、早期退院・早期社会復帰を提供します。局所進行肺癌や難治性の胸部悪性腫瘍に対して、拡大手術・集学的治療を行い、生命予後・QOLの向上を提供します。

● **取り扱うおもな疾患**

肺疾患：肺癌、転移性肺腫瘍、炎症性肺疾患、気腫性肺疾患（気胸）
縦隔疾患：縦隔腫瘍、重症筋無力症、リンパ疾患
胸膜・胸壁疾患：悪性胸膜中皮腫、胸壁腫瘍、膿胸

● **おもな診断・治療法**

外科治療：胸腔鏡下肺切除術、胸腔鏡下（ロボット支援を含む）縦隔腫瘍摘出術、ロボット支援下肺癌手術、周囲臓器合併切除、気管支形成・肺動脈形成、胸壁手術、膿胸手術、胸膜肺全摘術、壁側臓側胸膜全摘除術
外科的診断：胸腔鏡検査（肺、胸膜）、縦隔鏡検査

● **高度な先進技術**

局所進行肺癌（Pancoast腫瘍、N2-stageIIIA肺癌など）に対する、術前化療放射線併用療法後に肺切除術を行う集学的治療。悪性胸膜中皮腫に対する、壁側臓側胸膜全摘除術および術中温熱抗癌剤灌流療法ののち抗癌剤全身投与を行う集学的治療などが当科で行う高度な先進技術です。

● **診療科における研究テーマ**

低侵襲手術、胸部悪性腫瘍に対する集学的治療、肺癌の臨床病理学的研究

● **取り組み**

胸部悪性腫瘍に対する可能な限りの外科治療を提供しています。他診療科と連携して最善の治療法を検討します。手術待機期間を短くするよう努めています。

科長
大久保 憲一 *OKUBO Kenichi*

専 門 医●日本外科学会認定
外科専門医・指導医
呼吸器外科専門医合同委員会認定
呼吸器外科専門医・指導医
専門分野●呼吸器外科学
胸部悪性腫瘍
研究領域●肺癌外科治療
低侵襲手術
集学的治療

Message

肺癌はわが国全癌死亡のうち最大数です。手術患者さんの年齢は高齢化し、75歳以上が30%、80歳以上が15%を占めています。一方、肺癌手術は鏡視下に行われ、低侵襲で痛みも少なく早期退院できるようになりました。高齢のため術前に不安を抱く患者さんも、手術後、思いのほか早く回復され、笑顔で退院されるケースを多く見ることができます（病棟スタッフの声）。

泌尿器科
Urology

Dial-in
● 03–5803–5680

最小の傷と痛み、最大限の機能温存と早期退院を図り、最先端の優れた診療を提供します。

科長
藤井 靖久 *FUJII Yasuhisa*

専 門 医●日本泌尿器科学会認定　泌尿器科専門医
専門分野●泌尿器科学
研究領域●腎腫瘍の鑑別診断モデルの開発
腎がん手術後の腎機能変化および高血圧発症メカニズム
筋層非浸潤性膀胱がんの再発・進展予測モデルの開発
筋層浸潤性膀胱がんの膀胱温存療法の開発
合併症の少ない前立腺がん手術の開発
専門外来●泌尿器がん臓器温存外来
尿失禁・膀胱子宮脱専門外来
コンチネンスケア外来（尿路ストーマ）

Message

当科では、前立腺、腎臓、膀胱、副腎、腎盂・尿管、精巣、尿道などの疾患を主な対象として、患者さんごとに全スタッフの力を合わせて最適な治療法を選択しています。呼吸・循環障害など合併症を持つ患者さんに対しては、関連する他科との緊密な連携のもとに診療にあたっています。患者さんの十分な納得のもとに、最先端の優れた診療を行うよう努めています。

●診療科の概要

世界トップレベルの治療を行うとともに、患者さんと社会に貢献する新治療法の開発・実践に努め、国内外への普及を進めています。具体的には、世界の標準的低侵襲手術である、ロボット支援手術（ダビンチ手術）を施行するとともに、泌尿器がんのミニマム創内視鏡下手術、浸潤性膀胱がんの膀胱温存、腎がんの無阻血・無縫合腎部分切除、前立腺がんの部分治療など、オリジナルな治療法の開発と洗練を進めており、あらゆるニーズに応える医療を提供します。

手術支援ロボット ダビンチXi

●取り扱うおもな疾患

前立腺がん、腎がん、膀胱がん、腎盂・尿管がん、副腎腫瘍、精巣がん、後腹膜腫瘍、前立腺肥大症、神経因性膀胱、尿路結石、尿路感染、尿失禁、骨盤臓器脱

●おもな診断・治療法

前立腺がん：ダビンチ前立腺全摘除、先端型ミニマム創内視鏡下前立腺全摘除、MRI-超音波融合ガイド下前立腺生検、全機能温存部分小線源治療
腎がん：ダビンチ腎部分切除、先端型ミニマム創内視鏡無阻血腎部分切除、ダビンチ腎摘除、腹腔鏡下腎摘除
膀胱がん：浸潤性膀胱がんの膀胱温存（放射線療法＋化学療法＋ハイブリッド・先端型ミニマム創膀胱部分切除）。ダビンチ膀胱全摘除、先端型ミニマム創内視鏡下膀胱全摘除
骨盤臓器脱・尿失禁：ダビンチ仙骨膣固定術、TVM手術、人工尿道括約筋手術、TVT/TOT手術
前立腺肥大症：ツリウムレーザー前立腺蒸散術、経尿道的前立腺吊り上げ術
尿路結石症：経尿道的結石破砕術

●高度な先進医療

前立腺がん、腎臓がん、膀胱がん及び骨盤臓器脱に対し、ロボット支援手術（ダビンチ手術）を施行しています。また、全ての泌尿器がんおよび副腎腫瘍を対象として、3Dヘッドマウントディスプレイを用いた先端型ミニマム創内視鏡下手術（CO_2ガス不使用、単一孔）を開発し施行しています。

●診療科における研究テーマ

患者・社会に貢献する低侵襲治療法の開発
浸潤性膀胱がんの膀胱温存療法の開発
前立腺がんの全機能温存療法の開発
腎がん治療における至適腎機能温存療法の開発
泌尿器がんの新規予後予測法の確立（新ノモグラム作成、新バイオマーカー探究など）
泌尿器腫瘍画像診断における人工知能（AI）の活用
全身MRIなど最新画像診断の活用

●取り組み

泌尿器がん手術において、ロボット支援手術（ダビンチ手術）を施行するとともに、国産技術を用いたオリジナルの先端型ミニマム創内視鏡下手術の改良、実践を進めています。
二つの低侵襲手術の長所を生かし、あらゆるニーズ に応えた医療を提供します。また、泌尿器がんに対する、患者さんに本当に役立つ新しい臓器温存療法の開発に注力しています。前立腺肥大症や骨盤臓器脱、尿失禁などの良性疾患に対しても最先端の手術も含めた幅広い治療を積極的に行っております。

●その他

急増している泌尿器がんに力を入れており、最小の傷と痛み、最大限の機能温存（腎機能、膀胱機能、前立腺機能）、早期退院を図り、病棟での耐性菌を抑制する環境を作っています。

頭頸部外科
Head and Neck Surgery

Dial-in
● 03–5803–5682（耳鼻咽喉科、頭頸部外科外来）

耳鼻咽喉科、脳神経外科、形成・美容外科、放射線科などと協力し、一人一人の患者さんの希望に沿うような治療をすることを心掛けています。

科長
朝蔭 孝宏 *ASAKAGE Takahiro*

専 門 医●日本耳鼻咽喉科学会認定
耳鼻咽喉科専門医
日本気管食道科学会認定
気管食道科専門医
日本頭頸部外科学会認定
頭頸部がん専門医
癌治療学会認定
癌治療認定医
専門分野●頭頸部外科
研究領域●低侵襲治療
機能温存治療
頸部郭清術
頭蓋底悪性腫瘍

Message

頭頸部とは鎖骨から上の領域をいいますが、脳と目は含まれません。この領域にできた腫瘍を頭頸部腫瘍と言い、その治療を担当するのが頭頸部外科です。私たちは、より治療効果を高めかつ後遺症を少なくするために、他の診療科と密に協力し合い、手術のみでなく放射線治療や化学療法などを組み合わせて、それぞれの患者さんに最も適切な治療を行っています。

● 診療科の概要

頭頸部外科は、耳鼻咽喉科のみならず、放射線診断科、放射線治療科、形成・美容外科、脳神経外科、食道外科、血管内治療科など多くの診療科と横断的な診療体制をとっています。

● 取り扱うおもな疾患

口腔癌（舌癌など）、咽頭癌（上咽頭癌、中咽頭癌、下咽頭癌）、喉頭癌、鼻副鼻腔癌（上顎洞癌など）、耳下腺腫瘍、顎下腺腫瘍、甲状腺・副甲状腺腫瘍、聴器癌、頭蓋底腫瘍、副咽頭間隙腫瘍、頸動脈小体腫瘍など頭頸部の良性・悪性腫瘍を扱っています。

● おもな診断・治療法

おもな診断法：NBIなどの特殊内視鏡検査、超音波検査、CT、MRI、PET/CT、細胞診、組織診など。
おもな治療法：頭頸部進行癌に対する拡大手術、化学放射線治療、超選択動注療法。咽喉頭表在癌に対する内視鏡手術。頭蓋底腫瘍に対する頭蓋底手術など。

● 高度な先進医療

難易度の高い頭蓋底腫瘍の手術治療を耳鼻咽喉科、脳神経外科、形成・美容外科と共同で行っています。
小児頭頸部悪性腫瘍手術の豊富な経験を持ちます。
咽喉頭癌では化学放射線治療や経口腔的切除などの低侵襲手術を行い、積極的に機能温存を図っています。特に表在癌に対する内視鏡的手術では先進的な技術を有しています。

● 診療科における研究テーマ

1．低侵襲治療、機能温存治療
2．頸部郭清術
3．頭蓋底悪性腫瘍

● その他

放射線診断科、放射線治療科、形成・美容外科、脳神経外科、食道外科などと協力して、みみ・はな・くち・のどにできたすべてのがんを各領域の専門医が力を合わせて横断的に診断する『みみ・はな・くち・のどがんセンター』の紹介が記載されている17ページも併せてご参照ください。

救急科
Acute Medicine

Dial-in
● 03–5803–5102

全ての救急患者さんに、24時間最善の救急医療を提供します。

● **診療科の概要**
救急車で来院した2次救急・3次救急の患者さんの初期診療を行い、外来での初期診療から緊急手術や入院後の集中治療も担当します。その他、リハビリテーションや転院までのマネジメントなど、初期診療から退院まで一貫して救急科が診療を行います。また外傷、急性腹症、中毒、脳卒中、急性冠症候群の急性疾患の緊急転院を積極的に受け入れております。2019年は計7493件（うち3次救急959件）の救急搬送を受け入れています。

● **おもな診断・治療法**
・重症外傷に対する救命治療および集学的治療
・重症急性疾病に対する救命治療および集学的治療
・院外心肺停止・重症急性中毒に対する救命治療および集学的治療
・ドクターカーによる救急現場での高度な救命医療の提供

● **診療チーム**
ほとんどの救急科スタッフが救急科専門医に加えて、外科専門医、外傷専門医、集中治療専門医、麻酔標榜医、放射線科専門医などのサブスペシャルティを所有しており、緊急手術を含む、より質の高い救急診療を提供しております。その他救急科専属の救急救命士を採用し、24時間365日体制で診療にあたっています。

● **診療科における研究テーマ**
1. ショック後の多臓器障害の制御メカニズムに関する基礎研究
2. 大規模データベースを用いた救急集中治療領域の疫学研究

● **高度な先進医療**
重症外傷をはじめとする極めて全身状態が不良な患者さんに対するダメージコントロール戦略、病院外心停止症例に対するECMOを用いた蘇生やその後の体温管理療法などを行っています。
最近はCOVID-19肺炎などによる重症呼吸不全患者に対するECMO療法も積極的に実施・管理しています。

● **取り組み**
1）病院前診療「ドクターカー」
重症と判断された救急車要請事案についてはドクターカーで現場に急行し、その場で迅速に医療介入を開始します。出動範囲は文京区、千代田区、中央区の経済中心地をカバーしています。
2）救急ヘリコプター受け入れ
病院屋上にヘリポートを有しており、僻地からの救急ヘリコプターでの搬送受入が可能です。
3）災害医療
当院は災害拠点医療機関の指定を受けており、当科スタッフはDMAT隊員資格を保有しております。内閣府・東京都・東京消防庁・JR東日本などと連携しながら、地震などの自然災害や大規模集客イベントなどで発生する人為災害に備え、定期的に訓練をして対策強化に努めています。

科長
森下 幸治 *MORISHITA Koji*

専 門 医●日本救急医学会認定　救急科専門医
日本外科学会認定　外科専門医
日本集中治療学会　認定集中治療専門医
日本外傷学会　外傷専門医
専門診療●救急医学
外傷外科学
Acute Care Surgery
集中治療医学
災害医学
研究領域●重症胸腹部外傷、多発外傷、集中治療に関する臨床研究
災害医療に関する疫学研究

Message

東京都内の大学病院の救命救急センターのほとんどは、最重症の救急患者だけを診療していますが、東京医科歯科大学では、重症のみならず、軽症・中等症の救急車を受け入れています。理由は、東京都内であっても、受け入れ困難で搬送先がなかなか決まらない救急患者さんが多く発生しますが、それらの患者さんを積極的に受け入れるためです。救急隊からは、「医科歯科さんは、困ったときの最後の砦です」と評価頂いております。私どもの救命救急センターは、豊富な数の経験豊かな救急科スタッフが、高度専門的な救急診療・集中治療を提供するとともに、脳神経外科・脳神経内科・循環器内科・心臓血管外科・整形外科などとも連携し、各科専門領域の救急疾患にも、高度先進医療を提供しております。

病理診断科（病理部）
Surgical Pathology

Dial-in
● 03–5803–5661

顕微鏡観察に最新の解析技術を導入し、正確で客観的な病理診断に努めています。

● **診療科の概要**
スタッフ
教授2、准教授1（専任1）、講師2、助教10（専任4）、特任助教1、後期研修医（大学院生）9、臨床検査技師15　その内、病理専門医16、細胞診専門医10、細胞検査士10
カンファレンス
剖検例カンファレンス50回／年　他に乳腺、皮膚、婦人科、脳外科、呼吸器外科、腎生検、造血器腫瘍、肝生検、肝胆膵、びまん性肺疾患のカンファレンスを定期的に開催しています。

● **おもな診断・治療法**
診断件数
病理組織10,353件／年、術中迅速診断642件／年、細胞診8,109件／年、病理解剖26件／年、免疫染色2,384件／年、電子顕微鏡診断80件／年、FISH法83件／年

● **高度な先進技術**
約320種類の抗体を用いた免疫染色で診断の精度を高めています。また病原体を中心に、モノクローナル抗体を新規に作製し、感染性疾患の診断に応用しています。外注の行えないFISH診断も実施しています。すべての検体を病理専門医と教授・准教授のダブルチェック体制で診断し、精度管理を厳密に行っています。HER2、他8種のFISH法による遺伝子検査も病理部の内部で実施するようになりました。

● **取り組み**
医学部附属病院、歯学部附属病院の統合に先立ち病理部門では2015年4月から歯学部病理診断部門と業務を共同で行う体制が構築されて、2021年10月に医歯一体となって病理診断の精度と効率の向上に努めています。

● **その他**
臨床検査室の管理や技術に関する国際規格であるISO15189に適合した施設として病理部も2018年6月に国際認証を取得しました。お力添えをいただきました管理部門、検査部に深謝いたします。今後も国際規格に沿った運営を通じて病理診療の精度の向上、人材の育成、安全な作業環境の維持に努めていきます。

科長
大橋 健一 *OHASHI Kenichi*

専 門 医●日本専門医機構認定 病理専門医、
日本臨床細胞学会認定　細胞診専門医
専門分野●人体病理学
研究領域●消化管癌の病理、アミロイドーシス

Message

病理部では患者さんの病気となっている臓器を顕微鏡で観察し、腫瘍を中心とした様々な疾患を診断しています。腫瘍の悪性度や組織型の診断、進行度の詳細な評価に加えて、分子標的薬に代表される薬物治療においても個々の患者さんに最も適切な選択を考慮する際に病理組織学的な評価が必須となってきました。このような時代の新しい要求に対しても適切にお応えできるよう、病理部では人体病理学分野、包括病理学分野と協力して各臓器の高度な専門性に対応した診療を行っています。

眼科
Ophthalmology

Dial-in
● 03–5803–5681

様々な眼科疾患に対し最新の検査法を用いて精密な診断を行い、的確な治療で対処します。

● **診療科の概要**
最新の検査法を用いて、視機能および分子生物学的検査によって精密な診断を行い、的確な治療で対処しています。主に強度近視、ぶどう膜炎、視神経疾患、白内障、緑内障、網膜剥離、糖尿病網膜症などの疾患を対象としています。

●**取り扱うおもな疾患**
網膜硝子体疾患、強度近視、ぶどう膜炎、視神経疾患、白内障、緑内障、網膜剥離、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性

●**おもな診断・治療法**
強度近視の脈絡膜新生血管に対する抗VEGF療法、強度近視の黄斑分離症・黄斑円孔網膜剥離に対する硝子体手術、高侵達OCTを用いた強度近視の網膜、視神経の3次元的画像診断、感染性ぶどう膜炎の網羅的迅速診断PCRシステム、ベーチェット病のインフリキシマブ治療、眼内リンパ腫を対象としたメトトレキサート硝子体内注射療法、非感染性ぶどう膜炎に対するアダリムマブ治療

●**高度な先進医療**
高侵達OCTを用いた強度近視の網膜、視神経の3次元的画像診断、多焦点眼内レンズ、屈折矯正のための有水晶体レンズ移植、眼炎症性疾患の眼内液・眼内組織を用いた網羅的迅速PCR診断システムを用いた診断、ベーチェット病のインフリキシマブ治療、非感染性ぶどう膜炎に対するアダリムマブ治療

●**診療科における研究テーマ**
加齢黄斑変性における新規血管新生メカニズムの解明、実験近視モデルを用いての近視進行メカニズムの解明、強度近視の原因遺伝子解析、自己免疫性ぶどう膜炎、感染性ぶどう膜炎の病態と発症機構の解明

●**その他**
当科では一般外来に加え、強度近視、ぶどう膜炎、神経眼科、網膜硝子体疾患、黄斑疾患、斜視、緑内障、白内障、屈折矯正手術などの専門外来があり、安全で高度な先進医療を提供しています。

科長
大野 京子 *OHNO-MATSUI Kyoko*

専 門 医●日本眼科学会認定　眼科専門医
専門分野●網膜・視神経疾患
　　強度近視
研究領域●眼内血管新生メカニズム解明
　　実験近視研究
　　強膜再生
専門外来●強度近視外来
　　近視治療外来
　　黄斑外来
　　斜視弱視外来
　　神経眼科外来
　　糖尿病網膜症外来
　　白内障・屈折外来
　　ぶどう膜外来
　　網膜外来
　　緑内障外来

Message

眼は外部からの情報の80%を取り入れている重要な感覚器です。その健全な視覚を侵す多くの眼疾患の診断と治療は私達の社会生活にとって大変に重要です。当科では最新の診断法と治療法を取り入れて、様々な眼科疾患（結膜、角膜、白内障などの前眼部疾患、ぶどう膜炎、網膜剥離、糖尿病網膜症、網膜出血、加齢黄斑変性などの眼底疾患、緑内障、神経疾患など）に対して、眼科専門医による高度で安全な診療を提供しています。

耳鼻咽喉科
Otorhinolaryngology

Dial-in
● 03–5803–5682（耳鼻咽喉科、頭頸部外科外来）

耳・鼻・咽喉頭領域の高度先進医療を行い、特に難聴・めまいに関して革新的な専門的診療を実施します。

● **診療科の概要**
耳鼻咽喉科領域の耳・鼻・口腔・咽頭・喉頭に関わる疾病に最新の医療で対応しています。外来での診療と入院・手術治療は、原則として同じ医療チームの医療者が担当します。外来での診療は頭頸部外科と連携して行っており、午前中はすべての疾患を対象とする一般診療、午後は専門外来として、アレルギー・副鼻腔外来、めまい外来、中耳炎外来、嚥下外来、難聴・耳鳴り・補聴器外来、顔面神経外来が開設され、それぞれの疾患の専門的診療を行っています。

● **取り扱うおもな疾患**
聴覚障害、耳鳴り、めまい・平衡障害、耳のがん（外耳道がんなど）を含む側頭骨・中頭蓋底腫瘍、真珠腫性中耳炎、慢性中耳炎、耳硬化症、花粉症を含むアレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、扁桃の病巣感染、声帯ポリープ、甲状腺疾患、唾液腺疾患、嚥下障害、睡眠時無呼吸症候群

● **おもな診断・治療法**
4K内視鏡を導入した低侵襲の中耳炎手術、めまいに対する保存的ならびに手術的治療、耳のがん（外耳道がんなど）に対する手術を含む集学的治療、側頭骨や後頭蓋窩へ進展した頭蓋底腫瘍の脳神経外科と共同での手術加療、難聴症例の難聴遺伝子解析、突発性難聴に高気圧酸素治療、耳鳴にTRT療法、良性発作性頭位めまい症に頭位治療、高度感音難聴に対する人工内耳埋め込み、通常の気導補聴器で補聴効果が得られない症例には骨固定型補聴器や人工中耳、4K内視鏡を用いた低侵襲の内視鏡下副鼻腔手術、アレルギー性鼻炎にレーザー治療、睡眠時無呼吸症候群に対する快眠センターと連携した治療、嚥下障害に対する内視鏡・造影検査と保存的ならびに手術的治療、新生児・小児の気道手術と管理、嗄声に対する音声外科手術

● **高度な先進医療**
最新の4K内視鏡と4K3D外視鏡を導入した耳科・鼻科手術を行っています。外耳道がんの手術加療症例数は国内で突出しています。また、外科手術を含むめまいの治療・研究が当科の伝統的な柱の一つとなっています。遺伝性難聴を含む難聴の研究・治療がもう一方の柱となっています。埋め込み型骨導補聴器による聴覚回復を日本で初めて施行し、人工内耳も含め人工聴覚器の症例が豊富です。

● **診療科における研究テーマ**
平衡障害の臨床診断・治療の研究と眼球運動解析、重力認知・姿勢制御の研究、遺伝子解析による難聴の病態解析、細菌の遺伝子解析による真珠腫性中耳炎の発症病態の解明、モデル動物を用いた各種内耳障害の解析、外耳道がんの新規診断・治療法の開発などを行っています。また、3D映像やホログラムを用いた手術シミュレーションや教育ツールの開発も行っています。

● **その他**
中耳・内耳障害による難聴の遺伝子診断から、治療としては人工中耳・内耳埋め込みによる聴覚回復までと、内耳のみならず中枢病変も含む平衡障害の診断と治療で、感覚器障害のトータルケアを行っています。

科長
堤 剛 *TSUTSUMI Takeshi*

専 門 医●日本耳鼻咽喉科学会認定
　　耳鼻咽喉科専門医
専門分野●耳鼻咽喉科学
研究領域●めまい平衡医学
　　外耳道がん
　　耳科手術・鼻科内視鏡手術
　　人工内耳
専門外来●アレルギー外来
　　嚥下外来
　　顔面神経外来
　　言語発達外来
　　中耳炎外来
　　頭頸部腫瘍外来
　　難聴外来
　　補聴器外来
　　耳鳴り外来
　　めまい外来
　　副鼻腔外来
　　音声外来

Message

1944年の耳鼻咽喉科の開設以来、5代目の教授を拝命いたしました。これまでの伝統を引き継ぎ耳・鼻・咽喉頭領域の疾患の高度先進医療を担当し、特に難聴・めまいについて革新的な専門的診療を実施しています。さらに、現代に要求される新たな領域・技術も柔軟に取り入れた診療が特徴です。
また、頭頸部外科や脳神経外科と共同で、耳のがん（外耳道がんなど）や後頭蓋窩腫瘍の手術加療を多数行っています。

皮膚科
Dermatology

Dial-in
● 03–5803–5679

皮膚は全身の窓です。
皮膚症状を中心とした疾患から、全身疾患の皮膚症状まで、
精密な検査で早期診断に結び付け、病態に合った治療を行っています。

● **診療科の概要**
皮膚科診療は視診から始まり、病理検査や血液検査、画像検査を組み合わせて、的確な診断にたどり着きます。時系列を含めて、からだ全体の変化を把握して、早期診断し、早期治療につなげています。また、アトピー性皮膚炎やアレルギー、膠原病、乾癬、水疱症、腫瘍、多汗症などの専門外来を設けて、最新の外来診療を行える体制を整え、検査・治療で必要な場合には積極的に入院診療を行っています。

● **取り扱うおもな疾患**
アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、痒疹、乾癬、薬疹、食物アレルギー、膠原病（皮膚筋炎、全身性強皮症、全身性または皮膚ループスエリテマトーデス）、血管炎、水疱症、皮膚腫瘍、角化症、尋常性白斑、皮膚感染症、皮膚リンパ腫、脱毛症、化膿性汗腺炎・ざ瘡

● **おもな診断・治療法**
一般的な血液検査やレントゲン・CT・MRI検査に加え、皮膚科独自の検査として、皮膚病理検査（皮膚生検）、ダーモスコピー、真菌検査、超音波検査、皮膚アレルギー検査（プリックテスト、パッチテスト）、負荷誘発試験、発汗ヨードデンプン法といった方法を使い、疾患の原因究明をしていきます。
膠原病や血管炎、水疱症に加え、乾癬やアトピー性皮膚炎、化膿性汗腺炎といった疾患でも、生物学的製剤を含む全身療法が登場してきました。当科は特定機能病院の皮膚科として、こういった治療法に積極的に取り組んでいます。また、NB-UVBやエキシマランプといった光線療法も、乾癬、アトピー性皮膚炎、痒疹、尋常性白斑といった疾患に使用します。
がん治療としては、手術に加え、がん免疫療法に取り組んでいます。

● **高度な先進医療**
膠原病や血管炎に関しては、病態を示唆する様々な自己抗体が研究レベルで指摘されていますが、検査キットの開発や保険適応が遅れている現状があり、当科では、全国の医療機関より依頼を受け、臨床研究として、患者さんに還元できる血清解析を行っています。

● **診療科における研究テーマ**
膠原病の皮膚筋炎のモデルマウスを世界で初めて樹立し、より特異的な治療法開発に向けた研究を行っています。また、血液悪性疾患患者さんが幹細胞移植後に発症する移植片対宿主病の皮膚症状の制圧に向け、新規治療薬を産学共同研究にて開発しています。その他、悪性腫瘍治療として多くのがんに適応がひろがったがん免疫療法の際の人工的な自己免疫反応（免疫関連副作用）のマウスモデルを、遺伝子改変技術を用いて確立し、がん治療を邪魔しない、副作用制圧法の開発に取り組んでいます。また、当科は発汗異常の患者さんが全国一集まる施設であり、特に後天性特発性全身性無汗症に関しては、臨床研究に加え、モデルマウスを確立して基礎研究にて新規治療法開発にも取り組んでいます。さらに、メラノーマに関してはがんゲノム研究を行っており、早期診断や予後予測のマーカー探索を目指しています。

腫瘍外来

乾癬外来

膠原病外来

アレルギー外来

発汗異常外来

科長
沖山 奈緒子 *OKIYAMA Naoko*

専 門 医●日本皮膚科学会認定　皮膚科専門医
日本アレルギー学会認定
アレルギー専門医・指導医
日本リウマチ学会認定
リウマチ専門医
日本臨床免疫学会認定
免疫療法認定医
専門分野●自己免疫疾患・膠原病
アレルギー疾患
研究領域●皮膚免疫学
リウマチ学
アレルギー学
専門外来●アレルギー外来（アレルギー疾患先端治療センター）
乾癬外来
膠原病外来
腫瘍外来
下腿潰瘍外来
白斑・脱毛外来
発汗異常外来

Message

皮膚科では、皮膚を舞台として皮膚に限局した疾患から、全身疾患の一部としての皮膚症状まで、また、日常の悩みから、命に関わる疾患まで、非常に幅広い患者さんがいらっしゃいます。皮膚科医は、皮膚を手掛かりに、その患者さんの中で何が起きているかを探り当てるエキスパートです。私自身は特に膠原病やアレルギーなどの「全身疾患を皮膚から捉える」ことを専門にしてきました。当科にはほかにも多くの専門外来を立てて、より先進的で未来に繋がる医療を展開し、数多くの科と連携して、一人一人の病態を解明して最適な医療をご提案していきます。

形成・美容外科
Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery

Dial-in
● 03–5803–5924

先天性、後天性のさまざまな形態異常、機能障害に対し、
「創造する外科」で美しく治します。

● **診療科の概要**
先天性、後天性のさまざまな形体異常・機能障害に対し、整容面を配慮した治療を行っています。具体的には顔面・手足・体幹などの外傷・先天異常の再建、乳がんなど、がん切除後の形態・機能の再建、眼瞼下垂・顔面神経麻痺などの形成術を行います。また創傷治癒の専門家として、治りにくい創傷の治療や傷跡・瘢痕の管理・修正術も行います。

● **取り扱うおもな疾患**
顔面・手足の先天異常及び外傷（眼瞼下垂、眼瞼痙攣を含む）、乳がん切除後の乳房欠損・変形、女性化乳房、糖尿病性潰瘍、褥瘡、その他の難治性潰瘍、リンパ浮腫

● **おもな診断・治療法**
マイクロサージャリーを用いた自家遊離組織移植術、微小血管・神経吻合術、顔面骨・手指骨に対する骨切り・骨延長、あざやシミに対するレーザー治療（Q-switch-Ruby、V-beam、Gentle LASE）、CT、MRI、ICG造影法などの画像検査、筋電図などの生理検査

● **高度な先進医療**
- 整容的乳房再建（穿通枝皮弁、人工乳房、脂肪移植などの選択肢）
- 培養自家脂肪組織由来間葉系幹細胞を用いた軟部組織の再建・増大術
- リンパ管静脈吻合によるリンパ浮腫治療
- 切断指趾に対する再接着術
- 糖尿病性足壊疽に対する集学的治療法を用いた患肢温存療法

● **診療科における研究テーマ**
ICG 蛍光測定法を用いた移植組織血流やリンパ流の評価、3Dカメラ・各種画像診断を用いた術前術後形態評価

● **その他**
同じ診断名をもつ患者さんでも、機能・形態異常の状態、程度や原因は異なり、たとえ同じ病態であっても、患者さんにより希望する治療は異なります。当科では、患者さんと話し合いながら、希望に沿った質の高い医療を提供するように心掛けています。

科長
森 弘樹 *MORI Hiroki*

専 門 医●日本形成外科学会認定
形成外科専門医
専門分野●乳房再建
顎顔面外科
マイクロサージャリー
皮膚悪性腫瘍
研究領域●末梢神経再生／脂肪移植
専門外来●乳房再建外来
唇顎口蓋裂外来
手の外科外来
リンパ浮腫外来
女性化乳房外来
耳介変形外来
顔面神経麻痺外来
ボトックス外来

Message

形成・美容外科は、形態・機能の外科的形成・再建を担当する診療科です。顔面、手足、乳房など、人目につく部位や美しさを求められる部位を扱うことが多いため、外見にも配慮した繊細な手術を行います。

整形外科
Orthopaedic Surgery

Dial-in
● 03–5803–5678

難治性の運動器疾患やスポーツ障害に対し、早期の社会復帰と安全性の高い医療を提供します。

● **診療科の概要**
脊椎・脊髄、膝足・スポーツ、股関節、肩関節、手外科、骨軟部腫瘍、外傷、小児整形などの専門班による診療を行っており、整形外科全域にわたって最先端の医療を提供しています。特に、脊髄機能モニタリングを利用した安全性の高い頚椎、脊髄腫瘍、側弯症手術、半月板機能修復や再生、膝周囲骨切り術を併用した膝関節機能再建が特徴です。人工膝・股関節手術も多く、両側同時置換でも1ヶ月以内の退院が可能です。

● **取り扱うおもな疾患**
脊柱靭帯骨化症、脊柱管狭窄症、脊柱変形、椎間板ヘルニア、変形性膝関節症、膝靱帯損傷、半月板損傷、足部足関節変性疾患・障害、変形性股関節症、手根管症候群、手指の外傷及び変性・炎症性疾患、絞扼性末梢神経障害、肩腱板断裂、骨・軟部腫瘍、転移性骨腫瘍、四肢・骨盤骨折、脊椎骨折、小児先天性・発育性疾患など。

● **おもな診断・治療法**
診断法：脊髄機能モニタリング・脊髄磁界測定・腰背筋筋電図、全身骨量測定器（DXA）、手術室内CT
治療法：肩・肘・手関節・膝・股・足関節内視鏡手術、ロボット支援下人工膝・股関節置換術、膝関節周囲骨切り術、骨軟部腫瘍患肢温存手術、頚椎前方手術、脊柱変形矯正固定術

● **高度な先進医療**
神経難病先端治療センターの一員として、靭帯骨化症や脊柱管狭窄症に対する外科手術を担当し、膠原病・リウマチ先端治療センターの一員として人工関節置換術などの外科手術を行っています。また、変形性膝関節症・半月板損傷に対する鏡視下Centralization法を併用した膝周囲骨切り術を実施しています。

● **診療科における研究テーマ**
脊髄誘発磁界測定装置の開発、柔らかい人工骨の開発、骨軟骨変性のメカニズムの解明とその制御、滑膜幹細胞移植による膝軟骨再生、靭帯損傷メカニズムの解明、新しい人工関節の開発、脊髄・末梢神経の再生、手根管症候群の病態解明、膝・肩・肘関節の臨床解剖

● **その他**
当科の脊椎手術件数は年間約300件と全国の大学病院では屈指で、重篤な麻痺がおこらぬよう、術中脊髄モニタリングやナビゲーション、Augmented Realityなど最新のテクノロジーを活用して安全な手術を行っております。膝前十字靭帯損傷に対する2重束再建術や半月板縫合術などの膝関節鏡視下手術は年間約200例行っています。変形性股関節症や大腿骨頭壊死症などに対する人工股関節置換術の手術件数は関東でも有数で（年間約180関節）、そのうち両側同時置換術が約30%です。重症の絞扼性末梢神経障害に対する機能再建術、肩・肘・手関節鏡を用いた低侵襲手術治療なども積極的に行っています。

科長
吉井 俊貴 *YOSHII Toshitaka*

専 門 医●日本整形外科学会認定
整形外科専門医
専門分野●脊椎・脊髄病
研究領域●脊椎・脊髄病
靭帯骨化症
人工骨
専門外来●脊椎外来
神経難病外来
骨転移外来
膝関節外来
足部・足関節外来
股関節外来
上肢外来
腫瘍外来
リハビリテーション外来
小児整形外来

Message

当科では、難治性の疾患や要求度の高いスポーツ障害に対して、正しい診断と的確な適応のもとで、早期社会復帰と安全性の高い医療を提供することを目指しています。特に、大学病院では、難病患者さんや高齢者のみならず、重篤な併発症を有する患者さんに対しても、他の診療科と協力し治療を進めることが可能ですのでご相談ください。

小児科
Pediatrics

Dial-in
● 03–5803–5674

お子さんたちを成長・発育の面から全人的に支援します あたたかく良質な医療を提供します。

●**診療科の概要**
小児科全般の疾患に対応すると共に、血液・腫瘍・免疫・感染症、アレルギー、循環器、神経、内分泌・代謝、腎臓、膠原病、新生児などの専門領域において先端的な診療に取り組んでいます。お子さんたちを成長・発育の面からも全人的に支援しつつ、成人になってからの生活にも思いを馳せ、お子さんに寄り添った診療を提供しています。

●**取り扱うおもな疾患**
白血病、悪性リンパ腫、小児がん、再生不良性貧血、出血性疾患、原発性免疫不全症、難治性感染症、肺高血圧症、先天性心疾患、不整脈、性分化疾患、先天性副腎過形成、小児糖尿病、低身長、慢性腎炎、ネフローゼ症候群、急性慢性腎不全、小児膠原病・リウマチ性疾患、難治性てんかん、神経変性疾患、早産児、病的新生児

●**おもな診断・治療法**
原発性免疫不全症、小児血液・腫瘍の診断と先端治療、肺高血圧症の診療と標的薬を用いた治療、先天性心疾患に対する周術期管理、各種内分泌疾患の診断と治療、小児腎疾患の診断と治療、血液浄化療法、小児リウマチ性疾患の診断と分子標的薬などを用いた治療、発作時脳波・ビデオ脳波を駆使した最適な抗痙攣薬の選択、早産児管理

●**高度な先進医療**
原発性免疫不全症の遺伝子診断と造血細胞移植、血液腫瘍に対する分子診断と造血細胞移植、高感度網羅的微生物検査、特異的免疫細胞療法、血液浄化療法、てんかんの24時間モニタリングと脳外科と連携したてんかん外科手術、脊髄性筋萎縮症に対する遺伝子治療

●**診療科における研究テーマ**
原発性免疫不全症の責任遺伝子解明と治療法開発、DNA損傷応答を基盤とした腫瘍化の病態解明と治療法開発、再生医療応用を目指した小児難病の解析と基盤技術開発、性分化疾患の分子病態解明、肺高血圧症の病態解明、間葉系幹細胞を用いた周産期神経合併症の治療

●**取り組み**
本邦最多の原発性免疫不全症患者さんの診療にあたっています。血液免疫疾患には3床の無菌室にて造血細胞移植を行っています。膠原病や感染症の先端的診断治療にも力を入れており、毛細血管拡張性小脳失調症には統合的なケアを行っています。性分化疾患／先天性副腎過形成や肺高血圧症など難病の診断治療の中心施設となっています。

●**その他**
入院中の子どもたちをサポートするため、チャイルドライフスペシャリストや病棟保育士が院内で活動しています。市民や学生によるボランティア活動も多岐に亘り、また盛んに行われており、入院するお子さんや親御さんを支援しています。外来においても育児支援「すくすく」を開設しています。

科長
森尾 友宏 *MORIO Tomohiro*

専 門 医●日本小児科学会認定　小児科専門医
日本血液学会認定　血液専門医
専門分野●小児感染症
血液・免疫疾患
再生医療・細胞治療
研究領域●小児難病（特に原発性免疫不全症などの稀少難病）の遺伝的背景と病態解明
小児難病に対する先端的治療法の開発
専門外来●アレルギー外来
育児支援外来（すくすく外来）
血液外来
CSS長期フォローアップ外来
腫瘍外来
循環器外来
小児遺伝外来
小児リウマチ先進治療外来
神経外来
新生児フォローアップ外来
腎臓外来
造血細胞移植外来
内分泌外来
乳児健診外来
免疫外来
予防接種外来

Message

東京医科歯科大学病院小児科では、「最高レベルの一般診療と最先端の専門医療」を目指しています。幅広い一般診療を提供すると共に、特に医療の助け、医療の進歩、社会的支援が必要な難病を抱える患者さんに対して、最善の医療を提供し、よりよい医療の開発を目指します。成人に至るまでの大切な成長時期をあずかる診療科として、温かく良質な医療を心掛けたいと思っています。

新生児集中治療室（NICU：Neonatal ICU）

Neonatal Intensive Care Unit

Dial-in
● 03–5803–5396

早産児や病的新生児、合併症をもつ母体より出生した児の受け入れを通して、地域の周産期医療に貢献します。

● **室の概要**

NICUは、早産児や先天性の病気をもって生まれた赤ちゃん、呼吸障害や出生時仮死などで出生後すぐに具合が悪くなった赤ちゃんの集中治療を行う治療室です。当院NICUは、病床数は6床で小児科病棟内にあります。状態が改善し、集中治療の必要がなくなった児は、GCU6床で退院までのgrowing careを行います。

● **取り扱うおもな疾患**

在胎27週以上、出生体重800g以上の早産、低出生体重児、新生児呼吸障害、出生時仮死などの病的新生児を対象としています。また生後間もなくのお子さん達の心臓手術や小児外科手術も行っています。

● **おもな診断・治療法**

診　断：超音波診断装置や気管支鏡など各種画像検査

治療法：nasal CPAP、high flow nasal cannula、人工呼吸器管理、一酸化窒素吸入療法、交換輸血、低酸素性虚血性脳症に対する低体温療法、腹膜透析などの集中治療

● **高度な先進医療**

低酸素性虚血性脳症に対する低体温療法や、新生児遷延性肺高血圧・周術期の新生児の肺高血圧に対する一酸化窒素吸入療法などの先進医療を、小児科各分野専門医師や関連他科の医師と連携して、専門的なアプローチにより行います。

室長

杉江 学 *SUGIE Manabu*

専 門 医●日本小児科学会認定
小児科専門医・指導医
日本周産期・新生児医学会認定
新生児専門医・指導医
専門分野●新生児学全般
研究領域●新生児再生医療（間葉系幹細胞を用いた脳室周囲白質軟化症の治療法開発）

Message

当院NICUは周産・女性診療科や小児科他分野専門医とともに東京都周産期医療ネットワークの一員として地域の周産期医療に貢献しています。NICUに入院した赤ちゃんとご家族に寄り添いながら、より良い新生児医療を提供できるようスタッフ一同力を尽くします。

周産・女性診療科

Perinatal and Women's Medicine

Dial-in
● 03–5803–5684

女性のライフステージにおける様々な疾病に対し、高度で安全な医療を提供し、女性の生涯を支えます。

● **診療科の概要**

生殖内分泌、周産期、婦人科良性腫瘍、婦人科悪性腫瘍、女性ヘルスケアなどの専門グループによって診療を行っており、産科婦人科領域全般にわたって最先端の医療を提供しております。また、それぞれの専門グループの横の連携を強化して、全人的な治療を実施しております。

● **取り扱うおもな疾患**

生殖内分泌疾患（月経異常、不妊症、不育症）、がん・生殖医療（未受精卵子凍結、卵巣組織凍結、精子凍結）、周産期医療（出生前診断、正常妊娠・分娩、ハイリスク妊娠・分娩）、婦人科良性腫瘍（子宮筋腫、卵巣嚢腫など）、婦人科悪性腫瘍（子宮がん、卵巣がんなど）、女性ヘルスケア（更年期障害、骨粗鬆症、不眠症、骨盤臓器脱、性感染症など）。

● **おもな診断・治療法**

不妊症例では一般的な不妊症検査や必要に応じて遺伝学的着床窓検査などの特殊検査を行い、一般不妊治療から生殖補助医療まで実施しており、良好な成績を得ております。周産期医療では正常妊娠以外にも、総合病院である特徴を生かして、関連各科と協力の上、様々な基礎疾患や合併症を有する女性の妊娠分娩管理を行っております。婦人科腫瘍については、術前から放射線科との合同カンファレンスを実施して、最適な手術、治療方法を検討し、良好な手術成績を得ております。女性ヘルスケアでは、メンタルヘルスアセスメント、健康栄養アセスメント、血液検査、骨量測定などを総合的に判断し、栄養管理、運動療法、ホルモン補充療法・漢方療法など個々人に合わせた治療方法を選択しております。

● **高度な先進医療**

不妊治療では人工授精、体外受精、顕微授精、胚凍結、がん・生殖医療（卵子凍結、精子凍結、卵巣組織凍結）を実施しております。当院は新生児集中治療室（NICU）を併設する地域周産期母子医療センターです。出産前から産科、助産師、小児科、精神科、遺伝診療科、医療福祉センターと毎週合同カンファレンスを行い、基礎疾患を有するハイリスクの妊娠女性が、出産だけでなく、その後の育児にも支障を来さないようにサポートしております。婦人科腫瘍では腹腔鏡手術、子宮鏡手術、ロボット支援下手術をなどの低侵襲手術を積極的に取り入れております。悪性腫瘍については、術後に病理との合同カンファレンスを実施し、ゲノム情報も駆使して最適な術後補助療法の実施に努めております。また遺伝性乳がん卵巣がん症候群の専門外来も実施しております。

● **診療科における研究テーマ**

将来の加齢性慢性疾患に関連する子宮内環境とエピゲノム変化／子宮内胎児発育軌跡の個別化／分娩後女性の健康管理／周産期におけるメンタルヘルスと酸化ストレス／胎児母体間コミュニケーションと陣痛発来メカニズム／ HBOC に対するRRSOとサーベイランス／レーザー光を用いた新規コルポスコピーの開発／術前MRIを用いた婦人科悪性腫瘍のテクスチャー解析／着床前胚における遺伝子発現の網羅的解析／ステロイド代謝異常症例の内分泌学的および遺伝学的解析／体外受精に用いる培養液の最適化の検討／更年期障害治療薬内服による血管機能制御の検討／ミドルエイジ女性の栄養と身体的精神的健康に関する検討

● **その他**

女性の生涯は、初経、妊娠出産、閉経と言った節目が存在し、ライフステージも思春期、性成熟期、更年期、老年期に分類されます。それぞれのライフステージにはそれぞれの特有な疾患が発生します。私たちの診療科では、それぞれの領域のエキスパートが緊密に連携し、疾患だけでなく、その女性の人生にとって最適な治療ができる様に心がけております。また病院にアートを取り入れて、来院する患者さんやご家族の気持ちを明るく前向きにしようと、外来および病棟に心安らぐ作品を配置しています。

科長

宮坂 尚幸 *MIYASAKA Naoyuki*

母体保護法指定医

専 門 医●日本産科婦人科学会認定
産婦人科専門医
専門外来●周産期外来
超音波外来
婦人科腫瘍外来
更年期外来
女性心身症外来
生殖医療外来
HBOC 外来（婦人科）
がん・生殖（妊孕性温存）外来

Message

医療が高度化し細分化される中で、産婦人科医療は、二つの個体からもう一つの新しい個体が発生する生殖医療に始まり（生殖医学）、母児が命がけで臨む出産の現場に立ち会い（周産期医学）、加齢とともに生じる女性特有の問題（女性医学）や悪性腫瘍（婦人科腫瘍学）と対峙するなど、女性の一生に関わる診療科です。当科では、それぞれの部門のエキスパートが有機的に連携・協働し、総合力を駆使して高度な医療を提供すると同時に、高度な医療人養成に全力を尽くしております。

脳神経外科
Neurosurgery

Dial-in
● 03–5803–5676（外来）

脳神経外科手術に関して患者さんごとに最新最善の治療を用いて、最良の結果が得られるようにしています。

● **診療科の概要**

脳・脊髄腫瘍、脳血管障害、外傷、機能的脳神経外科など、脳脊髄に関わる全分野に対応しています。大学病院の特性として、他科と連携し難易度の高い疾患にも幅広く対応しています。最先端医療技術のもと、最先端機器を用いた高いレベルでの治療法をご提示します。また、CT、MRI、PETなどの各種画像診断機器を用いて、24時間体制で疾患の早期診断にも努めています。脳卒中センター、神経難病先端治療センター、頭頸部・頭蓋底腫瘍先端治療センター、てんかんセンターや、他科との連携を強めた総合的治療を行っています。

● **取り扱うおもな疾患**

脳・脊髄腫瘍（頭蓋底腫瘍、神経膠腫、間脳下垂体腫瘍など）、血管障害（脳動脈瘤、脳動静脈奇形、内頸動脈狭窄症など）、もやもや病、三叉神経痛、顔面けいれん、難治性てんかんは特に豊富な経験があります。

● **高度な先進医療**

脳卒中センター、神経難病先端治療センター、頭頸部・頭蓋底腫瘍先端治療センター、てんかんセンターでは各病態に対して集学的治療を提供します。もやもや病、間脳下垂体腫瘍、難治性てんかん、頭蓋底腫瘍は、最先端レベルの治療を行っています。

● **診療科における研究テーマ**

脳腫瘍：脳腫瘍の増殖・浸潤機序の解析、遺伝子治療などの新たな治療方法の開発、頭蓋底腫瘍に対する新たな治療技術の開発

脳血管障害：PET、MRIを用いた脳循環代謝の研究、もやもや病の遺伝子研究、血管攣縮の病態解析と治療法の開発

てんかん：病態解析と治療の研究、脳機能の電気生理学的解析

三叉神経痛、顔面けいれん：病態解析と新たな画像診断の開発

神経外傷：外傷における脳循環代謝、神経伝達物質の研究と治療法の開発

科長
前原 健寿 *MAEHARA Taketoshi*

専 門 医●日本脳神経外科学会認定　脳神経外科専門医
日本脳卒中学会認定　脳卒中専門医
日本てんかん学会専門医
日本がん治療認定医機構認定医
日本臨床神経生理学会認定　脳波専門医
日本脳卒中の外科学会認定　技術指導医
専門分野●てんかんの外科治療
研究領域●てんかんの病理学的解析と治療
頭蓋内電極を用いた脳機能の解明

Message

脳神経外科では、脳腫瘍、脳血管障害、脳機能性疾患、脳神経救急疾患など様々な疾患に対して迅速に対応できる臨床治療体制をとっています。境界領域の困難な症例に対しても、他科と協力して積極的な治療を行っています。難治性てんかんの外科治療、もやもや病の治療、悪性脳腫瘍の研究など多くの先端治療も行っています。脳外科領域の疾患でお困りの場合にはぜひお気軽にご相談下さい。

脳神経内科
Neurology

Dial-in
● 03–5803–5670（内科外来）

脳卒中や認知症などの神経疾患に対し丁寧で正確な診察、高度な技術、最新の医療機器で最先端の治療を行います。

● **診療科の概要**

アルツハイマー病に代表される認知症、脳梗塞や一過性脳虚血発作といった脳卒中など、超高齢化社会において避けては通れない疾患をはじめとして、筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病といった様々な神経変性疾患、またギラン・バレー症候群、多発性硬化症、（重症）筋無力症、多発性筋炎といった神経免疫疾患に対して、最先端の医療を提供します。

● **取り扱うおもな疾患**

アルツハイマー病・レヴィー小体病などの認知症、脳梗塞・脊髄梗塞などの脳脊髄血管障害、頭痛・てんかんなどの機能性疾患、パーキンソン病・脊髄小脳失調症・筋萎縮性側索硬化症などの神経変性疾患、多発性硬化症などの脱髄性疾患、脳炎・髄膜炎・脊髄炎などの炎症性疾患、ギラン・バレー症候群・慢性炎症性脱髄性神経根炎・顔面神経麻痺・三叉神経痛・手根管症候群などの末梢神経障害、（重症）筋無力症・多発性筋炎・筋ジストロフィーなどの筋疾患、ミトコンドリア脳筋症・周期性四肢麻痺・表層ヘモジデローシスなどの代謝性疾患、脊髄空洞症などの先天性疾患、その他糖尿病や膠原病に伴う神経障害などを扱います。

● **おもな診断・治療法**

尿・血液検査、神経伝導検査や針筋電図、脳波などの電気生理学検査、神経・筋生検、血液検体からの遺伝子診断、CT/MRIやPET/SPECT（シンチグラフィ）などの画像診断といった最先端の医療技術を駆使して診断します。脳血管障害に対する経静脈的血栓溶解療法、血管内治療、神経免疫疾患に対する免疫抑制剤や抗体治療、免疫グロブリン大量静注療法、血漿交換療法、痙縮に対するバクロフェン髄注（ITB）療法、ボツリヌス、抗てんかん薬や抗パーキンソン病薬の薬物調整、脳深部刺激療法などを行っています。

● **高度な先進医療**

神経難病治療センターが併設されており、神経変性疾患や神経免疫疾患といった神経難病における新しい生物学的製剤、新規分子標的治療、核酸医薬、自己末梢血幹細胞移植治療や骨髄移植治療など、他科とも協力しながら最先端の治療を行っています。

● **診療科における研究テーマ**

核酸医薬を用いたアルツハイマー病、筋ジストロフィー、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症の根治療法、先端的脳画像による病態解明、多モダリティー学習を行う「人工知能」の開発、脳神経生理機能の解析による病態生理解明と新しい診断法の開発、免疫性神経疾患の病態解明と新たな分子標的治療法の開発などを行っています。

● **その他**

神経系は人格を規定する臓器である脳と脊髄などの中枢神経、さらにそこから全身に巡る末梢神経を介して、目覚め、話し、笑い、走り、食べ、呼吸するなど人のあらゆる営みをコントロールしています。したがって、その病気は実に多種多様であり、症状は多彩であり、非常に専門分化していると思われがちですが、実は最も広く全身を診る診療科です。前述のように、診療には高度な技術や医療機器を使いますが、脳神経内科診療の基本は何よりも丁寧で正確な診察にあります。

科長
横田 隆徳 *YOKOTA Takanori*

専 門 医●日本内科学会　認定内科医
日本神経学会認定　神経内科専門医
日本臨床神経生理学会　専門医
（脳派分野、筋電図分野）
専門分野●神経内科学
神経生理学的検査学
遺伝子治療学
研究領域●神経内科学（特に筋萎縮性側索硬化症、アルツハイマー病などの神経変性疾患と多発性硬化症や自己免疫性ニューロパチーなどの神経免疫疾患）
核酸医薬創薬

Message

脳神経内科は治療法のない稀な慢性疾患を診る科、とよく誤解されていますが、実際は意識障害、けいれん、脳卒中、髄膜炎・脳炎などの急性疾患から、アルツハイマー病などの多くの認知症のような慢性疾患まで広汎な疾患を対象としています。また、頭痛、てんかん、神経感染症、神経免疫疾患などよく治るコモンな疾患が多く、難治性の神経変性疾患も研究や治療法の開発が進展しつつあります。
九段坂病院と連携して認知症予防外来を開設し、最先端の検査や最適な予防の指導を提供しています。

血管内治療科
Endovascular Surgery

Dial-in
● 03–5803–5676

外科治療、内科治療では治療困難な脳、頭頸部の血管の病気をカテーテルを用いて治療します。

● **診療科の概要**
脳神経外科、脳神経内科と連携して治療困難な脳、頭頸部、脊髄の血管の病気をカテーテルを用いて治療します。その他、頭頸部外科、整形外科で行う腫瘍摘出術をより安全に行うために腫瘍を栄養する血管の塞栓術も行っています。
脳神経外科、脳神経内科、高度救命救急センター、血管内治療科の４科合同で連携した脳卒中センターでは超急性期脳梗塞治療を行っています。

● **取り扱うおもな疾患**
脳動脈瘤、脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻、脊椎・脊髄血管奇形、脳動脈狭窄症、脳梗塞、脳腫瘍、頭頸部腫瘍、脊椎腫瘍

● **高度な先進医療**
脳卒中センターでは超急性期の脳梗塞患者さんの血栓回収療法を行っています。
脳血管内手術として、脳動脈瘤コイル塞栓術、Flow diverter ステント留置術（PIPELINE 留置）、脳動静脈奇形塞栓術、頸動脈ステント留置術、脳血管形成術、硬膜動静脈瘻塞栓術、脳腫瘍塞栓術などあらゆる脳頭頸部・脊髄疾患の血管内治療を実施しています。とくに巨大動脈瘤や硬膜動静脈瘻などの治療が難しい疾患についても数多くの経験があり、高度な医療を提供しています。

● **診療科における研究テーマ**
1）**臨床研究**：超急性期脳卒中の治療、硬膜動静脈瘻の疫学的研究
2）**基礎研究**：脳動脈瘤のコンピューター血流解析、3D プリンターを用いた脳動脈瘤、脳動静脈奇形モデル作成、血管内治療トレーニングシステム開発、脳血管内治療デバイスの新規開発

科長
壽美田 一貴 *SUMITA Kazutaka*

専 門 医●日本脳神経外科学会認定
脳神経外科専門医
日本脳神経血管内治療学会認定
脳血管内治療専門医・指導医
日本脳卒中学会認定　脳卒中専門医
日本神経内視鏡学会認定　技術認定医
日本小児神経外科学会認定医
がん治療認定医
日本脳神経外傷学会　認定指導医
専門外来●脳動脈瘤
硬膜動静脈瘻、脳動静脈奇形
頭部・頸部虚血性疾患
脳腫瘍

Message

血管内治療科は脳卒中をはじめ頭頸部の血管性病変に対して開頭手術を行わずにカテーテルを用いて治療する診療科です。低侵襲な治療により、患者さんの負担が少なく、早期退院できるのも特徴です。研究ではより安全な治療を行うためのシミュレーション、トレーニングシステムの開発を行っています。多くの脳卒中患者さんを救うために最新の医療機器により最先端の医療を行っています。

精神科
Psychiatry

Dial-in
● 03–5803–5673

こころの健康を守るニーズに応える診療・研究体制を整え、安全で効果の高い最新の治療を提供しています。

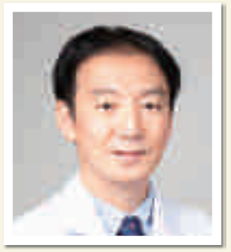
● **診療科の概要**
外来は、新患、再来ともに予約制による診療を行っています。通常の診療のほか、各種専門外来を行っています。登録者は大規模デイケアを利用できます。入院は、41 床の開放病棟ですので、興奮が著しいなどの閉鎖処遇が必要なかたの対応は困難です。おもに、診断確定、休息、心理教育、電気けいれん療法、身体合併症管理などを目的としています。

● **取り扱うおもな疾患**
統合失調症、気分障害（うつ病、双極性障害）、神経症性障害（社交不安障害、パニック障害、強迫性障害など）、器質性精神障害（認知症、てんかん）、睡眠障害、パーソナリティ障害、依存症など。

● **おもな診断・治療法**
入院の方の診断はカンファレンスで多面的に検討して行っています。治療は、薬物療法、精神療法、小集団精神療法、心理教育、デイケアなど、患者さんの状態に応じ、組み合わせて行っています。難治性の方には修正型の電気けいれん療法 (mECT) やクロザリル治療にも取り組んでいます。

● **診療科における研究テーマ**
統合失調症や気分障害、依存症をはじめとする精神疾患の脳科学に基づく病態研究、客観的な診断法および新規の治療法の開発。客観的・科学的手法やエビデンスに基づいた心理社会学的治療法の開発などにチャレンジしています。また、臨床から生まれる日常的な疑問を解決していくアプローチでの研究立案も積極的に行っています。

● **取り組み**
ネット依存外来、気分障害再発予防、周産期メンタルヘルス、歯科連携、てんかん、快眠外来などの各種専門外来に力を入れています。外来デイケアでは、双極性障害集団心理教育やネット依存症などの専門プログラムが行われ、疾病理解や再発防止に役立てられています。また、難治性統合失調症に対する治療薬として認可を受けているクロザリルによる治療や、様々な臨床試験に取り組んでいます。



科長
髙橋 英彦 *TAKAHASHI Hidehiko*

専 門 医●日本精神神経学会認定 精神科専門医
専門分野●統合失調症
依存症
脳画像
研究領域●精神疾患の病因・病態研究
専門外来●ネット依存外来
てんかん外来
周産期メンタルヘルス外来

Message

わが国では精神疾患が５大疾患の一つに指定され、私たちのこころの健康を守る重要性が一層クローズアップされています。精神科では、こうしたニーズに応える診療・研究体制を整え、広くさまざまなこころの障害に対して、安全で効果の高い最新の治療を提供しています。こころの問題も早期発見が大切です。お気軽にご相談下さい。

心身医療科
Psychosomatic and Palliative Medicine

Dial-in
● 03–5803–5673

身体の病気をもつ患者さんやそのご家族の こころの問題に対応しています。

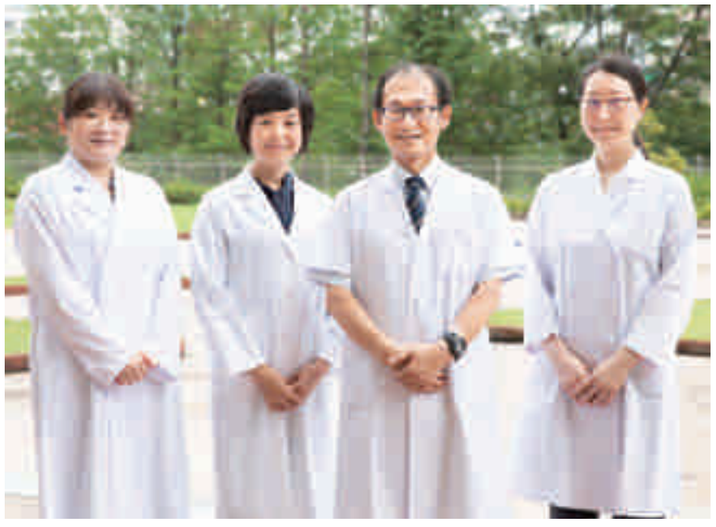
● **診療科の概要**
基本的には、がんや生活習慣病など、身体の病気をもつ当院通院中の患者さんやそのご家族の不安・抑うつ、不眠など、こころの問題に対応しています。こうした精神的・心理的問題に対して、全人的医療の立場から、薬物療法、精神療法、心理士によるカウンセリング、緩和的アプローチなどで積極的に対処しています。身体科と連携して診療を行う必要があるため、原則として、当院の身体各科からのご紹介に応じる形で診療をいたします。

● **おもな診断・治療法**
診断はすべて面接による問診を中心とし、これに心理検査、脳波、脳画像などを適宜加えて総合的に行います。治療は薬物療法と一般的な支持的精神療法が中心です。

● **取り扱うおもな疾患**
うつ病や不安障害、不眠症などの精神疾患全般、がんや生活習慣病などの身体疾患をもつ患者さんおよびそのご家族の精神心理的問題

● **診療科における研究テーマ**
大きく分けて以下の２種類のテーマに取り組んでいます。
1.　身体疾患を持つ患者さんの心理・社会的側面や精神症状に関する研究
2.　精神・神経疾患をもつ患者さんを対象とした、脳波、心電図、眼球運動などの神経生理学的研究

● **取り組み**
高度な歯科治療や、血液疾患に対する骨髄移植などを支えるべく、精神的な問題が生じる前から定期的にお話を伺う機会を設けるなどの予防的な取り組みを行っています。緩和ケアチームの一員としての活動や、てんかんセンターへの診療協力を行っています。



科長
竹内 崇 *TAKEUCHI Takashi*

専 門 医●日本精神神経学会認定
精神科専門医・指導医
一般病院連携精神医学専門医
臨床精神神経薬理学専門医
日本サイコオンコロジー学会認定登録
精神腫瘍医
専門分野・研究領域●
コンサルテーション・リエゾン精神医学
サイコオンコロジー
専門外来●精神腫瘍外来

Message

身体の病気を抱えている患者さんやそのご家族の中には、精神心理的なストレスや社会的な負担が大きく、専門的なサポートを必要としている方も多くみられます。私どもの診療科は、そうした患者さんやご家族に対応するためにあります。いま患者さんがおかかりの身体各科と連携して治療を進め、もともとの身体疾患の診療が円滑に進められるようにしていきます。

麻酔・蘇生・ペインクリニック科
Anesthesiology

Dial-in
● 03–5803–5685

手術を受けられる方が対象の周術期管理、慢性的な 痛みに悩む方のための疼痛メカニズムの解明、 それに基づいた診断・治療に取り組んでいます。

● **診療科の概要**
周術期管理では、術前診察による綿密な評価と麻酔計画の立案を行い、術中管理では、安全な麻酔管理の下、手術に伴う疼痛刺激やストレス反応を最小限に抑えます。術中から術後にかけては、各種神経ブロックの併用などにより、疼痛管理を行い、早期離床・早期回復を目指したサポートを行います。
ペインクリニック外来では、神経ブロック、薬物療法、および対話療法によって痛みの緩和を行います。中でも、電気生理学に基づいた痛みの診断と治療が特徴です。神経ブロックは、帯状疱疹後神経痛や腰痛などの一般的な痛みから、癌性疼痛、自律神経失調症、アレルギー性鼻炎、血行障害までカバーします。また、高気圧治療部との連携により、突発性難聴、血行障害、複雑性局所疼痛症候群などに対して、高気圧酸素治療と神経ブロックとを効率よく組み合わせた治療を行います。

● **取り扱うおもな疾患**
周術期管理：手術室で行われる手術や、血管内治療などで麻酔科管理となる症例全般が対象となります。
ペインクリニック：疼痛一般（神経障害性疼痛、帯状疱疹後神経痛、腰痛、三叉神経痛、癌性疼痛など）

● **おもな診断・治療法**
手術における麻酔では、全身麻酔、脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔、末梢神経ブロックなどの組み合わせにより、麻酔管理が行われます。術後の疼痛管理の目的で、患者自己調節鎮痛法（PCA:patient controlled analgesia）が使われることがあります。
ペインクリニックでは、顔面・上肢などの有痛性疾患や血行障害に対しては、交感神経ブロックである星状神経節ブロックを行い、痛み、しびれ、麻痺などの症状を緩和します。
体幹や腰下肢の痛みに対しては、硬膜外ブロックやトリガーポイント注射などで対応します。X 線透視下で、脊髄神経根付近に局所麻酔薬やステロイドを投与することもあります。

● **高度な先進医療**
周術期管理においては、様々な外科系診療科の最先端の術式にも、外科系診療科とチームを組みながら、適切な麻酔方法で対応しています。
癌性疼痛に対して、薬物療法の他、神経ブロック（腹腔神経叢ブロック、上下腹神経叢ブロック、神経根ブロック、硬膜外ポート留置など）で緩和療法を行います。
高気圧治療と神経ブロックの併用による痛みの治療は当院の特徴的治療法です。

● **診療科における研究テーマ**
周術期管理領域：
- 術後早期回復プログラムに即した経口補水液の開発
- 周術期血液凝固機能に関する新規全血検査法の臨床検討
- 周術期バイオマーカーの検討：術中臓器機能障害を血液・尿などの検体から早期に診断を付けるためのバイオマーカーについて検討を行っています。
- 周術期データベースの構築と予後解析

ペインクリニック領域：
- 電気生理学による痛みの診断
- 脳機能イメージングによる慢性的な痛みのメカニズム解明と診断法開発

● **その他**
当科では年間約 5,000 人の手術患者さんの麻酔管理を行っています。安全で質の高い麻酔を受けて頂くために、毎日外来で患者さんを術前診察して綿密な麻酔計画を立てています。

科長
内田 篤治郎 *UCHIDA Tokujiro*

専 門 医●日本麻酔科学会認定　麻酔科専門医
専門分野●麻酔科学
研究領域●周術期管理医学
バイオマーカー
急性肺傷害
麻酔薬の臨床薬理

Message

①痛みの強さを客観的に表す指標がなく、他人には分かってもらえないもどかしさがあります。ペインクリニック外来では科学的な痛みの評価法、慢性的な痛みのメカニズム解明とそれに基づいた診断と治療を目標に診療を行っています。
②麻酔前診察：麻酔科外来では麻酔を受けられる患者さんのために、麻酔前の問診と診察および検査結果の評価を行うことにより、安全な麻酔を行うように努めています。

放射線治療科
Radiation Oncology

Dial-in
● 03–5803–5311

当院ならではの高度な放射線治療を行います。

● **診療科の概要**
当院の全ての診療科と連携をとり、多領域にわたるがんや一部の良性疾患に対し、単独治療あるいは集学的治療の一端として、根治的治療から緩和治療まで幅広く放射線治療診療を行っています。

● **取り扱うおもな疾患**
体の全ての領域のがんとケロイドなどの一部の良性疾患が治療の対象となりますが、頭頸部領域のがんが多いのが当科の特徴です。

● **おもな診断・治療法**
強度変調放射線治療（IMRT）や定位照射治療を含めたX線による外部照射治療やRALS（Remote-controlled After Loading System）を用いた高線量率小線源治療、イリジウムや金粒子、ヨウ素を用いた低線量率密封小線源治療を行っています。病気の状態はもちろん、その方の状態や希望に合わせ、当方で提供できる最善の方法で治療を行っていきます。

● **高度な先進医療**
強度変調放射線治療（IMRT）をはじめ、高精度放射線治療に順次取り組んでいます。
口腔がんの小線源治療は当院の放射線治療として特徴のある治療法です。

● **診療科における研究テーマ**
・小線源治療に関する可能性の追求と臨床的評価
・高精度放射線治療の適応拡大

科長
吉村 亮一 *YOSHIMURA Ryoichi*

専 門 医●日本医学放射線学会認定
放射線治療専門医
専門分野●放射線治療
研究領域●放射線治療

Message

二人に一人ががんを患うとされている今日、社会生活を送りながら、あるいは社会復帰を容易になし得るがん治療方法として、放射線治療の役割は大きくなっています。私たち放射線治療科のスタッフは東京医科歯科大学病院ならではの高度な放射線治療を提供できるよう努力しております。

放射線診断科
Diagnostic Radiology

Dial-in
● 03–5803–5311

最先端の画像診断、放射線を使った低侵襲な診断やがん治療を実現します。

● **診療科の概要**
放射線診断科では臨床各科と連携しながら画像診断を基盤とした診療を行っています。 PET/CT、3テスラMRIなどをはじめとして各種の画像診断機器を駆使し、適切な画像診断を行っております。また画像ガイド下に行う生検やカテーテル治療（IVR）も積極的に行っています。

● **取り扱うおもな疾患**
・悪性腫瘍
・血管疾患
・外傷
・炎症・変性疾患

● **おもな診断・治療法**
・PET/CT、MRI、CT、RI、超音波、血管造影など画像診断一般
・肺・乳腺疾患を対象とした画像ガイド下の生検
・体幹部・四肢血管疾患に対する画像ガイド下のカテーテル治療（IVR）

● **高度な先進医療**
PET/CTでは関連病院の患者さんの検査を積極的に受け入れて診断結果を提供しております。またERを受診された患者さんの夜間・休日の緊急検査にも対応しています。

● **診療科における研究テーマ**
・新規心筋血流PET製剤の開発
・新規前立腺癌PET診断・治療薬の開発
・新規認知症PET製剤の開発
・新規膵癌PET診断・治療薬の開発
・新規内用療法治療薬の開発
・乳癌ハイリスクに対するMRI 検診
・AIによる乳腺画像診断モデルの開発
・MRIによる新たなクローン病活動性評価法の開発
・MRIによる泌尿器科癌の診断法の開発

科長
立石 宇貴秀 *TATEISHI Ukihide*

専 門 医●日本医学放射線学会認定
放射線診断専門医
日本核医学会認定　核医学専門医
専門分野●画像診断
核医学
研究領域●画像医学
分子イメージング

Message

放射線診断科では最先端の診断機器を用いてあらゆる領域の画像診断・核医学診断を行い、臨床各科に貢献しています。IVRではがんや血管病変の治療だけでなく、ERからの緊急止血などにも対応しています。

光学医療診療部
Department of Endoscopy

Dial-in
● 03–5803–5669

重症患者さんが少しでも安全かつ快適に国際的にも認められる高度医療を受けられるように努めております。

● **部の概要**

消化器内視鏡は、消化器疾患の基本的な検査方法であるとともに、体への負担の少ない治療法としても重要な分野です。がんに加え、若年層を中心に炎症性腸疾患等も増えており、これらに対応すべく、食道外科、胃外科、大腸・肛門外科等の各科と密接に連携して最善の、やさしい内視鏡診断・治療を心がけています。さらに、近年進歩の著しい、経鼻内視鏡、拡大内視鏡、画像強調内視鏡（NBI、BLI、LCI）、カプセル内視鏡、バルーン内視鏡、人工知能（AI）を駆使した診断等を開発導入し、先進的な診療を行っています。

● **おもな診断・治療法**

年間約1万件の上部消化管内視鏡（いわゆる胃カメラ）、下部消化管内視鏡（いわゆる大腸カメラ）に加えてカプセル内視鏡、バルーン内視鏡、超音波内視鏡等を行い、全消化管を対象に検査をしています。また、出血に対する止血、早期がんに対するEMR（Endoscopic mucosal resection）、ESD（Endoscopic submucosal dissection）といった内視鏡的切除、悪性腫瘍や内視鏡治療後の瘢痕や炎症性腸疾患に伴う狭窄の拡張、ステント留置、胆膵領域では結石除去等の内視鏡治療を行っています。またのどをよく診るために、苦痛の少ない経鼻内視鏡を積極的に活用し、早期がんの発見に努めています。

● **高度な先進技術**

早期食道がん、早期胃がんや早期大腸がん等に対し内視鏡による切除を行っています。頭頸部外科と協力して頭頸部がんの内視鏡切除に取り組んでいます。また、バルーン内視鏡、カプセル内視鏡を用いた、これまで直接みることの困難であった小腸の病気、特にクローン病の診断や治療を行っております。さらに胆膵領域では、超音波内視鏡ガイド下に病理検査を行い、低侵襲に確定診断をしています。

● **取り扱うおもな疾患**

食道がん、胃がん、大腸がん等の消化管のがん、胃や大腸のポリープといった良性腫瘍、さらに潰瘍性大腸炎やクローン病等の炎症性腸疾患や小腸疾患に力をいれています。その他、膵嚢胞性疾患や膵内分泌腫瘍の診断も行っています。

● **診療科における研究テーマ**

バルーン内視鏡等の小腸内視鏡の開発や、それらを用いた診断法や治療法の研究を行っています。また大腸内視鏡による早期大腸がんの診断と治療も大きな研究テーマです。

● **取り組み**

潰瘍性大腸炎・クローン病先端治療センターと連携して、正確な診断、そして体への負担が小さい内視鏡治療を行って、よりよい炎症性腸疾患の治療をめざしています。食道がんと頭頸部がんは密接に関連があるため、口腔外科や耳鼻咽喉科、放射線科と連携して積極的内視鏡スクリーニングを行っています。

部長
大塚 和朗 *OHTSUKA Kazuo*

専 門 医●日本内科学会認定　総合内科専門医
日本消化器病学会認定　消化器病専門医
日本消化器内視鏡学会認定
消化器内視鏡専門医
専門分野●炎症性腸疾患
小腸内視鏡
大腸内視鏡
内視鏡治療
カプセル内視鏡
研究領域●小腸内視鏡の開発
炎症性腸疾患の診断と治療

Message

内視鏡技術の進歩は、食道や胃、大腸のみならず、深部小腸等全消化管への到達を可能としました。さらに通常の光ではとらえられない変化も、特殊な照明や、画像処理、拡大観察により見えるようになってきました。光学医療診療部は、見えるものはもちろんのこと、見えないものも見えるようにして的確な診断、負担の少ない治療を行ってまいります。

高気圧治療部
Hyperbaric Medical Center

Dial-in
● 03–5803–4517

放射線障害・スポーツ外傷や新たな疾患に対する高気圧酸素治療の研究・実践に取り組んでいます。

● **部の概要**

高気圧治療部では、16名同時に治療可能な日本最大級の治療装置を保有しています。当院では、一日複数回の治療枠があり、年間6,000名前後の患者さんの治療を行っています。世界的にも広く行われている治療法で、ダイビングによる減圧症や、一酸化炭素中毒等の救急疾患と、慢性骨髄炎等、慢性疾患に適応があります。昨今、創傷治癒（傷の治り）を早める効果が認められ、世界的にも難治性潰瘍、放射線性障害・潰瘍の治療に高気圧酸素治療が積極的に行われています。当院ではスポーツに関連する外傷のほか、新たな疾患に対する高気圧酸素治療の研究・治療に積極的に取り組んでいます。

● **おもな診断・治療法**

多くの疾患に対する高気圧酸素治療は、最大気圧2.0～2.8気圧、合計 90分～120分です。疾患によって治療回数が異なり、数回～数十回の治療となります。減圧症に対しては、約5時間の高気圧酸素治療が基本です。高気圧酸素治療では気圧の変化があるため、加圧減圧時に耳抜きが必要です。アメやペットボトル飲料のご持参をお勧めします。予約制ですので、紹介状のご持参、もしくは事前のお問い合わせをお願い致します。

● **高度な先進技術**

日本最大級の治療装置を用い、特殊なアプローチでの治療を行っています。特に、遅発性放射線障害である放射線性膀胱炎、直腸炎、咽頭潰瘍等で高い有用性があります。スポーツ外傷に対する治療も積極的に施行し、早期競技復帰を支援します。

● **取り組み**

遅発性放射線障害については、がん治療を行っている他の病院との連携を強化して積極的に治療を行っています。スポーツ外傷に関しては、日本スポーツ振興センターや国立スポーツ科学センターと連携して、トップレベルの選手の外傷対応を行っています。

部長
柳下 和慶 *YAGISHITA Kazuyoshi*

専 門 医●日本整形外科学会認定
整形外科専門医
専門分野●高気圧酸素
スポーツ医学
研究領域●スポーツ外傷に対する高気圧酸素治療

Message

高気圧酸素治療は、2気圧以上で100%酸素を吸入することで、全身に酸素を供給する治療法で、酸素によって治療可能な病態を改善します。当院では1966年より本治療の研究を開始し、2001年には現在の大型装置を導入し、中央診療部として運用が開始されました。ユニークな治療法で多岐にわたる適応疾患があります。安全な治療を基本とし、新たな可能性を探りながら、本特殊治療の臨床と研究に従事致します。

歯系診療科
のご紹介

矯正歯科	87
小児歯科	88
障害者歯科外来	89
むし歯科	90
歯周病科	91
義歯科	92
スポーツ歯科外来	93
快眠歯科(いびき・無呼吸) 外来	94
顎顔面補綴外来	95
言語治療外来	96
高齢者歯科外来	97
歯科アレルギー外来	98
顎関節症外来	99
口腔インプラント科	100
摂食嚥下リハビリテーション科	101
口腔外科	102
顎口腔変形疾患外来	103
歯科麻酔科	104
歯科ペインクリニック	105
歯科心身医療科	106
歯科放射線科	107
歯科総合診療科	108
息さわやか外来	109
クリーンルーム歯科外来	110
第1総合診療室／第2総合診療室	111
口腔健康管理科	112

矯正歯科
Orthodontics

Dial-in
● 03-5803-5752 ● 03-5803-5753

歯並び・かみ合わせの問題、顎の骨格的な変形、
先天的な疾患による問題まで、幅広い年齢層を対象に、
多岐にわたる矯正歯科治療を提供しています。

● **診療科の概要**
矯正歯科は、1929年に補綴部の中の診療科としてスタートしました。現在は咬合機能矯正学分野と顎顔面矯正学分野が診療を担当し、小児から成人までの幅広い年齢層の患者さんを対象に、一般的な歯ならび・かみ合わせの問題から、顎の骨格的な変形、先天的な問題、歯周病・歯の欠損などを伴うかみ合わせの問題まで、多岐にわたる患者さんを対象に治療を行っています。治療開始前の検査に対する詳細な分析後に、経験・知識が豊富な主任教授による診断を経ることで、エビデンスに基づいた診療を提供しています。さらに治療内容に関して臨床グループによる症例検討を定期的に行い、診療の質の向上と維持に努めています。

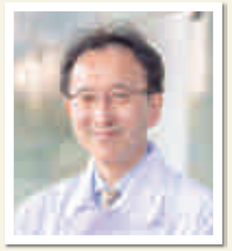
● **取り扱うおもな疾患**
叢生(乱ぐい歯)、上顎前突(出っ歯)、反対咬合(うけ口)、開咬(かみ合わない)や空隙歯列(すきっ歯)などの不正な歯ならびやかみ合わせに対する一般的な矯正歯科治療から、顎変形症への外科的矯正治療や口唇裂・口蓋裂などの先天性疾患にも対応しています。顎変形症と口唇裂・口蓋裂を含む厚生労働大臣が定める疾患に対する治療には健康保険が適用されます。

● **おもな診断・治療法**
・形態分析や顎運動、咀嚼筋筋活動などの機能検査を用いた診断
・成長期の患者さんに対する顎の成長を利用した矯正歯科治療
・3DCTを用いた3次元シミュレーション技術を駆使した外科的矯正治療
・改良型超弾性ニッケルチタンワイヤーを用いた矯正歯科治療
・自家歯牙移植を併用した矯正歯科治療

● **高度な先進医療**
さまざまな専門診療科と連携して集学的な治療を行います。
むし歯科・歯周病科・義歯科・口腔外科・小児歯科などの他の歯系診療部門、さらには、医系診療部門の専門診療科との連携により、一般的な医療機関では困難な集学的治療を実現することが可能です。特に、顎変形症や口唇裂・口蓋裂などの先天性疾患に対しては、定期的に口腔外科などとの合同カンファレンスを行い、チームアプローチによる綿密な連携ならびに協力体制を確立しています。さらに、先天性疾患では、治療開始前に患者さんとご家族に対してカウンセリングを行っています。

口腔育成系診療領域長
森山 啓司 *MORIYAMA Keiji*

専 門 医●日本矯正歯科学会
臨床指導医・指導医・認定医
日本口蓋裂学会
口唇裂・口蓋裂認定師(矯正歯科分野)
専門分野●歯科矯正学
顎顔面矯正学
研究領域●新規矯正歯科デバイスの開発
成長発育疾患の診断・治療法の開発
脳機能画像(fMRI)を用いた顎口腔機能の解析
不正咬合に関する疫学研究など



科長
小野 卓史 *ONO Takashi*

専 門 医●日本矯正歯科学会　指導医・認定医
専門分野●歯科矯正学
睡眠時無呼吸症候群
研究領域●不正咬合の病態生理および正常咬合の生物学的意義
移植歯に対する矯正力や咬合による機械的刺激の影響
矯正力に対する生物学的反応
改良型超弾性ニッケルチタンワイヤーの臨床応用
強化プラスチックワイヤーの開発
MRIにおける金属アーチファクト

Message

本学に矯正歯科の前身ができて100年近くになろうとしています。その間に蓄積した膨大な経験とデータをもとに、約100名の矯正歯科医が、日々総力を挙げて診療に取り組んでおります。患者さん一人一人とのコミュニケーションを大切にしていますので、歯並びやかみ合わせでお悩みの方はお気軽に受診してください。

小児歯科
Pediatric Dentistry

Dial-in
● 03–5803–5756

成長期の歯と口に関わるさまざまな問題に対して総合的に対応し、子どもたちの健全な成長発育に貢献します。

● **診療科の概要**
生涯を心身ともに健やかに過ごすためには、小児期から健康意識を高め、健全な口腔を育むことが大切です。当科では、新生児期から青少年まで全ての小児を対象に、歯科診療と育児支援を行っています。お子さんにとって歯科治療は不安で恐いものと思われがちですが、私たちは小児の行動科学に基づいて、患者さんとご家族の不安をできるだけ軽減し、安全な治療を提供しています。
地域の歯科医院では対応が難しいとされることの多い、先天的な問題や全身的な疾患、治療の協力を得られない患者さんに対しても、適切な対応と全身管理を行い、成長段階に合わせた継続的な口腔管理と口腔機能の改善を図る取り組みを行っています。

● **取り扱うおもな疾患**
おもな診療内容
1）う蝕・歯周疾患の予防・治療・管理
2）咬合誘導
3）小児の歯・口腔の外傷処置
4）小児の顎関節症の治療
5）埋伏過剰歯・歯牙腫・含歯性嚢胞・粘液嚢胞などの摘出、上唇小帯・舌小帯の伸展術などの外科的治療
6）成長発達期の口腔筋機能訓練
7）欠損歯の補綴

● **おもな診断・治療法**
成長発育期の口腔内の特徴を鑑みた、安全で確実な治療法をご提案いたします。

● **高度な先進医療**
歯髄光電脈波の定量解析による歯髄の血行動態および機能評価

● **取り組み**
医科連携として、小児科病棟の入院患者さんの口腔ケアや治療中の口腔管理を充実させ、オンライン診療の導入も進めています。また、周産女性診療科のマタニティクラスにおいて、妊婦や乳幼児への口腔ケア方法などの歯科指導を行っています。

科長
岩本 勉 *IWAMOTO Tsutomu*

専 門 医●日本小児歯科学会　専門医・指導医
日本口蓋裂学会　認定師(小児歯科分野)
専門分野●小児歯科学
研究領域●（1）歯および顎顔面の発生メカニズムの解明
（2）小児の歯と歯髄の診査法・診断・治療法の開発
（3）小児の顎・口腔機能に関する研究
（4）新規う蝕予防法および修復法の開発
（5）外傷を受けた幼若永久歯および乳歯に関する研究

Message

小児歯科では、子どもの患者さんに対する歯科治療だけでなく、養育者の方も含めた保健指導や予防管理を行うことで、歯科医療を通して児の健康自律獲得支援と育児支援に努めています。歯や咬み合わせの治療から、家庭での歯みがきの仕方、甘食の摂り方に至るまで、歯科に関するさまざまな悩みに対して、一人一人の個性と養育環境に寄り添った姿勢での対応を心がけております。

障害者歯科外来
Special Needs Dentistry

Dial-in
● 03–5803–5727

患者さんのスペシャルニーズに最善の治療を用いて最良の結果が得られるようにしています。

● **診療科の概要**
種々の障がいや病気等により歯科治療に際し、特別な対応（スペシャルニーズ）が必要な方に対して個々の状態に合わせ、歯科治療を進めていきます。必要に応じて、モニタリング、精神鎮静法や全身麻酔法を用いた治療を行っています。

● **取り扱うおもな疾患**
むし歯、歯周病、抜歯や入れ歯など包括的な歯科治療を行っています。

● **おもな診断・治療法**
診断に必要となる一般的な診断、検査を行います。また、より高度な検査が必要な場合は、適切な専門科との連携の上でより専門的な検査に進むことがあります。

● **取り組み**
かかりつけの医療機関および必要に応じて他の診療外来、治療部、医科診療科と連携を図りながら治療を行います。

● **診療科における研究テーマ**
・全身疾患と口腔内環境との関連
・染色体異常と歯科治療
・口腔レンサ球菌によるバイオフィルム形成（および口腔バイオフィルム関連疾患）の予防

科長
岩本 勉 *IWAMOTO Tsutomu*

専 門 医●日本小児歯科学会　専門医・指導医
日本口蓋裂学会　認定師(小児歯科分野)
専門分野●小児歯科学
研究領域●小児歯科学
障害者歯科学
歯の発生および病態解明

Message

診察や診療に伴う不安をできる限り解消し、安心して治療を受けていただくように努めてまいります。また、口腔を通じて全身の健康向上のお役に立てることを目指していきます。

むし歯科
Operative Dentistry and Endodontics

Dial-in
● 03–5803–5736

むし歯などの疾患を正確に診断し、予防と機能・審美回復治療、
先端的機材・技術を駆使した歯内療法（根管治療）の提供と
歯の保存に努めます。

● **診療科の概要**

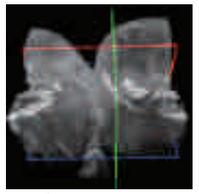
う蝕（むし歯）などの歯の硬組織疾患や、これらに継発する歯髄疾患、根尖性歯周疾患（歯の神経や歯根先端周囲の炎症）に対する専門的治療を行います。むし歯になりやすさを考慮・予測し、予防の大切さを伝え、最新の接着材料を用いた歯に優しい治療を行います。また歯髄疾患、根尖性歯周疾患に対して、歯科用 CT による診断や実体顕微鏡下での治療などを組み合わせた、先進的な歯内療法を行います。

● **取り扱うおもな疾患**

むし歯、知覚過敏、歯の咬耗、変色歯、歯髄炎、根尖性歯周炎

● **おもな診断・治療法**

・審美的な要求の高まりとともに、金属を使わない、本来の歯に似た白い材料を応用した、審美的むし歯治療や、変色歯に対する処置、歯の漂白についても対応いたします。
・根管は形態が複雑で直視困難なため、歯内療法が難しくなることが少なくありません。当科では、歯科用 CT や実体顕微鏡の活用により診断、治療とも精度の向上を図っています。


OCT 法
近赤外光を歯に照射します。X 線の被曝はなく安全に、むし歯を発見出来ます

実体顕微鏡を用いた精度の高い歯内療法を提供しています

● **高度な先進医療**

・最新の接着技術を駆使した侵襲の少ないむし歯治療を行います。
・OCT 法による的確なむし歯部位の診断を行います。
・難治性根尖性歯周炎に対して、先進的な機材・材料と実体顕微鏡を駆使して、専門的な歯内療法（根管探索、歯根破折の診断、根管壁穿孔封鎖、根管内異物除去など）や外科的歯内療法（歯根の先端部分の手術）を行います。

● **取り組み**

・むし歯の診断およびリスク診断を行い、最善の治療材料の選択を行い、歯を大きく削らずに大切に守る治療に努めています。また歯の再石灰化を促し、むし歯を予防します。
・歯髄炎や根尖性歯周炎は頻度の高い疾患ですが、炎症や痛みが改善しづらい症例もみられます。当科にはこれらの難治性の症例をしばしばご紹介頂いており、最先端治療での改善が図られるよう研鑽しています。

科長
島田 康史 *SHIMADA Yasushi*

専 門 医●日本歯科保存学会
歯科保存治療専門医・指導医
日本接着歯学会
接着歯科治療専門医・指導医
専門分野●歯科保存学　接着歯学　審美歯学
レーザー歯学
研究領域●接着性修復材料の開発・評価
レジン充填材の審美的評価
光干渉断層画像診断法（OCT 法）によるむし歯診断
新規漂白材の開発・評価
歯科用レーザーの臨床的応用
咬耗・酸蝕歯の予防・治療に関する研究
歯の再石灰化誘導材料の開発

副科長
興地 隆史 *OKIJI Takashi*

専 門 医●日本歯科保存学会
歯科保存治療専門医・指導医
日本歯内療法学会　専門医・指導医
日本外傷歯学会　認定医・指導医
日本顕微鏡歯科学会　認定医・指導医
専門分野●歯内療法学　歯科保存学
研究領域●歯内療法用生体材料の開発・評価
根管形成用機材の開発・評価
歯科用レーザーの根管治療への応用
歯髄疾患・根尖性歯周疾患の病態解明と治療戦略の開発

Message

・歯の色調を再現した審美的な接着材料を用い、歯を極力削らないむし歯の治療や、初期のむし歯の再石灰化誘導を強化しています。
・歯内療法は歯を長く機能させるための「基礎工事」に例えられます。質の高い歯内療法で歯を長く保存し、口腔の健康増進に貢献できることを目標としています。

歯周病科
Periodontics

Dial-in
● 03–5803–5736

口腔内全体の包括的な診査・診断を行い、
歯周病に対する高度な医療を提供します。

● **診療科の概要**

歯周病科では、歯周病に対する治療を口腔内全体の包括的な治療計画に基づいて行っています。また、歯周組織再生療法や歯周形成外科手術、レーザー治療などを高度な治療として提供しています。

● **取り扱うおもな疾患**

歯周病（歯肉炎、歯周炎）、歯肉退縮、歯肉増殖、咬合性外傷、色素沈着

● **おもな診断・治療法**

診断法：歯周組織検査、レントゲン撮影、歯科用 CT 撮影、歯科用顕微鏡、口腔内スキャナー
治療法：歯周基本治療（口腔清掃指導、スケーリング・ルートプレーニング、咬合調整）、歯周外科（フラップ手術）、歯周組織再生療法（生物学的活性材料（リグロス・エムドゲイン）や骨補填材の併用など）、根面被覆術、レーザーを併用した歯石除去、フラップレスポケット治療、インプラント周囲炎手術、メラニン除去

● **高度な先進技術**

歯周組織再生療法をはじめ、歯周形成手術やレーザーを用いた歯周治療など専門性の高い治療を実施しています。また、他家歯根膜細胞シートを応用した歯周組織再生療法などを中心に臨床に直結した医師主導治験や特定臨床研究を推進し、社会実装を目指しております。その他にも、PCR 法や次世代シーケンサー（NGS）を利用した細菌検査、血清抗体価を利用した免疫学的診断など先端技術を用いた診療を行っています。

● **取り組み**

歯周病における再生治療に関する研究、歯周病におけるレーザー治療に関する研究、歯周病と全身疾患の関係に関する研究、歯周病とインプラント周囲疾患における細菌学的および免疫学的な研究

● **その他**

当科では 1 日約 100 人前後の患者さんが来院しています。安全で質の高い治療を受けて頂くために、医局での症例検討も含め、綿密な治療計画を立て、治療に臨んでおります。

科長
岩田 隆紀 *IWATA Takanori*

専 門 医●日本歯周病学会認定
歯周病指導医・専門医
日本再生医療学会　再生医療認定医
専門分野●歯周病学
再生医療
研究領域●歯周組織再生療法の開発
口腔由来幹細胞による創傷治癒メカニズムの解明
歯周病と全身疾患の連関

Message

歯周病は、わが国において増加しており、歯を失う最大の原因となっています。症状なく静かに進行する silent disease とも呼ばれ、気付いた時には重症化していることもあります。さらに歯周病は、メタボリックシンドロームや糖尿病、誤嚥性肺炎、脳梗塞、早産・低体重児出産といった、全身の病気と関連することも明らかになっています。
当科では、適切な診査診断を行い、患者さんにとって最適な治療を行います。歯周病の治療によって歯を守るだけでなく、からだ全体の健康を整え、QOL の向上を目指します。

義歯科
Prosthodontics

Dial-in
● 03–5803–5744 ● 03–5803–5749

かぶせ物と入れ歯など補綴（ほてつ）治療により 口腔機能と審美性を回復し、より快適な生活をサポートします。

● **診療科の概要**
セメントで固定するかぶせ物や、取り外して使用する入れ歯など人工修復物を作製し、かみ合わせや審美性を回復することで、より快適な生活をできるだけ長く送れるようにします。金属を全く使わない歯と同じ色のかぶせ物や、金属のバネが見えない入れ歯、あるいは柔らかい材料を用いた総入れ歯などの先進的な治療も行っています。

● **取り扱うおもな疾患**
むし歯や外傷で歯の一部が欠けた、歯の神経を抜いた、使っているかぶせ物や入れ歯が合わない、壊れた、外れる、失くしたなどの原因により、お食事に不都合を感じたり、言葉がうまく話せなくなったり、見た目が悪くなったと感じられている方に対して専門的な治療を行います。

● **おもな診断・治療法**
クラウンによる治療：広範囲の歯冠部欠損に対するセラミックス、レジン、金属を用いた歯冠修復治療
ブリッジによる治療：少数歯欠損に対する残存歯を支台歯としたセラミックス、レジン、金属を用いた欠損補綴治療
部分入れ歯による治療：歯の欠損に対するクラスプやアタッチメントを用いた部分床義歯治療
総入れ歯による治療：無歯顎に対するレジン、金属、軟質材料を用いた全部床義歯治療

● **高度な先進医療**
歯科用CAD/CAM（コンピューター支援設計・製造）を用いて高精度な修復物を作製しています。また従来の型取りとは異なり、口腔内スキャナーと呼ばれるお口の中専用のカメラで撮影して３次元形状のデータを取得する光学印象も行っています。

● **取り組み**
当科では、患者さんへの治療だけでなく、新しい歯科材料と治療効果などの臨床研究も積極的に行っています。

● **その他**
かみ合わせや原因不明の痛みでお困りの患者さんには、各専門外来と連携した対応も行っております。

科長
笛木 賢治 *FUEKI Kenji*

専 門 医●（公社）日本補綴歯科学会　指導医
専門分野●補綴歯科治療
　　部分床義歯治療
研究領域●可撤性義歯装着者の咀嚼機能と口腔関連QOL

Message

当科では、かぶせ物や入れ歯に関する困り事と治療のご希望に応じて、保険診療だけでなく保険外診療も含め様々な歯科材料と専門技術を用いて、最新の補綴（ほてつ）治療を提供しています。また、インプラント科、むし歯科、歯周病科、歯科アレルギー外来と連携して診療を行っています。

スポーツ歯科外来
Sports Dentistry

Dial-in
● 03–5803–4891

スポーツに関わる全ての人を口腔からサポートし、競技力や生活の質の向上を目指します。

● **診療科の概要**
当科では、競技レベルではトップアスリートからスポーツ愛好家の方まで、年齢層ではジュニアからシニアまで幅広く口・歯・顎の健康増進を図っています。競技スケジュールに配慮し、選手一人一人に寄り添いながら歯のトータルケアをすることで、競技サポートや安全かつ楽しいスポーツライフのお手伝いを目指します。

● **おもな診断・治療法**
競技スケジュールや生活スタイルを考慮しながら、選手一人一人に寄り添った治療計画で治療を進めていきます。
1）スポーツのためのデンタルチェック（健診）
2）むし歯、歯周病、親知らずなどの一般的な歯科疾患に関する相談・応急処置・治療
3）噛み合わせ不良や歯のすり減り、また顎関節症に関する相談・応急処置・治療
4）スポーツ外傷事故による歯の破折・脱臼・脱落、顎の骨折などに関する相談・応急処置・治療
5）カスタムメイド・マウスガード（マウスピース）の相談・治療
6）カスタムメイド・フェイスガード（フェイスマスク）の相談・治療

● **高度な先進技術**
・カスタムメイド・マウスガード（マウスピース）の提供
当科で作製しているカスタムメイド・マウスガードは防護能と快適性（フィット感）に優れるのはもちろん、噛み合わせも入念に調整されるため、パフォーマンスを妨げることもありません。
・カスタムメイド・フェイスガード（フェイスマスク）の提供
当科では、競技スケジュールに迅速かつ柔軟に対応しながら、それぞれの顔面形態、受傷部位に応じた設計のフェイスガードを作製・提供しています。

科長
中禮 宏 *CHUREI Hiroshi*

専 門 医●日本スポーツ協会
　　公認スポーツデンティスト
　　日本スポーツ歯科医学会
　　認定MGテクニカルインストラクター
　　認定医
　　認定MG研修施設指導責任者
専門分野●スポーツ歯学
　　スポーツ科学

Message

運動によって、脱水となったり、食いしばりをしてしまったり、顔や口をぶつけてしまったりすることで、お口周りのトラブルが起きやすくなることが知られています。
スポーツ歯科外来は、競技スケジュールや生活スタイルを考慮しながら、選手や愛好家一人一人に寄り添って、トラブルの予防や治療などをすすめていきます。

選手や愛好家ご本人からだけでなく、サポートする関係者、ドクター、トレーナーからの相談も承っております。

快眠歯科（いびき・無呼吸）外来

Dental Clinic for Sleep Disorders (Apnea and Snoring)

Dial-in

● 03–5803–4955

いびき・無呼吸防止のためにマウスピースを作製し、睡眠中の気道を広げ、呼吸が止まるのを防止します。専門医が歯並びや顎の形に合った装置を作り、口の中で調整して夜間の使用法を指導します。

● **診療科の概要**

日中の強い眠気や集中力の低下、生活習慣病の悪化等を生じやすい睡眠時無呼吸症に対するマウスピース（oral appliance：OA）治療を行います。マウスピースで下顎が前方に突き出すよう工夫され、睡眠中の気道を広げ、いびきや呼吸が止まるのを防止します。

● **取り扱うおもな疾患**

閉塞性睡眠時無呼吸症（Obstructive Sleep Apnea：OSA）

● **おもな診断・治療法**

睡眠時には口、のどの周りの筋肉が緩み、呼吸の通り道（気道）も狭くなり、空気が通過する際、いびきとして振動音を発します。さらに気道が狭くなると呼吸が止まり、閉塞性睡眠時無呼吸症（OSA）となります。肥満、扁桃腺の肥大、鼻の疾患、舌の肥大、小顎、顎の後退等により、気道は狭くなりがちです。

主な症状としては日中の強い眠気や、集中力の欠如による仕事の能率低下、車の運転事故等社会生活に支障を来すばかりでなく、高血圧、不整脈、動脈硬化、心筋梗塞、脳血管障害、糖尿病等の生活習慣病にもかかりやすく、死亡率の高いことが知られています。

当科では睡眠時無呼吸症に対する歯科的な処置（OA：マウスピース装着）を行います。この装置によって睡眠中の気道を広げ、呼吸が止まるのを防止します。専門の歯科医師が口の中を診察し、歯並びや顎の形に合った装置を作り、口の中で調整して確認した後、夜間の使用法について説明致します。なお、中等度以上の無呼吸には効果が少ないため、医科で適用のCPAP（鼻マスク）の使用をお勧めします。

● **高度な先進医療**

義歯装着者のOA作製は歯科でも困難とされますが、補綴専門医が対応するため、歯の欠損を伴う方にもOAのデザイン、治療法等に工夫を凝らし、治療効果の高い、装着感に優れた処置を実践しており、全身の健康やQOLの回復を図ることが可能となります。

● **取り組み**

OA療法は下顎を前方に固定することで、睡眠中の気道を広げ呼吸が止まるのを防止し、比較的軽度のOSAに適用されます。一方重度のOSAにはCPAP（持続陽圧呼吸装置）と呼ばれる鼻マスクによる呼吸サポート処置が医科で保険適用されます。ただ、近年重度のOSAにおいてもOA療法が有効な場合もあると報告され、医科でのCPAP療法が困難、CPAPとOAの併用を希望等で、歯科へのOA療法の依頼が増えています。快眠歯科では医科・歯科を有する本学の特色を生かし、快眠センターと緊密な連携診療、情報交換を行い、個々の症例に適したテーラーメイドな治療を実践しており、メディアでの紹介、本学HPでの掲載等、社会への周知も行っています。

科長

秀島 雅之 *HIDESHIMA Masayuki*

専 門 医●日本睡眠歯科学会　認定医
日本補綴歯科学会　専門医

専門分野●睡眠歯学
補綴歯科学

研究領域●医科との連携による睡眠歯学、音声認識装置を用いた義歯装着者の発語機能評価、欠損歯列の難易度診査の症型分類、磁性アタッチメントの臨床適用の診療ガイドライン策定、歯科実習シミュレーションシステムの開発、運用

Message

現在、本邦では約61万人が閉塞性睡眠時無呼吸症（Obstructive Sleep Apnea：OSA）と診断され、医療機関を受診中で、潜在患者数は500万人以上と推定されます。OSAは肥満、扁桃腺肥大、鼻疾患、舌肥大、小顎、顎の後退等が原因で、睡眠中に気道が閉塞し眠りが浅くなり、日中眠気や仕事の能率低下、車の運転事故等を誘発し、高血圧、心筋梗塞、脳血管障害，糖尿病等の生活習慣病を悪化させる現代病と言えます。

本学では平成21年に医学部呼吸器内科に「快眠センター」が設置され、歯科にも協力依頼があり、以降毎月医病・歯病合同のカンファレンス、症例検討、セミナー開催等を継続しています。平成24年には歯学部附属病院に専門外来の快眠歯科（いびき・無呼吸）外来が発足し、医学部附属病院快眠センターと連携して、閉塞性睡眠時無呼吸症（obstructive sleep apnea：OSA）への口腔内装置（oral appliance：OA）による気道確保の診療を担当しています。

医科・歯科の病院一体化に伴い、快眠センター・快眠歯科の緊密な連携診療が円滑に進んでおります。

顎顔面補綴外来

Maxillofacial Prosthetics

Dial-in

● 03–5803–5720

がん切除後など後天的な頭頸部領域の欠損、口唇口蓋裂など先天的な欠損を持つ患者さんの人生を支えるため、世界唯一の顎顔面補綴専門外来として全力を尽くします。

● **診療科の概要**

国内外の施設からの依頼を受け、がんの切除や口唇裂口蓋裂などのために口腔や顔面に欠損のある患者さんに、顎義歯や舌接触補助床など、または顔面補綴装置（顔面エピテーゼ）を製作し、チーム医療の中で咀嚼、嚥下、発音、整容性の回復と改善のお手伝いをします。欠損補綴だけでなく、外科用補助装置、発音補助装置、放射線治療補助装置などの補助装置も製作しています。

● **取り扱うおもな疾患**

顎顔面補綴は、腫瘍・外傷・炎症・嚢胞などの治療で後遺した、あるいは、口蓋裂などの先天疾患により生じた顎顔面領域の欠損部分に、人工物を用いて形態的・機能的・審美的に回復・改善し、患者さんの社会復帰をサポートします。その対象は顎顔面領域に留まらず、頭頸部領域、更には、体幹・四肢領域にも及びます。また、その治療内容は欠損補綴だけでなく、外科治療・放射線治療・言語治療などにおいて使用されるさまざまな補助装置の製作・提供も行っています。

● **おもな診断・治療法**

顎顔面補綴外来は先天的あるいは後天的に頭頸部領域に欠損を生じた患者さんへの支持療法として用いる補綴装置（顎義歯、術後即時顎補綴装置、オブチュレータ、オクルーザルランプ、舌接触補助床、スピーチエイド、軟口蓋挙上装置、顔面エピテーゼ）や放射線治療補助装置（外照射用装置、内照射用装置、アフターローディング用装置、膣内照射用モールド、眼瞼シールド）を使用した治療を行っています。

● **高度な先進技術**

平成24年度（2012年）の歯科診療報酬改訂で、先進医療の「インプラント義歯」が「広範囲顎骨支持型装置」および「広範囲顎骨支持型補綴」などとして保険導入されました。実施施設として認められている本外来では、腫瘍、顎骨骨髄炎、外傷などにより、広範囲な顎骨欠損若しくは歯槽骨欠損症例（歯周疾患及び加齢による骨吸収は除く）、又はこれらが移植などにより再建された症例や唇顎口蓋裂などの先天性疾患の症例に対し、積極的に適用し、口腔機能の回復やQOLの向上を目指しています。

● **取り組み**

頭頸部領域の欠損を持つ患者さんの人生を支えるために、傾聴を軸としたコミュニケーションを大切にし、頭頸部外科、形成・美容外科、放射線治療科、口腔外科、矯正歯科、小児歯科の先生方、そして地域の先生方とともに患者さんにより添った医療に取り組んでおります。

● **その他**

当科は国内外より多くの症例をご紹介いただいています。世界唯一の顎顔面補綴の専門外来として、最先端の治療が行えるように研鑽を怠らないとともに、顎顔面補綴治療の臨床指導や教育活動も世界に向けて行っています。

科長

服部 麻里子 *HATTORI Mariko*

専 門 医●日本顎顔面補綴学会　認定医
日本補綴歯科学会　専門医

専門分野●顎顔面補綴

研究領域●顎顔面欠損の患者さんの機能・審美の改善に関する研究を行っています。具体的には顎欠損患者さんの発音、顎顔面補綴材料の色、デジタル技術を用いた顎顔面補綴治療について研究しています。また管楽器奏者の歯科治療に関する研究も行っています。

Message

他科との連携、他施設との連携、地域医療との連携により、顎顔面に欠損のある患者さんが自分らしく生きていくことができるようにサポートします。お気軽にご相談ください。

言語治療外来
Speech Clinics

Dial-in
● 03–5803–4752

発声発語障害・言語発達障害のある方を対象にした
言語聴覚療法を実施しています。
音声言語という側面を通して患者さんの生活全般を見据え、
QOL（Quality of Life）：生活の質の向上に努めています。

● **診療科の概要**
発声発語障害・言語発達障害のある方が言語治療外来の対象患者さんです。幼児から成人まで、年齢は問いません。相談から、検査、診断、訓練に至るまで行っています。構成は歯科医師（1名）と言語聴覚士（1名）です。

● **取り扱うおもな対象疾患**
当外来は歯系診療科に属しているため、口蓋裂、口腔がん、舌小帯短縮症といった器質的な要因による構音障害のある方が多く通っていらっしゃいます。医系医院からの訓練依頼の紹介状があれば、機能性構音障害や運動障害性構音障害、吃音、言語発達障害等も対象としています。なお、症状等によっては他機関へご紹介させていただきます。

● **検査・訓練**
まず、患者さんのお話を伺い、症状や年齢に応じた検査を用いて評価を行います。検査には音響分析機器（言語治療外来の防音室内にあります）を用いることもあります。次に、評価を基に「訓練が必要か」「どのような訓練を行うか」を検討します。
例えば、口蓋裂のお子さんの場合、構音の様子はもちろんですが、構音障害に影響を与える他の要因（言語発達、鼻咽腔閉鎖機能、聴力等）も評価します（聴力検査は耳鼻咽喉科で適宜行っています）。その評価を基に、お子さんや親御さんの思いを考慮したうえで、必要であれば適切な時期に訓練を開始します。特に口蓋裂に伴う異常構音の動態は解明されていて、構音訓練方法も基本的には確立されていますので、就学時までに日常会話での正常構音を獲得することを目標に構音訓練を行うことが多いですが、その方に合わせて訓練を進めています。その後も他科での治療が終了するまで経過観察を行っています。治療経過によっては、言語治療外来の初診時から20年以上通院する方もいらっしゃいます。
また、口腔がんの方の構音訓練方法としては、MFT（口腔筋機能療法）を用いて、残存舌を中心とした筋機能を強化する方法、顎顔面補綴医との連携でのPAP（舌接触補助床）を用いた舌の可動範囲の不足を補う方法、あるいは残存舌や再建舌により構音が不可能な場合には、歯列や口唇等を用いた代償構音を用いる方法などがあります。

● **院内連携・院外連携**
院内の他科・他外来（口腔外科、小児歯科、矯正歯科、顎顔面補綴外来、摂食嚥下リハビリテーション科、形成・美容外科、耳鼻咽喉科、小児科など）と連携しながら、評価・訓練を進めています。例えば、機能性構音障害を主訴に受診された場合でも、言語評価を通して外科的な精査が必要と思われた際には、口腔外科などと連携を取りながら進めていきます。顎顔面補綴外来と連携して、発音補助装置を装着下での構音訓練も行っています。また、院外連携としても、医療・福祉・教育の関係機関と適宜連携をとっています。

科長
服部 麻里子 *HATTORI Mariko*

専 門 医●日本顎顔面補綴学会　認定医
日本補綴歯科学会　専門医
専門分野●顎顔面補綴
研究領域●顎顔面欠損の患者さんの機能・審美の改善に関する研究を行っています。具体的には顎欠損患者さんの発音、顎顔面補綴材料の色、デジタル技術を用いた顎顔面補綴治療について研究しています。また管楽器奏者の歯科治療に関する研究も行っています。

Message

主に音声言語という側面を通して患者さんの生活全般を見据え、QOL（Quality of Life）：生活の質の向上に努めています。「発音が誤る」「なめらかに話せない」「ことばの育ちがゆっくり」など、発声発語や言語発達の面でお困りのことがございましたら、言語治療外来にどうぞご相談ください。

症状や年齢に応じた検査を用いて評価を行います

高齢者歯科外来

Dial-in
● 03–5803–5750

QOLの改善、合併症予防のため、
歯科の治療分野や患者さんの年齢に関わらず
総合的な歯科治療を迅速に提供します。

● **診療科の概要**
SDGs『すべての人に健康と福祉を』を目標とし、種々の障害や全身疾患を有しており、歯科治療が困難な患者さんの包括的な治療を行っています。主に本学医系診療科からの紹介と連携を行い、周術期口腔機能管理（頭頸部手術・放射線治療前、循環器系、集中治療部での口腔管理）、骨修飾薬投与前の精査など口腔内合併症の予防を行っています。

● **取り扱うおもな疾患**
全身管理やさまざまなケアが必要とされる重度疾患のある患者さんの歯科全般（う蝕、歯周炎、歯の欠損）を行います。

● **主な診断・治療法**
歯科治療時のストレスを軽減させ、体動をコントロールしながら歯科治療を行います。常時バイタルサインのモニタリングを行い、必要に応じて笑気吸入鎮静法、静脈内鎮静法を行います。

● **高度な先進技術**
専門外来では対応できない医学的な疾患をもつ患者さんの一般歯科治療に対応します。

● **診療科における研究テーマ**
抗凝固薬内服患者さんにおける抜歯時の後出血リスクの検討
抜歯時における血圧変動とストレスの解析
集中治療管理下における口腔衛生管理の有用性の検討
アドレナリン添加局所麻酔薬と血圧変動の解析
頭頸部手術周術期における口腔衛生管理の有用性の検討

● **その他**
医歯連携を主たる業務とし医系診療科からの依頼に年齢に関わらず迅速に対応し、患者さんの状態を把握し往診も行います。

センター長
水口 俊介 *MINAKUCHI Shunsuke*

専 門 医●日本補綴歯科学会　専門医・指導医
日本老年歯科医学会　専門医・指導医
日本義歯ケア学会　義歯ケアマイスター
日本咀嚼学会　健康咀嚼指導士
専門分野●補綴歯科学
老年歯科医学
研究領域●高齢者の歯科治療に関する研究
口腔機能・栄養と全身の健康の関連
全部床義歯へのデジタル技術の応用
補綴歯科用材料の開発

Message

急性期の口腔内の感染コントロールを行います。医科的に問題となる口腔疾患を中心に義歯、う蝕、歯周炎、外傷などに対応し、患者さんのQOLの維持と合併症を予防します。積極的に医科歯科連携を行い、東京医科歯科大学病院one teamをめざします。

歯科アレルギー外来
Dental Allergy

Dial-in
● 03–5803–5746

歯科治療用材料のアレルギー検査を実施し
安全性の高い歯科治療の提供に貢献致します。

● **診療科の概要**
歯科・医科の各科と連携し、歯科治療用金属や材料が原因または誘発物質になっていると思われる様々な疾患について、疾患との因果関係を各種検査によりお調べ致します。また、疾患改善と再発防止を図るための使用可能な材料や治療方針に関する適切なご提案をさせて頂きます。更に、歯科矯正治療や口腔インプラントなどを含めた各種歯科治療を安全にお受け頂くため、使用可能な歯科治療用材料の検査もご案内致します。

● **取り扱うおもな疾患**
金属や歯科材料を対象とした各種アレルギー疾患、原因不明の皮膚・粘膜疾患（接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎、口内炎、扁平苔癬など）、歯性病巣感染（掌蹠膿疱症、肉芽種性口唇炎など）

● **おもな診断・治療法**
アレルゲンの特定（金属・歯科材料パッチテスト（皮膚科にて実施）、血液検査）
口腔内アレルゲンの存在特定（X線検査、金属成分分析検査）

● **高度な先進医療**
一般開業医科・歯科では検査が困難であるTi（チタン）などを含めた各種金属アレルギー検査試薬やレジンなど歯科材料検査試料を調製し、それらを用いたアレルギー検査を提供しています。また、金属エネルギー分散型蛍光X線分析装置を用いた口腔内金属の成分を元素レベルで分析しています。

● **取り組み**
歯科治療に関連する全身疾患は多岐にわたり、原因特定が困難であり、疾患へのアプローチも医科と歯科で連携した対応を取ることは容易ではありません。また歯科治療で使用される材料は刺激性があり、口腔内という特殊な環境で使用されることから、その使用には細心の注意が必要とされます。当外来では、医科におけるアレルギー疾患及びその検査と治療方法、歯科における治療方法及び使用される材料の特性、双方の知識と技能を繋ぎ、原因不明の疾患に対する治療の幅を広げることと、安全性の高い歯科治療の提供を目標として活動しております。

● **その他**
歯科で行うアレルギーの診察・検査は保険外診療で、当外来は完全予約制となりますので、御了承下さい。予約は電話または外来にて直接、下記時間帯で受け付けております。
月曜日　9:00 ～ 12:00 / 13:00 ～ 16:30
水曜日　13:00 ～ 16:30
木曜日　9:00 ～ 12:00 / 13:00 ～ 16:30
また、歯科治療に起因するアレルギーに関する診察（検査や治療の相談）を行っておりますが、実際の歯科治療は原則として行っておりません。診断後の治療は原則的に当院連携各科または、かかりつけの歯科医院にて受診をお願いしております。

科長
駒田 亘 *KOMADA Wataru*

専 門 医●日本補綴歯科学会　指導医・専門医
専門分野●補綴歯科治療
　　冠橋義歯補綴治療
研究領域●新しい支台築造法の考案
　　メタルフリー補綴歯科材料の評価

Message

当外来では、1998年より歯科治療用材料に特化したアレルギー検査を実施し、多数の症例を蓄積、アレルギー疾患の評価法や治療法を検討しています。今まで、数多くの医療機関からのご紹介や患者さんからの直接相談をお受けし、患者さんが安心して歯科治療を受けて頂けるよう努めて参りました。2022年よりアレルギー疾患先端治療センターのチームにも加入し、アレルギーを有する患者さんへに対して、より医科と歯科が連携した包括的な対応を行っていきたいと思います。長期間にわたり治らない口腔内や皮膚のトラブルがある、歯科治療を受けてから体調が優れない、金属製品やネイルでかぶれやすくて今後の歯科治療を受けることが心配…など、是非お気軽にご相談下さい。

顎関節症外来
Temporomandibular Disorders Clinic

Dial-in
● 03–5803–5961

顎関節症は決して怖い病気ではありません。
正しく病気を理解し、改善に向けて共に進みましょう。

● **診療科の概要**
顎関節症においては、国内で最も多くの患者さんが来院する外来です。一人一人の患者さんの状況を細かに把握し、症状の改善を目指します。また、完全治癒が難しい場合もありますが、生活の質（QOL）の向上のため、患者さんと一緒に治療を行っていきます。

● **取り扱うおもな疾患**
顎関節症（口を開け閉めすると音が鳴る、口を開けたり食事をすると顎が痛い、口を大きく開けられないなど）を中心として、それ以外にも睡眠中の歯ぎしりやくいしばり（睡眠時ブラキシズム）、覚醒中のくいしばりや歯の接触癖（覚醒時ブラキシズム）、ブラキシズムによる歯の痛み、筋肉痛により生じる歯の痛み（非歯原性歯痛）などの診査・診断、治療を行っています。
また、歯列矯正治療や睡眠時無呼吸症のマウスピース治療を行う前の、顎関節や咀嚼筋の精査を行うこともあります。

● **おもな診断・治療法**
顎関節症については、国際的に推奨されているDC/TMD（Diagnostic criteria for temporomandibular disorders）に基づいた診査・診断を行っています。画像診断は通常のエックス線検査以外にもMRI検査やCT検査も行っています。顎関節症の治療は、セルフマネジメントが基本となるため、患者さんにはご自身の病気を十分理解していただき、積極的にセルフマネジメントに取り組めるよう指導しています。また、症状によっては顎関節の動きを増やすための「パンピングマニピュレーション」や、局所の筋肉痛部位に対する「トリガーポイント注射」も行っています。さらに、痛みが慢性化している場合は、痛みの感受性を抑えるための薬物療法も提供しています。
睡眠時ブラキシズムについては、携帯型筋電計を用いた自宅での「睡眠時歯科筋電図検査」を行い、個々の患者さんの症状に即した診断結果を提供しています。治療としては、歯を守ることを主目的とした「口腔内装置（マウスピース）療法」を中心とし、必要に応じて薬物療法の提案も行っています。
覚醒時ブラキシズムについては、「行動変容法」を用いた自己管理療法の提供を行います。

科長
西山 暁 *NISHIYAMA Akira*

専 門 医●日本顎関節学会　歯科顎関節症専門医・指導医
専門分野●顎関節症
　　ブラキシズム（睡眠時、覚醒時）
　　非歯原性歯痛
　　睡眠時無呼吸
研究領域●顎関節症
　　ブラキシズム
　　非歯原性歯痛
　　睡眠時無呼吸

Message

顎関節症は患者さんと医療者が協力し、患者さんの自己管理能力を高めることが治療の要になります。そのためにはご自身の病気を十分に理解していただくことが大切になります。我々医療者もできるだけ詳しく病気や治療法について説明させていただきますが、わからないことがあれば是非質問をしていただきたいと思います。
最初の診療については，一人一人の患者さんと向き合う時間を十分に確保するため、完全予約制となっています。かかりつけの先生と現状について十分に相談された上で、紹介状を作成していただき、事前に予約を取るようお願いいたします。
また、診療室でのコミュニケーションを充実させるため、質問票への事前記入もお願いしております。病院ホームページの「顎関節症外来」より質問票の印刷を行っていただき、必要事項を記入した上で予約日に持参してください。

口腔インプラント科
Dental Implant Clinic

Dial-in
● 03–5803–5773

最新の治療技術、材料の進歩に対応した先進的医療提供を行い、
個々の患者さんに最適な歯科インプラント治療を目指します。

● **診療科の概要**
歯科インプラント治療において、世界有数の治療件数を誇っています。また歯槽骨の萎縮や腫瘍などにより顎骨が大きく欠損している症例においても骨移植を併用し、広範囲なインプラント治療を行い、咀嚼機能や審美性の回復を行っています。

● **取り扱うおもな疾患**
・歯の欠損症
・歯槽骨萎縮症や顎骨腫瘍などの病変摘出後における骨再建した部位へのインプラント治療

● **おもな診断・治療法**
口腔内全体の状況をX線写真やCTなどを用いて精査します。さらに歯の欠損部位の粘膜形態や残存歯などの口腔内情報をデジタルデータ化したものと骨形態を示すCTの重ね合わせを行い、インプラント治療のシミュレーションを行うことで、最適な治療方針や術式を検討しています。

● **高度な先進医療**
重度の顎骨萎縮症例や腫瘍などの病変摘出後の大きな骨欠損症例においても、自家骨や骨補填材、遮断膜、プレート、スクリューなどを用いて骨再建を行い、インプラント治療を可能にしています。
また、光学スキャナーやシミュレーションソフトを用いたフルデジタルインプラント治療も行っています。シミュレーションによりインプラント埋入位置を仮想した後、製作した外科用テンプレートの使用でガイドサージェリーを可能にし、安全で計画的な治療を行います。

● **診療科における研究テーマ**
・口腔組織（硬・軟組織）再生医療
・幹細胞・成長因子・細胞外マトリックスを用いた組織再生
・再生に関わる細胞間のシグナリング解析
・新規骨補填材・骨造成材料の開発や臨床研究
・歯科インプラント材料・材料表面性状の開発や臨床研究
・分子生物学的解析などを用いたインプラント周囲における炎症の発生機序とそのメディエーターの解析
・インプラント周囲炎の病態に関する細菌学的・病理学的解析と治療法の開発
・インプラント上部構造とインプラント体の生体力学的解析

● **取り組み**
高齢化社会に伴い、歯の欠損を有する有病高齢者がますます増加しています。患者さん一人一人の状態に合わせた、オーダーメイドのインプラント治療を推進していきます。また、皆様のニーズに合わせた、全人的な医療提供を行うとともに、先進的な再生医療の開発を目指します。

科長
丸川 恵理子 *MARUKAWA Eriko*

専 門 医●日本顎顔面インプラント学会　専門医
日本口腔外科学会　専門医・指導医
日本再生医療学会　認定医
専門分野●歯科インプラント治療
歯の再植・移植　顎骨再生
研究領域●口腔組織（硬・軟組織）再生医療
新規骨補填材の開発
新規歯科インプラント材料の開発

Message

インプラント治療は、1本の歯を失った方から全く歯が残っていない方まで幅広い症例に適用することができます。当科では、サージカルガイド（コンピュータ支援によるインプラント手術）を使用することで、より正確かつ安全にインプラント埋入手術を行っております。顎の骨が大きく失われてしまった症例でも、骨のボリュームを増やすための移植手術を行うことでインプラント治療が可能となります。また、条件が整えばインプラント手術直後に咬合や審美（見た目）を回復させる方法（即時修復、All-on-4）も可能となります。

摂食嚥下リハビリテーション科
Department of Dysphagia Rehabilitation

Dial-in
● 03–5803–5750

高齢者から小児、急性期病院から在宅まで、年齢や場所、
ステージを問わず、「食べる障害」「話す障害」を有する患者さんに
真摯に向き合い、生活を支えます。

● **診療科の概要**
歯科訪問診療における摂食嚥下障害（噛む、飲むなどの食べる障害）の検査やリハビリテーションが専門です。外来診療では、主に当院を退院後の患者さんのフォローをしております。患者さんに少しでも「食べる」を楽しんでもらえるように医療を提供し、生活を支援いたします。

● **取り扱うおもな疾患**
脳血管障害、頭頸部腫瘍術後、認知症、神経変性疾患などによる摂食嚥下障害や構音障害

● **おもな診断・治療法**
嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査など嚥下機能の精密検査をしております。精密検査から障害の原因を明確にし、その原因に応じたリハビリテーションを指導します。リハビリテーションの内容は食形態や食事法、食環境の調整や訓練法の指導、さらには舌接触補助床や軟口蓋挙上装置など高度な歯科補綴装置の製作もいたします。

● **高度な先進技術**
当科はオンライン診療を積極的に進めています。歯科訪問診療は当院から半径 16km 圏内が保険診療の範囲内ですが、オンライン診療では日本全国の患者さんに対応可能です。また、喉頭癌術後など声を出せない患者さんに第二の声のオプションとしてマウスピース型人工喉頭を新たに開発し、提供を開始しました。

● **取り組み**
臨床応用可能な実践的な研究を推進しています。テーマとしては、口腔機能を拡張するための医歯工連携による機器開発、口から食べることが全身に与える影響調査などがあります。2022年10月より提供を開始したマウスピース型人工喉頭は研究から臨床応用に至った好例です。喉頭癌術後などで声を失った方に対して、再び声を取り戻す体験を通じて生活の質の大きな改善を目指しています。口腔に関わる障害を改善、代償することで、少しでも患者さんが楽しく、自由に生きていけるお手伝いができればと考えています。

● **その他**
摂食嚥下障害に対応可能な医療資源やレストランを紹介した摂食嚥下関連医療資源マップを作成いたしました。ぜひ、ご活用ください。

科長
戸原 玄 *TOHARA Haruka*

専 門 医●日本老年歯科医学会　専門医・指導医
摂食機能療法専門歯科医師
専門分野●摂食嚥下リハビリテーション
高齢者歯科
研究領域●摂食嚥下障害や構音障害に関わる研究
経口摂取に関わる研究

Message

「食べる」ことは単なる栄養摂取だけではなく、楽しみや喜びでもあります。食べることで会話が始まり、社会とのつながりが生まれます。しかし、超高齢社会ではさまざまな要因で食べることが難しくなる場合もあります。たとえ、必要な栄養量を全て口から摂ることができなかったとしても、数口程度の経口摂取が患者さんの健康のみならず、介護するご家族の心理面にも良い影響を与えます。「食べる」ことに関して少しでもお困りのことがありましたら、お気軽にご連絡ください。

口腔外科
Oral Surgery

Dial-in
● 03–5803–5738　● 03–5803–5742

口腔顎顔面領域の疾患の診断とそれらの疾患に対応した
専門医療チームが先端医療を提供いたします。

● **診療科の概要**
う蝕や歯周病を除く口腔顎顔面領域の疾患の診断と、それらの外科的治療を主として行っています。口腔顎顔面領域は、咬合や咀嚼、嚥下、発音など、生命活動に重要な機能を果たしているのみならず、審美の点でも大きな役割を果たしています。当科では、このような口腔顎顔面領域の機能・役割を損なう疾患を広く治療の対象とし、全身の健康への寄与にとどまらず、全人的医療の実践を目指しています。

● **取り扱うおもな疾患**
外科処置を要する歯・歯周疾患、智歯周囲炎・埋伏歯など、口腔感染症・炎症、顎関節疾患、口腔・顎顔面領域のがん・腫瘍、口腔・顎骨の嚢胞、歯・歯槽骨の外傷、上下顎骨骨折、顎変形症、唇顎口蓋裂、口腔粘膜疾患、血液・リンパ系疾患に伴う口腔異常、上顎洞疾患、神経系疾患、唾液腺疾患、その他（骨系統疾患など）

● **おもな診断・治療法**
・口腔がんに対しては、病変の一部を切除して顕微鏡による病理組織検査やCT、MRI、PET/CT、超音波などの画像検査を行い診断します。治療は、手術療法が中心となり、必要に応じて放射線治療や薬物療法を行います。
・顎変形症や唇顎口蓋裂に対しては、矯正歯科、小児歯科、顎顔面補綴科と連携して顎口腔変形疾患治療ユニットを形成し、診断および治療にあたっています。

● **高度な先進医療**
・口腔がんに対しては、放射線治療科、がんゲノム診療科、口腔病理医、顎顔面補綴科と合同でカンファレンスを行い、それぞれの患者さんごとに最良の治療方法を検討し、専門性の高い治療を行っています。
・顎変形症に対しては、3Dプリント技術とComputer assisted surgeryを積極的に導入し、正確で再現性の高い顎矯正手術を提供しています。
・顎関節疾患に対しては、下顎頭の滑走運動を考慮した新規の開口訓練器、開口度測定器を産学連携にて開発、実用化して臨床応用を行っています。人工顎関節全置換術は国内でいち早く導入し、全国に先駆けて実施しています。
・口唇口蓋裂などの先天性疾患に対しては、多くの関連診療科と連携し、出生前診断への対応から、哺乳指導、術前顎矯正、口唇形成手術、口蓋形成手術、顎裂閉鎖手術、顎矯正手術などを実施し、成人に至るまで一貫した治療を提供しています。

● **取り組み**
・口腔がんの治療にあたっては、失われた形態と機能をいかに自然に近い形で取り戻すかを重要視しています。
・顎変形症に対しては顎矯正手術と顎関節の形態変化、呼吸動態との関連について独創性の高い研究を推進し、顎顔面形態および機能の向上を目指しています。
・口唇口蓋裂などの先天性疾患に対しては、原因遺伝子のゲノム解析などの基礎的研究も推進しています。さらに、新規人工骨の開発や細胞や成長因子を用いた顎骨再生医療、マグネシウム合金を用いた顎骨領域への応用などの研究にも力を入れています。

● **その他**
外来の新患患者数8,400人、全身麻酔手術件数は900症例と多く、口腔がんおよび顎変形症の手術件数は国内有数を誇ります。口腔外科一般外来に加え、口腔がん、顎変形症、唇顎口蓋裂、顎関節症、粘膜疾患などの専門外来があり、安全で高度な先進医療を提供しています。

科長
原田 浩之 *HARADA Hiroyuki*

専 門 医●日本口腔外科学会認定
口腔外科専門医・指導医
日本がん治療認定医機構
がん治療認定医（歯科口腔外科）
日本口腔腫瘍学会
暫定口腔がん指導医
日本口腔科学会認定医・指導医
専門分野●口腔がん
研究領域●口腔がんの浸潤・転移に関する分子生物学的研究
口腔がん術後の機能障害・QOLに関する研究

副科長
依田 哲也 *YODA Tetsuya*

専 門 医●日本口腔外科学会認定
口腔外科専門医・指導医
日本顎関節学会　専門医・指導医
日本口腔科学会　認定医・指導医
専門分野●顎関節・咀嚼筋疾患、顎変形症
研究領域●咀嚼筋腱・腱膜過形成症の基礎的・臨床的研究

Message

多岐にわたる顎顔面口腔領域の疾患に対応しており、安心で安全な医療を提供するため、他の診療科と協力し、十分な説明を行い、納得して治療を受けて頂けるように努めています。

顎口腔変形疾患外来
Oral and Maxillofacial Malformation Clinic

Dial-in
● 03–5803–4362

口唇・口蓋裂や顎変形症などの顎口腔変形疾患に対して、
各専門診療科によるチーム医療により、
高度で統合的な診療を提供します。

● **診療科の概要**
本院では、従来から「顎口腔変形疾患」の治療に積極的に取り組み、多数のエキスパートが診療に当たっております。当外来ではそのノウハウを生かし、疾患を持つ患者さん一人一人の心に寄り添い、苦しみや不安を少しでも和らげるように、複数のエキスパートがチームとなって診療をトータルに進めて行きます。
口唇・口蓋裂をはじめとする様々な先天性疾患にともなう顎口腔領域の問題や顎変形症などの顎口腔変形疾患の咬合異常に対して、各専門診療科（矯正歯科、口腔外科、小児歯科、顎顔面補綴外来、言語治療外来、口腔インプラント科など）によるチーム医療により、子供から大人まで高度で統合的な診療を実践します。

● **口唇・口蓋裂をはじめとする先天性疾患の治療**
生後まもなくから、成人に至るまで、口唇・口蓋裂をはじめとする先天性疾患の方は長期にわたり、様々な科に通院し、手術を含めた治療が必要です。当院は口唇・口蓋裂をはじめとする先天性疾患の治療について、我が国でも有数の症例数を誇ります。多くの臨床経験にもとづく豊富な専門知識と治療技術によって、それぞれの患者さんに合った最適な治療法を選択し、治療を通じて、皆様の健康増進と生活の質の向上に努めてまいります。

● **顎変形症の治療**
成長とともに顎の変形が生じ、顔貌を含めたかみ合わせに異常が生じる顎変形症は、手術を含めた矯正治療が必要です。当院は、多くの臨床経験にもとづく豊富な専門知識と治療技術によって、それぞれの患者さんに合った最適な治療法を選択し、治療を通じて、皆様の健康増進と生活の質の向上に努めてまいります。

● **おもな対象疾患**
口唇・口蓋裂、ゴールデンハー症候群（鰓弓異常症を含む）、鎖骨・頭蓋異形成、トリチャーコリンズ症候群、ピエールロバン症候群、ダウン症候群、ターナー症候群、ベックウィズ・ヴィードマン症候群、顔面半側肥大症、軟骨形成不全症、外胚葉異形成症、神経線維腫症、基底細胞母斑症候群、ヌーナン症候群、マルファン症候群、顔面裂、大理石骨病、口・顔・指症候群、カブキ症候群、スティックラー症候群、頭蓋骨癒合症（クルーゾン症候群、尖頭合指症など）、骨形成不全症、常染色体欠失症候群、6歯以上の非症候性部分性無歯症、チャージ症候群、ポリエックス症候群、その他様々な先天性疾患
顎変形症（骨格性上顎前突、骨格性下顎前突、骨格性上下顎偏位、骨格性開咬、骨格性上下顎前突、骨格性過蓋咬合、その他骨格的な問題に伴う咬合異常）

外来医長
森田 圭一 *MORITA Keiichi*

専 門 医●日本口腔外科学会　専門医・指導医
関連する診療科●口腔外科
矯正歯科
小児歯科
（専）顎顔面補綴外来
（専）言語治療外来
口腔インプラント科

Message

カンファレンスを定期的に開催し、各科が連携して、患者さんに最適な治療法を選択し、トータルケアを行っています。

歯科麻酔科
Dental Anesthesiology

Dial-in
● 03–5803–5761

安全でストレスのない歯科治療を可能にします。

● **診療科の概要**
歯科麻酔科では年間約1000例の口腔外科手術のための全身麻酔と約2000例の歯科治療のための外来麻酔管理を行っています。外来麻酔管理では、歯科治療に対する恐怖心や嘔吐反射で、通常の歯科治療が受けられない方、また知的障害のために歯科治療に協力することが困難な方に対して、麻酔管理を行っています。 口腔インプラントに関連する治療に対する麻酔管理も行っており、長時間の治療であってもストレスが少なく安全な治療が行える環境を提供します。また歯科系での患者さんの急な体調不良の初期対応にも当たっています。

● **取り扱うおもな疾患**
D棟（歯科棟）手術室で口腔外科手術を受ける患者さんの麻酔管理を行います。また、口腔インプラント関連の手術や、親知らずの抜歯、小児の過剰埋伏歯の抜歯などは、外来麻酔管理の下で行われることが多くなります。また様々な理由で通常の歯科麻酔を受けることができない方も当科で麻酔管理を受けることで歯科治療のストレスを減らすことができます。

● **おもな診断・治療法**
全身麻酔と、点滴から麻酔薬を注射して、うとうとした状態を作るという静脈内鎮静法を行っています。外来での全身麻酔と静脈内鎮静法のほとんどは日帰りで行っています。

● **高度な先進医療**
手術や歯科治療の対象となる口腔は呼吸の通り道であり、呼吸管理には格別の配慮をしています。またインプラント関連の治療では比較的高齢の方が対象となることが多く、併存疾患への配慮や治療中の血圧や心拍数の安定化、また患者さんの不安への対応を、いくつかの方法を組み合わせて行っています。

● **その他**
2021年10月より東京医科歯科大学病院となり、医学部との連携を進めています。

科長
前田 茂 *MAEDA Shigeru*

専 門 医●日本歯科麻酔学会認定　歯科麻酔専門医
日本障害者歯科学会認定
指導医・認定医
専門分野●歯科麻酔学
障害者歯科学
研究領域●外来麻酔管理
麻酔薬の抗酸化作用

Message

歯科治療が苦手な方は大変多く、毎日多くの患者さんの治療に関わっています。不安が強い方にも楽な気持ちで治療を受けて頂けます。

歯科ペインクリニック
Orofacial Pain Clinic

Dial-in
● 03–5803–5762

通常の歯科治療では治らない口腔顔面領域の痛みの治療を行っています。

● **診療科の概要**
歯科的には原因の掴めない口腔顔面痛、感覚麻痺、異常感覚、異常運動などの診断を行い、それぞれの疾患に対して薬物療法（抗うつ薬、抗てんかん薬、漢方薬など）や物理療法（鍼通電療法、ACイオントフォレーシス、近赤外線照射）、心身医学療法を用いて症状の緩和を目指します。神経痛および神経障害性疼痛には末梢枝の神経ブロックやトリガーポイント注射を行う場合もあります。医科領域の疾患を疑う場合は適切な診療科へご紹介します。

● **取り扱うおもな疾患**
口腔顔面領域の神経障害性疼痛、顎顔面領域の帯状疱疹後神経痛
三叉神経痛、舌咽神経痛、顔面神経麻痺、顔面痙攣
非歯原性歯痛、口腔灼熱痛症候群、舌痛症、味覚障害
一次性頭痛に関連した口腔顔面痛、持続性特発性顔面痛、筋・筋膜性口腔顔面痛

● **おもな診断・治療法**
詳細な問診を行い、血液検査、CTやMRI撮影による画像診断、セメスワインスタインモノフィラメントを用いた精密触覚機能検査、電気味覚計やテーストディスク®を用いた味覚検査などの結果を基に診断を行います。
診断された疾患に対し、西洋薬および漢方薬による投薬治療、トリガーポイント注射、神経ブロック、物理療法（鍼通電療法、ACイオントフォレーシス、近赤外線照射）などによる治療を行っています。

● **高度な先進技術**
口腔顔面領域の帯状疱疹後神経痛や術後の神経障害性疼痛などに対して交流電流を用いたACイオントフォレーシスを行っています。

● **取り組み**
症状の原因が医科領域の疾患である場合も多く、医科との連携が重要であるため、適切な診療科へご紹介できるように国際的な診断基準やガイドラインなどに基づいた診断を行っています。また薬物治療が多いため、血液検査や心電図検査など、考えられる副作用に対しての確認を行いながら診療を進めます。
慢性痛では生活に支障がないことを目標に、痛みの緩和を図ります。

科長
前田 茂 *MAEDA Shigeru*

専 門 医●日本口腔顔面痛学会認定
口腔顔面痛専門医
日本歯科麻酔学会認定
歯科麻酔専門医
日本慢性疼痛学会認定　専門歯科医
専門分野●歯科麻酔学
口腔顔面領域のペインクリニック
研究領域●口腔顔面領域での神経障害性疼痛の病因の解明とその治療法の解明
口腔顔面領域の慢性痛に対する漢方薬の効果の解明

Message

口腔顔面領域の痛みは食事、会話など生活に支障が出ることが多いにもかかわらず、外見上異常が認められないため苦悩している患者さんが多くいらっしゃいます。当科では通常の生活が送れるように、それぞれの患者さんの痛みに最適な治療法を探ります。心理的にもつらい状況にある患者さんに寄り添い、治療を進めることを心がけています。

歯科心身医療科
Psychosomatic Dentistry Clinic

Dial-in
● 03–5803–5898

他の歯科医療機関で原因特定や治療が難しい歯・口の難治性疼痛や不快な違和感などを専ら診療します。

科長
豊福 明 *TOYOFUKU Akira*

専 門 医●日本歯科心身医学会　認定医・指導医
専門分野●歯科心身医学
研究領域●①歯科心身症の病態解明に関する研究
（歯科心身症における中枢－末梢機能連関について）
②歯科心身症の診断・治療技法の開発改良

● 診療科の概要
むし歯や歯周病の治療では良くならない、お口の不具合があります。例えば、「歯の痛みが取れない」「舌がヒリヒリする」「口が乾く」「味がおかしい」「口の中がネバネバ、ベタベタする」「咬み合わせが何度治療してもしっくりこない」「口臭が気になる」など、ご本人にとってははっきりした苦痛が長引くのに、歯科、内科、耳鼻咽喉科などで相談しても原因が分からず、行き場を失ってしまうことがあります。心療内科や精神科を紹介されても、ご担当の先生が「精神の病気ではない」「歯や口のことはよくわからない」とお困りになることもしばしばです。
当科では、こういった「医療の隙間」に陥ってしまう“歯科心身症”患者さんの診療に専門特化し、中枢との関連から複雑な口腔症状の病態解明と、より効果的な治療法の開発・改良を目指しています。

● 取り扱うおもな疾患
舌痛症、非定型歯痛（非定型顔面痛）、Phantom bite syndrome（咬合異常感：義歯や矯正治療後の不具合）、口腔異常感症（口腔セネストパチー）、味覚障害、ドライマウス、口臭症、インプラント術後の不快感など。

● おもな診断・治療法
初診は完全予約制で、問診、各種検査を通して、難治性の症状に隠れている器質的疾患（口腔領域の腫瘍や炎症、脳神経疾患など）が存在しないかなど、口腔領域の徹底した再診査に加え、必要な心理社会的背景も含めた入念な病歴聴取を行います。かかりつけの先生に持病や既往症の問い合わせをしたり（例えば緑内障、前立腺肥大や糖尿病などで処方の制約が出る場合もあります）、脳画像検査、血液・生理学的検査や心理検査などさらなる検査を追加させて頂く場合もあります。
それらの結果を踏まえた薬物療法と適切な生活指導などを組み合わせて、難治性の口腔症状の軽減を図っていきます。お困りの口腔症状に最も適した、必要最小限のお薬を探しながら、専門の歯科医師が対話を重視した心身医学的治療を実践します。
歯科心身症は、従来の歯科処置では症状改善が難しく、むしろ更なる歯の処置の繰り返しによって肝心の症状が増悪する可能性があります。どこまでが歯のせいで、どこからがそうではないのか、慎重に見極めながら、必要最小限の歯科処置を、適切なタイミングを見計らって行うために、かかりつけ歯科や当院各科の先生方と検討していきます。

● 高度な先進医療
豊富な症例数を活かし、歯科心身症の治療のノウハウの蓄積を重ねて来ました。どの患者さんにどのお薬が効きそうか、どのような副作用に注意すれば良いかなどに関与する因子や至適最小用量を分析探索し、より安全でより効果的な治療を追究しています。歯科は保険上の制約がかなり大きいので、ご希望があれば必要に応じて、保険適応の枠に縛られない治療も準備しています。

● 取り組み
当科での治療は、おもに内科的なものとなります。ご高齢の患者さんも増加しており、見逃しのない診断や安全な薬物療法のために、かかりつけ医（内科、耳鼻科、眼科、泌尿器科、心療内科、精神科など）の先生と連携して、他の持病の状態、服用中のお薬や血液検査のデータなどを共有し、口の症状の診断、治療を進めています。
コロナ禍での特例措置を教訓に、かかりつけ薬局との連携にも力を入れているところです。
また、かかりつけ歯科医の先生とも情報を共有して、必要な歯科処置や定期的な歯のメンテナンスの継続など連携医療を重視しています。
必要に応じて適切に院内各科の協力を要請しています。歯系各科のみならず、精神科や女性診療科との連携も密に行っています。矯正歯科との症例相談会を随時開催し、当院メンタルヘルス・リエゾンセンターの定期カンファレンスにも参加し、精神科チームとも密に連携しています。

Message

歯科心身症には特有のツラさがあります。口に現れる症状そのもののツラさ、長引く苦痛がいつまで続くのかと言うツラさに加え、周囲の人に理解してもらえないツラさもかなりの負担です。
現時点では医学的には説明が困難であっても、お口の症状が単に「気のせい」とか「精神的なもの」とは当科では考えていません。大学病院での、このような難治性の口腔症状に対しての積極的な取り組みは世界的にも稀少で、当科では最先端の研究を積み重ねながら、治療の善し悪しは、「患者さんから学ぶ」ことを旨とし、日々より良い診断と治療を追求しています。

歯科放射線科
Oral and Maxillofacial Radiology

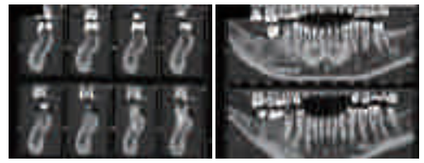
Dial-in
● 03–5803–5759

歯科を受診する患者さんの精密な画像検査・診断を行い歯科口腔領域のあらゆる疾患に対応できる体制を整えています。医系診療部門と共に口腔がんの放射線治療を実施しています。

科長
三浦 雅彦 *MIURA Masahiko*

専 門 医●日本歯科放射線学会　歯科放射線専門医
専門分野●口腔がんの放射線治療
研究領域●放射線腫瘍学
放射線生物学

● 診療科の概要
歯科放射線科には一般の歯科医院では利用できないMRI装置やマルチディテクタCT装置が設置されており、歯科口腔領域のあらゆる疾患に対して最適な画像検査・診断を提供できる体制を整えています。また医系診療部門とも密接に連携して、放射線治療や核医学診断を実施しています。

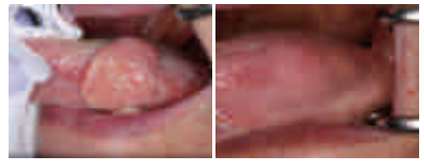


顎骨の再構築CT画像

● 取り扱うおもな疾患
・歯と歯周組織の疾患
・顎骨の腫瘍・嚢胞・炎症性疾患など
・顎関節や唾液腺の疾患
・口腔がんをはじめとする顎顔面領域の悪性腫瘍

顎関節のMRI画像　左：閉口位　右：開口位

● おもな診断・治療法
64列マルチディテクタCTや3テスラMRI、歯科用コーンビームCTなどを用いて、歯科口腔領域の疾患に対して最適かつ精密な画像診断を行っています。CT検査では、ほぼすべての症例で多断面画像再構成や3D立体画像再構成などの画像処理を併用しており、1回の画像検査からより多くの診断情報を提供するように努めています。
口腔がんに対するイリジウム針、放射性金粒子を用いた小線源治療ならびに主に口腔がんのIMRTによる放射線療法を医系診療部門と共に実施しています。



90歳、男性 Auグレインによる小線源治療

● 高度な先進技術
画像検査においては、最新の研究論文などを参考にしながら、疾患ごとに撮像条件や撮像シークエンスの最適化を行った上で、診断を行っています。
口腔がんに対して、高精度放射線治療であるIMRTを実施しています。

Message

歯科放射線科では、歯科放射線専門医の資格を持った歯科医師が全ての診断に当たっており、質の高いレポートを提供しています。また、口腔がんの放射線治療も行っており、特に小線源治療においては、国内随一の治療施設として、侵襲の少ない、QOLの高い口腔がん治療を提供しています。私たちは、画像診断ならびに放射線治療の分野から歯科医学の発展に貢献することを目標としています。

歯科総合診療科
Oral Diagnosis and General Dentistry

Dial-in
● 03–5803–5766

歯科における全人的・総合的な診断、治療、学生・研修医教育に取り組んでいます。歯系部門の入り口として院内他科、地域との連携をサポートします。

● **診療科の概要**
本院歯系診療部門は20以上の診療科で構成されています。歯科も専門領域が細分化され、患者さんご自身ではどの診療科を受診したらよいか判断が難しい場合があります。歯科総合診療科では、新来患者さんとの医療面接、全身評価と歯科の検査から、初期診断し、専門診療科の予診担当医と連携し、スムーズに担当科を決定します。
本診療科では専門的な治療を必要としない一般的な歯科疾患の総合的な診療をしています。むし歯や歯周病、義歯など一連の治療を、複数の診療科を行き来することなく、受診することができ、計画的かつ効率的に進めることができます。加えて、歯科疾患に特化した人間ドックを行い、歯科疾患の予防・早期発見に努めています。
本診療科は本学歯学部・大学病院における臨床教育のマネジメントを担っており、歯学生・研修医の臨床教育・指導にも力を入れています。臨床実習・臨床研修においては経験豊富な指導医の下、安全で質の高い歯科診療を提供することを心がけております。多くの優秀な歯科医師を輩出するため、できるだけ多くの患者さんのご協力をお願いいたします。

● **取り扱うおもな疾患**
一般的な歯科疾患全般（むし歯、歯周病、冠、ブリッジ、義歯等）の予防・治療を担当します。

● **おもな診断・治療法**
歯科診断・治療全般を取り扱いますが、患者さんの心理・社会的な側面に配慮し全人的に診察することを心がけ、必要に応じて地域の社会的リソースに繋げることを行っています。歯科ドックでは一般的な歯科検診内容の他、むし歯・歯周病の原因菌のPCR検査、口臭検査、咀嚼効率の検査等をスクリーニング的に行い、さらに受診者の歯の状態を、歯型をとる代わりに３Ｄデータとして保管し、経時的なお口の変化を記録・分析します。本院の長寿・健康人生推進センターの先端的検診での歯科ドック・フレイル検診も担当しています。

● **診療科における研究テーマ**
歯科に関する行動科学的研究、歯科診断に関する研究、ビッグデータを用いた患者ニーズの解析、同じくビッグデータを用いた歯科疾患と全身疾患の関係の解析、ストレスフリーな歯科治療環境の研究、デジタルデバイスを活用した新しい歯科医学教育方略に関する研究等を行っています。

● **その他**
歯科ドックに関してはインターネット上、
https://www.tmd.ac.jp/dent_hospital/document/panf_doc.pdf
長寿・健康人生推進センターについては
https://www.tmd.ac.jp/medhospital/chouju/
に情報が掲載されています。ご興味のある方は是非ご覧ください。

科長
新田 浩 *NITTA Hiroshi*

専 門 医●日本歯周病学会　歯周病専門医
専門分野●歯周治療
　　総合診療
研究領域●歯周病学
　　総合診療歯科学
　　歯科医学教育学

Message

現在、歯系診療部門は受診を希望する患者さんが集中している影響で治療開始までお待たせする期間が長くなっております。大学病院としての高い医療水準を維持するよう努力しておりますが、時間的なご都合には、なかなかお応えできる状況でないことをどうかご容赦ください。
本学の学生・研修医の教育は、患者さん皆様のご協力のおかげで、世界的にも高い水準を保っております。引き続き社会に貢献する医療人を輩出するべく、臨床教育へのご協力をお願い申し上げます。お口の中の状況が臨床教育に適すると判断された場合、スタッフがご協力をお願いしますので、その際は是非ご検討下さい！

息さわやか外来
Fresh Breath Clinic

Dial-in
● 03–5803–4559

高度な口臭診断・治療技術を提供し口臭で悩む人がいない社会を目指します。

● **診療科の概要**
息さわやか外来は口臭検査、口臭の診断・治療・予防を行う専門外来です。
口臭の原因の多くは口腔疾患や口腔清掃状態に起因します。
息さわやか外来では様々な専用の口臭測定機器を用いて、口臭の強さや原因を特定し、適切な治療や指導、カウンセリングを行います。

● **取り扱うおもな疾患**
真性口臭症
仮性口臭症
口臭恐怖症

● **おもな診断・治療法**
口臭測定器による口臭値の測定、診断に必要な口腔に関する様々な検査を行い、診断します。診断結果に応じて、適切な治療やセルフケアの指導を行います。

● **高度な先進技術**
口臭の原因物質である揮発性硫黄化合物を高精度に計測できる口臭ガスクロマトグラフィーを用いて口臭診断を行います。また口臭恐怖症など重度に口臭の悩みがある患者さんへのカウンセリングも実施しています。

● **取り組み**
受診予約がスムーズに行えるように外来の紹介と予約サイトがあります。
（https://tmduohp.com/clinic/）
当科で使用している口臭測定用のガスクロマトグラフィーは、世界でも数少ない口臭測定機器です。

● **その他**
完全予約制／保険外診療

科長
相田 潤 *AIDA Jun*

専 門 医●日本口腔衛生学会　指導医
専門分野●口腔衛生学
　　疫学
研究領域●口臭の診断・治療・予防に関する臨床疫学および基礎研究
　　口臭の診断機器開発に関する研究
　　呼気成分に関する研究

Message

多くの人が口臭に関して、少なからず関心を持っています。口臭が気になっていると、周りの人と積極的に行動ができなかったり、コミュニケーションがとりにくいと感じたりします。患者さんが自分の口臭を客観的な数値で示されることや、対処法や予防法を知ることにより、より良い社会生活が歩めるように努めています。家族から口臭を指摘された、自分の口臭が気になる、周りの人の態度が気になるなどがあれば、まずは口臭検査を受けてみてください。

クリーンルーム歯科外来

Cleanroom

Dial-in

● 03–5803–5748

高度に感染対策が施された環境下での歯科治療を提供します。

● **診療科の概要**

院内感染のリスクを減少させるために設立されました。既に感染症を有する方の一般歯科診療、あるいは免疫抑制剤等の薬剤を使用する影響等で、免疫機能が低下し、感染症に罹患しやすくなっている方の歯科治療を、防御環境の概念の基で実施するための院内共同利用施設です。

● **取り扱うおもな疾患**

う蝕・歯髄炎・歯周炎・口内炎・抜歯を要するもの・歯の欠損症

● **おもな診断・治療法**

一般的な歯科診療に基づき行われます。

● **高度な先進医療**

陰圧個室あるいは陽圧個室下における歯科治療の提供

● **取り組み**

通常の歯科診療でも感染対策として、標準予防策を行っておりますが、当外来ではさらに室内の気圧をコントロールすることで、感染症の拡大を防止しています。また針刺し事故を予防するため、注射針にリキャップを禁止しています。そのため浸潤麻酔用ホルダーはワンタッチ式を採用しています。

科長

道 泰之 *MICHI Yasuyuki*

専 門 医●(公社) 日本口腔外科学会
専門医・指導医
がん治療認定医（歯科口腔外科）
(一社) 日本口腔腫瘍学会
口腔がん専門医
ICD 制度協議会
インフェクションコントロール
ドクター
専門分野●口腔外科一般
口腔がん
研究領域●口腔がん
骨髄炎

Message

清潔で安全な歯科診療を行える環境を整えられるよう目指しています。全身状態に応じて、各診療科の担当医がクリーンルーム歯科外来をご案内します。

第1総合診療室

General Dentistry I

Dial-in

● 03–5803–5729 ● 03–5803–7712

Student Dentistの称号を付与された歯学科５～６年生が、指導医とともに安全で確実な歯科診療を行います。

● **室の概要**

第１総合診療室は、歯学科５年生の前期までに必要な単位を取得し、その後、共用試験という学生の知識・態度・技能を評価する全国共通の試験に合格し、Student Dentistという称号を授与された歯学科５～６年生が包括臨床実習を行う場で、学生が患者さんの担当となります。学生は、患者さんの診療計画を立てた後に、保存・補綴・口腔外科という一般歯科診療を総合的に指導医の指導の下に行います。診療は、ステップごとに指導医が確認し、安全で確実な診療を行います。

● **取り扱うおもな疾患**

一般歯科（保存・補綴・口腔外科・歯科放射線）

● **おもな診断・治療法**

歯学科学生が自験可能な一般歯科診療（保存・補綴・口腔外科・歯科放射線）を担当します。

● **取り組み**

歯科医師養成は大学歯学部の大切な役割の一つです。歯学科学生が卒業するためには、臨床実習での知識の確認、態度・技能の向上は欠くことができないものです。東京医科歯科大学病院はそのための臨床実習を行う研鑽の場として、第１総合診療室を設置しています。第１総合診療室には毎日、むし歯科・歯周病科・義歯科・口腔外科・歯科放射線科の各専門科から合計７名の教員が指導に当たっており、学生と安全で確実な診療を行っています。

● **その他**

新型コロナウイルス感染症の蔓延化においても、感染対策を徹底した上に、臨床実習を継続しています。

科長

新田 浩 *NITTA Hiroshi*

専 門 医●日本歯周病学会　歯周病専門医
専門分野●総合診療　歯周治療
研究領域●総合診療歯科学　歯周病学
歯科医学教育学

Message

歯学科学生の臨床実習へのご理解、ご協力をよろしくお願いします。

第2総合診療室

General Dentistry II

Dial-in

● 03–5803–5732 ● 03–5803–5734

研修歯科医と歯科レジデントが、指導歯科医とともに安全で確実な歯科診療を行います。

● **室の概要**

第２総合診療室は、歯科医師国家試験に合格した直後の歯科医師が歯科医師臨床研修として総合診療研修を行います。また、本院で歯科医師臨床研修を修了した歯科レジデントも診療を行います。研修歯科医・歯科レジデントが患者さんの担当医となり、一口腔単位での診療計画を立て、保存・補綴・口腔外科からなる一般歯科診療を、指導歯科医の指導のもとに行います。

● **取り扱うおもな疾患**

一般歯科診療（保存・補綴・口腔外科）

● **おもな診断・治療法**

研修歯科医、歯科レジデントが一般歯科診療（保存・補綴・口腔外科）を担当します。

● **取り組み**

歯科医師養成は大学病院の大切な役割の一つです。歯科医師臨床研修は、歯科医師法に定められた義務であり、東京医科歯科大学病院は歯科医師臨床研修のうち総合歯科診療研修を行う研鑽の場として、第２総合診療室を設置しています。また本院で歯科医師臨床研修を修了した歯科レジデント（後期研修歯科医）の研鑽の場でもあります。第２総合診療室には毎日、むし歯科・歯周病科・義歯科・口腔外科・歯科総合診療科の各専門科から合計８名の教員に加えて臨床経験豊富な臨床教授・非常勤講師が指導に当たっており、安全で確実な診療を行っています。

科長

新田 浩 *NITTA Hiroshi*

専 門 医●日本歯周病学会　歯周病専門医
専門分野●総合診療　歯周治療
研究領域●総合診療歯科学　歯周病学
歯科医学教育学

Message

歯科医師臨床研修へのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

口腔健康管理科
Oral Health Management

Dial-in
● 03–5803–4552

歯科衛生士が主体となり、生涯を通じてお口の健康を保つために、患者さん一人ひとりにあった、口腔保健指導と専門的な処置を行います。

● **診療科の概要**

歯科衛生士が主体となり、歯科医師・医師・看護師などと連携をとりながら、う蝕および歯周病などの口腔疾患の予防や周術期口腔健康管理を行っております。
生涯を通じてお口の健康を保つために、一人ひとりの患者さんの生活習慣および口腔内の状態を確認し、歯科衛生士による口腔保健指導（プラークコントロール指導、食生活指導、生活指導など）や専門的な処置（歯石除去、機械的歯面清掃、フッ化物塗布）を行っております。
また、医系・歯系それぞれの病棟に出向いて、化学療法や手術前後の入院患者さんのお口のケアを行っております。

● **取り扱うおもな疾患**

う蝕、歯周病をはじめとする口腔疾患の予防、周術期における口腔衛生管理のほか、口腔の機能の維持・増進のための指導・管理を行っております。

● **おもな診断・治療法**

口腔保健指導：
一人ひとりの状態にあった口腔の衛生と機能について、具体的な指導を行います。例えば、口腔保健指導（歯ブラシ・歯磨剤・清掃補助用具の選択や使用方法の指導）、舌運動、口腔周囲筋や唾液腺のマッサージなどの口腔機能の維持・向上のための指導、生活習慣の指導を行います。

機械的歯面清掃：
歯の表面や歯と歯ぐきの隙間に溜っている歯垢（デンタルプラーク）を、機械や器具で取り除きます。
タバコのヤニや飲食物（お茶・紅茶・コーヒー・ワイン）由来のステインを除去します。

歯石除去（歯肉縁上歯石除去）：
歯肉縁上歯石とは、歯と歯肉の境目より上に付着した乳白色の歯石のことです。超音波スケーラーなどの機械を使って、縁上歯石除去を行います。

フッ化物を利用したむし歯予防：
むし歯の予防に効果のあるフッ化物を歯面に塗布することで、歯の質を強くし、むし歯を予防することができます。

● **取り組み**

・歯系病棟での周術期口腔健康管理
・歯系外来患者における口腔健康管理
・インプラント埋入前後、メインテナンス時における口腔健康管理
・訪問歯科診療への参加
・長寿・健康人生推進センターへの参画
・血液内科との勉強会、定期カンファレンス
・歯系病棟での定期カンファレンス
・日本がん口腔支持療法学会、日本歯科衛生学会、日本口腔衛生学会などでの学会発表

科長
荒川 真一 *ARAKAWA Shinichi*

専 門 医●日本歯周病学会　歯周病認定医
日本口腔機能水学会認定
専門医・指導医
専門分野●歯周病学
細菌学
機能水（オゾンウルトラファインバブル水、高純度次亜塩素酸水）
研究領域●歯周治療、周術期口腔健康管理などにおける機能水の臨床応用
各種機能水の細菌・生体に対する作用の解析

Message

歯科衛生士が歯科医師と連携をとりながら、患者さんの生活習慣や口腔内の状態を確認し、専門的な処置を行っています。また、病棟においては、チーム医療の一員として化学療法や放射線療法、手術前後の患者さんを対象に口腔衛生管理を行い、QOLの向上を図っています。患者さんと共に良好な口腔機能を保ち、食事・会話を楽しんでいただけるよう支援します。

基盤診療部門等
のご紹介

看護部	114
薬剤部	115
検査部	116
手術部	117
放射線部	118
リハビリテーション部	119
集中治療部	120
材料部	121
血液浄化療法部	122
臨床栄養部	123
歯科技工部	124
歯科衛生保健部	125
緩和ケアチーム／栄養サポートチーム(NST)	126
医療情報部	127
国際医療部	128
災害テロ対策室	129
保険医療管理部	130
医療安全管理部	131
感染制御部	132
臨床研究監視室	133
事務部	134

看護部
Department of Nursing

Dial-in
● 03-5803-5666

医療チームの一員として責任を持ち、創造性豊かな思いやりのある看護を実践します。

部長
淺香 えみ子 *ASAKA Emiko*

専門資格●日本看護協会認定
救急看護認定看護師
認定看護管理者
専門分野●看護管理
救急看護
継続教育

● 部の概要
大学病院内最大数の職員である看護師、助産師、看護補助者約1,200人で構成されています。
主体的、科学的、創造的な姿勢で看護ケアを提供しています。
専門看護師11名、認定看護師36名、特定看護師12名等の専門分野・領域に特化した技能を発揮する看護師が増える一方で、コロナ感染症対応において重視された、高度な実践ができる多数のジェネラリストが東京医科歯科大学病院の看護力を保証しています。そして、全病棟全診療科混合化による病床運営を支えています。

● 高度な先進技術
がん相談等の看護師による外来対応を実施しています。診療報酬の算定対象から、患者さんのニーズに応じた随時対応まで安心して治療継続していただくための支援を行っています。

● その他
卒後教育は、教育工学の手法を用いて、効果性、効率性、魅力のあるプログラム設計を進めています。
専門看護師、認定看護師、認定看護管理者の実習施設としての役割をになっています。

Message
高度先進医療の成果を患者さんの生活の質向上につなげるために、治療過程の全体を通して、患者さんとそのご家族の意思を尊重しつつ、生活機能再獲得を目指したケアを提供しています。個々の患者さんに合わせた科学的根拠に基づく看護によって早期社会復帰を目指すとともに、最後までその人らしさを守ることを大切にしています。
医療チームの一員として責任を持ち、創造性豊かな思いやりのある看護をポリシーに、「できない」ではなく「どうしたらできるのか」と考え抜いた看護によって、任せてよかったと思っていただけるよう東京医科歯科大学の医療をコーディネートしてまいります。

薬剤部
Pharmacy

Dial-in
● 03-5803-5601

安全で安心できる薬物療法のために、お薬のある所にはいつも薬剤師が見える病院をめざしています。

部長
永田 将司 *NAGATA Masashi*

専門資格●日本医療薬学会　医療薬学指導薬剤師
日本臨床薬理学会　指導薬剤師
日本アンチ・ドーピング機構
公認スポーツファーマシスト
専門分野●薬物動態学、臨床薬理学
研究領域●数理モデルを利用した薬物のPK-PD解析、機械学習を用いた薬効・副作用の予測

● 部の概要
薬剤部では、安全で確実な調剤を基本に、医薬品情報の提供、医薬品の品質・在庫管理、麻薬管理、治験薬管理、院内製剤の調製、抗がん剤のミキシング・レジメン管理、薬物血中濃度モニタリングなどの中央業務を行っています。また、チーム医療では医療安全、感染対策、緩和ケア診療等に参画、更に拡充されたスタッフにより、病棟薬剤師を中心にベッドサイドで持参薬の確認から退院時のお薬まで、安全で安心な薬物療法の提供を使命とし、薬剤部一丸となって業務を行っています。

● おもな診断・治療法
- 服薬指導・退院指導
- 薬物血中濃度測定および血中濃度に基づく体内動態解析
- 中心静脈栄養に用いられる注射剤および抗がん剤の無菌調製
- 各種院内製剤の調製
- 各種医薬品の品質管理試験

● 高度な先進技術
特定薬剤治療管理料対象薬物以外の薬物について、薬物血中濃度を測定し薬物動態解析を行える体制を整えています。また、日本医療薬学会および日本臨床薬理学会の研修認定施設となっています。

● その他
当院薬剤部では、医薬品の適正使用に関わる基礎・臨床研究にも力を入れております。これまでの研究業績が評価された職員が、平成26年度日本医療薬学会奨励賞を受賞しております。

Message
薬剤師は医療チームの一員として、薬のプロフェッショナルの立場から、有効かつ安全な薬物療法の確立を通して、患者さんへの安全で安心な薬物療法の提供に最善を尽くしてまいります。これからも医療の信頼性を高め、特定機能病院として高度な医療を開発・実践すべく、全ての薬剤師が研鑽を重ねてまいります。

検査部
Clinical Laboratory

Dial-in
● 03–5803–5624

最先端の技術に基づいた臨床検査を迅速に行い、高度な診療に貢献します。

● **部の概要**
検査部は３階と５階にあり、臨床検査技師、医師、歯科医師、事務職員で構成され、検体検査、生理検査、採血業務を行っています。検体検査には血球・血液凝固・骨髄、生化学・免疫、遺伝子、細菌、尿・便検査などが、生理検査には心電図、呼吸機能、脳波、筋電図、末梢神経伝導、超音波検査などがあります。検査に関わる情報提供も行っています。

● **おもな診断・治療法**
検体検査の多くは、検体を受け取ってから約１時間で結果をオンライン報告しています。生理検査も速やかに結果を報告しています。これらにより、診療科での適切な診断や治療をサポートしています。

● **高度な先進医療**
厚生労働省が認定した先進医療Ａとして「多項目迅速ウイルスPCR法によるウイルス感染症の早期診断」、「ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断」、「細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断（PCR法）」を実施しています。そのほか、薬剤耐性菌の院内感染の監視のための細菌遺伝子型解析も行っています。生理検査では、運動神経伝導を高電圧電気刺激装置を用いて調べる検査や、経頭蓋磁気刺激による中枢運動神経の検査を行っています。

部長
東田 修二 *TOHDA Shuji*

専 門 医●日本内科学会認定　総合内科専門医
日本血液学会認定　血液専門医
専門医機構認定　臨床検査専門医
専門分野●臨床検査医学
血液学
研究領域●血液腫瘍の分子病態の検査や感染症の遺伝子検査

Message

当検査部では、最先端の技術を駆使し、精度の高い臨床検査を迅速に行うとともに、患者さんが快適に検査を受けることができるよう努めています。当検査部は検査室の国際規格であるISO 15189に認定されており、その水準が世界レベルにあることが保証されています。また、学生、検査技師、医師に対する臨床検査の教育や、新たな検査法の研究・開発にも取り組んでいます。

ISO15189の日本語版認定証

手術部
Surgical Center

Dial-in
● 03–5803–5632

患者さんが安全に、かつ最良の手術治療を安心して受けられる場を提供しています。

● **部の概要**
手術部は、Ａ棟手術室15室（うち２室はバイオクリーンルーム）と、Ｄ棟手術室３室の手術室からなり、医系診療科では外科系19診療科、内科系３診療科の手術が施行され、歯系診療科として、歯科口腔外科等の手術が施行されています。2023年10月には機能強化棟でハイブリッド機能を備えた手術室２室を含む７室が開設されます。手術件数は、2022年度7500件を超えコロナパンデミック前の実績に戻りつつあります。重症症例や高難易度手術も診療科と連携しながら安全な手術の場を提供し症例によって術後ICU（集中治療部）で治療を継続する体制も整っています。

● **おもな診断・治療法**
低侵襲手術、とくに、鏡視下手術、ミニマム創手術、ロボット支援手術に力が入れられており、頭頸部手術、小児外科にも力を入れています。

● **高度な先進医療**
2017年10月からはDaVinciが設置され、ロボット支援手術が開始されました。現在、大腸肛門外科、泌尿器科、周産女性診療科、胃外科、呼吸外科、肝胆膵外科がロボット支援手術を行っています。また手術器械の管理においては、トレーサビリティシステムを導入し、手術に用いる鋼製器械の使用履歴を管理しており、滅菌リコール時の迅速な追跡調査、周知を可能にしています。また、鋼製器械の購入・修理履歴から、安全かつ計画的な更新を図り、手術の安全性の維持に役立てています。

部長
内田 篤治郎 *UCHIDA Tokujiro*

専 門 医●日本麻酔科学会認定　麻酔科専門医
専門分野●麻酔科学
研究領域●周術期管理医学
バイオマーカー
急性肺傷害
麻酔薬の臨床薬理

Message

当手術部では、病院の理念である「世界最高水準のトータル・ヘルスケアを提供し、人々の幸福に貢献する」のもと、「患者さんが安全に、かつ最良の手術治療を安心して受けられる場を提供する」をミッションとして掲げています。
日々ボトルネックを点検し、外科医が、その技量をいかんなく発揮でき、多くの患者さんに喜んでいただける環境を整えることを目指しています。

放射線部
Radiology Center

Dial-in
● 03–5803–5635

単純Ｘ線写真から最先端の画像までの画像診断、さらに放射線を使った侵襲の少ない血管内治療やがん治療を行っています。

● **部の概要**
単純Ｘ線写真からＣＴ、ＭＲＩ、ＰＥＴ／ＣＴまで幅広い画像診断と放射線を使ったより侵襲の少ない血管内治療（ＩＶＲ）やがん治療を行っています。また、歯学部附属病院との一体化により口腔内Ｘ線撮影も加わり、大学が掲げるトータルヘルスケアに貢献した体制になっています。
現在のスタッフは診療放射線技師６９名、看護師２７名、事務員６名で構成され、放射線診断科、放射線治療科や歯科放射線科の医師をはじめとするすべての診療科の医師と協力して、診療にあたっています。

● **おもな診断・治療法**
診断部門では１９２列デュアルエナジー CT、PET/CT、3 テスラMRI、CBCT、IVRなどを行っています。
治療部門では定位照射やIMRTを含む外部照射、腔内照射、口腔がんや前立腺がんの低線量率小線源治療を行っています。

● **高度な先進技術**
診断部門ではPET/CTや救急IVRが特筆されます。
治療部門では口腔がんや前立腺がんの小線源治療や、肺がんの定位照射や前立腺がんのIMRTを行っています。

● **取り組み**
診断部門では医用画像の質の向上を当面の大きな課題として取り組み、治療部門ではIMRTなどの高精度治療技術の積極的応用を図ります。さらに、歯科放射線科と連携した治療や、お互いの画像撮影技術の向上に取り組んでいます。

● **その他**
放射線部には検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師やＸ線ＣＴ認定技師核磁気共鳴専門技術者、放射線治療専門放射線技師、医学物理士、放射線治療品質管理士、医療情報技師の認定を受けた診療放射線技師や、インターベンションエキスパートナースの認定を有している看護師がいます。
放射線部内の医師、看護師、診療放射線技師のチームとしての機能を重視し、病院診療各科や各部門と連携し、患者さんが安心して検査や治療を受けられる環境作りを行って参ります。

部長
立石 宇貴秀 *TATEISHI Ukihide*

専 門 医●日本医学放射線学会認定
放射線診断専門医
日本核医学会認定　核医学専門医
専門分野●画像診断
核医学
研究領域●画像医学
分子イメージング

Message

放射線部は部長、副部長そして技師長、診療放射線技師で構成されており、放射線診断科や放射線治療科をはじめとする診療各科の医師、さらに看護師と協力して多岐にわたる放射線診療を行っています。患者さんに安心して診療を受けていただける環境作りを放射線部員一同で行って参ります。

リハビリテーション部
Rehabilitation Center

Dial-in
● 03–5803–5648

病態に合わせて超急性期からリハビリテーションを導入し、早期回復をはかっています。

● **部の概要**
急性期から積極的にリハビリテーションを開始して、障害を少しでも軽減できるようにします。また、退院後、安心して生活が送れるように心掛けています。整形外科・脳神経外科・脳神経内科を中心に様々な診療科の患者さんのリハビリテーションを行っています。理学療法・作業療法・言語聴覚療法の３部門で患者さんの必要に応じて、急性期からリハビリテーションを開始し、短い入院期間でも安心して退院・転院していただけるよう総合的に診療を行っております。高齢社会の問題の１つでもある、誤嚥性肺炎の防止にも積極的に取り組んでいます。

● **おもな診断・治療法**
多くの疾患に対し手術後・発症後可能な限り早期にリハビリテーションを開始し、離床できない患者さんでも、病室から積極的に介入を行うことで、無動による二次的な障害を予防しながら患者さんの機能回復をサポートしています。

● **高度な先進技術**
人工関節の手術後リハビリテーションは短期間で歩行や日常生活動作の獲得を行います。各科の重症患者さんに対しては、集中治療部多職種回診や呼吸・栄養サポートチームなどに参画し、早期離床・早期回復を図っています。また、嚥下の評価・治療にも積極的に取り組んで、安全な摂食と、食べる楽しみを患者さんに味わっていただいています。

部長
酒井 朋子 *SAKAI Tomoko*

専 門 医●日本リハビリテーション医学会認定
リハビリテーション指導医
日本整形外科学会認定
整形外科専門医
リウマチ専門医
専門分野●運動器疾患のリハビリテーション
股関節外科
小児リハビリテーション
研究領域●脳性麻痺
重症心身障害児（者）

Message

リハビリテーションは治療がひと段落したら開始というのではなく、外傷、手術、急性期疾患の治療開始と同時に早期から始めることが、良好な機能回復へつながります。当院は専門性の高い整形外科手術や、重篤な疾患・難治疾患に対する積極的な治療が行われていますが、それぞれの病態に合わせて、超急性期からリハビリテーションを導入し、早期回復を図っています。

集中治療部
Intensive Care Unit

Dial-in
● 03–5803–5653

多職種連携を基軸としたチーム医療により、院内における最後の砦を守ります。

● **部の概要**
当部では専従医師が24時間常駐し、看護師、薬剤師、臨床栄養士、理学療法士、臨床工学技士などを含む多職種のチームが協力して、一人一人の患者さんの治療にあたっています。日本集中治療医学会認定専門医研修医施設です。人工呼吸器や体外循環装置、血液浄化装置などの高度な医療設備を駆使し、各科専門医師と強力に連携をはかりながら、最適かつ高度な集中治療を提供します。

● **おもな診断・治療法**
一般病棟で管理されている患者さんの状態が悪化した場合に備え、それを早期に察知できるように当部の医師と看護師が全病棟を回診し、集中治療開始のタイミングを逃さないように努めています。集中治療室内では各種生体監視装置やベッドサイドでの超音波検査により患者さんの心肺機能を迅速に評価し、病状の変化に迅速に対応しています。

● **高度な先進医療**
患者さんの状態に合わせて高度医療機器を使用できる環境を整備しています。肺や心臓の機能が著しく損なわれた患者さんに対しては大動脈バルーンパンピング（IABP）、心肺補助装置（ECMOまたはPCPS）、補助人工心臓（VAS）などを導入し救命を図り、予後の改善に努めています。

● **取り扱うおもな疾患**
大手術後（心臓血管外科、脳神経外科、食道外科、頭頸部外科など）の術後管理
血管内手術や心臓カテーテル治療後の術後管理
ARDS、肺炎、敗血症性ショック、心原性ショック、出血性ショック、DIC、急性腎傷害、急性肝不全

● **診療科における研究テーマ**
・Rapid Response Teamの構築と医療安全の向上
・集中治療領域における終末期医療
・ITを活用した家族とのコミュニケーション向上
・ICUにおける抗菌薬の適正使用
・ICUにおけるビッグデータを用いた重症化予測

● **取り組み**
・主治医や看護師のみならず、薬剤師、臨床栄養士、理学療法士、臨床工学技士など患者さん一人一人に関わる職種が集まり、入室患者さんについて毎朝多職種回診を実施し、効率的に情報を共有し診療方針を決定する場を提供しています。
・感染症対策により家族面会に制限が加わることも多い昨今ですが、タブレットなどを用いたオンライン面会を導入し、ご家族と患者さんはもちろん、集中治療部スタッフとご家族の間のコミュニケーションが良好に確保できるよう努めています。

部長
若林 健二 *WAKABAYASHI Kenji*

専 門 医●日本小児科学会認定　小児科専門医
日本集中治療医学会認定
集中治療専門医
専門分野●集中治療医学
研究領域●急性呼吸不全
体外循環
肝不全
病院管理におけるAI活用

Message

集中治療部は多職種連携によるチーム医療を基本としており、集中治療部専従医師、主治医、看護師、薬剤師、歯科医師、臨床栄養士、リハビリスタッフ、臨床工学技士を含むエキスパートによって構成されたチームで、院内における最重症の患者さんの治療を行います。集中治療室という最後の砦としての役割に加え、これから重症化する可能性が高いと考えられる一般病棟患者さんの回診も積極的に行い、重症化する前の早期介入や退室後のフォローアップも担っております。

材料部
Materials Management

Dial-in
● 03–5803–5658

手術器械、医療材料の適切な管理で最善の医療・看護をサポートします。

● **部の概要**
材料部には滅菌管理部門と物品管理部門があります。滅菌管理部門では手術器械などを洗浄・消毒し、器械の機能性や形状を検査します。そして、器械に適した方法で細菌やウイルスなどを死滅させる滅菌処理を行い各部署へ供給しています。
物品管理部門では医療材料を適材適所、安全かつ効率的に運用できるよう供給管理しています。

● **高度な先進技術**
トレーサビリティシステムを構築し、各材料を管理運用しています。
手術器械ではICタグや2次元シンボルを用いて準備履歴と使用履歴を厳密に管理しています。これにより患者さんに使用する個々の器械が、どのように準備され使用されたかを詳細に把握することができます。また、器械のリコールの際に迅速な対応が可能であり、供給する器械の安全性の向上を図っています。
医療材料ではRFIDシールを発行し、どのロット番号の製品がどの患者さんに、いつ使用されたかを記録し、患者さんごとに安全に、適正に使用されるように管理しています。

● **取り組み**
滅菌管理業務では様々な評価機器を用いた手術器械の洗浄評価や滅菌評価を実施して、高水準な洗浄の質および滅菌の質を確保するとともに、拡大鏡を用いた器械単体の精密検査を重点的に行い、供給する手術器械の質の向上に努めています。

● **その他**
材料部業務は高度な技術と安全管理・感染対策への高い意識が必要です。当院材料部では滅菌業務ならびに再使用可能医療機器や医療材料の管理運用方法、医療機器の使用実績データの利活用に関する研究をおこない、医療サービスの質の向上を図っています。

部長
久保田 英雄 *KUBOTA Hideo*

専門分野●神経生理学
医療管理学
研究領域●医療管理
滅菌管理
医療安全

Message

病院内では様々な手術器械や医療材料が使用されています。これら材料の適切な管理には高度な技術を要しますが、患者さんが安心して医療サービスを受けられる環境作りには必須であり、同時に医師をはじめとする医療従事者がその技量を最大限発揮するためにも欠かすことができません。材料部は医療サービスを支えるこの重要な管理業務を通じて、最良の医療・看護が提供できるように努めています。

血液浄化療法部
Hemopurification

Dial-in
● 03–5803–5662

体液の異常を是正し、血中の人体に有害な物質を除去するために、
血液透析をはじめ、血漿交換、吸着療法などの
血液浄化療法による治療を行います。

部長
内藤 省太郎 *NAITO Shotaro*

専 門 医●日本内科学会認定　総合内科専門医
日本腎臓学会認定　腎臓専門医
日本透析医学会認定　透析専門医
専門分野●腎臓内科
血液浄化療法
研究領域●慢性腎臓病
急性腎障害
血液浄化療法

● おもな診断・治療法

●透析療法 Dialysis
・血液透析　Hemodialysis (HD)
・オンライン血液ろ過透析　On-line Hemodiafiltration (On-line HDF)
・持続的腎代替療法　Continuous Renal Replacement Therapy (CRRT)
・腹膜透析　Peritoneal Dialysis (PD)
●アフェレシス療法 Apheresis
・血漿交換　Plasma Exchange (PE)
・選択的血漿交換　Selective Plasma Exchange (SePE)
・血漿吸着　Plasma Adsorption (PA)
・血液吸着　Hemoadsorption (HA)

● 高度な先進医療

当血液浄化療法部は、日本で最初に透析療法を開始した機関の一つであり、長い臨床経験を持ち、信頼される医療の提供を行っています。現在14床が稼動しており、件数も年々増加傾向にあります。
さらに持続的腎代替療法、血漿交換、血漿吸着、エンドトキシン吸着などの高度で先進的な血液浄化法についても多数施行しており、豊富な経験と実績を有しております。また選択的血漿交換については日本で随一の実績を誇ります。

● その他

血液浄化療法部では、患者さんが安心して治療が受けられるよう医師、臨床工学技士、看護師が一体となって診療に取り組んでおります。また全国42の国立大学病院血液浄化療法部門において、当血液浄化療法部は、2022年の血漿交換と血漿吸着の件数が共に第1位と、高い診療実績を誇っております。患者さんの予後やQOL改善に今後も努めてまいります。

Message

血液浄化療法は、血中から人体に有害な物質（尿毒素・アンモニア・自己抗体・免疫複合体・過剰リポ蛋白、エンドトキシンなど）を体外へ除去し、重篤な病態の改善を図る治療法です。最も多い治療疾患は、末期腎不全や急性腎障害に対する透析療法です。その他にも、血液浄化療法は各診療科領域の様々な治療と併用されます。このため血液浄化療法部では、治療を受ける患者さんの診療科主治医と連携し、患者さんに最適な治療を提供できるよう取り組んでいます。

臨床栄養部
Nutrition Services

Dial-in
● 03–5803–5133

食を通じて治療を支え、
入院生活のＱＯＬの向上と医療に貢献します。

部長
川田 研郎 *KAWADA Kenro*

専 門 医●日本外科学会認定　外科専門医
日本消化器内視鏡学会認定
消化器内視鏡専門医・指導医
日本気管食道科学会認定
気管食道科専門医
日本食道学会認定　食道科専門医
日本消化器内視鏡学会
上部消化管スクリーニング認定医
日本ヘリコバクター学会
H.pylori感染症認定医
日本がん治療認定医機構認定
がん治療認定医
専門分野●食道癌の内視鏡治療、集学的治療、頭頸部表在癌の内視鏡診断、内視鏡治療、臨床栄養
研究領域●食道癌・頭頸部癌の早期診断と低侵襲治療
飲酒と食道癌・頭頸部癌の発癌に関する啓発運動
食道癌サバイバーズシェアリングス
医療アドバイザー

● 部の概要

食事を含めた栄養療法は医療の一環であり、全ての治療の根幹となります。臨床栄養部では、安全かつ美味しい食事を提供し、個々の患者さんの病状に応じた適切な栄養管理の推進と、食事療法が継続できるよう、栄養相談や栄養教室を行っています。このように「食」を通じて、直接的・間接的に疾患治療を支え、入院生活のQOL向上及び医療に寄与しています。

【臨床栄養管理】
入院栄養管理：献立作成から患者個々に合った適切な食形態、栄養量の検討を行ったり、経腸栄養や静脈栄養時における栄養剤や輸液メニューの提案も行っています。また、病棟カンファレンスへの参加や院内の多職種チーム（栄養サポート・褥瘡・緩和ケアなど）と連携して栄養管理を行っています。更に、ICUに専任の栄養士、歯科病棟に専従の栄養士を配置し積極的に栄養管理に携わっています。
栄養相談：入院・外来患者さんを対象に月約350件実施
栄養教室：糖尿病教室・減塩教室・がんレクチャーなど
【患者給食管理】
患者給食委託職員約60名で、365日休みなく毎食約600食を提供
一般治療食、特別治療食を合わせて117食種で対応

● 取り組み

―入院生活のＱＯＬ向上をめざし―
選べるメニュー：一般常食、学齢食の方を対象に週5日「特別メニュー」を提供
お弁当献立：秋の行楽弁当、お花見弁当は大好評！
行事食：年約26回。クリスマスにはローストチキンやケーキも手作り。心を込めて焼き上げます。

行事食：こどもの日

● その他

【広報・啓発活動】ホームページに公開
食彩たより：疾患と栄養、季節の食材などをテーマにした栄養情報を提供
レシピ紹介：病院食の人気メニュー「Healthy おいしい病院食レシピ」作り方だけでなく、エネルギーやたんぱく質、脂質調整食など治療食へのアレンジ方法を掲載

Message

食事をしっかり召し上がっていただけるよう、手作りをモットーに国産の生鮮食材をできるだけ使用して家庭的な味を目指しています。患者さんには「とてもおいしい」「家に帰ってからも参考にしたい」と大好評です。

夏の行事食：夏越の祓

臨床栄養部でプロデュースした「ふっくら椀」

本学のシンボルである「梅の花」をモチーフに軽くて持ちやすく、食材が映える黒漆器の上品なお椀です。

歯科技工部
Dental Laboratory

Dial-in
● 03–5803–5719

匠の技術とデジタル技術を融合させ、歯科技工で高度な診療をサポートします。

● **部の概要**
歯科技工部では、患者さんのお口の中に装着するセラミックのクラウン（冠状の人工歯）、ブリッジ、インプラント上部構造をはじめとして、総義歯（総入れ歯）や部分床義歯（部分入れ歯）などの、多種多様な装置を製作し様々なニーズに応えています。そして、作業工程の最初から装置完成に至るまで、高度な知識と技術を持つ歯科技工士が責任をもって作業を担当し、日々高品質な技工物を製作しています。

● **高度な先進技術**
部内には、Real Mode Studio（リアルモードスタジオ）と呼ばれる、デジタルデンティストリー（デジタルテクノロジーを応用した歯科医療）に必要なデジタル機器を一同に集めたエリアがあります。これらの口腔内スキャナー、モデルスキャナー、ミリングマシーン、3Dプリンターなどのデジタル機器やCAD/CAMシステム（コンピューター支援設計製造装置）を活用することで、セラミックのクラウンやインプラント上部構造の製作の他、様々な歯科治療を迅速に、高品質で行うことができ、従来法ではかなわなかった新しい材料の導入や安定した供給など、生産性の向上や安全な構造設計の評価が可能になっています。

● **取り組み**
歯科技工部の強みは、デジタルデータでは伝わらない「患者さんの気持ちや感覚、希望や要望」を経験豊富な歯科技工士が診療室に行って直接確認することができる点にあります。これは診察室と歯科技工部が同じ病院内にあるため実現しています。患者さんの気持ちや感覚などのアナログな情報を読み取り、それを匠の技術により製作工程に反映することで、より満足度の高い装置を作るように取り組んでいます。

● **その他**
精密な手作業をベースに、金属やセラミックス、レジンなど様々な材料を取り扱い、その物性を熟知している歯科技工部は、言わばものづくりの匠の集団でもあります。3Dプリンターなどのデジタル機器を活用し様々なものづくりを行うだけではなく、各種研究へのサポートなど活躍の場を広げています。

部長
金澤 学 *KANAZAWA Manabu*

専 門 医●補綴歯科専門医
補綴歯科指導医
日本老年歯科医学会認定医
専門分野●補綴歯科学
高齢者歯科学
口腔インプラント学
研究領域●デジタルデンチャー
インプラントオーバーデンチャー
全部床義歯補綴学・口腔機能と栄養
AIを活用したデジタル診断システムの開発
医療機器プログラムの開発

Message

近年のデジタルデンティストリーの普及においては、歯科技工士とデジタル機器の役割が年々大きくなってきています。
歯科技工における技能はデジタル化されることにより、標準化・均質化がなされていき、作業効率も上がります。
これにより、歯科技工士の遂行する業務や作業環境も大きく変わろうとしています。
当歯科技工部では、この新しいデジタル化された歯科技工士の時代に対応できる人材育成に力を入れつつ、歯科医師、歯科技工士、デジタル機器・ソフトをシームレスに連携し、これらの知識と技術を本学医学部における手術サポートなども行なっていきたいと考えております。
国際的に歯科界をリードできる歯科技工部を目指します。

歯科衛生保健部
Department of Dental Hygiene

Dial-in
● 03–5803–5726

口腔保健の立場から患者さんの生活の質（Quality of life）の向上に寄与します。

● **部の概要**
歯科衛生保健部では、歯系15の診療科・専門外来を担当する他、歯系病棟と連携し周術期の口腔健康管理などに携わっています。また、お口の病気の予防と、口腔機能と健康の維持増進をはかる「口腔健康管理科」では、歯科衛生士が主体となり、口腔の健康管理の専門家として、患者さんの口腔への関心を高め、生涯健口かつ健康に生活できるように支援しています。

● **取り組み**
・歯科衛生士は口腔健康管理の専門家として、歯周病を始めとする歯科疾患の予防だけでなく、周術期の口腔健康管理の充実や口腔ケアを通した感染予防に積極的に関与しています。また、口腔周囲筋へのトレーニング技術を生かして、睡眠時無呼吸治療やオーラルフレイル予防など超高齢社会への対応も行っています。
・1998年より都内の特別支援学校での幼稚部から高等部での口腔健康教育を実践しています。特に幼稚部では、摂食に係る視点での指導も行っています。
・厚生労働省補助事業「歯科衛生士に対する復職支援・離職防止措置事業」に採択され、2017年7月より本学病院での臨床実習などで、現場で活躍できる歯科衛生士の育成を目指し研修生のサポートをしています。

● **歯科衛生士教育・キャリア支援体制**
歯科衛生保健部では、新規採用の歯科衛生士に対してプリセプター制度を導入し、新人教育を始めとし、入職年数に応じたキャリア研修会を開催し、積極的にキャリア支援を行っています。また、育児休業の取得後に臨床に戻りやすいように支援するための復職研修や、毎年テーマを決めて部内研修を行っています。学内のWebClassを活用して当日参加できない人も後日「自主学習」ができるシステムを構築し、出産や育児、介護など様々なライフステージの歯科衛生士職員が専門職種としての成長が続けられるように取り組んでいます。

部長
足達 淑子 *ADACHI Toshiko*

認　　定●日本咀嚼学会健康咀嚼指導士
日本・アジア口腔保健支援機構
第二種歯科感染管理者
専門分野●予防歯科学
口腔保健学

Message

歯科衛生士が様々な職種と連携をとりながら、診療のサポートを行っています。また、歯科衛生士が主体となって患者さんの生活習慣や口腔内の状態を確認しながら、専門的な処置を行い、QOLの向上を図っています。患者さんと共に、良好な口腔機能を保ち、生涯を通じて食事・会話を楽しんでいただけるよう支援します。

緩和ケアチーム
Palliative Care Team

Dial-in
● 03–5803–4122

患者さん、ご家族の苦痛を緩和し、
QOL（生活の質）を向上することを目的として、
多職種からなるチームで連携し、対応します。

● **チームの概要**
診療科の医師や看護師など医療従事者よりコンサルテーションを受けて、身体および精神的な苦痛の緩和を行っています。患者さん、ご家族はもちろん、医療従事者のニーズに合わせて活動します。

● **多職種連携**
専従の医師・看護師、専任の薬剤師・臨床心理士をコアメンバーとし、MSW、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、歯科医師など多職種で連携し対応しています。

● **取り扱うおもな疾患**
緩和ケアチームで対応するほとんどの患者さんは悪性腫瘍（がん、肉腫、白血病、悪性リンパ腫など）です。これら以外にも非がん疾患（心不全、腎不全、慢性呼吸疾患、神経難病など）の症状緩和にも取り組んでいます。

● **その他**
早期からの緩和ケアの実践として、院内の緩和ケアリンクナースを中心に苦痛のスクリーニングを実施しています。早期からの緩和ケアの介入が実践できるよう、病院全体として取り組んでいます。

Message

緩和ケアチームは、患者さんやご家族の苦痛の緩和に努め、主科など医療従事者のニーズに応じられるよう、多職種チームで連携して活動しています。また、がん先端治療部や緩和ケア病棟とも連携しています。

栄養サポートチーム（NST）
Nutrition Support Team

Dial-in
● 03–5803–5133

多職種からなるチームで患者さんの栄養管理を行い、
早期回復をサポートします。

● **チームの概要**
栄養サポートチーム（NST）は、栄養療法の認定資格を持った医師・歯科医師・管理栄養士・看護師・薬剤師・言語聴覚士・臨床検査技師などが協力し、経口・経腸・経静脈栄養などについて患者さんに最適な栄養管理を検討・提案し、栄養を通して病状の早期回復に向けて活動しています。

● **チームの役割、活動内容**
カンファレンスや回診では、多職種による様々な視点から患者さんの栄養状態の評価や栄養計画を立案し、栄養管理のサポートを行っています。2015年4月より歯科医師とも連携し、全介入患者さんに対して口腔内の評価も行っています。また、院内スタッフを対象とした栄養に関するセミナーの実施や、栄養サポートガイド（院内）の充実を図っています。その他、術後の回復促進を目指した活動の一環として、術前の絶飲食期間の短縮のため、麻酔科と協力し2016年10月より術前経口補水液の開発・導入を行うなど、周術期の栄養管理についての取り組みも行っています。

Message

各診療科からのコンサルテーションに対し、毎週水曜日にカンファレンス・回診を行っています。各病棟や他のチームとも連携しながら、多職種で協力し、より良い栄養管理の推進や院内の栄養管理の標準化を目指して活動を行っています。輸液の栄養組成や経腸栄養の投与方法、経口摂取不良時の対応、口腔内の評価など、栄養管理についてお困りのことがございましたらご相談ください。

医療情報部
Medical Informatics

Dial-in
● 03–5803–5132

医療情報部では、診療情報システムを
安定稼働・改善するよう中央管理することで、患者さんに
質の高い安全な医療を提供できるよう取り組んでいます。

● **部の概要**
診療情報の管理・運用には、セキュリティー対策を含めた適切なシステム導入が必須です。医療情報部では各部署と連携し、医療情報システムの計画的な開発・改善に取り組んでいます。

● **取り組み**
・病院の医科部門と歯科部門のシステム統合や運用改善に取り組んでいます。 また、統合型データウェアハウス（DWH）を構築し、院内の統計業務等をサポートする他、本学データ科学センター（DSC）や疾患バイオリソースセンター（BRC）との連携を行い、難病の克服を目指した研究に協力しています。
・地域連携システムを用いた外部連携を行っています。同意の得られた患者さんに限り、当院での診療情報を連携医療機関から参照してもらうことができます。診療情報を共有することで、患者さんの診療そのものに役立つとともに、地域医療の拡充にも貢献することを目指しています。

部長（医科部門）
藍 真澄 *AI Masumi*

専 門 医●日本内科学会認定　総合内科専門医
　　日本糖尿病学会認定　糖尿病専門医
専門分野●医療保険制度（保険診療、診療報酬など）
　　脂質代謝
　　糖尿病
　　動脈硬化
　　臨床検査
研究領域●医療保険制度（教育）
　　脂質代謝
　　糖尿病
　　動脈硬化
　　臨床検査

部長（歯科部門）
木下 淳博 *KINOSHITA Atsuhiro*

専 門 医●日本歯周病学会認定　歯周病専門医
専門分野●歯周治療
研究領域●歯周治療系歯学
　　医療情報学
　　歯学教育学

Message

高度で先進的な医療においては、電子カルテ、オーダリング、検査結果、画像、各種文書といった多くの診療情報が扱われています。このため、情報通信技術（ICT）を最大限に活用したシステムの運用が不可欠です。医療情報部では、システムを安定稼働・改善するよう中央管理することで、患者さんに質の高い安全な医療を提供できるよう取り組んでいます。

国際医療部
International Health Care Department

Dial-in
● 03–5803–5650

急速に増加している在留および訪日外国人患者さんを中心に、受診の際は患者さんとご家族、そして病院スタッフへの安心の提供に努めています。

● **部の概要**

東京都には現在約57万人以上(2022年10月時点、都内全人口の約4%)の在留外国人の方が暮らしています。新型コロナウィルス感染症の影響で減少していたものの、入国制限の緩和などにより増加傾向にあり、当院を受診する外国人患者さんについても、月あたり約503人(2022年度上半期平均)いらっしゃいます。国際医療部は外国人診療に伴う言語、文化、在留資格の違いによる様々な問題を解決するために、患者さんとご家族が安心して診療を受けられるよう、そして病院スタッフが円滑に医療サービスを提供できるよう、効果的なサポートを行うことを目的として開設いたしました。臨床現場での医療通訳業務だけでなく、日本の外国人診療のモデル病院になるべく、病院スタッフや外部機関に対する研修や教育・研究にも一層尽力して参ります。

● **取り組み**

1. 外国人患者さん受け入れ体制整備
- 医療通訳者、コーディネーターの配置
- 電話通訳・機械翻訳等のツールの整備
- 院内文書・院内表示の多言語化対応
- 未収金対策の検討

2. メディカルツーリズム支援体制構築
- 海外在住外国人患者さん対象・セカンドオピニオン(オンライン含む)の創設・運営
- 訪日して治療することを希望する外国人患者さんの受入れ調整・診療科支援
- 身元保証機関との連携
- 長寿・健康人生推進センター、先端歯科診療センターにおける訪日外国人受診者さん受入れ支援

3. 教育・研修・研究
- 病院スタッフへの教育・研修の提供
- 外部機関に対する教育・研修の提供
- 受入れ体制整備のノウハウの周知等を目的とした外部研修への講師派遣

● **体制**

国際医療部の医師、歯科医師、医療通訳者、コーディネーターを中心として、医療支援課、医事課、医療連携支援センター、総務課、管理課、企画室など、幅広い部門と連携しています。

部長
岡田 卓也 *OKADA Takuya*

専 門 医●日本外科学会　専門医
日本消化器内視鏡学会　指導医
日本消化器外科学会　専門医
専門分野●外科
消化器疾患
消化器内視鏡
使用言語●日本語
英語
スペイン語

Message

外国人患者さんが病院を受診される と、言葉の壁、医療制度や文化・宗教の違いにより、患者さん自身はもちろんのこと医療者側も大きな不安や負担を感じることがあります。私たちはそれらの負担をできるだけ軽減し、皆さまが診療に専念できるよう課題解決に取り組んでいきます。
2020年からは感染症の影響により訪日外国人は激減しましたが、在留外国人の方は継続的に来院されています。国際医療部はポストコロナ時代も見据え、引き続き外国人患者受入れに伴う院内体制整備を推進します。

災害テロ対策室
Disaster Medical Care Office

Dial-in
● 03–5803–5990

首都東京の中心部に位置する災害拠点病院としての責務を果たすために、院内外の関連諸機関の皆様と連携しながら、オールハザードへの対策を進めて参ります。

● **室の概要**

2018年11月1日に多職種(医師、看護師、事務職員、救命士)の人員を集め、病院長直轄の組織として発足いたしました。
当院は首都東京の中心部に位置する災害拠点病院であるため、近い将来に発生が予想されている首都直下型地震への対応はもちろんのこと、メガシティ東京ならではのテロ事案を含む多数傷病者事案への対応も重要であると考えております。これらを含む全ての災害(オールハザード)に対して、当院が医療の中心的役割を担うことができるよう、関係者の皆様と協力しながら、対策を構築して参ります。

● **取り組み**

1. これまで積み上げてきた災害対策を継続・発展させて参ります。
2021年10月1日に医学部附属病院と歯学部附属病院が一体化いたしました。両病院の対策のすばらしい部分を持ち寄り、より良い災害対策の構築を目指して参ります。また、大学本部とも連携をさらに強化することで、大学全体として、災害に立ち向う体制(ALL-TMDU体制)作りを推進しています。

2. CBRNE災害、テロ災害への対策を整備・強化いたします。
メガシティである東京では、平時においても、上記特殊災害のリスクは高く、国際的なイベントが開催される際などには、そのリスクがさらに上昇すると考えております。人口が密集し、周辺にソフトターゲットになり得る施設が多数存在していますので、この対策は重要であると考えております。

3. 地域に密着した災害対策の構築を地域の皆様と共に目指して参ります。
地域には地域の事情があり、長所、短所があると考えております。大学病院に期待することもあれば、大学病院だけの力では対応困難なこともあるため、なるべく多くの方と情報を共有し、共に準備することで、地域の防災力を高めていきたいと考えております。

● **その他**

室員一同、日々勉強しながら、活動しております。
コロナ禍で難しい面もございますが、地域の皆様との連携を可能な限り深めたいと考えております。

室長
植木 穣 *UEKI Yutaka*

専 門 医●日本救急医学会認定　救急科専門医
専門分野●救急医学
災害医学
研究領域●災害医療に関する疫学研究

Message

当室は設立からまだ日の浅い組織ですが、『顔の見える災害対策』をモットーに、院内外の関係機関の皆様と積極的に交流を進めております。一機関、一施設では対応が困難な災害に対してでも、協力して立ち向かうことができれば、被害を最小限に留め、社会にも大きく貢献できる可能性が広がると考えております。災害対策に関することで、困っていること、わからないことがございましたら、遠慮なくご相談ください。

Form

当室では、地域における災害関連機関の皆様からのご相談もお受けいたします。ご希望がございましたら、以下のフォームよりお問い合わせください。

https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=IbgL9w4edUa-MyJ2PTalPXmmLuLyGudEvNzFisVDWkRUMkVRR0hRR0NOMFJQMUQzWUUxV0IXWVIxTCQlQCN0PWcu

災害対策に関する問い合わせフォーム

保険医療管理部
Department of Insured Medical Care Management

Dial-in
● 03–5803–5903

職域を超えたチームワークで
適切な診療報酬請求をサポートします。

● 部の概要
社会保険医療に関する法令や制度は多岐にわたり、特に診療報酬に関しては詳細にルールが定められ、必要書類等の管理が求められています。保険医療管理部では、これらについて全職員に対する継続的な教育・啓発活動を行うとともに、医療者と診療報酬請求事務部門の連携を図るハブの役割を担うことにより、適切な診療報酬請求をサポートします。

● 取り組み
近年ではチーム医療の重要性が強調されていますが、診療報酬請求は医療者のみならず病院全体のチームワークが重要です。当院では、医療多職種を保険医療管理部に配置し、連携する医事課診療報酬対策室の事務職員とともに職種を超えたバリアフリー化を果たし、チームワークを存分に発揮できる体制を整備しています。

部長
藍 真澄 *AI Masumi*

専 門 医●日本内科学会認定　総合内科専門医
日本糖尿病学会認定　糖尿病専門医
専門分野●医療保険制度（保険診療、診療報酬等）
脂質代謝
糖尿病
動脈硬化
臨床検査
研究領域●医療保険制度（教育）
脂質代謝
糖尿病
動脈硬化
臨床検査

Message

当院は保険医療機関であり、当院で働く医師は全員保険医です。保険医および保険医療機関の責務として、社会保険医療に関する法令や制度に基づき、適正な保険診療、および診療報酬請求を行うことが求められています。当院は特定機能病院として質の高い医療を提供し、臨床研修指定病院として模範的な医療機関となるよう日々努力しています。保険医療管理部は適正な保険診療や診療報酬請求を行うため、全職員と協働して当院の取り組みをサポートします。

医療安全管理部
Department of Clinical Quality and Safety

医療の質を向上させ、
医療事故を防止できるシステム創りを続けています。

●部の概要
医療は日進月歩であり、新しい技術や治療薬が絶え間なく誕生し、それに伴うルールも変化します。過去の常識は今の常識ではありません。当部門は、当院で提供した一つ一つの医療行為の品質が当院の基準を満たすかを日々分析し、病院全体で共有する新しいルールを更新しています。一つの医療行為に対する全職員の真摯な振り返りや改善への気づきを取りまとめ、現状に甘えない高品質の医療を提供するためのシステムを作ることで、日本全国の医療安全意識の向上に貢献します。当部門は多職種、多診療部門の医療者で構成されており、患者さんの安全が脅かされるような事例が起きた場合には、担当医の専門的な視点だけではなく、場合によっては外部の専門家を招いて分析することで客観性を担保します。得られた教訓は未来の医療のために、院内で共有しています。

● 部門の院内活動
医療安全管理委員会：月１ 回　臨時開催：年約10 回、リスクマネージャー会議：月１ 回、死亡退院事例検証会：月１ 回、医療安全管理部定例会：週１回、高難度新規医療技術審査、未承認新規医薬品等審査、医療機器安全管理委員会、医薬品安全管理委員会、医療放射線安全管理委員会、M&Mカンファレンス（随時）、院内事故調査委員会（随時）、全てのＩＣ用紙の確認、臨床研究監視委員会：月１ 回、厚生労働省立ち入り検査、東京都立ち入り検査、監査委員会、病院機能評価、内部通報などへの対応、医療安全ラウンド、医療法に基づく全職員研修、各種「技術研修」、医療事故防止のための教育・研修の企画運営、インシデント・アクシデント・合併症報告の分析と再発防止の策定、院内周知、死亡退院事例検証会、合併症に対してＭ＆Ｍ カンファレンスの実施、学生への講義など

● 院外活動と今後の目標
1. 患者安全を計測するシステムの確立とその全国標準化
国立大学附属病院は、がん専門施設や地域基幹病院では扱うことのできない様々な背景疾患を持った患者さんに対する大きな手術、重症度の高い難病、3次救急などを取り扱うため、診療科や部門の枠組みを超えた取り組みが不可欠です。しかしながら国立大学病院が本来の役割を果たせているかを客観的に評価するシステムはありません。このシステムを確立できれば、病院機能のモニタリングとして役立ち、我が国の医療体制を再定義する可能性があります。

2. 患者・患者家族の参加指針の確立
米国では、患者さんが自分の医療情報に自由にアクセスすることで医療チームの一員として参加できるシステムがあります。しかしながら、我が国においては医療を取り巻く法的環境が十分に整備されておらず、そのシステムはありません。われわれは第 33 回医療安全管理協議会でこのシステムを提案し、その法的整備と最終到達地点について全国的な議題となりました。

3. 高難度医療技術の定義化とその研修制度の確立
高難度手術や新しい技術の適応の検討やその修練体制の評価システムは、医療先進国の我が国においても未解決の課題です。世界に先駆ける新しい審査基準と修練環境指針の礎を築くための準備を進めていきます。

4. 外来、地域、在宅医療におけるＡＩを用いたMaaS（Medical as a service）の確立
ポストコロナ時代を見据えて、オープンリソースを応用した患者受診システムの改革によって、患者さんの医療の質を向上させるための準備を進めていきます。診療は、病院を超え、国境を越えて世界中の専門医に委ねられるようなシステムの基盤づくりに努めています。

5. 全国データベースの構築と新しい医療安全指標の確立
以上のような活動を全国展開していくことで、患者さんの立場に寄り添った未来の医療システムを開発していきます。

部長
工藤 篤 *KUDO Atsushi*

専 門 医●国立大学医療安全管理協議会幹事会
幹事、QIワーキンググループ長
日本医療安全学会　理事
日本医療の質・安全学会　代議員
日本医療安全推進学会　代議員
医療機関、弁護士及び裁判所協議会
医科幹事会　委員
医療界と法曹界の相互理解のためのシンポジウム
プロジェクトチームメンバー
日本肝胆膵外科学会
評議員・高度技能専門医
日本消化器外科学会
評議員・専門医・指導医
日本膵臓学会　評議員・指導医
日本遺伝性腫瘍学会　評議員
日本外科学会　専門医・指導医
膵・消化管神経内分泌腫瘍
診療ガイドライン委員
専門分野●医療安全学　肝胆膵外科学
研究領域●網羅的遺伝子解析
医療安全指標の開発

Message

当院は2019-2022年度まで国立大学附属病院医療安全協議会の会長校を務めました。高度な医療を安全に提供することが大学病院の責務であり、われわれは本院の安全管理のみならず、全ての国立大学と連携し、その方向性を模索しながら、劇的に変化する医療環境に即した医療安全体制モデルを広く提示して参ります。

感染制御部
Division of Infection Control and Prevention

Dial-in
● 03–5803–5398

医療関連感染の予防、COVID-19 対応、感染発生時の速やかな対応、教育活動など、感染制御を通じた良質な医療の提供を推進します。

● **部の概要**
感染制御部は感染対策の教育、耐性菌防止対策、抗菌薬適正使用の推進、医療関連感染症サーベイランスの実施、病棟ラウンド、COVID-19 をはじめとする新興・再興感染症対策など、様々な活動を行っています。

● **高度な先進技術**
検査部及び大学院医歯学総合研究科ウイルス制御学・分子病原体検査学のご協力を頂きながら、分子疫学解析や臨床微生物学的な検討を行っています。これらの情報をもとに診療現場に迅速なフィードバックを行い、積極的な感染制御活動を推進しています。

● **その他**
近隣の連携医療機関と定期的に感染対策に関するカンファレンスや訓練を開催し、保健所や医師会とも協力して感染制御のレベルアップを図っています。

ICT ラウンド風景

ICT ラウンド風景

PPE 着脱訓練

部長
具 芳明 *GU Yoshiaki*

専 門 医●日本内科学会認定　総合内科専門医
日本感染症学会認定　感染症専門医
ICD 制度協議会認定　インフェクションコントロールドクター（ICD）
専門分野●臨床感染症
感染制御学
研究領域●臨床感染症
抗菌薬適正使用
感染症疫学

Message

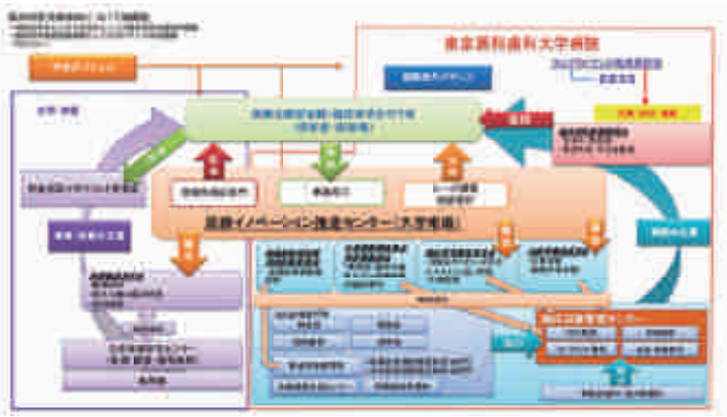
感染制御部は医師、歯科医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務職員の多職種から構成されており、安全・良質な高度医療の基盤となるチーム医療を日々推進しています。各診療科と連携しながら、患者さんが安心して医療を受けられる環境を整え、予後の向上につながる活動を今後も進めてまいります。

臨床研究監視室
Clinical Research Monitoring Office

Dial-in
● 03–5803–4170

新規治療法の臨床応用を目的とする有効性、安全性の適正評価のため、臨床研究監視体制の機能強化を図っていきます。

● **室の概要**
臨床研究監視室は、平成 27 年 8 月に設置され、室長、室長補佐、臨床研究監視係の３名体制となっています。主な業務は、臨床研究監視委員会を開催して、臨床研究に関連する審査委員会（臨床研究審査委員会、治験等審査委員会、医学部倫理審査委員会等）における研究実施報告から、適切に管理されているかを監視しています。



室長
藍 真澄 *AI Masumi*

専 門 医●日本内科学会認定　総合内科専門医
日本糖尿病学会認定　糖尿病専門医
専門分野●医療保険制度（保険診療、診療報酬等）
脂質代謝
糖尿病
動脈硬化
臨床検査
研究領域●医療保険制度（教育）
脂質代謝
糖尿病
動脈硬化
臨床検査

Message

本学は国家戦略特区において、臨床研究中核病院と同水準の評価を受け、保険外併用療養拡充の特例機関として平成 27 年 3 月に認定されました。本部門は特区による先進医療の実施や臨床研究中核病院（医療法）を目指し、臨床研究の進捗状況や安全管理状況、有害事象発生有無の監視等を行っていきます。

事務部
Administration Division

Dial-in

- 03-5803-5097 (総務課)
- 03-5803-5107 (管理課)
- 03-5803-5127 (医事一課)
- 03-5803-5874 (医療支援課)
- 03-5803-4391 (医療連携支援ｾﾝﾀｰ事務室)
- 03-5803-5099 (労務課)
- 03-5803-4759 (経営企画課)
- 03-5803-4744 (医事二課)
- 03-5803-5137 (医療品質管理課)

専門職のチーム医療をサポートし、
患者さんに喜ばれ、社会に貢献し続ける最先端の病院を
目指します。

部の概要

総務課

総務課は、病院組織に係る事務の取りまとめを行う部署です。病院の運営に関する会議の庶務や広報、落とし物の管理等多岐にわたる業務を担当しております。病院内外からの様々な要望に対して誠実に対応し、スムーズな運営が図られるように日々努力しています。

労務課

労務課は、医師・医療職員等の労働時間管理の総括、職員研修・臨床研修・特定行為研修等の教育や研修に関する事務を行う部署です。良質な医療サービスを効率的に提供する体制確保のために、病院で働く職員の職場環境改善の他、職員への教育や研修を通した医療の質の向上に取り組んでいます。

管理課

管理課は、病院の管理運営を掌握する部署です。その主な業務は病院における医療機器、医薬品、診療材料等の購入及び管理支援を行っています。また、病院スタッフ、病院を利用される患者さん及びご家族に安全で快適な環境を提供するために病院施設の設備及び維持管理も併せて行っています。患者さんに安心・安全で良質な医療を提供し、社会から信頼されつづける病院となるよう日々努力しています。

経営企画課

経営企画課は病院の運営方針・経営戦略等の検討を行う部署です。高度な医療・良質な医療サービスを提供するための新しい企画の立案・実施に取り組むとともに、経営に関する様々なデータの収集・分析を行い、病院の経営判断や意思決定のサポートをしています。

医事一課

医事二課

医事一課・医事二課は、国で定められた法令や制度等に基づき適切な診療費請求を行っています。特に窓口において患者さんと接することが多い課であることから、いつでも良質な接客ができるよう心掛けて業務にあたっております。来院される患者さんすべてが安心して受診でき、且つ癒しをご提供できるような病院を目指し、スタッフ一丸となって日々努力しています。

医療支援課

医療支援課は、病院に関する医療法等に基づく諸手続きや先進医療に関すること、診療録の管理、救命救急センター・がん先端治療部の事務等、幅広く業務を行っています。

医療品質管理課

医療品質管理課は、医療安全管理部・感染制御部の事務等の業務を行っています。医療における安全管理、院内の感染防止対策を通じて、病院の医療の質向上に取り組んでいます。

医療連携支援センター事務室

医療連携支援センター事務室は、前方・後方連携の強化、病棟業務の補助、入院支援、療養支援に関する事務等の業務を行っています。医師、看護師、ソーシャルワーカー等と協力し、より良い医療の提供を目指し、患者さん中心の顔の見える連携に取り組んでいます。

部長
秋葉 泰樹 *AKIBA Yasuki*

次長●
福好 秋徳 *FUKUYOSHI Akinori*
次長●
髙橋 宗久 *TAKAHASHI Munehisa*
参事●
池田 裕一 *IKEDA Yuichi*
総務課長●
田中 功一 *TANAKA Koichi*
労務課長●
上村 七奈 *KAMIMURA Nana*
管理課長●
土屋 誠 *TSUCHIYA Makoto*
経営企画課長●
平野 秀紀 *HIRANO Hideki*
医事一課長●
磯部 敦志 *ISOBE Atsushi*
医事二課長●
岩瀬 英一 *IWASE Eiichi*
医療支援課長●
佐藤 奈生 *SATO Nao*
医療品質管理課長●
三好 直子 *MIYOSHI Naoko*
医療連携支援センター事務室長●
石井 理恵 *ISHII Rie*

Message

事務部門は、総務課、労務課、管理課、経営企画課、医事一課、医事二課、医療支援課、医療品質管理課、医療連携支援センター事務室の九部署で構成されています。我々事務職員は、医師や歯科医師、看護師をはじめとする様々な専門職の医療を支えるチームの一員として、それぞれの役割を自覚し、質の高い医療を提供できる最先端の病院を目指し、大学病院としての使命を果たせるように努力していきます。

新設部門
のご紹介

再建形成外科 136
リプロダクションセンター 137

再建形成外科
Reconstructive Plastic Surgery

Dial-in
● 03–5803–5924

顕微鏡下手術の技術を駆使して日本最高レベルの
頭頸部再建手術を実践します。
他院では対応できない治療困難症例に対しても
安全で質の高い再建手術を提供することができます。

● **診療科の概要**

東京の中心に立地し医系・歯系診療部門から成る当院は、頭頸部領域の診療のスペシャリストたる責務を社会から期待されていると考えます。当科はマイクロサージャリー（顕微鏡下微細手術）による血管や神経の縫合技術を駆使する再建手術を日常的に行う高い技術を持つ形成外科専門医で構成され、頭頸部頭蓋底再建を中心とする再建手術を行います。

● **おもな活動内容**

定型的な切除症例に対する標準的な各種再建手術を行うだけでなく、標準的治療が確立されていない困難症例、全国的に見ても当院でしか行われていない手術症例に対して、安全で質の高い再建手術を提供し続けています。また腫瘍切除と同時に行う一次再建だけではなく、術後に残存する変形や麻痺に対する二次再建手術にも積極的に取り組んでいます。さらに高い再建手術手技を生かして、頭頸部領域のみならず身体各部位の治療困難症例の再建手術にも進んで対応しています。

● **高度な先進技術**

機能と形状を重視した頭頸部頭蓋底再建術式の開発
神経移植手術後の神経再生メカニズムの解明
新しい動物モデルを用いた移植組織の術後変化に対する量的質的評価
顔面神経麻痺に対する新しい再建術式および機能評価法の開発
糖尿病性足壊疽症例に対する歩行機能を重視した患肢温存術式の開発

● **取り扱うおもな疾患**

頭頸部頭蓋底腫瘍切除後の組織欠損に対する再建手術
再建手術後に残存する顔貌の変形や顔面神経麻痺に対する二次再建手術
皮膚悪性腫瘍の手術的治療
難治性潰瘍に対する集学的治療

● **取り組み**

患者さんの術後 QOL を重視した形態と機能を両立させる新しい術式開発を中心とした研究を行っています。技術力と柔軟な発想で、当院発の新しい手術手技を世界に発信し続ける診療体制を目指しています。

科長
田中 顕太郎 *TANAKA Kentaro*

専 門 医●日本形成外科学会　形成外科専門医、領域指導医、皮膚腫瘍外科分野指導医、再建・マイクロサージャリー分野指導医
日本創傷外科学会　専門医
専門分野●頭頸部再建・頭蓋底再建
マイクロサージャリーを用いた各種再建手術
皮膚悪性腫瘍
難治性潰瘍
研究領域●生体組織移植

Message

同じ疾患や病態であっても適切な治療は患者さんそれぞれで異なります。十分にお話を聞きながら、それぞれの方に最適な治療方法を選択していきます。
当科にはあらゆる治療法に対応できる高い技術があります。

リプロダクションセンター
Reproduction Center

Dial-in
診療について● 03–5803–5684（リプロダクションセンター/周産・女性診療科）
予約について● 03–5803–4655（医療連携支援センター地域連携室）

生殖医療専門医をはじめとする経験豊富なスタッフが、
“今すぐ”または“将来”の妊娠・出産を希望している患者さんに、
確かな情報のもとに患者さん一人一人に最適な生殖医療を提供します。

● **センターの概要**

リプロダクションセンターは、“今すぐ”または“将来”の妊娠・出産を希望する患者さんに、専門的かつ包括的な生殖医療を提供します。周産・女性診療科の生殖医療チームを中心に泌尿器科・小児科・遺伝子診療科・心身医療科の５つの診療科の専門医や経験豊富なスタッフが、“妊娠成立”に加えて“より安全な分娩”や“出産後の健やかな生活”を治療の目標と考えて、確かな情報のもとに患者さん一人一人に最適な生殖医療を提供します。

● **取り扱うおもな疾患**

生殖医療全般（女性および男性の不妊症の検査・治療、人工授精、体外受精）
生殖機能の温存（精子凍結・保存、卵子凍結・保存、胚凍結・保存）
生殖外科手術（子宮筋腫や卵巣腫瘍に対する低侵襲手術）
不育症
着床前遺伝学的検査（PGT-A/SR/M）と遺伝カウンセリング
看護カウンセリング
心理カウンセリング

● **取り組み**

1. 不妊症の相談・検査から体外受精・顕微授精までの生殖医療全般に対応しています。
2. 子宮筋腫や卵巣腫瘍に対する生殖外科手術が必要な患者さんには、不妊治療と腹腔鏡・子宮鏡手術の両方を生殖医療専門医および内視鏡技術認定医が一貫して行います。
3. 合併症を持つ患者さんには、各診療科の専門医と細かく連携して不妊治療を計画します。
4. がん治療による生殖機能の低下が心配される患者さんの相談、生殖機能温存に対応しています。
5. 妊娠成立後は、当院の周産期・新生児医療（妊婦健診・出生前診断・麻酔科医師による無痛分娩・NICU）へ引き継げます。

● **高度な先進技術**

生殖補助医療：タイムラプスシステム、ピエゾ ICSI システム、着床前遺伝学的検査
生殖外科手術：4K カメラによる腹腔鏡手術、電解質溶液下子宮鏡手術

センター長
石川 智則 *ISHIKAWA Tomonori*

専 門 医●日本生殖医学会認定 生殖医療専門医
日本人類遺伝学会認定
臨床遺伝専門医
日本産科婦人科内視鏡学会認定
腹腔鏡技術認定医
日本産科婦人科学会認定
産婦人科専門医・指導医
日本がん・生殖医療学会認定 がん・生殖医療ナビゲーター
専門分野・研究領域●
生殖医療
生殖遺伝
婦人科低侵襲手術
生殖内分泌
生殖機能温存

Message

大学病院の総合力を駆使して、“今すぐ”または“将来”の妊娠・出産に向けた治療を提供いたします。
2022 年 4 月から不妊治療の多くが保険適用となり、治療へのハードルが低くなりました。リプロダクションセンターでは、確かな情報のもとに患者さんごとに最適な治療を実践します。

2022年度

東京医科歯科大学病院の データベース

1 診療科別病床数・患者数

診療科別患者数

	入院				外来		
	新入院患者数	退院患者数	入院患者延数	平均在院日数	新来患者数	外来患者延数	一日平均患者数
（単位）	人	人	人	日	人	人	人
内科 （血液内科） （膠原病・リウマチ内科） （糖尿病・内分泌・代謝内科） （腎臓内科） （総合診療科） （消化器内科） （循環器内科）	3,296	3,289	38,930	10.8	5,001	141,888	583.9
脳神経内科	535	531	8,394	14.8	843	16,633	68.4
呼吸器内科	1,063	1,151	15,237	12.7	886	32,177	132.4
小児科	651	646	8,841	12.6	1,026	14,357	59.1
精神科 （心身医療科含む）	265	271	10,373	37.7	493	19,112	78.7
外科 （食道外科） （胃外科） （大腸・肛門外科） （消化器化学療法外科） （肝胆膵外科） （乳腺外科） （末梢血管外科） （小児外科）	1,662	1,689	20,389	11.2	1,107	37,437	154.1
脳神経外科	342	334	6,732	18.9	560	11,626	47.8
血管内治療科	244	244	1,876	6.7	113	2,151	8.9
心臓血管外科	104	115	3,513	31.0	55	2,868	11.8
呼吸器外科	312	312	3,894	11.5	171	3,274	13.5
整形外科	1,023	1,030	15,411	14.0	1,994	32,759	134.8
皮膚科	528	522	3,620	5.9	1,478	20,535	84.5
形成・美容外科	300	315	3,291	9.7	388	5,366	22.1
泌尿器科	1,080	1,083	10,661	8.9	645	24,797	102.0
眼科	1,174	1,154	4,941	3.3	2,081	39,630	163.1
耳鼻咽喉科 （頭頸部外科含む）	663	659	6,896	9.4	1,797	29,178	120.1
周産・女性診療科	1,097	1,104	7,608	5.9	997	21,698	89.3
放射線治療科	61	59	602	9.1	126	12,781	52.6
放射線診断科					874	1,600	6.6
麻酔・蘇生・ペインクリニック科					15	2,001	8.2
救急科【ER-ICU,ER-HCU, 一般】	548	443	6,617	12.5	2,194	2,717	11.2
遺伝子診療科					143	723	3.0
緩和ケア科					15	790	3.3
がんゲノム診療科	46	47	829	16.8	25	1,525	6.3
集中治療部	27	20	418	16.9			
感染症内科						7	0.0
ICU			(2403)				
ER-ICU			(2902)				
ER-HCU			(166)				
HCU			(1783)				
NICU			(1598)				
PCU（緩和ケア病棟）			(4295)				
合計	15,021	15,018	179,073	10.9	23,027	477,630	1,965.6

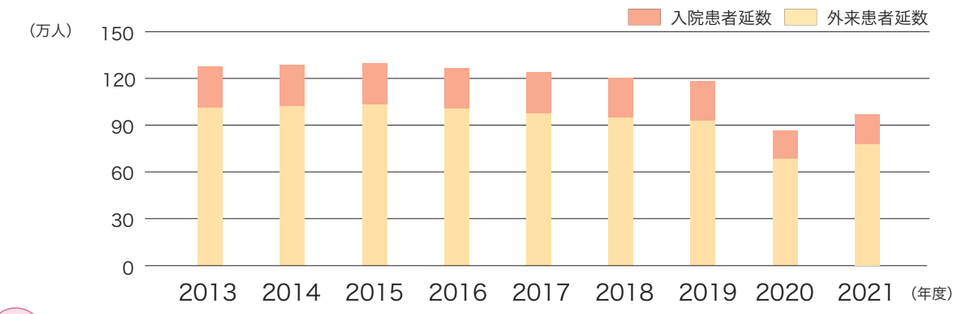
※　ICU、ER-ICU、ER-HCU、HCU、ＮＩＣＵ、PCU（緩和ケア病棟）の患者数は各診療科の内数

診療科別患者数

	入院				外来		
	新入院患者数	退院患者数	入院患者延数	平均在院日数	新来患者数	外来患者延数	一日平均患者数
（単位）	人	人	人	日	人	人	人
歯科 （むし歯科） （歯周病科） （義歯科） （口腔インプラント科） （摂食嚥下リハビリテーション科） （歯科麻酔科） （歯科心身医療科） （歯科放射線科） （歯科総合診療科） （口腔健康管理科）	399	400	412	0.2	18,059	201,376	832.1
矯正歯科	1	1	1	1.0	2,008	36,014	148.8
小児歯科	17	17	17	1.0	1,596	10,006	41.3
歯科口腔外科	1,401	1,409	10,837	7.1	7,019	53,511	221.1
合計	1,818	1,827	11,267	6.9	28,682	300,907	1,243.3

患者数の推移

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
入院患者延数	261,030	263,099	264,202	256,050	261,385	254,250	253,830	178,739	190,340
外来患者延数	1,014,727	1,022,855	1,032,703	1,007,027	977,714	950,194	928,791	689,727	778,734
合計	1,275,757	1,285,954	1,296,905	1,263,077	1,239,099	1,204,444	1,182,621	868,466	969,074



	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
入院平均在院日数	13.57	13.57	12.21	11.78	11.82	11.23	10.8	11.12	10.92

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
入院平均在院日数	11.63	9.91	9.19	8.68	8.25	7.87	7.48	8.86	6.87

救急患者数

患者数	受診区分		搬送区分			Drカー出動件数
	外来受診	外来受診後入院	救急車	ホットライン	その他	
5,253	3,671	1,582	2,044	1,097	2,112	114

地域別患者数

入院患者数

地域別	入院実人数	占有率（%）
23区内	7,240	64.6%
その他都内	870	7.8%
埼玉県	1,297	11.6%
千葉県	914	8.2%
神奈川県	491	4.4%
茨城県	160	1.4%
その他	231	2.1%
北海道	11	
東北	30	
その他関東	34	
中部・北陸	100	
近畿	22	
中国・四国	16	
九州・沖縄	18	
合計	11,203	

外来患者数

地域別	外来実人数	占有率（%）
23区内	45,319	59.3%
その他都内	7,002	9.2%
埼玉県	9,450	12.4%
千葉県	7,413	9.7%
神奈川県	4,343	5.7%
茨城県	1,050	1.4%
その他	1,797	2.4%
北海道	58	
東北	253	
その他関東	370	
中部・北陸	762	
近畿	169	
中国・四国	91	
九州・沖縄	94	
合計	76,374	

入院患者数

地域別	入院実人数	占有率（%）
23区内	969	59.3%
その他都内	196	12.0%
埼玉県	186	11.4%
千葉県	127	7.8%
神奈川県	105	6.4%
茨城県	15	0.9%
その他	36	2.2%
北海道	2	
東北	0	
その他関東	9	
中部・北陸	16	
近畿	3	
中国・四国	4	
九州・沖縄	2	
合計	1,634	

外来患者数

地域別	外来実人数	占有率（%）
23区内	30,048	59.4%
その他都内	5,786	11.4%
埼玉県	5,870	11.6%
千葉県	3,954	7.8%
神奈川県	3,652	7.2%
茨城県	466	0.9%
その他	841	1.7%
北海道	26	
東北	76	
その他関東	298	
中部・北陸	281	
近畿	83	
中国・四国	37	
九州・沖縄	40	
合計	50,617	

2 臨床検査件数

臨床検査件数

区分	入院			外来			合計
	院内	院外	合計	院内	院外	合計	
一般検査	14,320	442	14,762	78,807	114	78,921	93,683
血液検査	242,486	928	243,414	403,525	1,091	404,616	648,030
細菌検査	16,694	1,286	17,980	7,624	2,267	9,891	27,871
血清検査	110,683	18,024	128,707	445,496	88,977	534,473	663,180
臨床化学検査	939,993	10,452	950,445	2,561,076	37,562	2,598,638	3,549,083
生理機能検査	7,994	0	7,994	48,607	0	48,607	56,601
採血・採液等	97,880	0	97,880	269,551	0	269,551	367,431
合計	1,430,050	31,132	1,461,182	3,814,686	130,011	3,944,697	5,405,879

※　2021年度臨床検査件数（医歯合算）（2021年4月1日～2022年3月31日）

臨床検査件数の推移（外来）

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
合計	3,634,164	3,771,036	3,983,456	4,123,099	4,108,153	4,151,111	4,186,763	3,574,773	3,944,697

※　2021年度臨床検査数の推移（医歯合算）（2021年4月1日～2022年3月31日）

3 病理検査件数

病理検査件数

医系

区分	入院			外来			合計
	院内	院外	合計	院内	院外	合計	
組織診断	4,753	0	4,753	5,600	0	5,600	10,353
細胞診断	1,843	0	1,843	6,266	0	6,266	8,109
術中迅速診断	614	0	614	0	0	0	614
病理解剖	26	0	26	0	0	0	26
合計	7,236	0	7,236	11,866	0	11,866	19,102

歯系

区分	入院			外来			合計
	院内	院外	合計	院内	院外	合計	
組織診断	306	0	306	1,163	0	1,163	1,469
細胞診断	1	0	1	18	0	18	19
術中迅速診断	9	0	9	0	0	0	9
病理解剖	0	0	0	0	0	0	0
合計	316	0	316	1,181	0	1,181	1,497

病理検査件数の推移（病理部）

医系

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
合計	13,913	14,019	14,279	14,153	13,166	13,163	12,934	10,904	11,866

歯系

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
合計	2,845	3,048	3,204	3,141	2,945	2,790	2,940	1,626	1,181

4 手術件数

手術部実施手術件数

医系

	手術件数			全身麻酔件数
	0-9,999 点	10,000 点以上	合計	
内科	32	123	155	57
（血液内科）				
（膠原病・リウマチ内科）				
（糖尿病・内分泌・代謝内科）				
（腎臓内科）				
（循環器内科）				
（総合診療科）				
（消化器内科）				
（脳神経内科）				
（呼吸器内科）				
小児科	6	9	15	15
精神科	242	0	242	0
外科	115	900	1,015	829
（食道外科）				
（胃外科）				
（大腸・肛門外科）				
（消化器化学療法外科）				
（肝胆膵外科）				
（乳腺外科）				
（末梢血管外科）				
（小児外科）				
脳神経外科（血管内治療科含む）	27	239	266	225
心臓血管外科	14	125	139	130
呼吸器外科	7	278	285	281
整形外科	99	878	977	814
皮膚科	61	44	105	18
形成・美容外科	178	219	397	251
泌尿器科	214	398	612	351
眼科	31	1,139	1,170	13
耳鼻咽喉科（頭頸部外科含む）	93	385	478	438
周産・女性診療科	115	387	502	360
麻酔・蘇生・ペインクリニック科	1	0	1	0
救急科（ＥＲ）	16	75	91	88
その他	0	1	1	1
総計	1,251	5,200	6,451	3,871

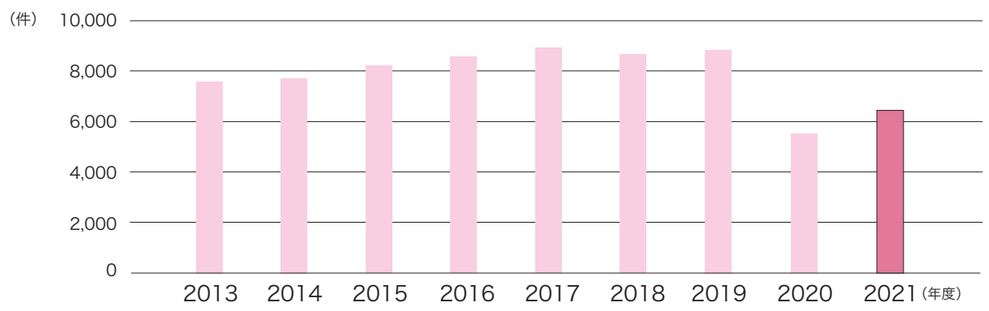
歯系

診療科	手術件数			全身麻酔件数
	0-9,999 点	10,000 点以上	合計	
歯科				
（むし歯科）				
（歯周病科）				
（義歯科）				
（口腔インプラント科）	0	0	0	0
（摂食嚥下リハビリテーション科）				
（歯科麻酔科）				
（歯科心身医療科）				
（歯科放射線科）				
（歯科総合診療科）				
矯正歯科	0	0	0	0
小児歯科	1	0	1	1
歯科口腔外科	474	422	896	893
合計	475	422	897	894

手術件数の推移

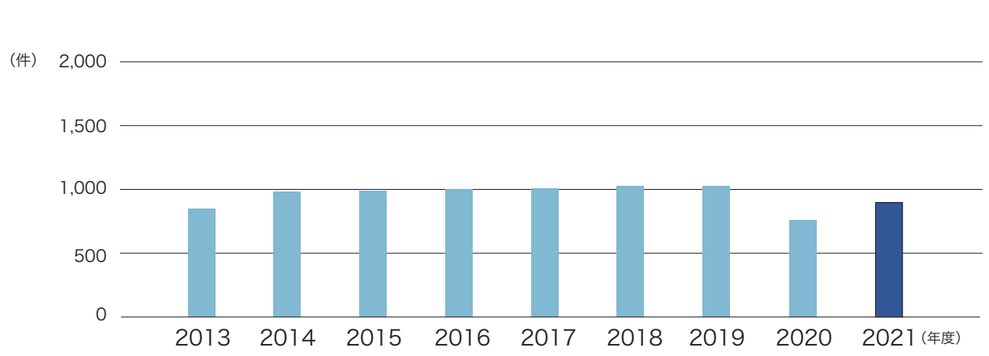
医系

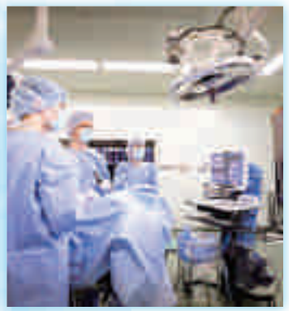
	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
合　計	7,601	7,726	8,216	8,579	8,933	8,680	8,842	5,523	6,451



歯系

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
合　計	846	982	988	999	1,004	1,027	1,027	758	897



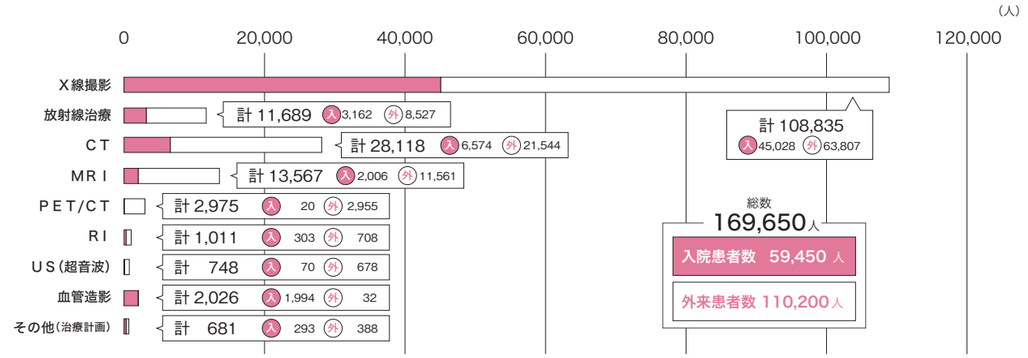


5 放射線検査治療件数

放射線検査治療件数

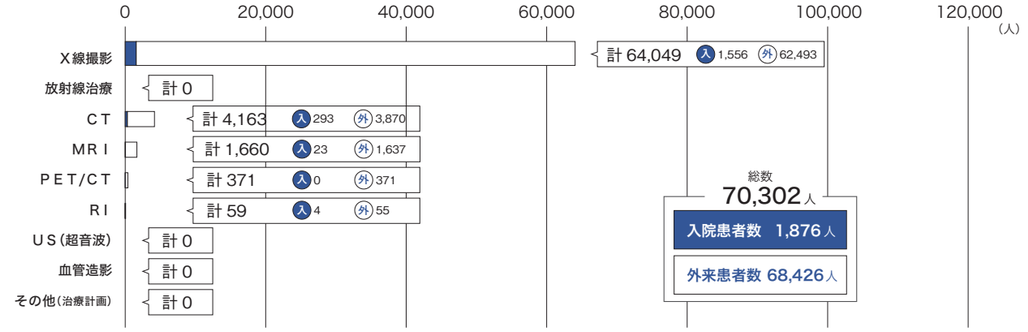
医系

	患者数（人）		
	入院	外来	合計
X線撮影	45,028	63,807	108,835
放射線治療	3,162	8,527	11,689
CT	6,574	21,544	28,118
MRI	2,006	11,561	13,567
PET/CT	20	2,955	2,975
RI	303	708	1,011
US（超音波）	70	678	748
血管造影	1,994	32	2,026
その他（治療計画）	293	388	681
合　計	59,450	110,200	169,650



歯系

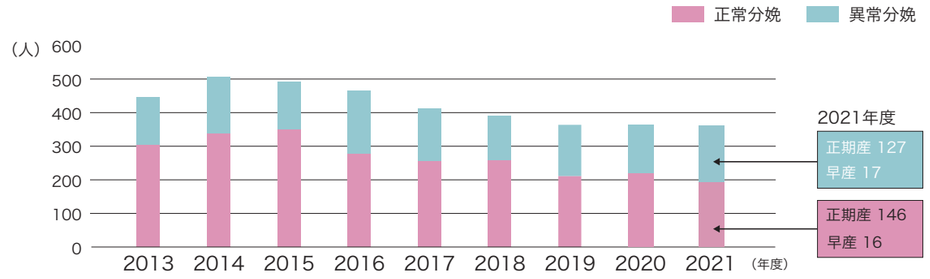
	患者数（人）		
	入院	外来	合計
X線撮影	1,556	62,493	64,049
放射線治療	0	0	0
CT	293	3,870	4,163
MRI	23	1,637	1,660
PET/CT	0	371	371
RI	4	55	59
US（超音波）	0	0	0
血管造影	0	0	0
その他（治療計画）	0	0	0
合　計	1,876	68,426	70,302



6 分娩件数

分娩件数の推移

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度 正期産	2021年度 早産	2021年度 合計
正常分娩	304	336	350	277	256	257	211	221	146	16	162
異常分娩	141	171	143	189	157	134	153	125	127	17	144
合　計	445	507	493	466	413	391	364	346	273	33	306



7 処方枚数・件数・注射処方枚数

処方枚数

入院	外来
150,200	19,788
合計	169,988

入院	外来
7,012	5,235
合計	12,247

処方件数

入院	外来
286,689	55,415
合計	342,104

入院	外来
9,370	9,951
合計	19,321

注射処方枚数

入院	外来
183,041	31,071
合計	214,112

（院外処方せん枚数：220,597）

入院	外来
5,752	1,864
合計	7,616

（院外処方せん枚数： 35,696）

8 医療機関の指定状況等

法令等の名称		指定等の年月日
医療法第７条第１項による開設許可（承認）		1949年　4月　1日
戦傷病者特別援護法による医療機関		1953年 10月　1日
身体障害者福祉法による医療機関		1954年　2月　1日
国民健康保険法による（特定承認）療養取扱機関		1959年　1月　1日
母子保健法	（療育医療）	1964年　4月　1日
消防法による救急医療（救急病院・診療所）		1965年　3月 18日
精神保健法による医療機関		1965年 11月　1日
公害健康被害の補償等に関する法律	（公害医療）	1975年　8月　1日
生活保護法による医療機関		1980年　2月　1日
労災者災害補償保険法による医療機関		1985年　4月　1日
臨床修練指定病院（外国医師・外国歯科医師）		1988年　3月 29日
母子保健法	（妊娠乳児健康検診）	1988年　4月　1日
原爆被害者援護法	（一般医療）	1988年　8月　1日
特定機能病院の名称の使用承認		1994年　7月　1日
エイズ拠点病院		1996年　7月 18日
災害拠点病院		1997年　8月 26日
障害者自立支援法	（育成医療）	2007年　1月　1日
	（更生医療）	2007年　1月　1日
	（精神通院）	2007年　2月　1日
健康保険法による保険医療機関		2010年 10月　1日
東京都小児がん診療病院		2013年　9月　1日
がん診療連携拠点病院		2014年　8月 26日
難病医療費助成指定医療機関		2015年　1月　1日
指定小児慢性特定疾病医療機関		2015年　1月　1日
地域周産期母子医療センター		2015年　4月　1日
東京都難病診療連携拠点病院		2018年　4月　1日
東京都アレルギー疾患医療拠点病院		2019年　2月 27日
がんゲノム医療拠点病院		2019年　9月 19日
関東甲信越地域小児がん連携病院		2019年 11月　1日

9 建物配置図

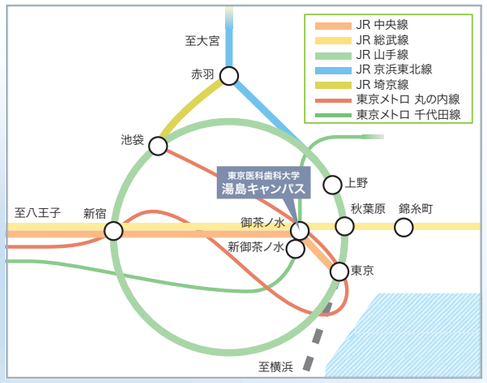
	医科 A 棟		医科 B 棟	
RF	屋上ヘリポート			RF
17F				17F
16F	病棟		長寿・健康人生推進センター	16F
15F	病棟		病棟	15F
14F	病棟		病棟	14F
13F	病棟		病棟	13F
12F	病棟		病棟	12F
11F	病棟		病棟	11F
10F	病棟		病棟	10F
9F	病棟		病棟	9F
8F		病棟	病棟、屋上庭園	8F
7F		図書室	自販機コーナー	7F
6F	手術部	病棟、手術部	病棟、輸血・細胞治療センター	6F
5F	血液浄化療法部、がん先端治療部、医療安全管理部、感染制御部	材料部、手術部、ME センター	看護部、病理部、生理検査室	5F
4F	外来（小児科、小児外科）、光学医療診療部	外来（合同内科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科）、潰瘍性大腸炎・クローン病先端治療センター、神経難病先端治療センター、不整脈センター、栄養相談室、みみ・はな・くち・のどがんセンター	外来（整形外科）、リハビリテーション部、スポーツ医学診療センター	4F
3F	外来（膠原病・リウマチ内科、呼吸器内科、皮膚科、乳腺外科、形成・美容外科、再建形成外科）、膠原病・リウマチ先端治療センター、快眠センター、ブレストセンター、3 階生理検査室	外来（泌尿器科、周産・女性診療科、臨床腫瘍科、緩和ケア科）、腎・膀胱・前立腺がんセンター、外来化学療法・注射センター、がん相談支援センター	中央採血室	3F
2F	外来（麻酔・蘇生・ペインクリニック科、眼科）	外来（合同外科、呼吸器外科、心臓血管外科、脳神経外科、血管内治療科、感染症内科）保健医療管理部	病棟、外来（精神科、心身医療科）、精神科デイケア	2F
1F	医療連携支援センター、患者相談室、臨床試験管理センター	薬剤部（外来）、医療売店、コインロッカー、総合受付	放射線部（一般撮影、MRI、CT、超音波）	1F
B1F	救命救急センター、高気圧治療部、臨床栄養部	救命救急センター（時間外受付）、薬剤部（時間外受付）、防災センター	放射線部（血管撮影、透視撮影）	B1F
B2F			外来（放射線治療科）、核医学 PET･CT センター	B2F

4F ― 合同内科：血液、糖尿病・内分泌・代謝、腎臓、総合診、消化器、循環器、脳神経内科、遺伝子診療科、がんゲノム診療科

2F ― 合同外科：食道、胃、大腸・肛門、肝胆膵、末梢血管

歯科 D 棟	
8F	歯科病棟
7F	歯科麻酔科・歯科手術室
6F	口腔外科・顎顔面補綴外来・言語治療外来・顎口腔変形疾患外来
5F	むし歯科・歯周病科・摂食嚥下リハビリテーション科・歯みがきコーナー
4F	第1総合診療室・第2総合診療室・歯科心身医療科・快眠歯科（いびき・無呼吸）外来（初診受付）
3F	義歯科・スポーツ歯科外来・口腔インプラント科・歯科アレルギー外来・先端歯科診療センター・顎関節症外来・クリーンルーム歯科外来・快眠歯科（いびき・無呼吸）外来・オンライン診療室・オーラルヘルスセンター
2F	矯正歯科・小児歯科・歯科ペインクリニック・口腔健康管理科・和同会歯科・口腔ケア用品店・歯みがきコーナー
1F	歯科総合診療科・高齢者歯科外来（スペシャルケア外来1）・障害者歯科外来（スペシャルケア外来2）・息さわやか外来・セカンドオピニオン外来・薬剤部・総合受付・和同会売店
B1F	放射線部（歯科）/歯科放射線科（レントゲン、CT、MRI）・休憩スペース・談話室・理容室

10 所在地略図



- JR 中央・総武線　御茶ノ水駅より　徒歩５分
- 東京メトロ丸ノ内線　御茶ノ水駅より　徒歩２分
  （エレベータ使用可）
- 東京メトロ千代田線　新御茶ノ水駅より　徒歩７分